

神戸市
市民福祉に関する行動・意識調査
報告書

平成27年3月

神戸市

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査項目	1
3. 対象者	1
4. 調査方法	1
5. 調査期間	1
6. 回収数（回収率）	1
7. 報告書の見方	1
II 調査の結果	2
1. 回答者の属性	2
2. 日常生活上の不安について	15
3. 地域とのかかわりや地域での活動について	37
4. 福祉施策やサービスについて	64
5. 災害時に備えた地域での助け合いについて	90
6. 医療について	101
7. 人権問題について	109
8. 自由意見	132
■資料（調査票）	135

I 調査の概要

1. 調査目的

次期市民福祉総合計画の策定にあたり、「市民福祉」に関する市民の行動や意識を把握し、今後の福祉施策検討等の基礎資料として、次期計画に反映させることを目的として、意識調査を実施しました。

2. 調査項目

- (1) 回答者の属性
- (2) 日常生活上の不安について
- (3) 地域とのかかわりや地域での活動について
- (4) 福祉施策やサービスについて
- (5) 災害時に備えた地域での助け合いについて
- (6) 医療について
- (7) 人権問題について

3. 対象者

神戸市内在住の20歳以上の市民5千人（単純無作為抽出）

4. 調査方法

郵送によるアンケート方式

5. 調査期間

平成27年2月16日～3月5日

6. 回収数（回収率）

2,023件（40.5%）

7. 報告書の見方

- (1) 図表中のn（Number of case）は、設問に対する回答者数のことである。
- (2) 回答比率（%）は回答者数（n）を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しないことがある。また、一人の対象者に複数の回答を求める設問では、回答比率（%）の計は100.0%を超える。
- (3) 図表中の「MA%」（Multiple Answerの略）や「2LA%」（2 Limited Answerの略）、「3LA%」（3 Limited Answerの略）という表示は、複数回答形式の質問（回答選択肢の中から「あてはまるものをすべて」や「○は2つまで」、「○は3つまで」選択する形式の質問）である。

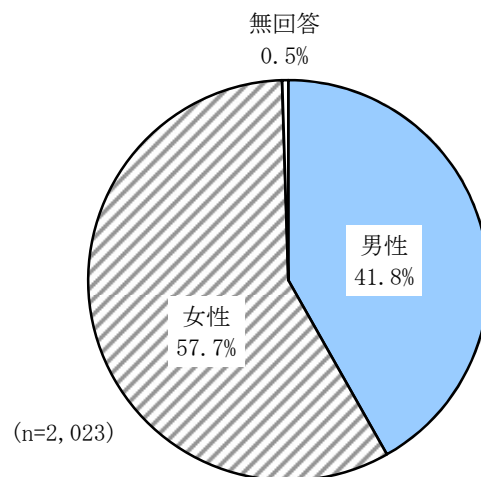
Ⅱ 調査の結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

問1 あなたの性別について、あてはまるものに○をつけてください。

【図表1-1 回答者の性別】

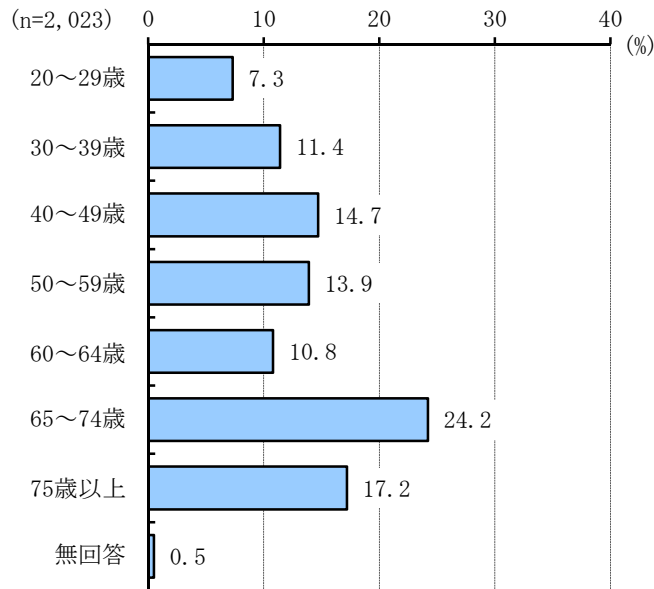


回答者の性別は、「男性」が41.8%、「女性」は57.7%となっている。(図表1-1)

(2) 年齢

問2 あなたの年齢は、次のうちどれにあてはまりますか（平成27年2月1日現在）。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

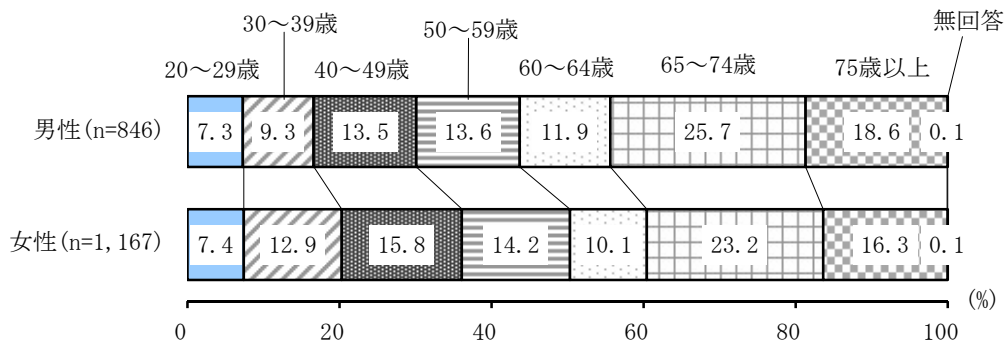
【図表1-2 回答者の年齢】



回答者の年齢は、「65～74歳」が24.2%で最も多く、次いで「75歳以上」が17.2%となっており、高齢者の割合が41.4%を占めている。これに次いで、「40～49歳」が14.7%、「50～59歳」が13.9%となっている。（図表1-2）

性別でみると、男女とも「65～74歳」が2割台で最も多く、高齢者の割合が男性44.3%、女性39.5%となっており、男性のほうが4.8ポイント高くなっている。一方、若い年代では、「20～29歳」が男女とも7%台に対し、「30～39歳」は男性9.3%、女性12.9%で、女性のほうが3.6ポイント高くなっている。（図表1-2-1）

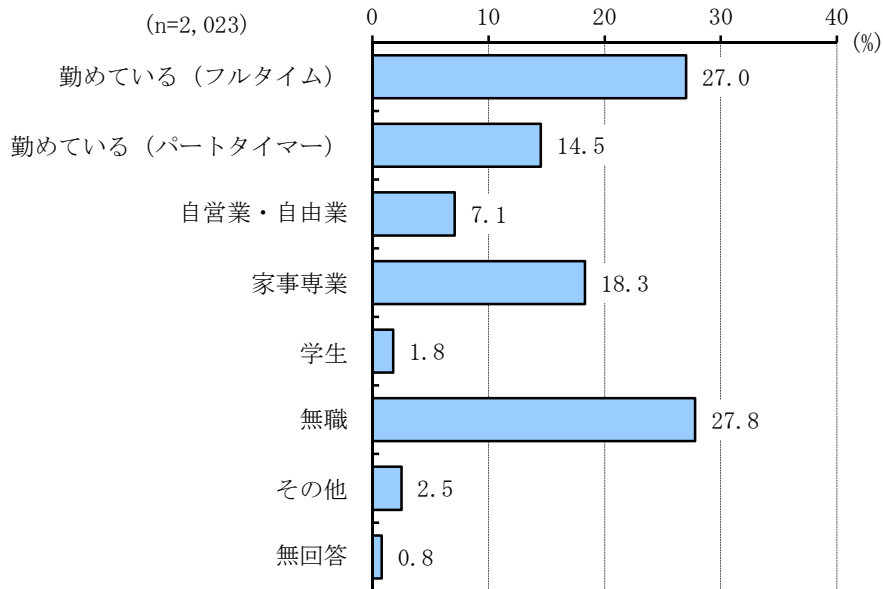
【図表1-2-1 性別 回答者の年齢】



(3) 職業

問3 あなたの職業は、次のうちどれにあてはまりますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

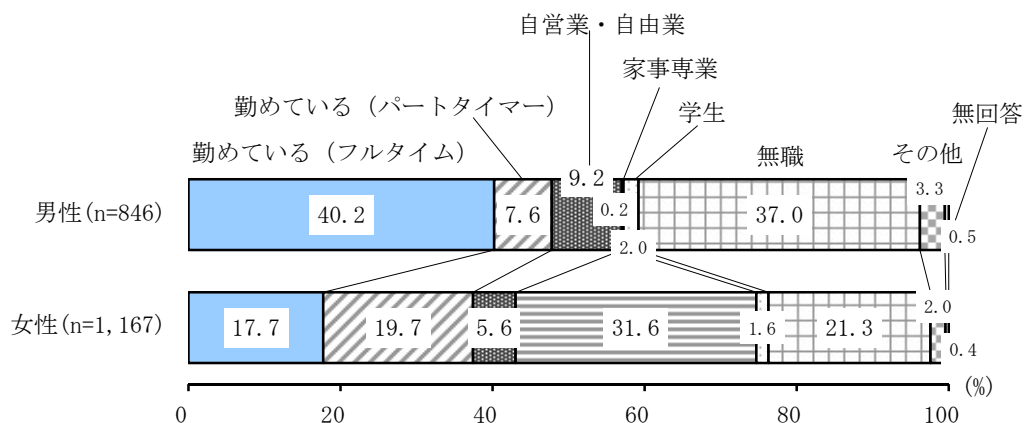
【図表1-3 回答者の職業】



回答者の職業は、「無職」が27.8%で最も多く、次いで「勤めている (フルタイム)」が27.0%、「家事専業」が18.3%、「勤めている (パートタイマー)」が14.5%となっている。また、「勤めている (フルタイム)」と「勤めている (パートタイマー)」、「自営業・自由業」を合わせた就労者の割合は48.6%を占める。(図表1-3)

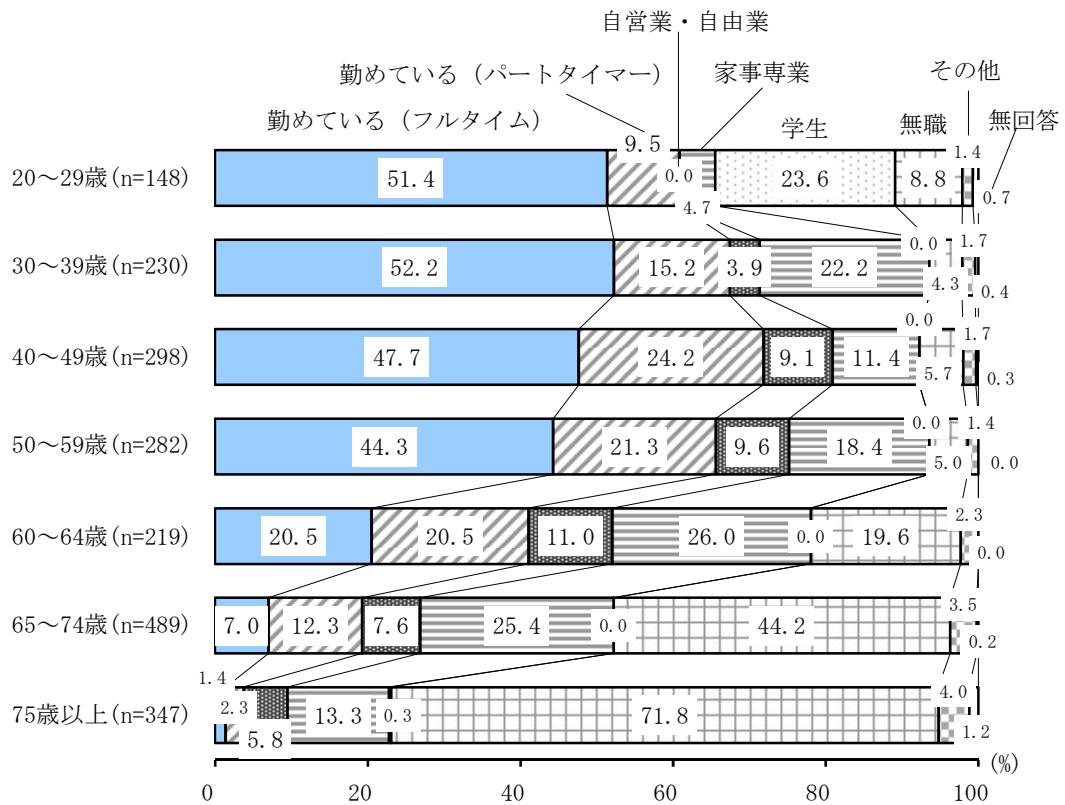
性別でみると、男性は「勤めている (フルタイム)」が40.2%で最も多く、次いで「無職」が37.0%となっている。一方、女性は「家事専業」が31.6%で最も多く、次いで「無職」が21.3%、「勤めている (パートタイマー)」が19.7%となっている。また、就労者の割合では、男性が57.0%に対し、女性は43.0%で、女性のほうが14.0ポイント低い。(図表1-3-1)

【図表1-3-1 性別 回答者の職業】



年齢別で見ると、20歳代～50歳代は「勤めている（フルタイム）」が4～5割台で最も多く、就労者の割合は6割以上を占めており、なかでも40歳代が81.0%で最も高くなっている。60～64歳では、就労者の割合が52.0%に対し、「家事専業」は26.0%、「無職」は19.6%となっており、65歳以上になると「無職」が最も多くなっている。（図表1-3-2）

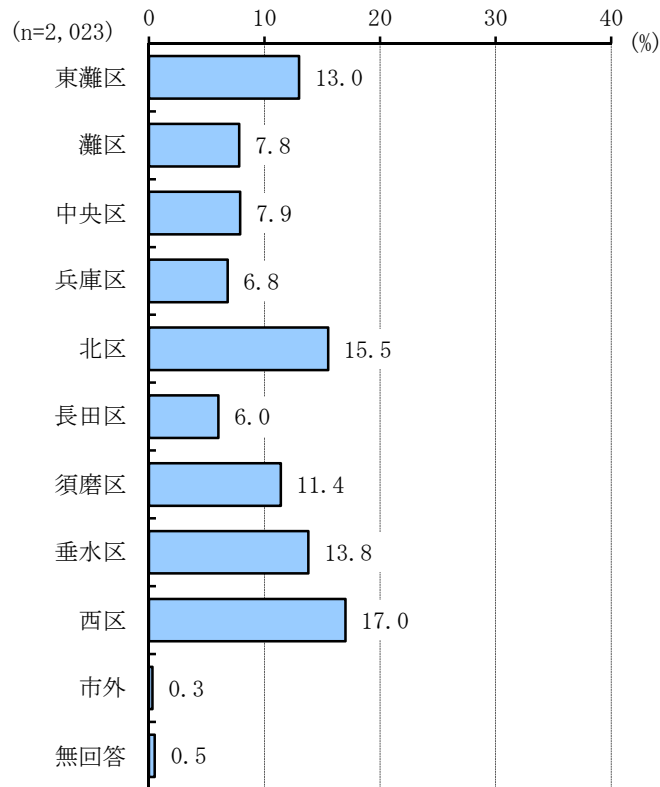
【図表1-3-2 年齢別 回答者の職業】



(4) 居住区

問4 あなたが現在お住まいの場所はどこですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

【図表1-4 居住区】

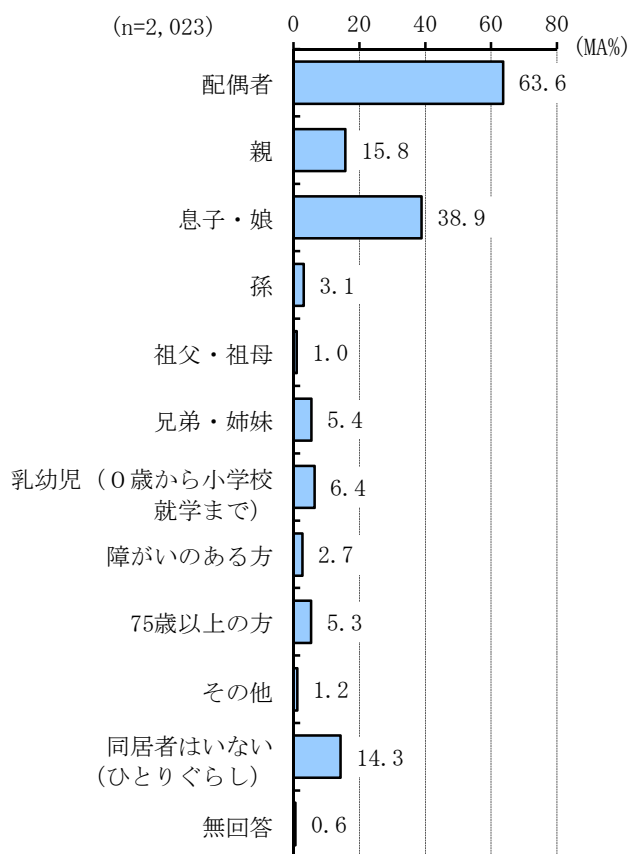


居住区は、「西区」が17.0%で最も多く、次いで「北区」が15.5%、「垂水区」が13.8%、「東灘区」が13.0%、「須磨区」が11.4%となっている。(図表1-4)

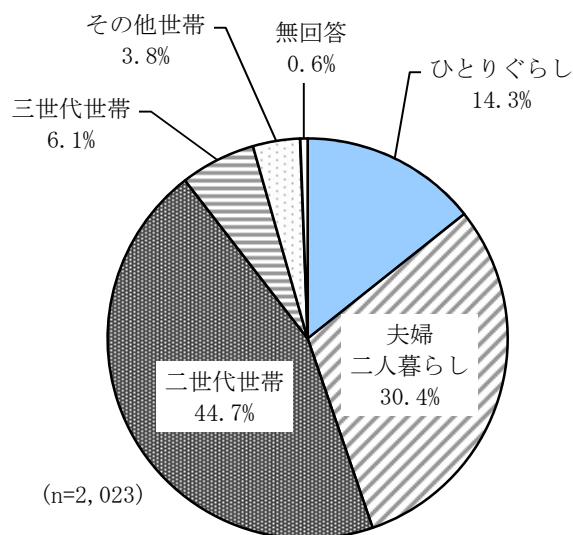
(5) 家族構成

問5 あなたは、どなたと一緒に住みますか。あてはまるもの全て選んで、○をつけてください。

【図表1-5 同居者】



【図表1-6 家族構成】

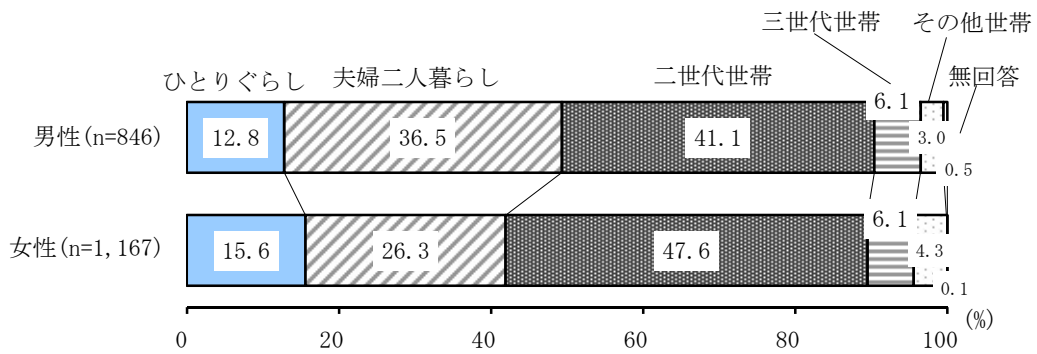


同居者は、「配偶者」が63.6%で最も多く、次いで「息子・娘」が38.9%、「親」が15.8%となっている。一方、「同居者はいない (ひとりぐらし)」は14.3%を占めている。(図表1-5)

同居者を基に集計した家族構成では、「二世世代世帯」が44.7%で最も多く、次いで「夫婦二人暮らし」が30.4%、「ひとりぐらし」が14.3%、「三世世代世帯」は6.1%となっている。(図表1-6)

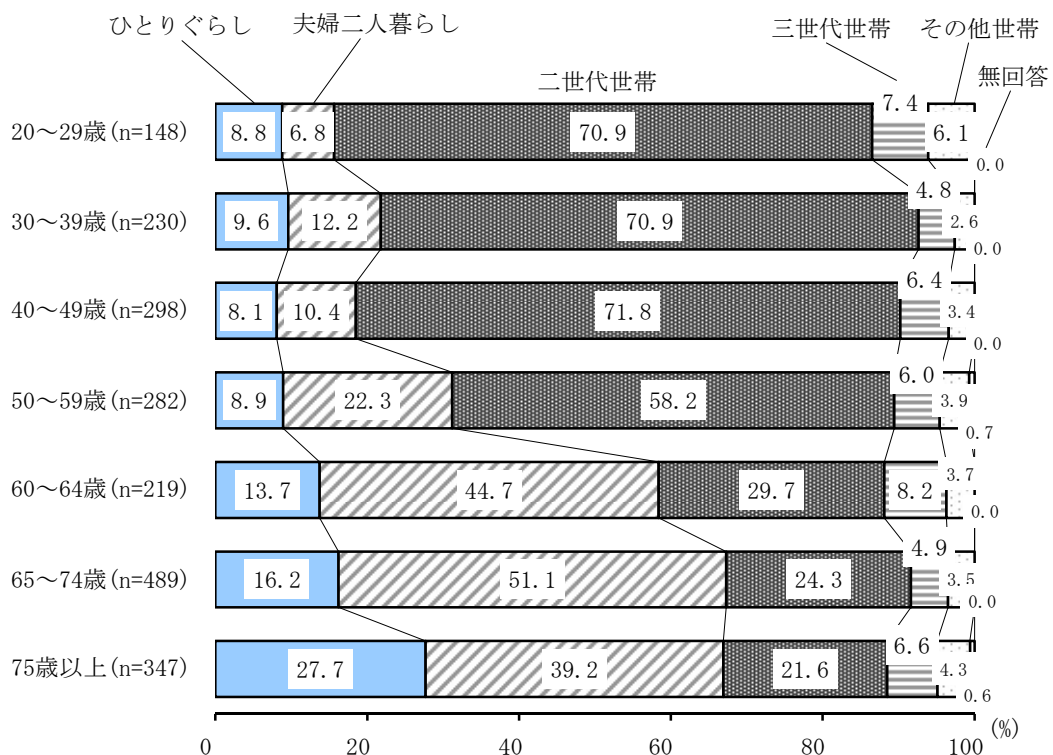
性別で家族構成をみると、男女とも「二世世代世帯」が4割台で最も多く、世代の違う親族と同居している世帯は男性47.2%、女性53.7%を占めており、女性のほうが6.5ポイント高くなっている。また、「夫婦二人暮らし」では男性36.5%、女性26.3%で、男性のほうが10.2ポイント高くなっているが、「ひとりぐらし」は男性12.8%、女性15.6%で、女性のほうが2.8ポイント高くなっている。(図表1-6-1)

【図表1-6-1 性別 家族構成】



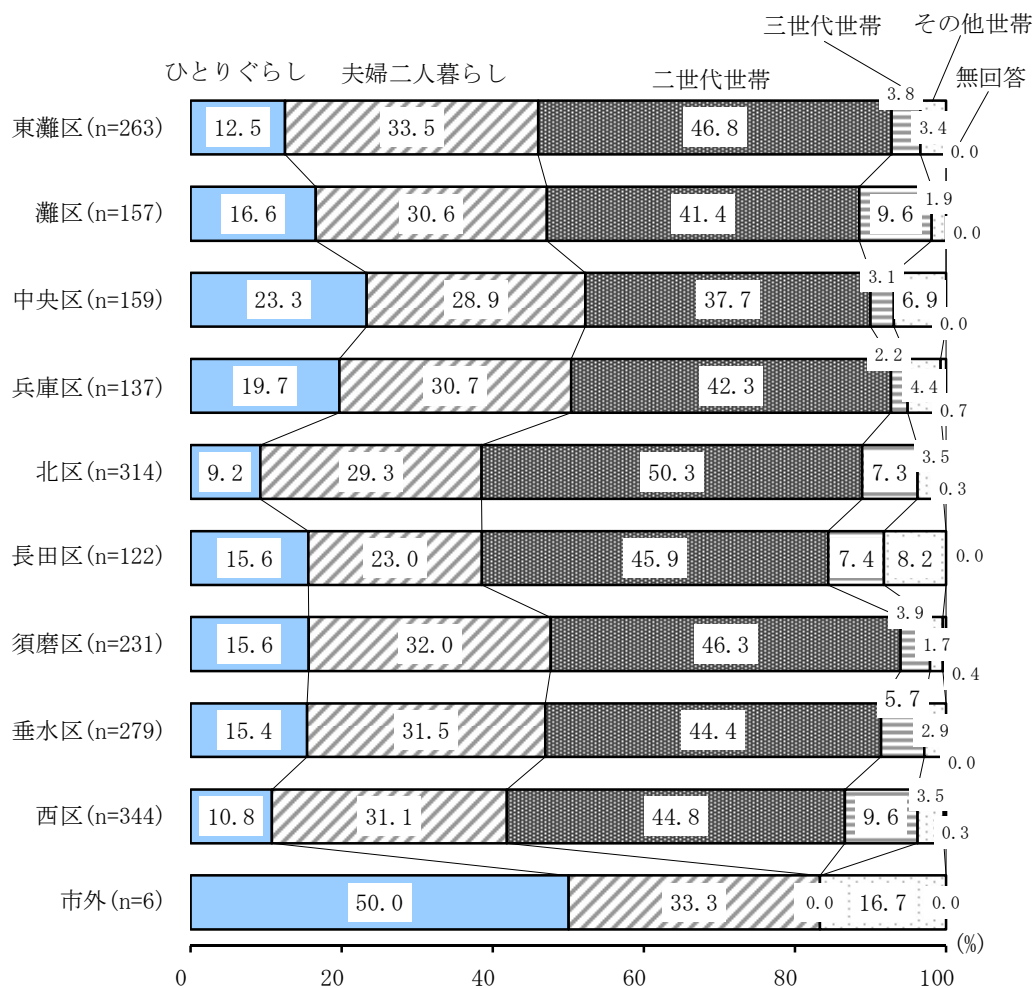
年齢別で家族構成をみると、20歳代～50歳代は「二世世代世帯」が過半数を占めており、60歳以上になると「夫婦二人暮らし」が最も多くなっている。また、「ひとりぐらし」は、60歳以上になると上昇傾向にあり、75歳以上が27.7%で4人に1人以上の割合となっている。(図表1-6-2)

【図表1-6-2 年齢別 家族構成】



居住区別で家族構成をみると、「ひとりぐらし」では、中央区が23.3%で最も高く、次いで兵庫区が19.7%、灘区が16.6%となっている。(図表1-6-3)

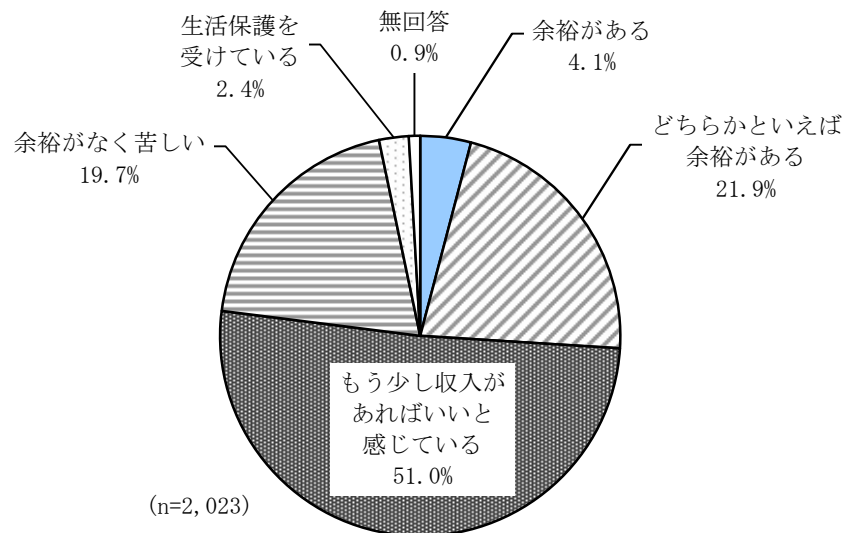
【図表1-6-3 居住区別 家族構成】



(6) 経済状況

問6 あなたの現在の経済状況は次のうちいずれですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

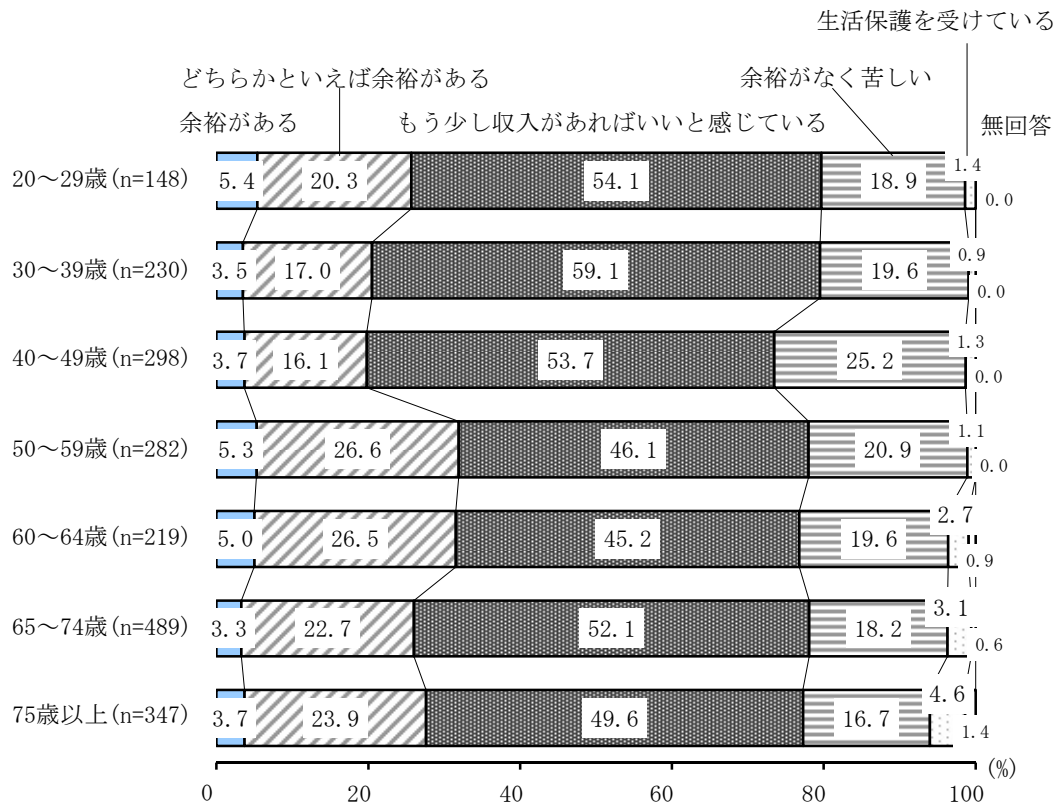
【図表1-7 経済状況】



経済状況では、「もう少し収入があればいいと感じている」が51.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば余裕がある」が21.9%、「余裕がなく苦しい」が19.7%となっている。また、「余裕がある」(4.1%)と「どちらかといえば余裕がある」を合わせた『余裕がある』割合は26.0%を占めており、「余裕がなく苦しい」に比べ6.3ポイント高くなっている。(図表1-7)

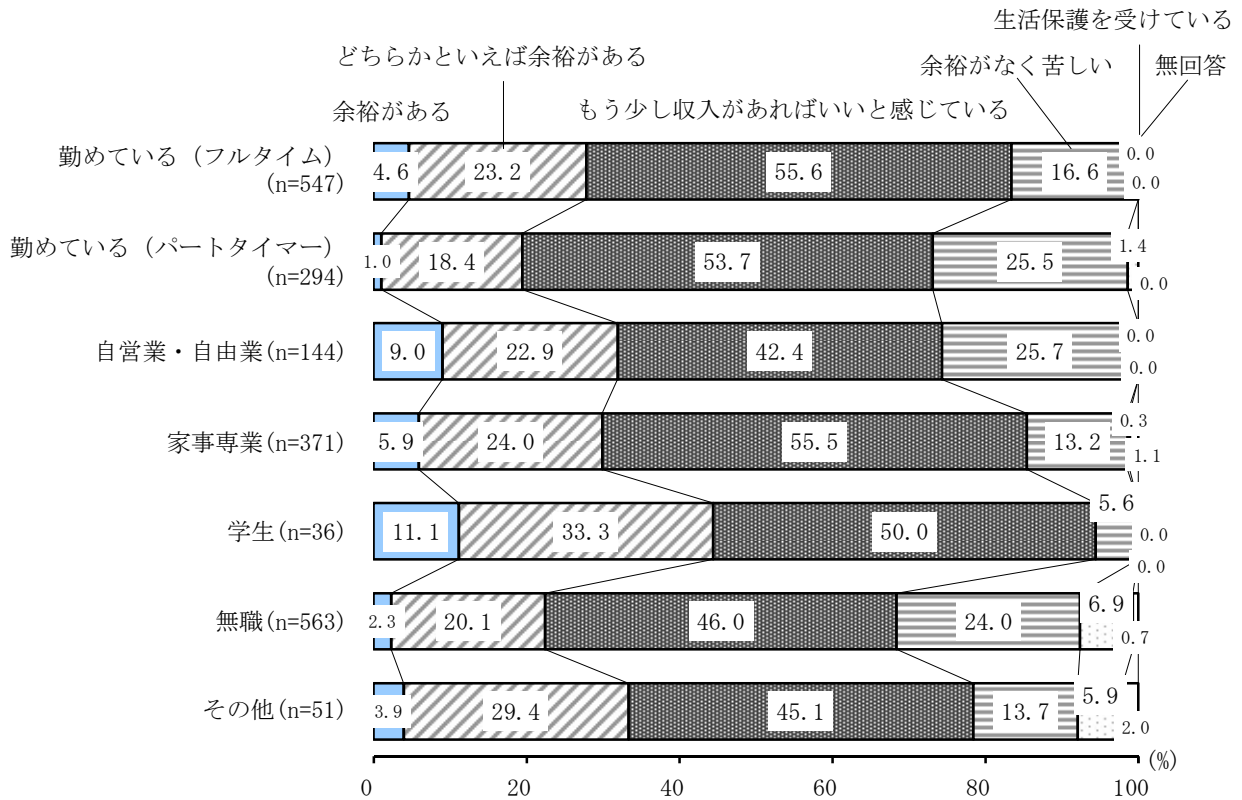
年齢別でみると、各年代で「もう少し収入があればいいと感じている」が4～5割を占めている。また、30歳代～40歳代では、『余裕がある』割合が2割前後で他の年代に比べ低くなっており、特に40歳代は「余裕がなく苦しい」が25.2%と4人に1人の割合となっている。(図表1-7-1)

【図表1-7-1 年齢別 経済状況】



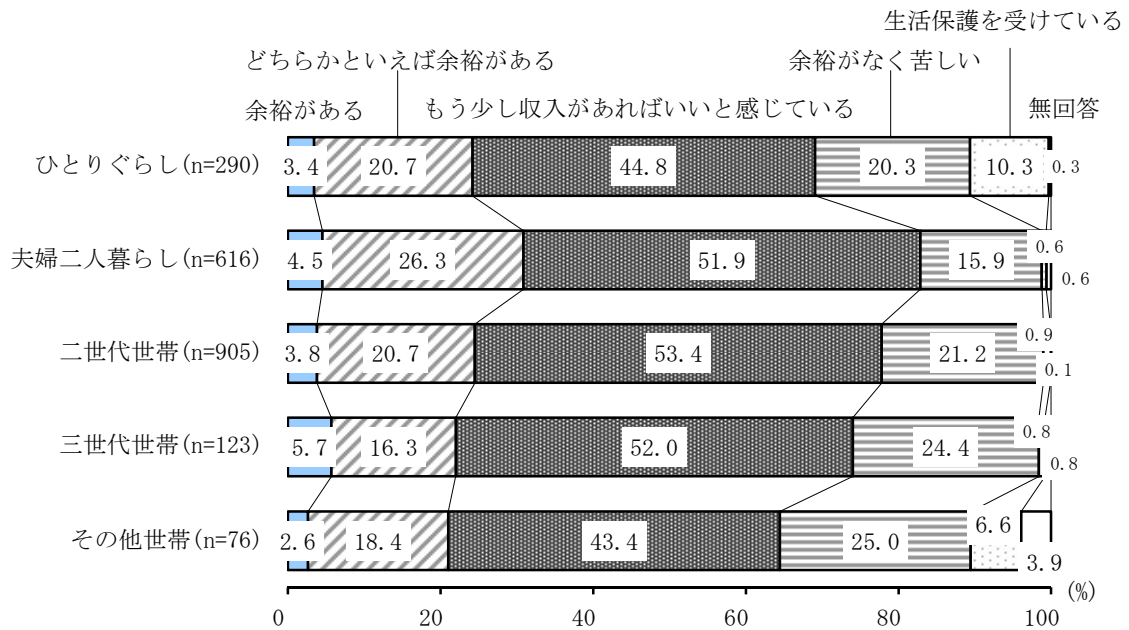
職業別でみると、いずれも「もう少し収入があればいいと感じている」が4～5割台を占めている。『余裕がある』割合では、パートタイマーや無職が2割前後で他の職業に比べ低くなっている。また、「余裕がなく苦しい」は、パートタイマーと自営業・自由業が25%台、無職は24.0%を占めている。(図表1-7-2)

【図表1-7-2 職業別 経済状況】



家族構成別でみると、いずれの世帯も「もう少し収入があればいいと感じている」が4～5割台を占めている。『余裕がある』割合では、夫婦二人暮らし世帯が30.8%で他の世帯に比べ高くなっている。一方、「余裕がなく苦しい」は、ひとりぐらし世帯や二世帯・三世帯世帯が2割台を占めており、なかでも三世帯世帯は24.4%と最も高くなっている。また、ひとりぐらし世帯では「生活保護を受けている」が10.3%で他の世帯に比べ高くなっている。(図表1-7-3)

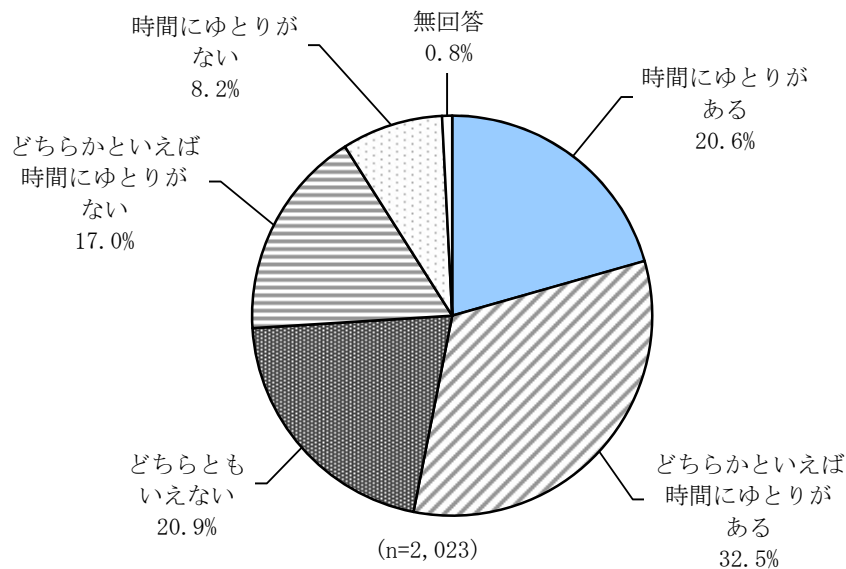
【図表1-7-3 家族構成別 経済状況】



(7) 時間的なゆとり状況

問7 あなたの現在の生活において、時間的なゆとりの状況は次のうちいずれですか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

【図表1-8 時間的なゆとり状況】



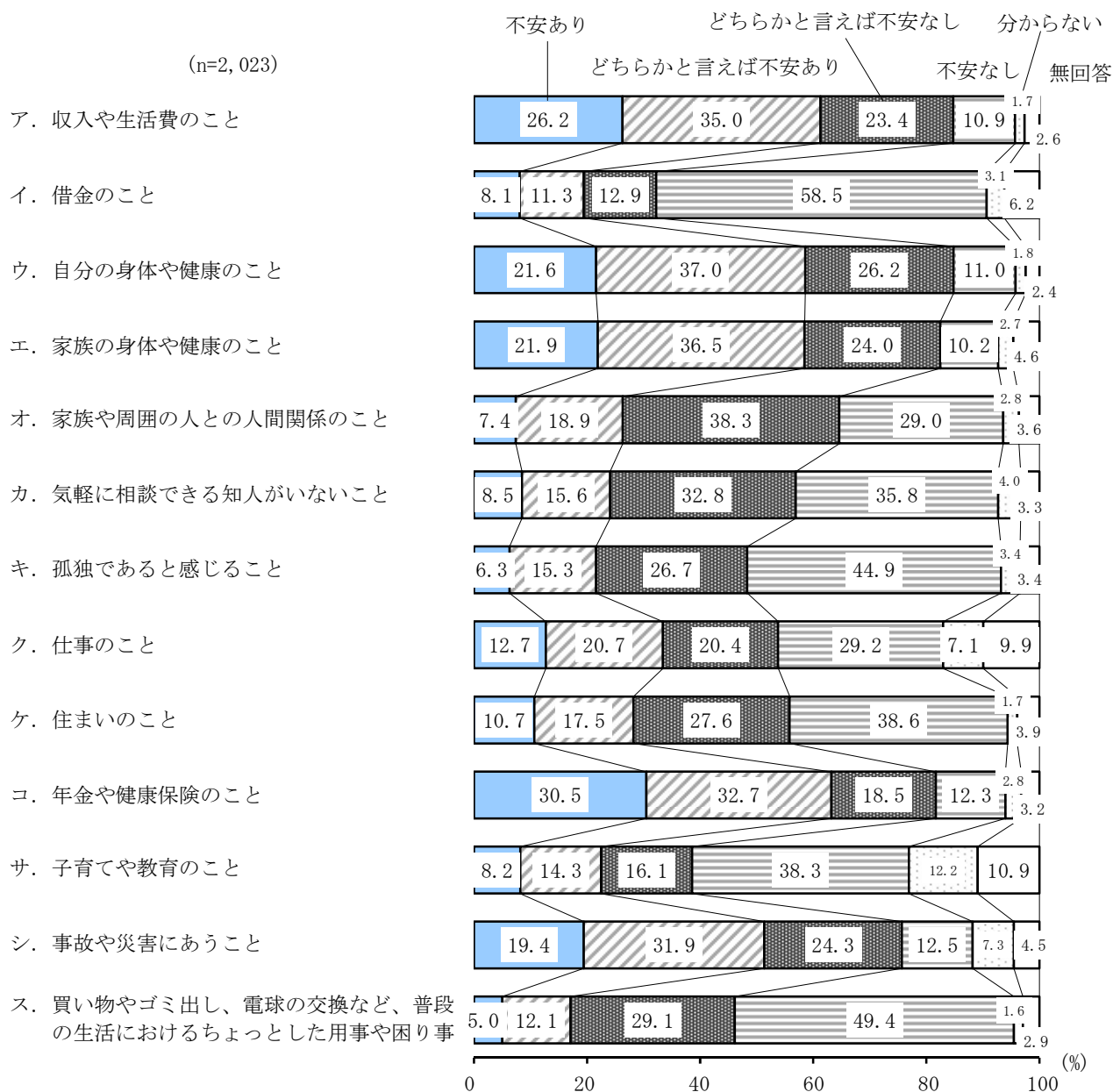
時間的なゆとり状況では、「どちらかといえば時間にはゆとりがある」が32.5%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が20.9%、「時間にはゆとりがある」が20.6%となっており、「時間にはゆとりがある」と「どちらかといえば時間にはゆとりがある」を合わせた『時間にはゆとりがある』割合は53.1%を占めている。一方、「どちらかといえば時間にはゆとりがない」(17.0%)と「時間にはゆとりがない」(8.2%)を合わせた『時間にはゆとりがない』割合では25.2%となっており、4人に1人の割合となっている。(図表1-8)

2. 日常生活上の不安について

(1) 日常生活上の不安

問8 あなたは、現在困っていることがありますか。ア～スのそれぞれの項目について、あてはまるもの1つずつ選んで番号に○をつけてください。

【図表2-1 日常生活上の不安】

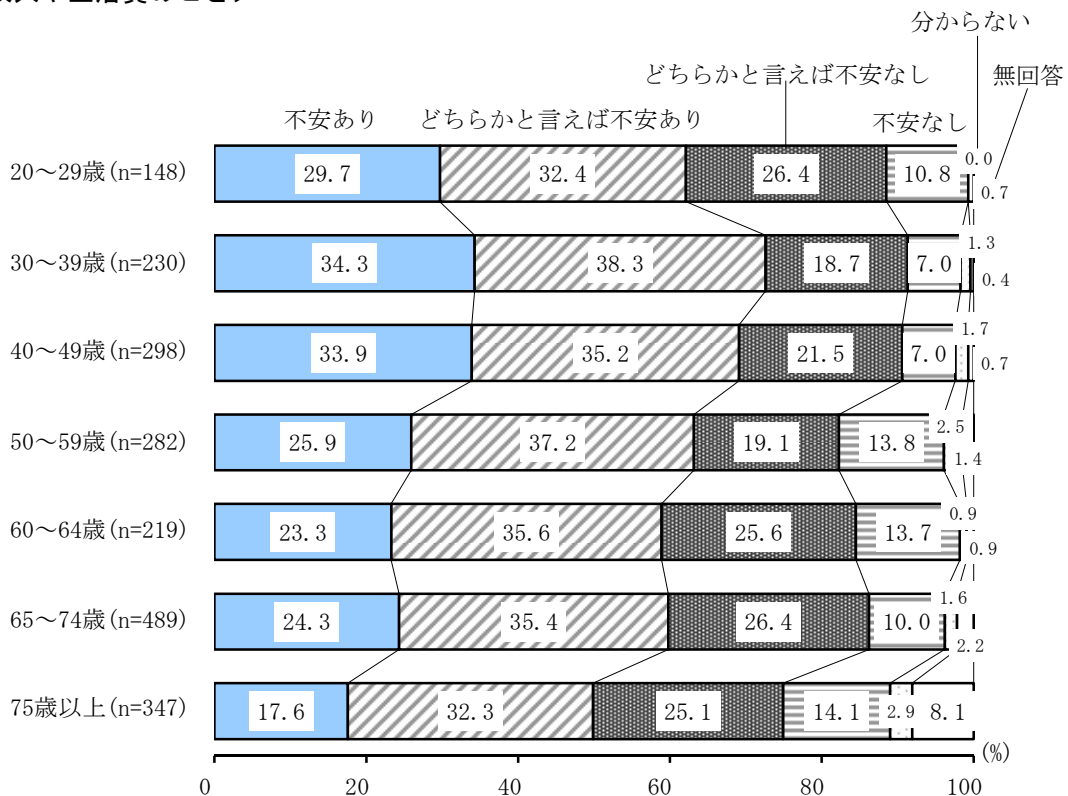


日常生活上の不安について、「不安あり」と「どちらかと言えば不安あり」を合わせた『不安がある』割合では、“コ. 年金や健康保険のこと”が63.2%で最も高く、次いで“ア. 収入や生活費のこと”が61.2%、“ウ. 自分の身体や健康のこと”が58.6%、“エ. 家族の身体や健康のこと”が58.4%、“シ. 事故や災害にあうこと”が51.3%となっており、それぞれ過半数を占めて高くなっている。(図表2-1)

年齢別でみると、『不安である』は、“ア. 収入や生活費のこと”や“ケ. 住まいのこと”、“コ. 年金や健康保険のこと”、“サ. 子育てや教育のこと”について、30歳代が最も高く、40歳以上になると低下傾向にある。また、30歳代は、“カ. 気軽に相談できる知人がいないこと”と“キ. 孤独であると感ずること”が他の年代に比べ低くなっている。“イ. 借金のこと”は30歳代～50歳代、“オ. 家族や周囲の人との人間関係のこと”では20歳代～50歳代で高くなっているが、どちらも60歳以上になると低下傾向にある。“ウ. 自分の身体や健康のこと”と“ス. 買い物やゴミ出し、電球の交換など、普段の生活におけるちょっとした用事や困り事”は、年代が上がるほど上昇しており、75歳以上で最も高くなっている。一方、“ク. 仕事のこと”では若い年代ほど割合が高く、20歳代が58.8%で最も高くなっている。また、“カ. 気軽に相談できる知人がいないこと”は、60～64歳が30.2%で他の年代に比べ高くなっている。(図表2-1-1)

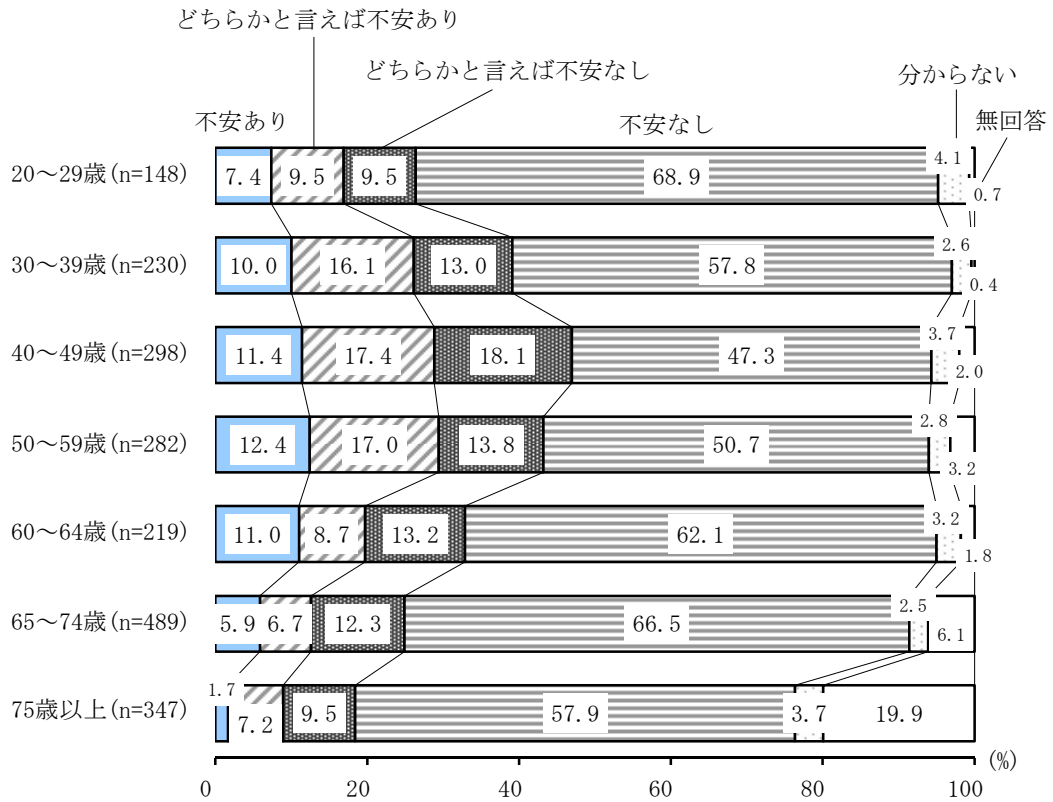
【図表2-1-1 年齢別 日常生活上の不安①】

<ア. 収入や生活費のこと>

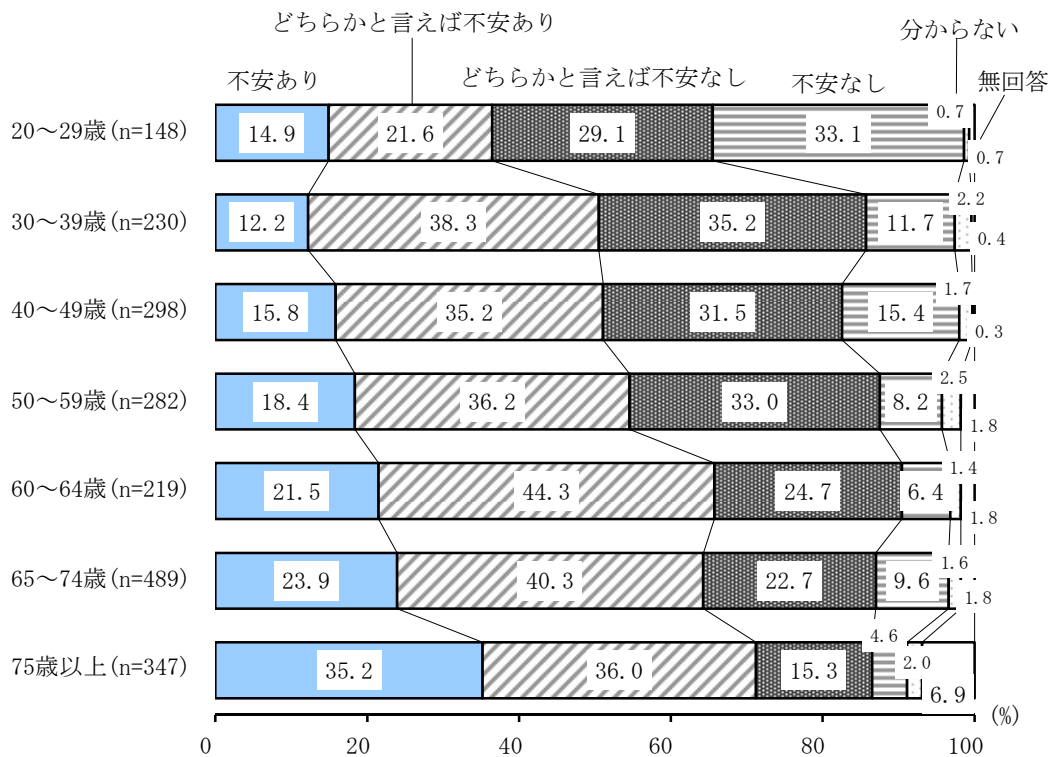


【図表2-1-1 年齢別 日常生活上の不安②】

<イ. 借金のこと>

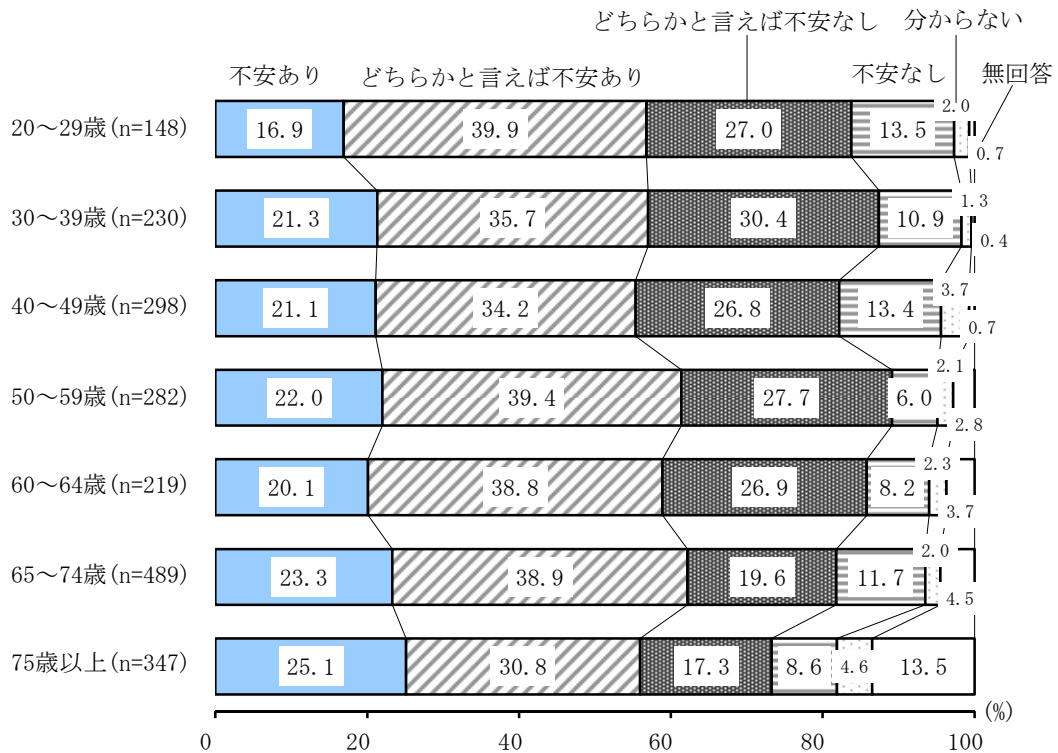


<ウ. 自分の身体や健康のこと>

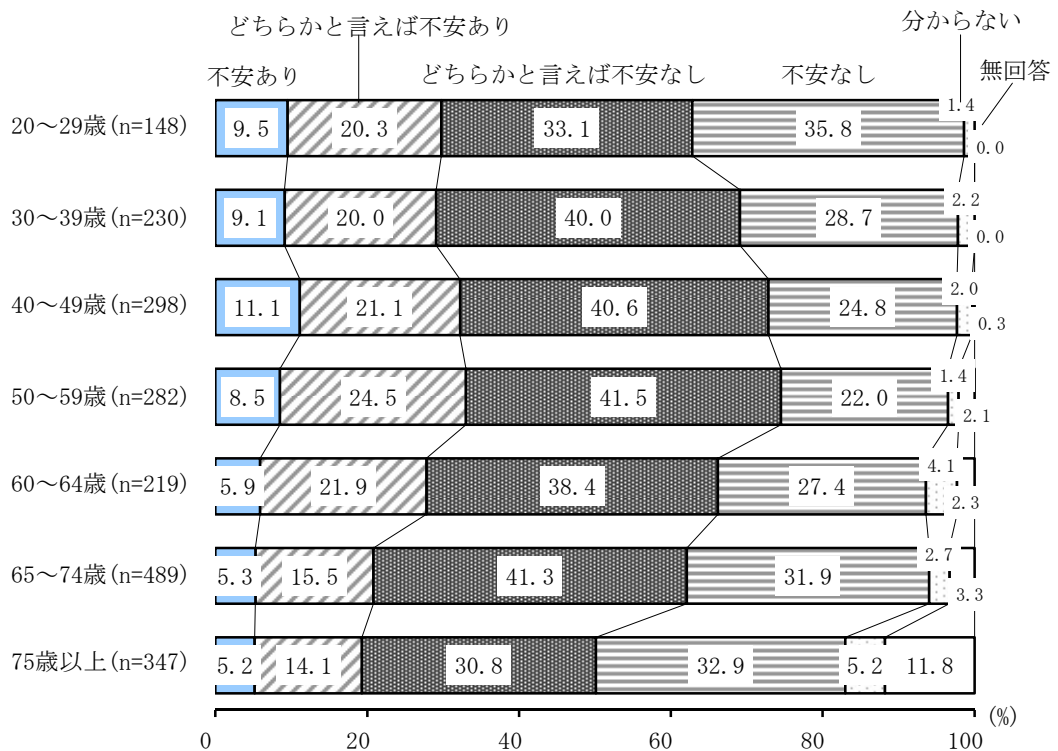


【図表2-1-1 年齢別 日常生活上の不安③】

<エ. 家族の身体や健康のこと>

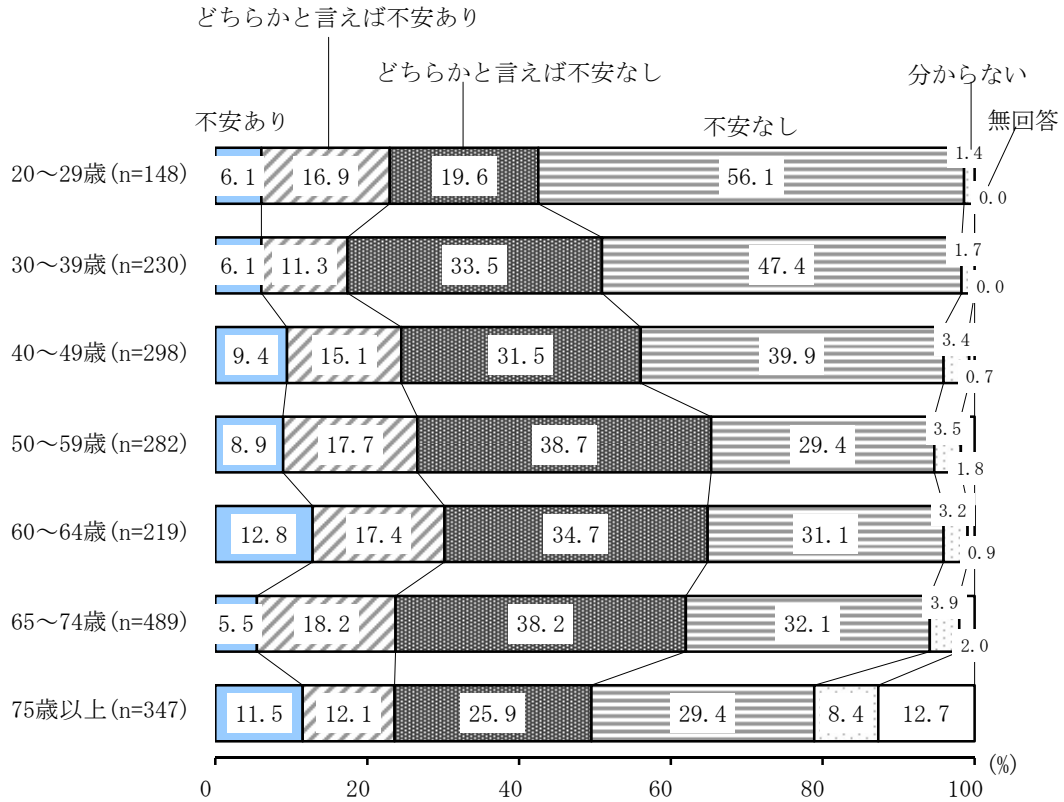


<オ. 家族や周囲の人との人間関係のこと>

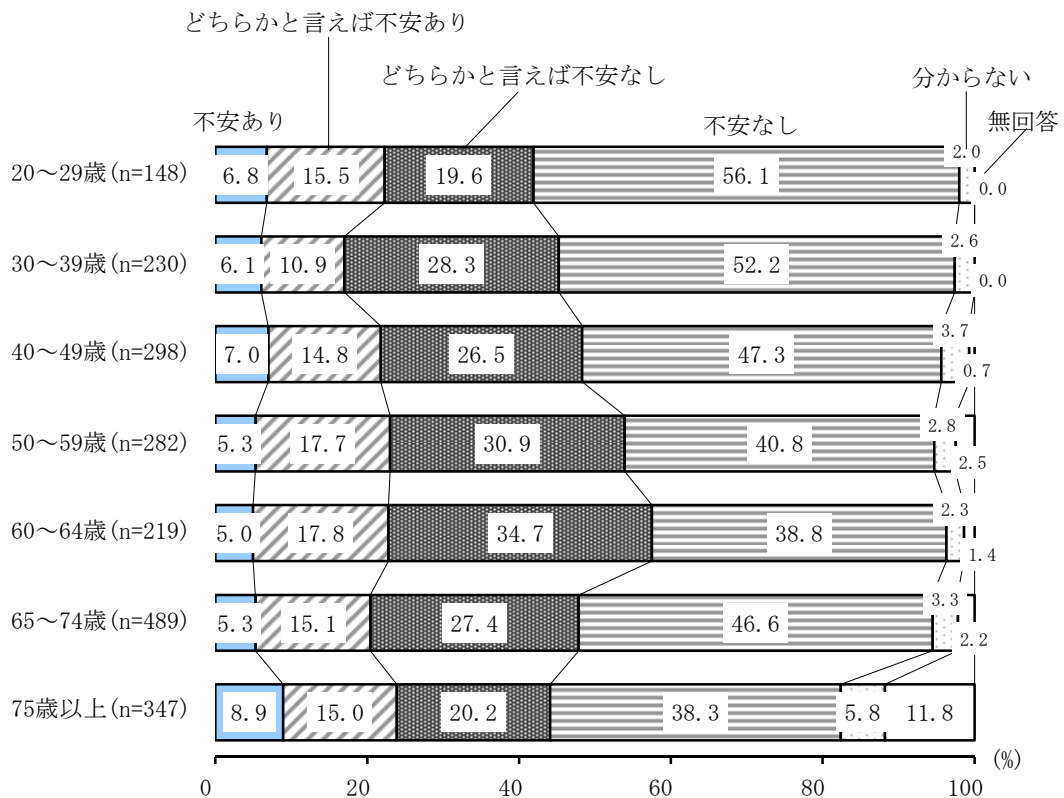


【図表2-1-1 年齢別 日常生活上の不安④】

<カ. 気軽に相談できる知人がいないこと>

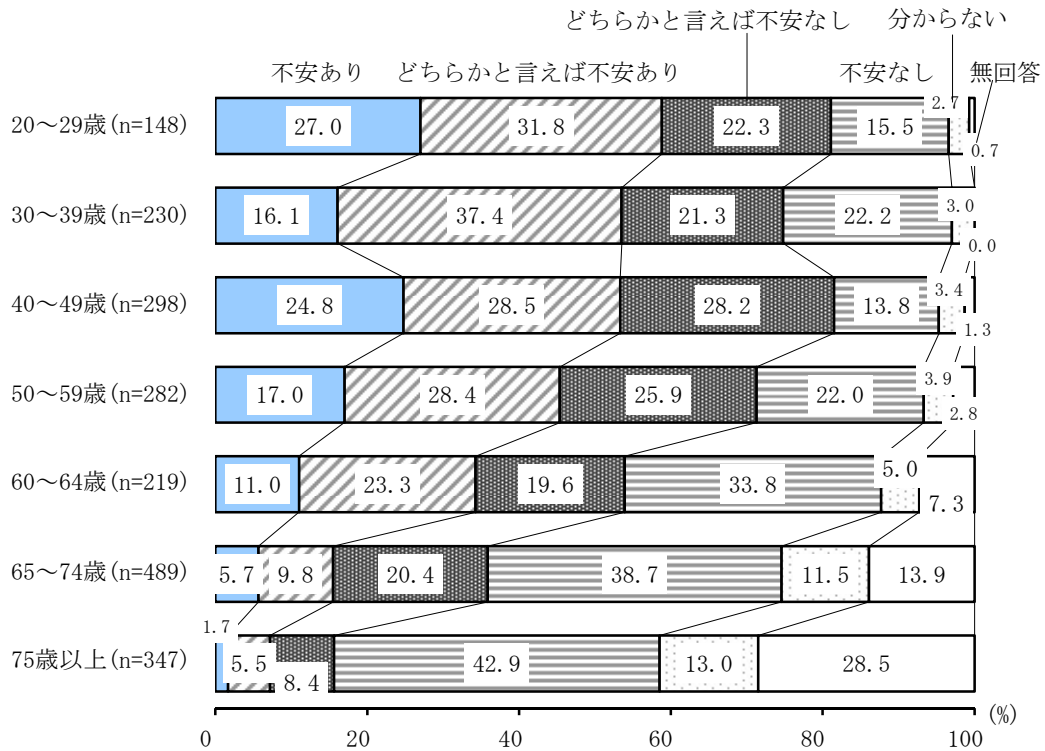


<キ. 孤独であると感じること>

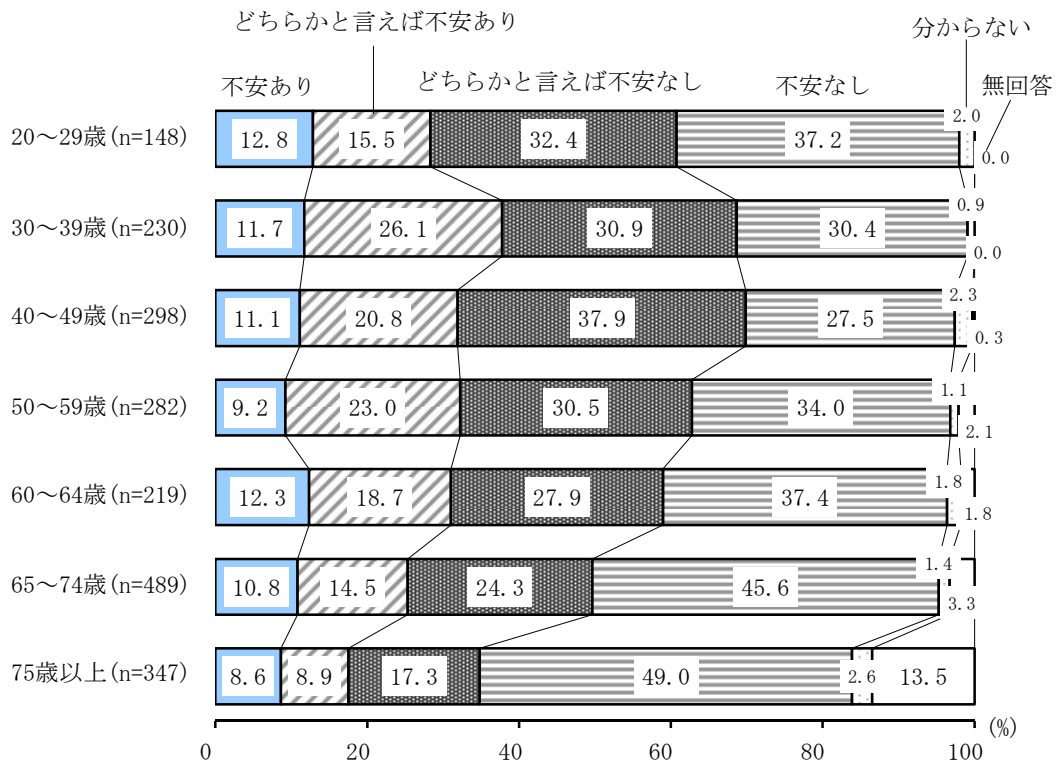


【図表2-1-1 年齢別 日常生活上の不安⑤】

<ク. 仕事のこと>

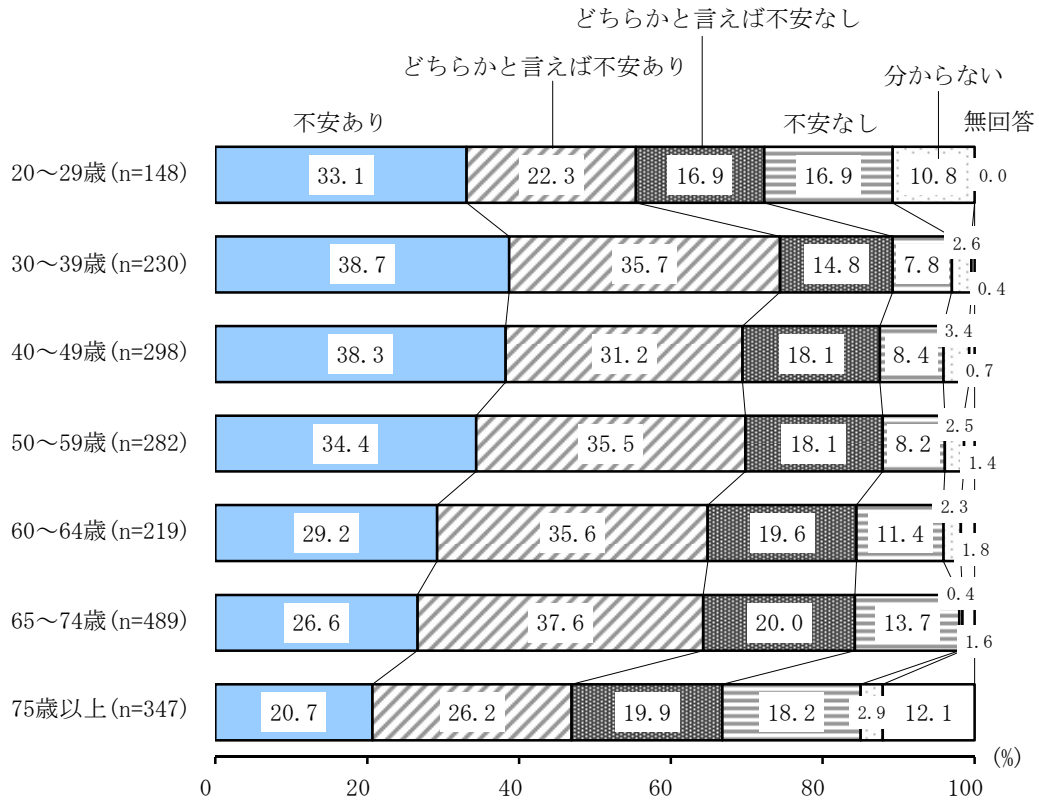


<ケ. 住まいのこと>

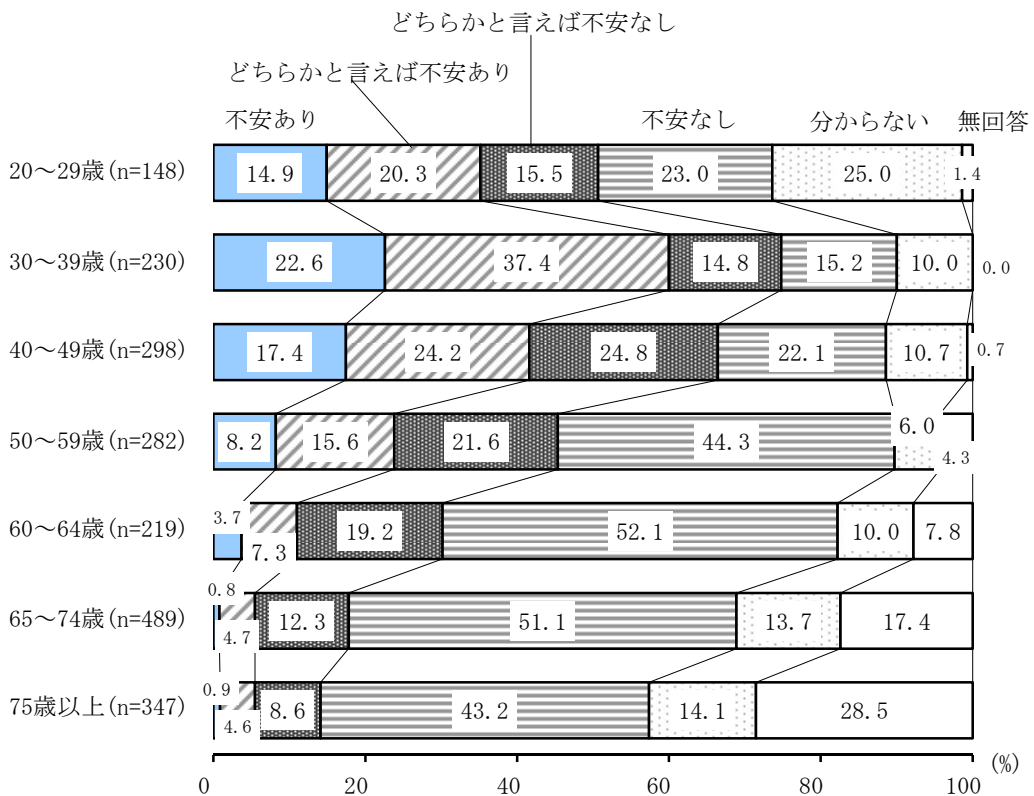


【図表2-1-1 年齢別 日常生活上の不安⑥】

<コ. 年金や健康保険のこと>

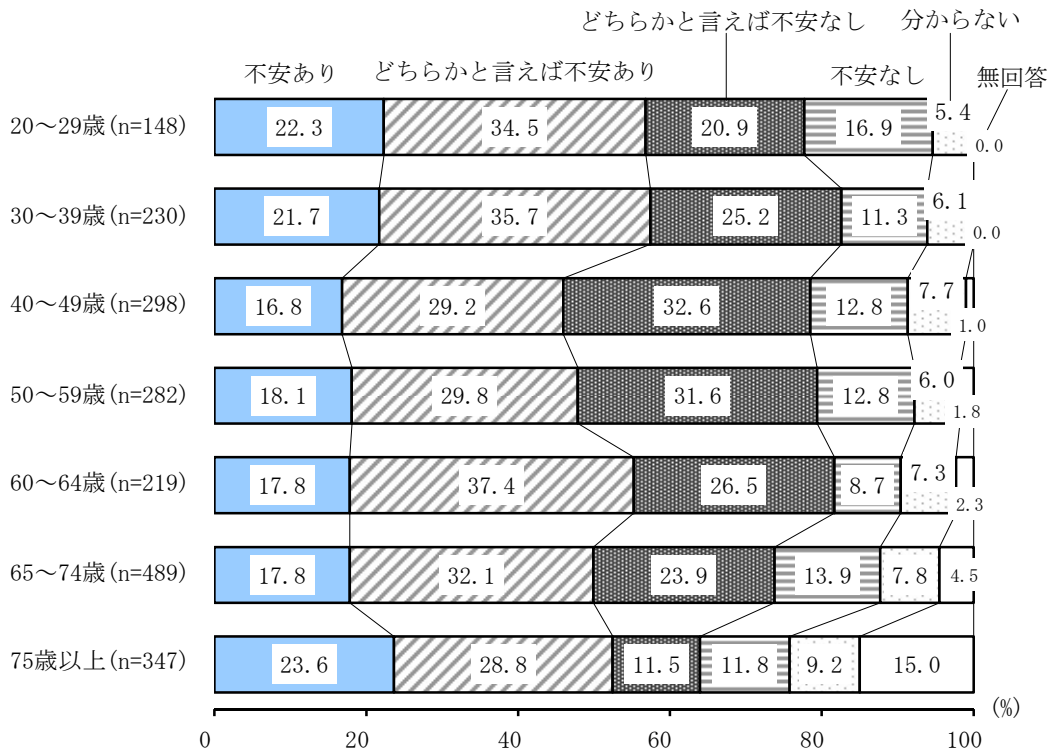


<サ. 子育てや教育のこと>

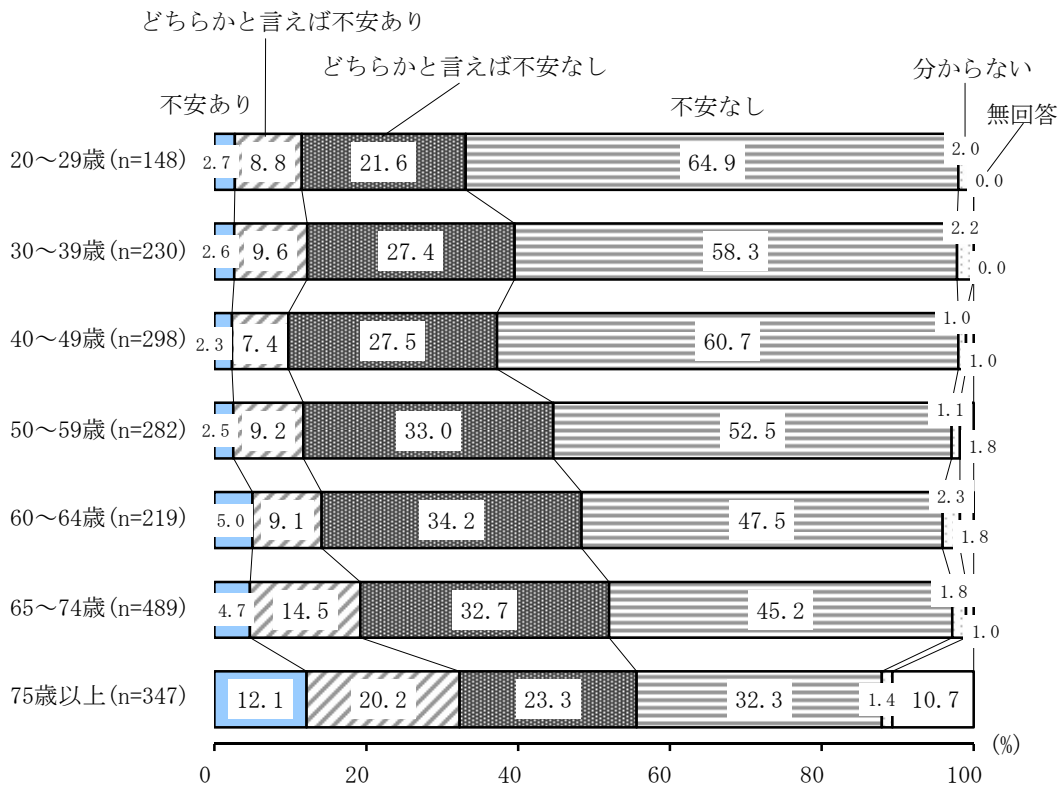


【図表2-1-1 年齢別 日常生活上の不安⑦】

<シ. 事故や災害にあうこと>



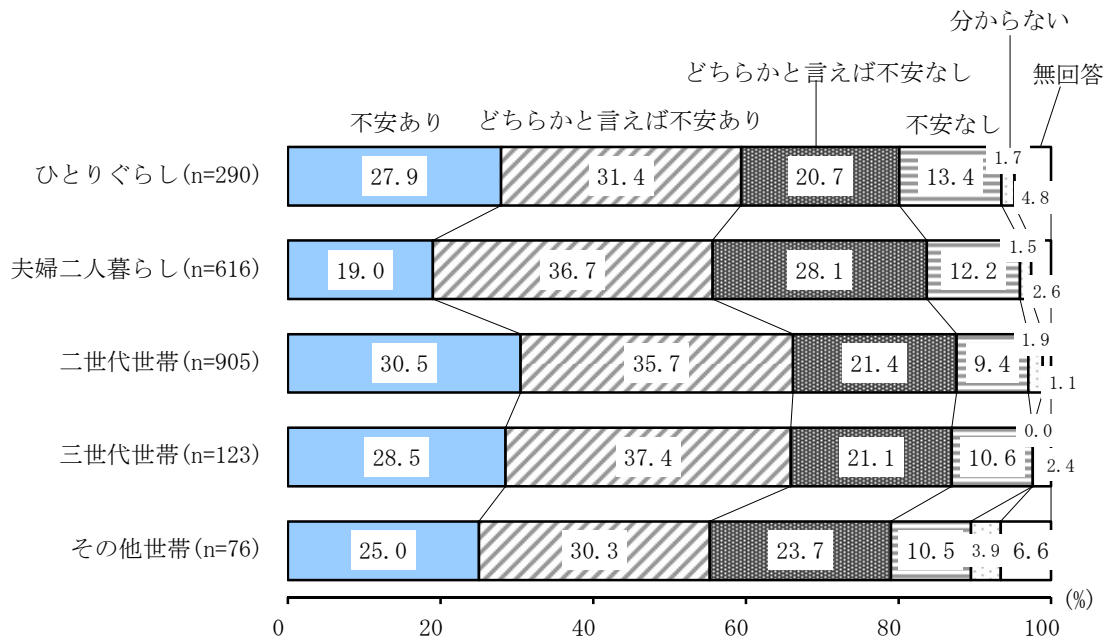
<ス. 買い物やゴミ出し、電球の交換など、普段の生活におけるちょっとした用事や困り事>



家族構成別でみると、『不安である』は、“ア．収入や生活費のこと”や“イ．借金のこと”、“オ．家族や周囲の人との人間関係のこと”、“ク．仕事のこと”、“コ．年金や健康保険のこと”、“サ．子育てや教育のこと”について、ひとりぐらし・夫婦二人暮らし世帯の一世代世帯に比べ二世代・三世代世帯のほうが高い割合になっている。また、“ク．仕事のこと”では二世代世帯が43.9%で他の世帯に比べ高くなっており、“サ．子育てや教育のこと”と“シ．事故や災害にあうこと”は、同居人数や世代が多いほど高くなっている。一方、“カ．気軽に相談できる知人がいないこと”では一世代世帯のほうが高く、ひとりぐらし・夫婦二人暮らし世帯とも26%台を占めている。また、ひとりぐらし世帯は、“キ．孤独であると感じること”（38.7%）や“ケ．住まいのこと”（33.1%）、“ス．買い物やゴミ出し、電球の交換など、普段の生活におけるちょっとした用事や困り事”（34.1%）が他の世帯に比べ高くなっている。（図表2-1-2）

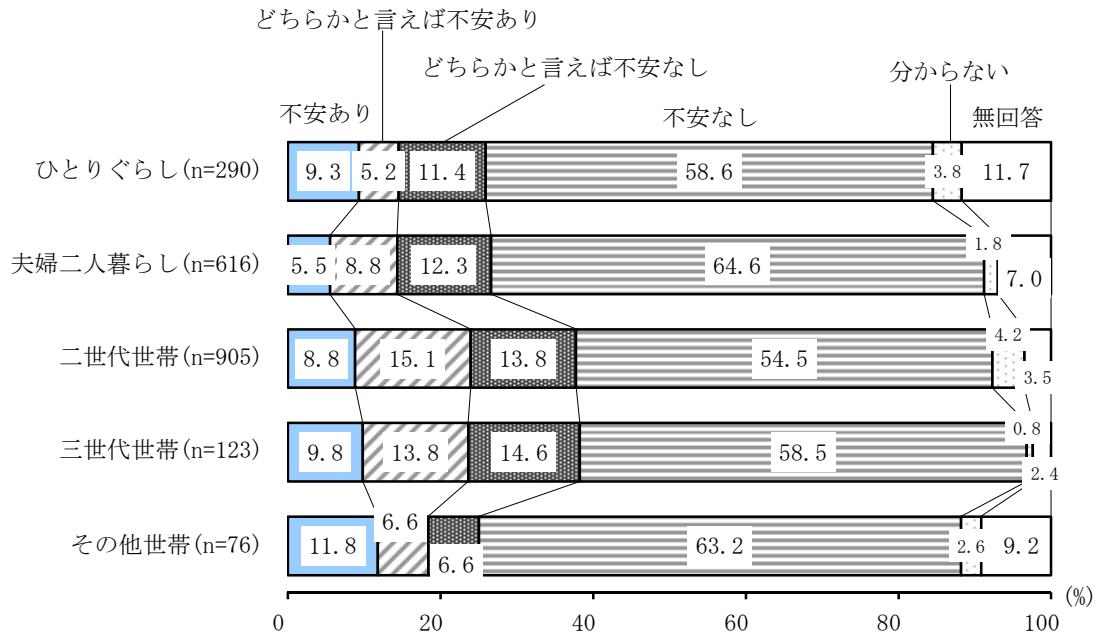
【図表2-1-2 家族構成別 日常生活上の不安①】

<ア．収入や生活費のこと>

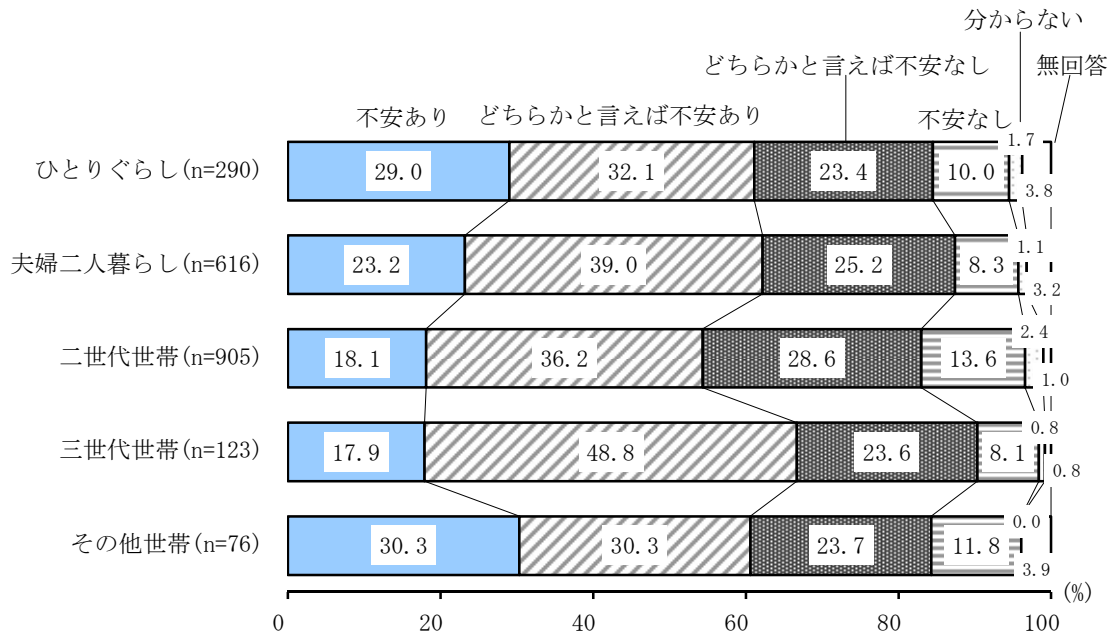


【図表2-1-2 家族構成別 日常生活上の不安②】

<イ. 借金のこと>

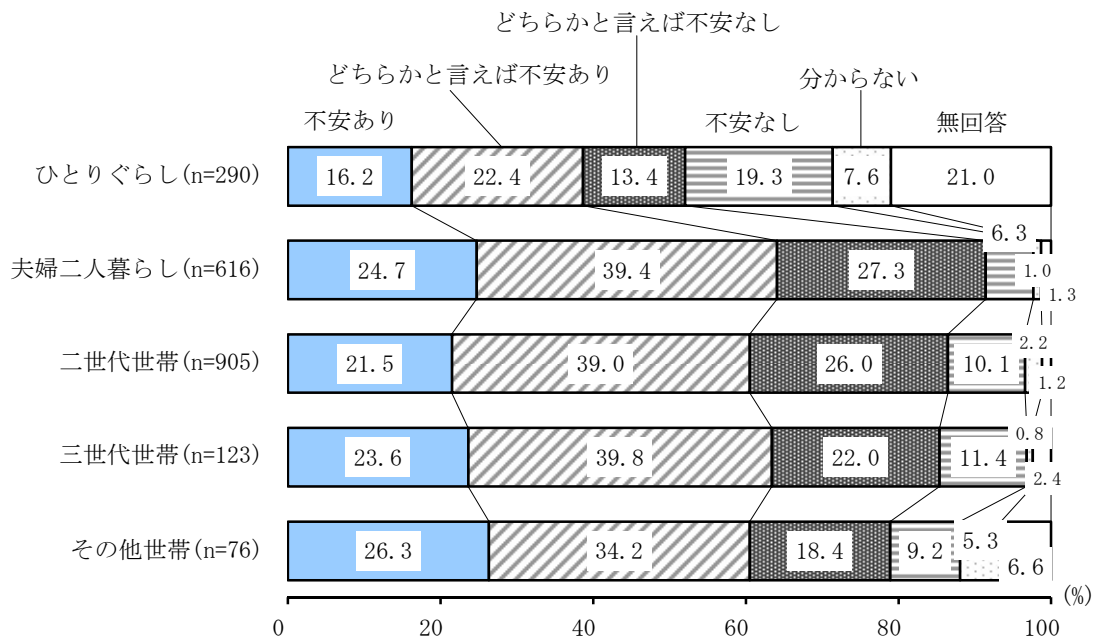


<ウ. 自分の身体や健康のこと>

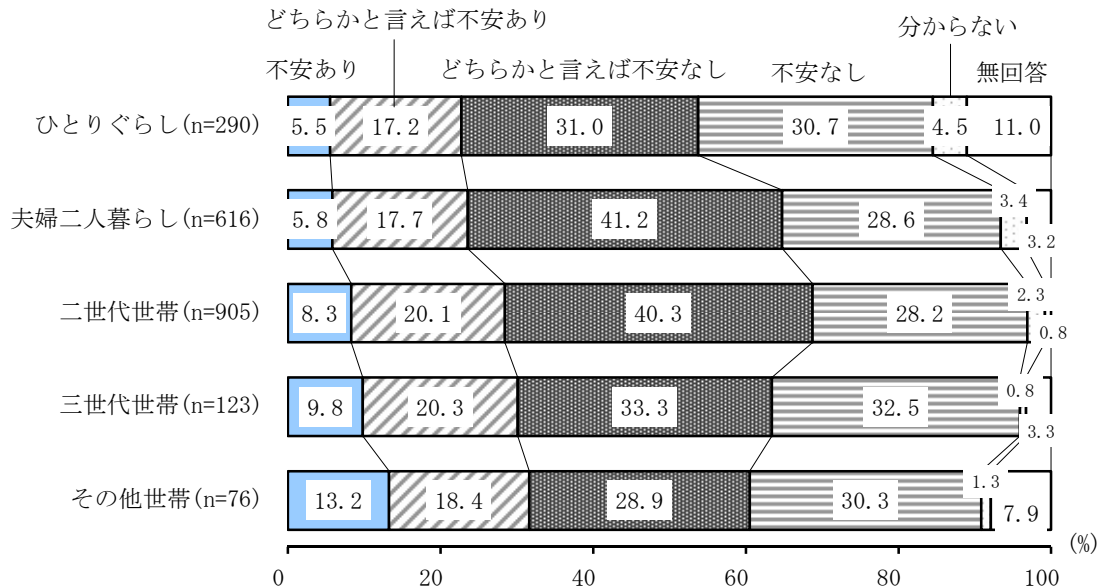


【図表2-1-2 家族構成別 日常生活上の不安③】

<エ. 家族の身体や健康のこと>

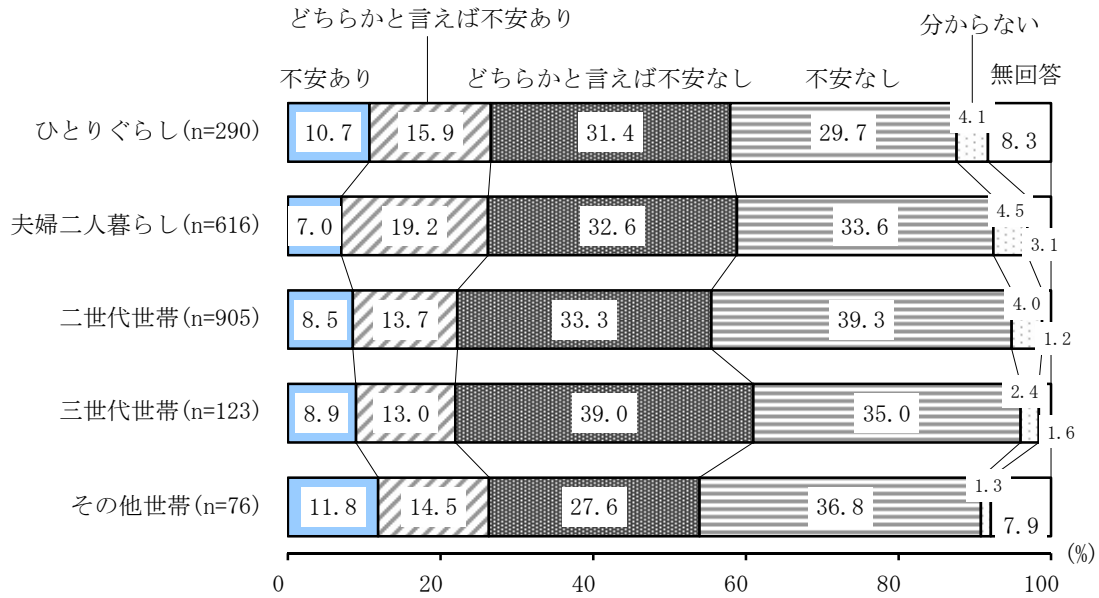


<オ. 家族や周囲の人との人間関係のこと>

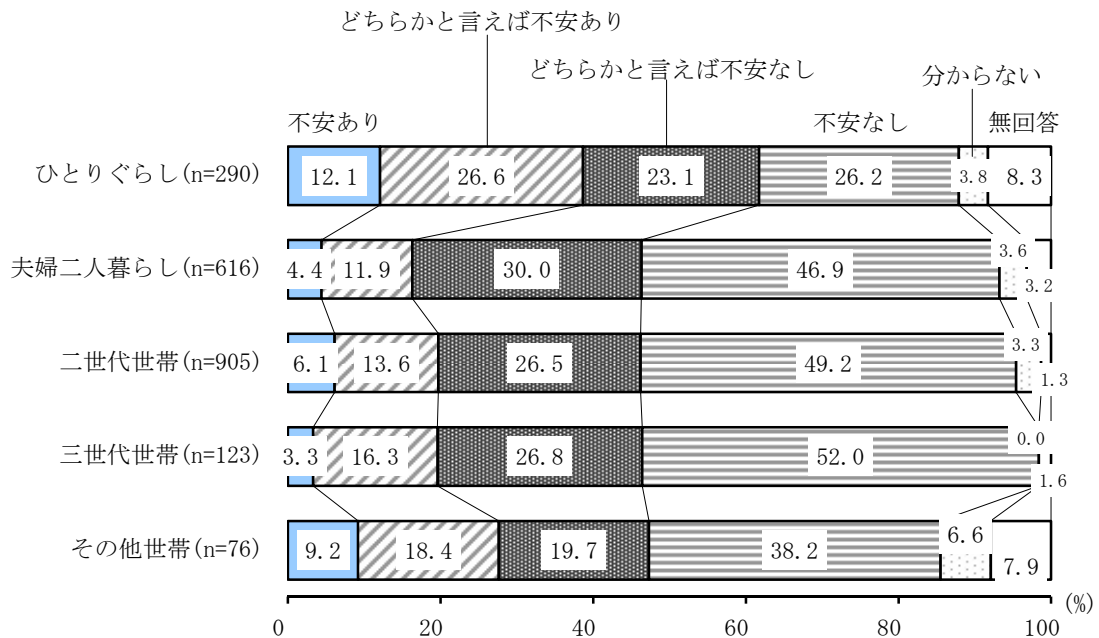


【図表2-1-2 家族構成別 日常生活上の不安④】

<カ. 気軽に相談できる知人がいないこと>

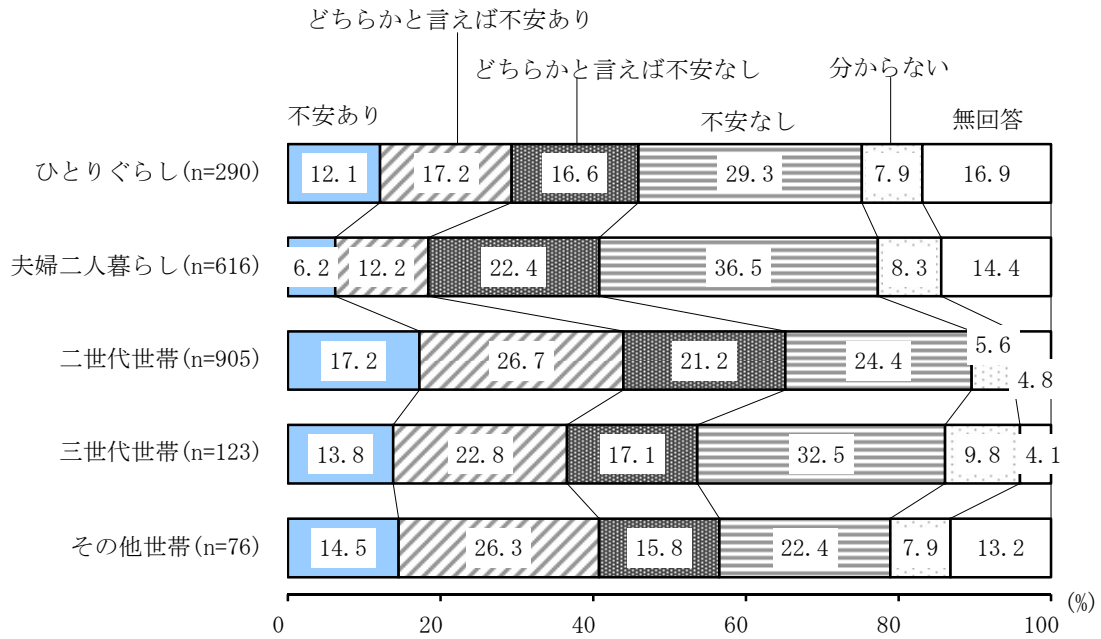


<キ. 孤独であると感ずること>

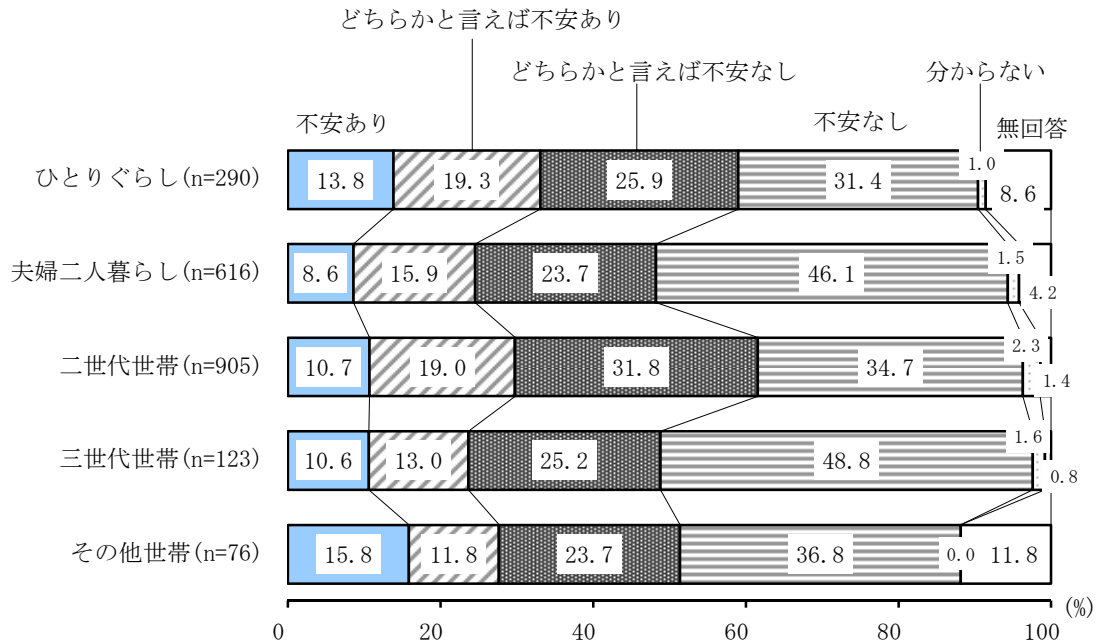


【図表2-1-2 家族構成別 日常生活上の不安⑤】

<ク. 仕事のこと>

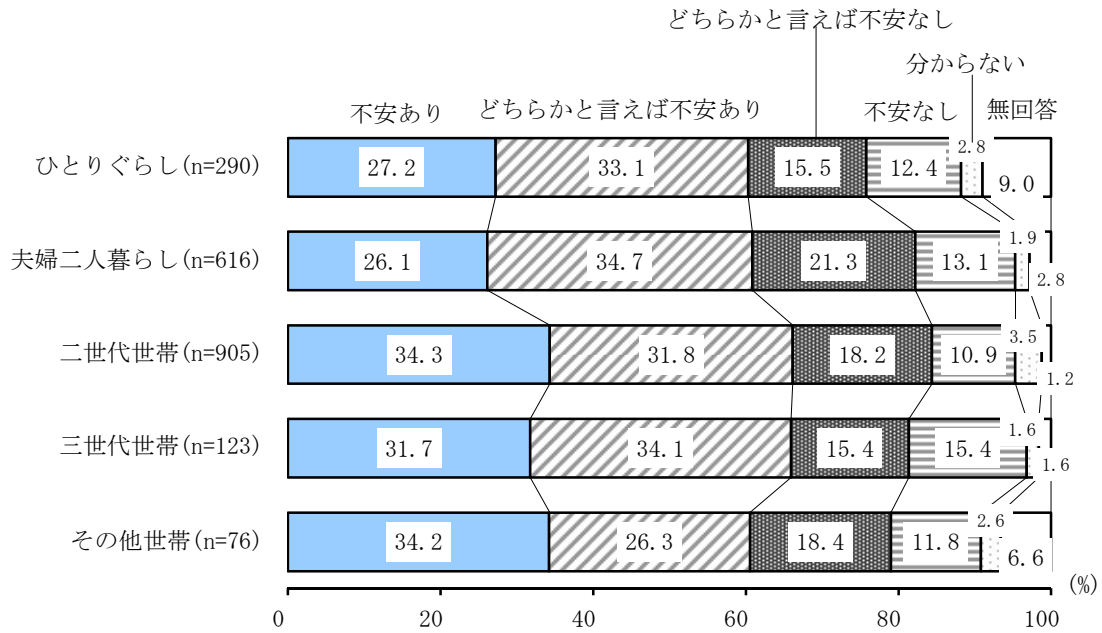


<ケ. 住まいのこと>

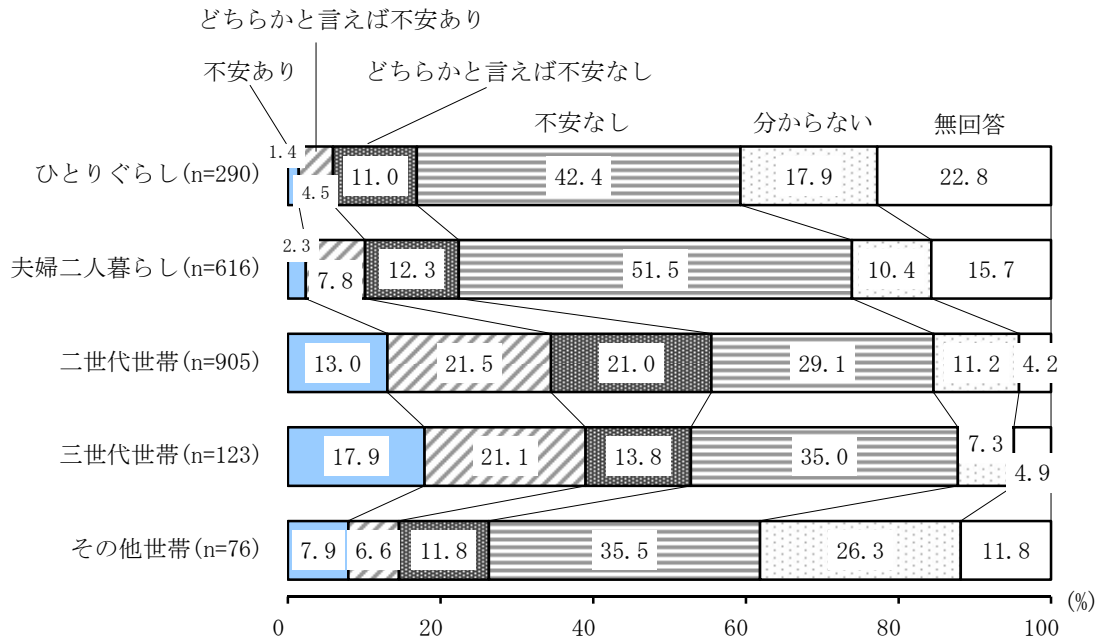


【図表2-1-2 家族構成別 日常生活上の不安⑥】

<コ. 年金や健康保険のこと>

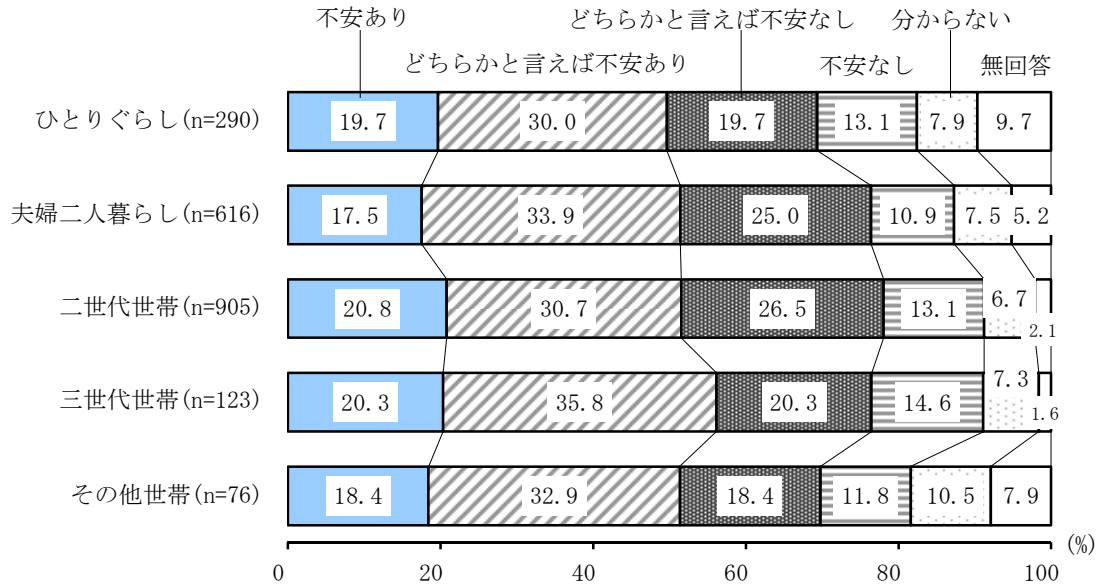


<サ. 子育てや教育のこと>

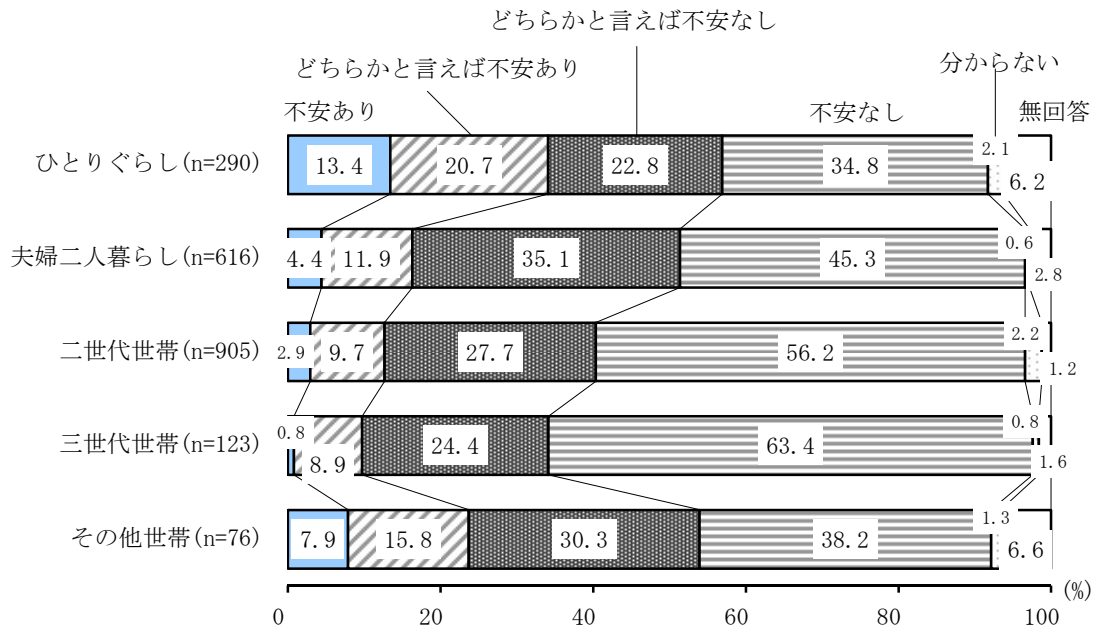


【図表2-1-2 家族構成別 日常生活上の不安⑦】

<シ. 事故や災害にあうこと>



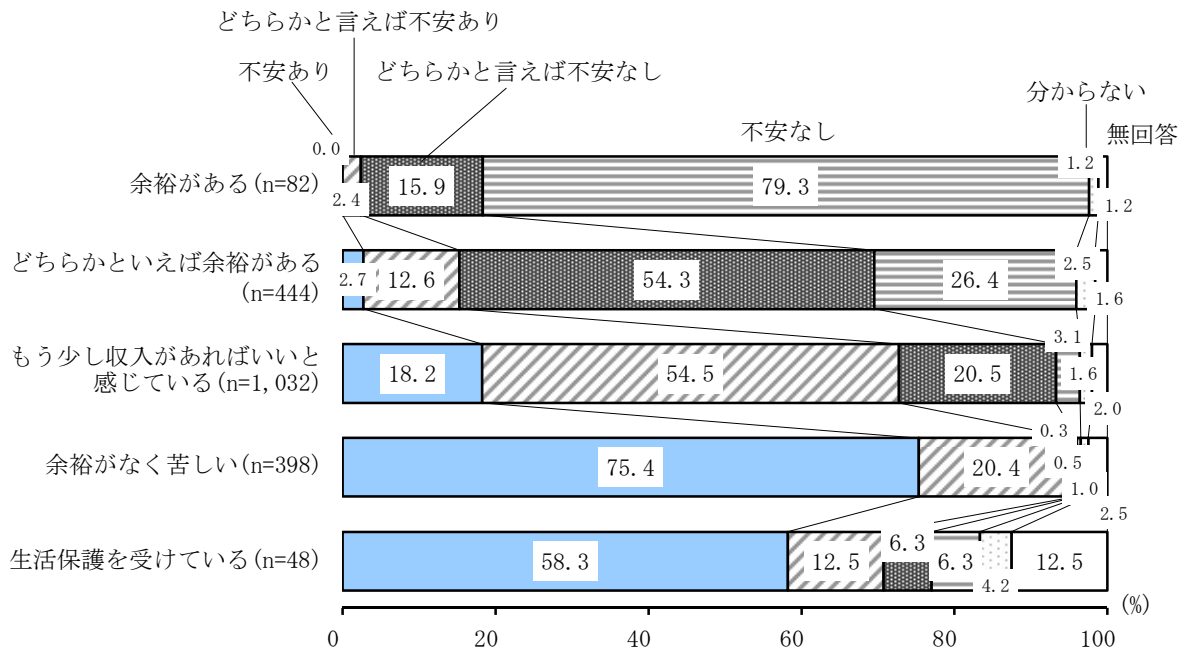
<ス. 買い物やゴミ出し、電球の交換など、普段の生活におけるちょっとした用事や困り事>



経済状況別でみると、『不安である』割合は、各項目で経済的に余裕がない人ほど高くなっており、余裕がなく苦しい人では“ア. 収入や生活費のこと”が95.8%で最も高く、次いで“コ. 年金や健康保険のこと”が88.0%、“ウ. 自分の身体や健康のこと”が73.9%、“エ. 家族の身体や健康のこと”が70.4%となっている。また、生活保護を受けている人は、経済的に余裕がない人に比べ、“ウ. 自分の身体や健康のこと”や“カ. 気軽に相談できる知人がいないこと”、“キ. 孤独であると感じること”、“ス. 買い物やゴミ出し、電球の交換など、普段の生活におけるちょっとした用事や困り事”について『不安である』割合が高くなっている。(図表2-1-3)

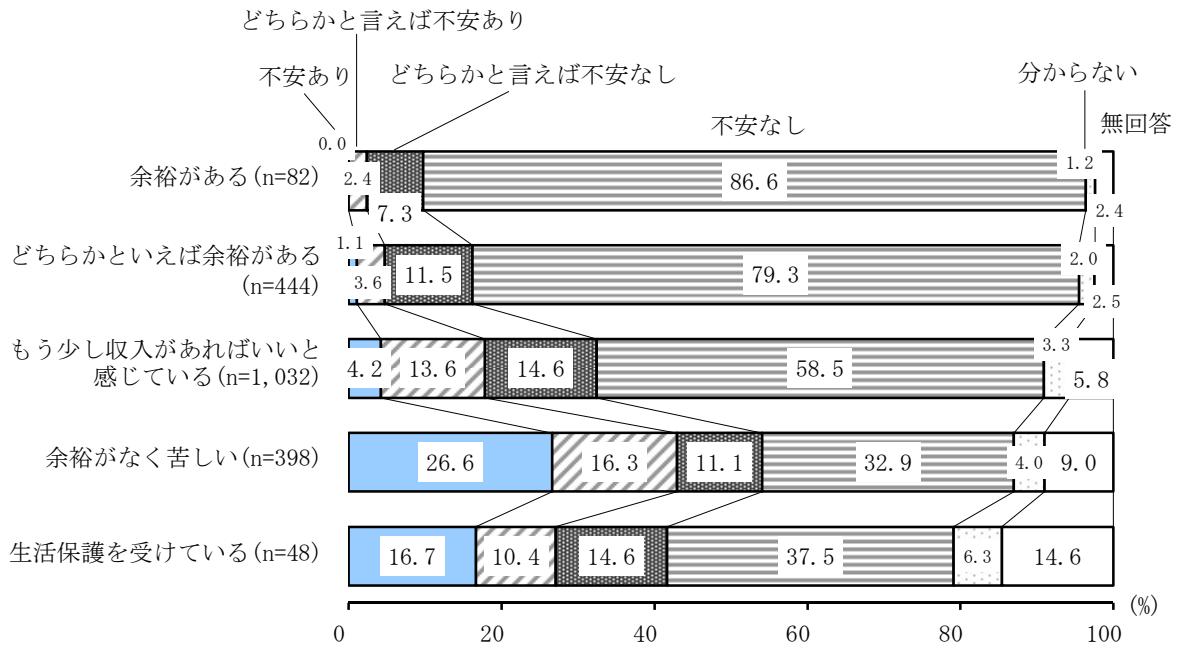
【図表2-1-3 経済状況別 日常生活上の不安①】

<ア. 収入や生活費のこと>

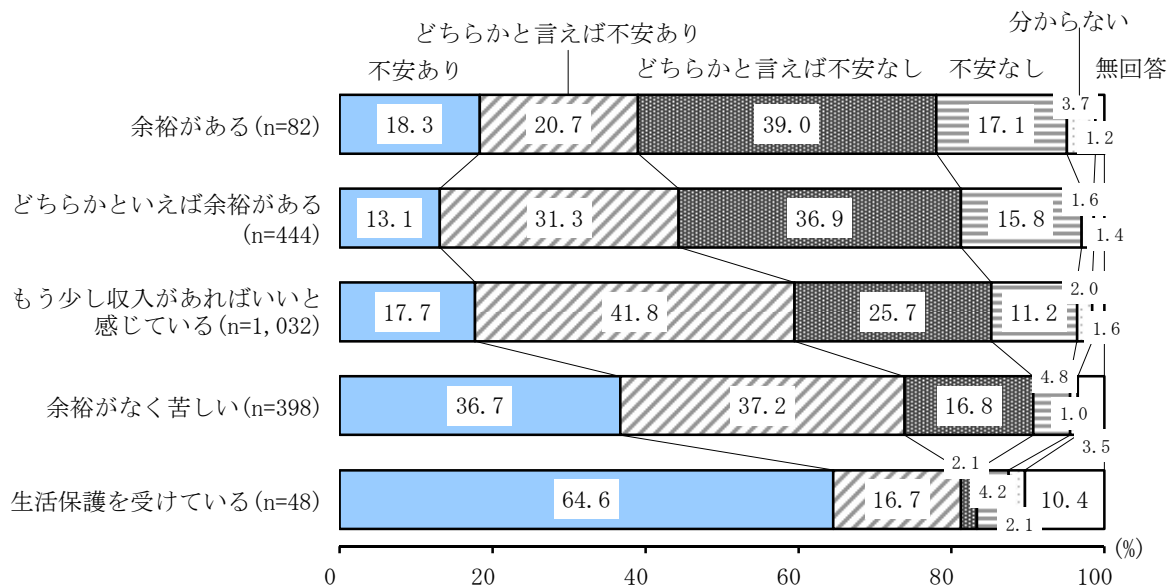


【図表2-1-3 経済状況別 日常生活上の不安②】

<イ. 借金のこと>

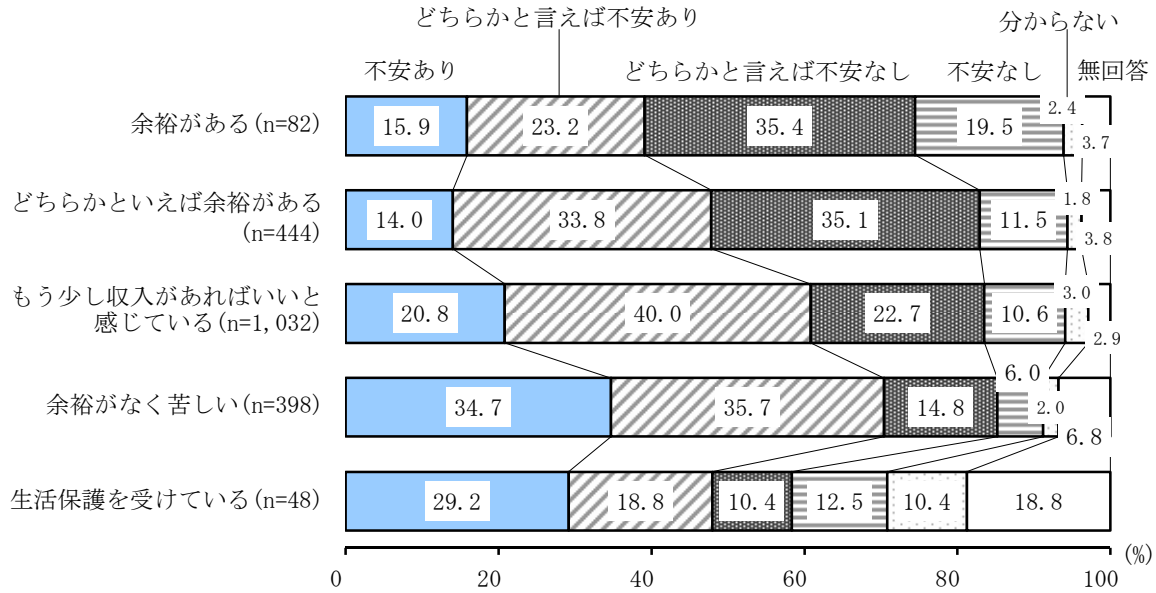


<ウ. 自分の身体や健康のこと>

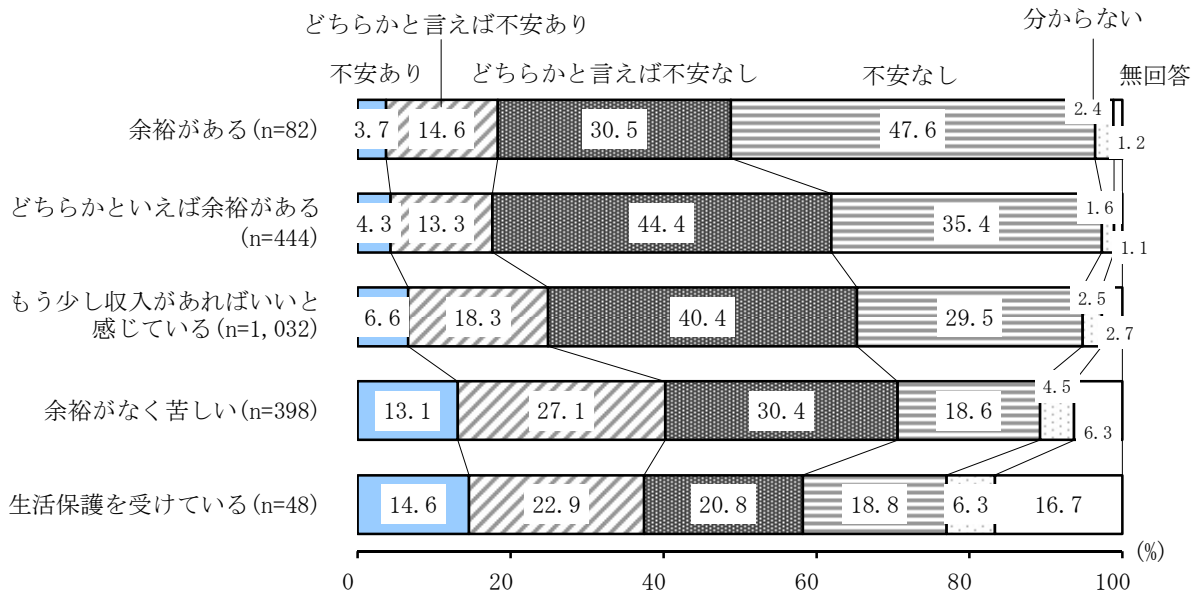


【図表2-1-3 経済状況別 日常生活上の不安③】

<エ. 家族の身体や健康のこと>

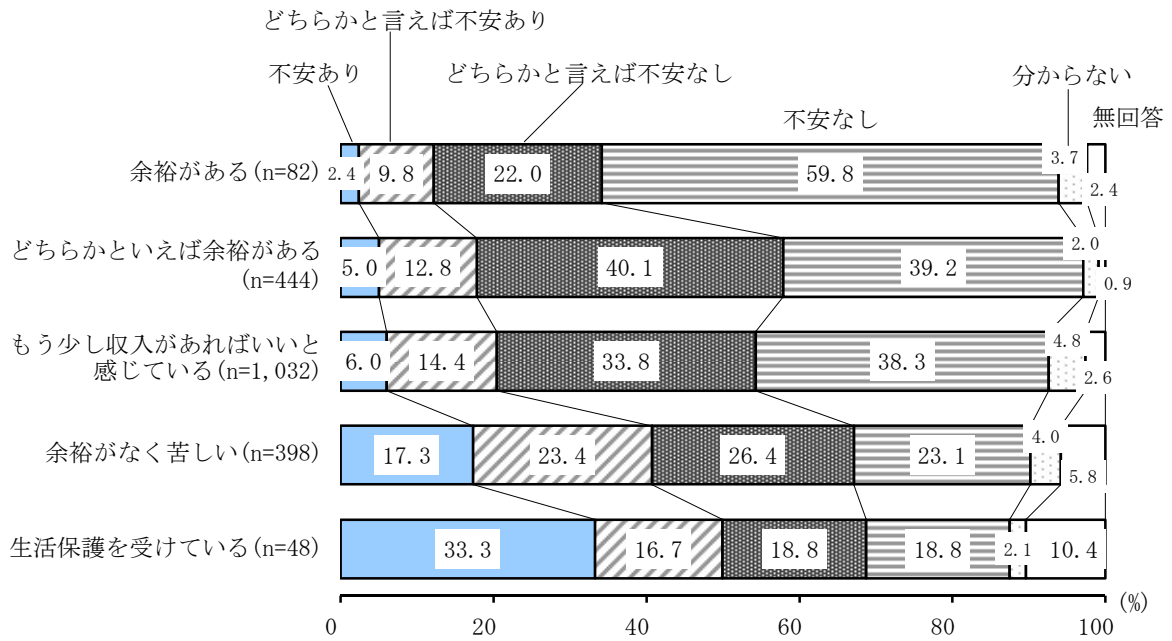


<オ. 家族や周囲の人との人間関係のこと>

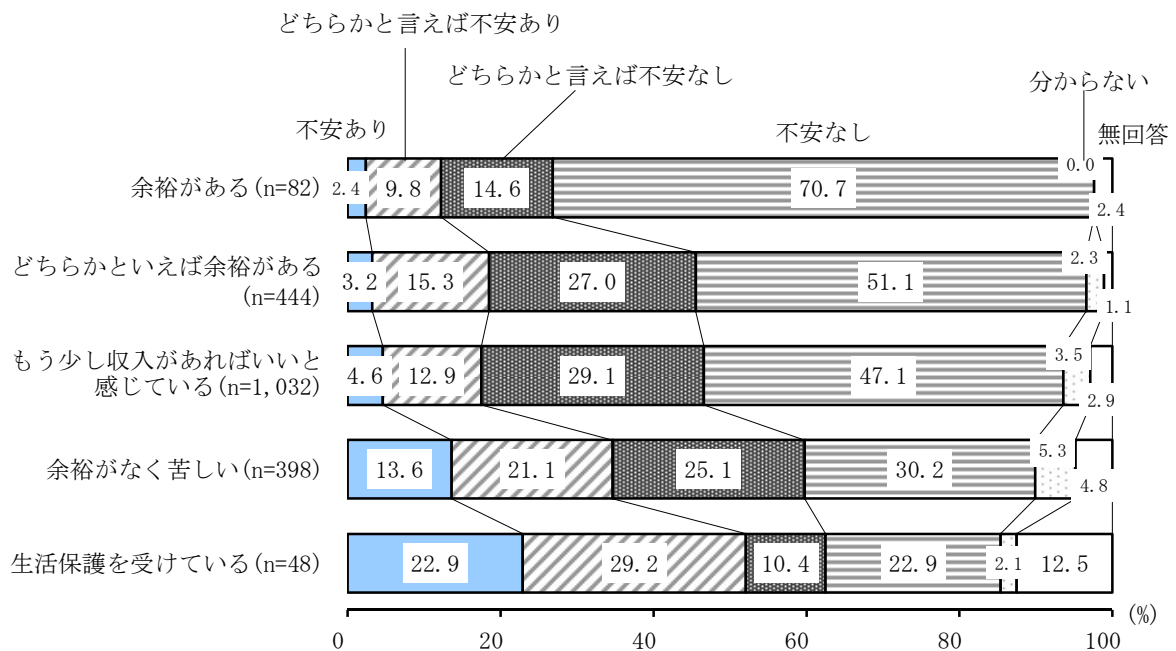


【図表2-1-3 経済状況別 日常生活上の不安④】

<カ. 気軽に相談できる知人がいないこと>

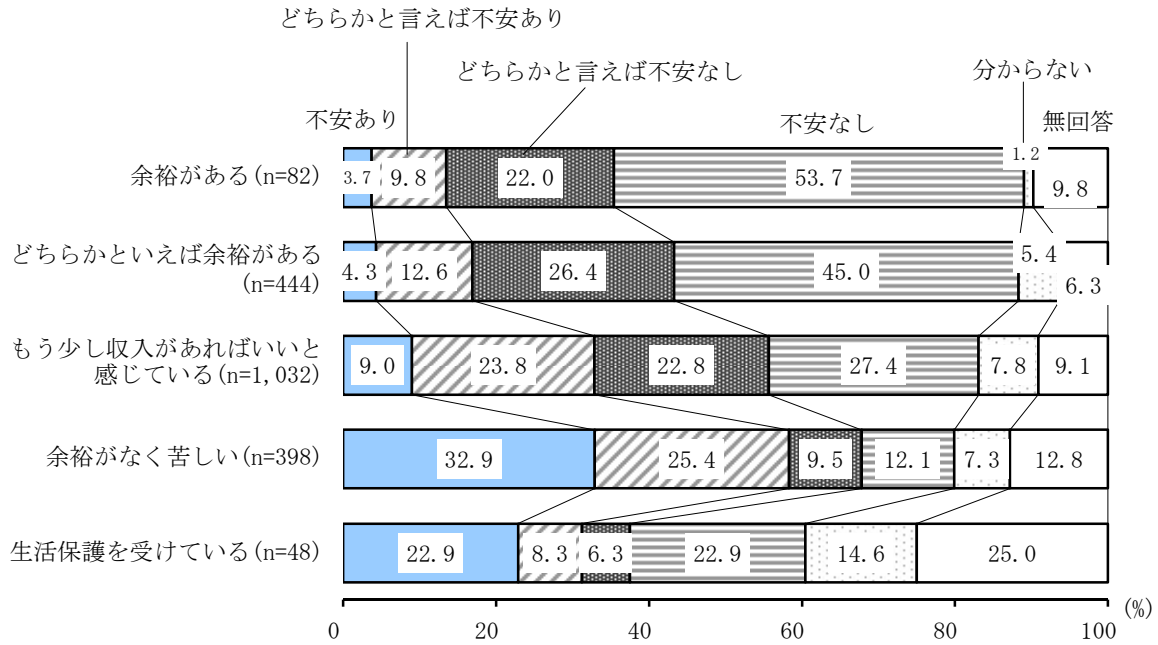


<キ. 孤独であると感じること>

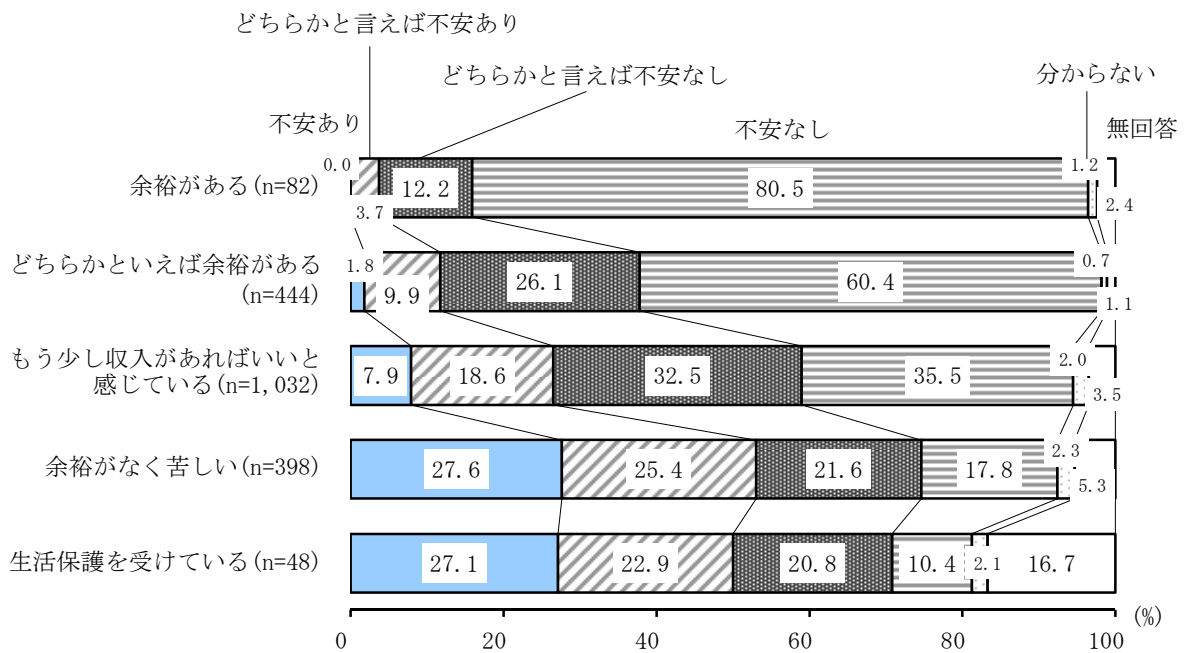


【図表2-1-3 経済状況別 日常生活上の不安⑤】

<ク. 仕事のこと>

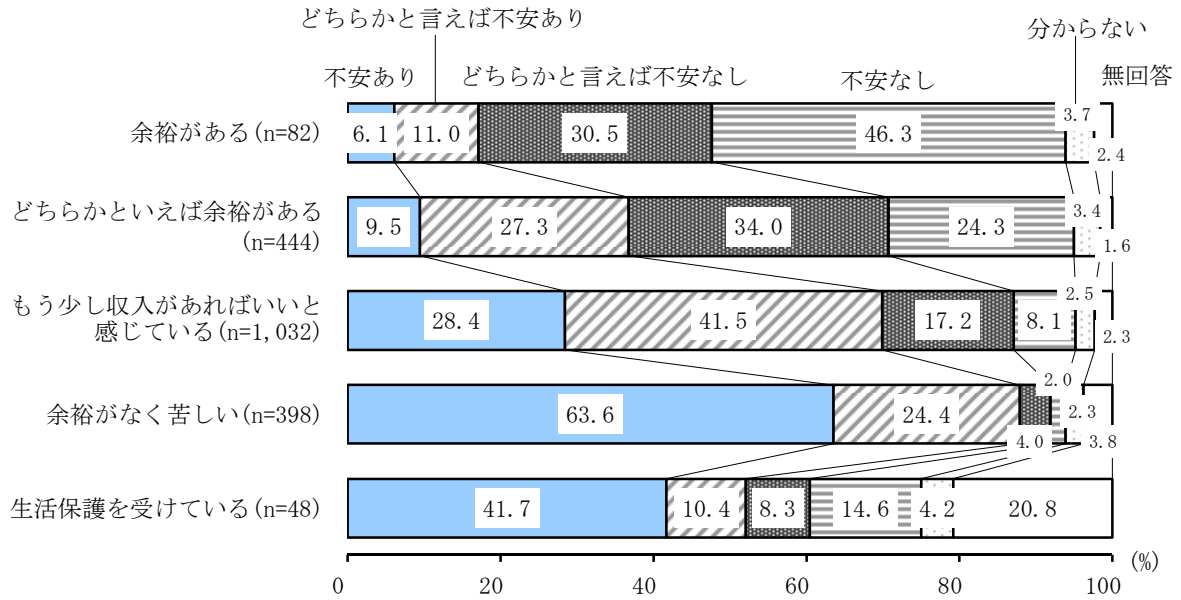


<ケ. 住まいのこと>

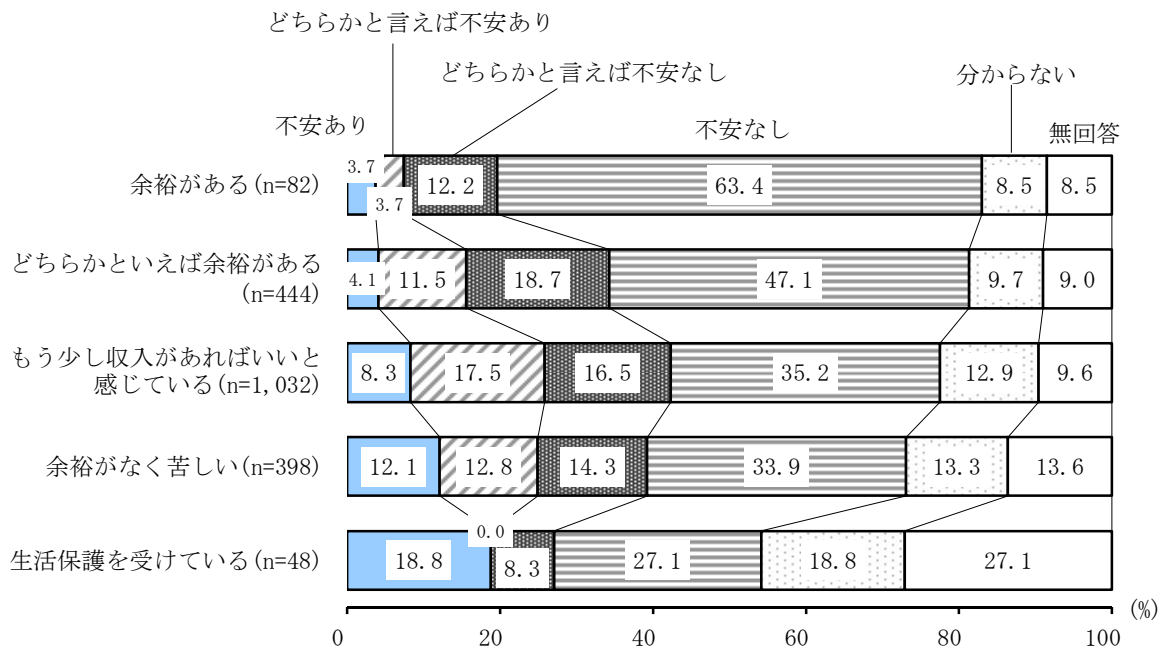


【図表2-1-3 経済状況別 日常生活上の不安⑥】

<コ. 年金や健康保険のこと>

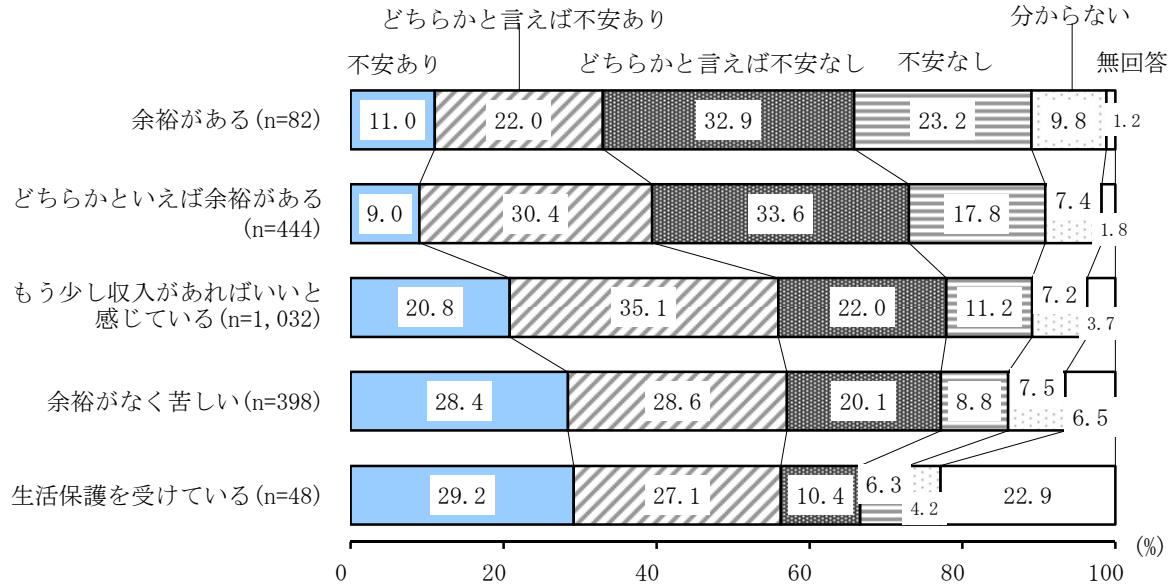


<サ. 子育てや教育のこと>

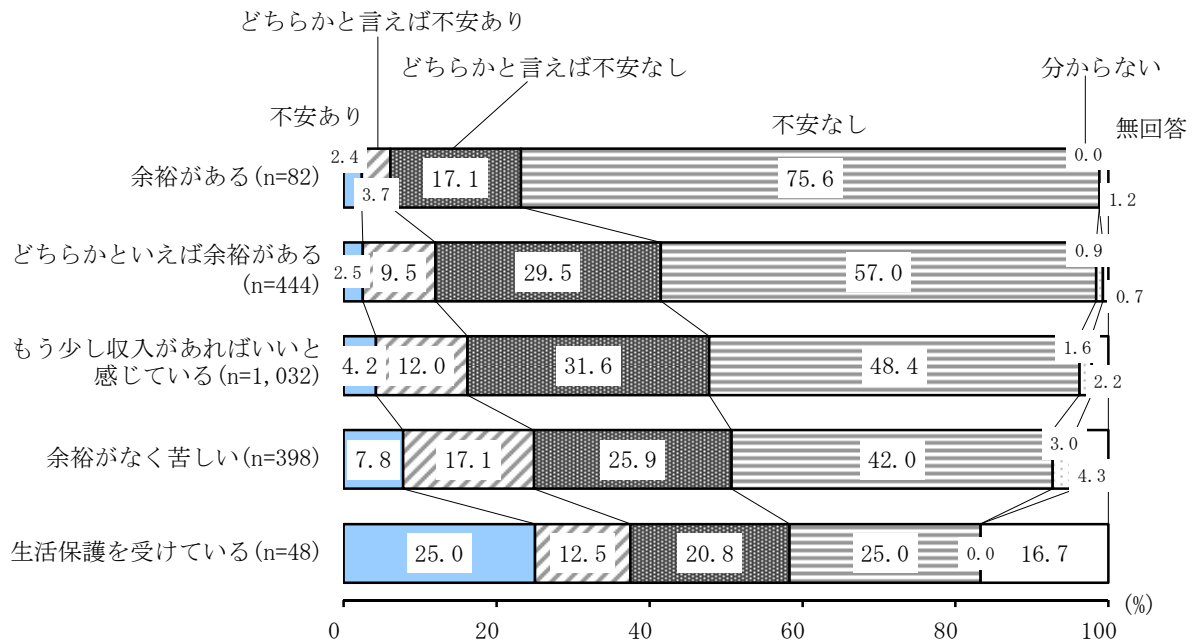


【図表2-1-3 経済状況別 日常生活上の不安⑦】

<シ. 事故や災害にあうこと>



<ス. 買い物やゴミ出し、電球の交換など、普段の生活におけるちょっとした用事や困り事>

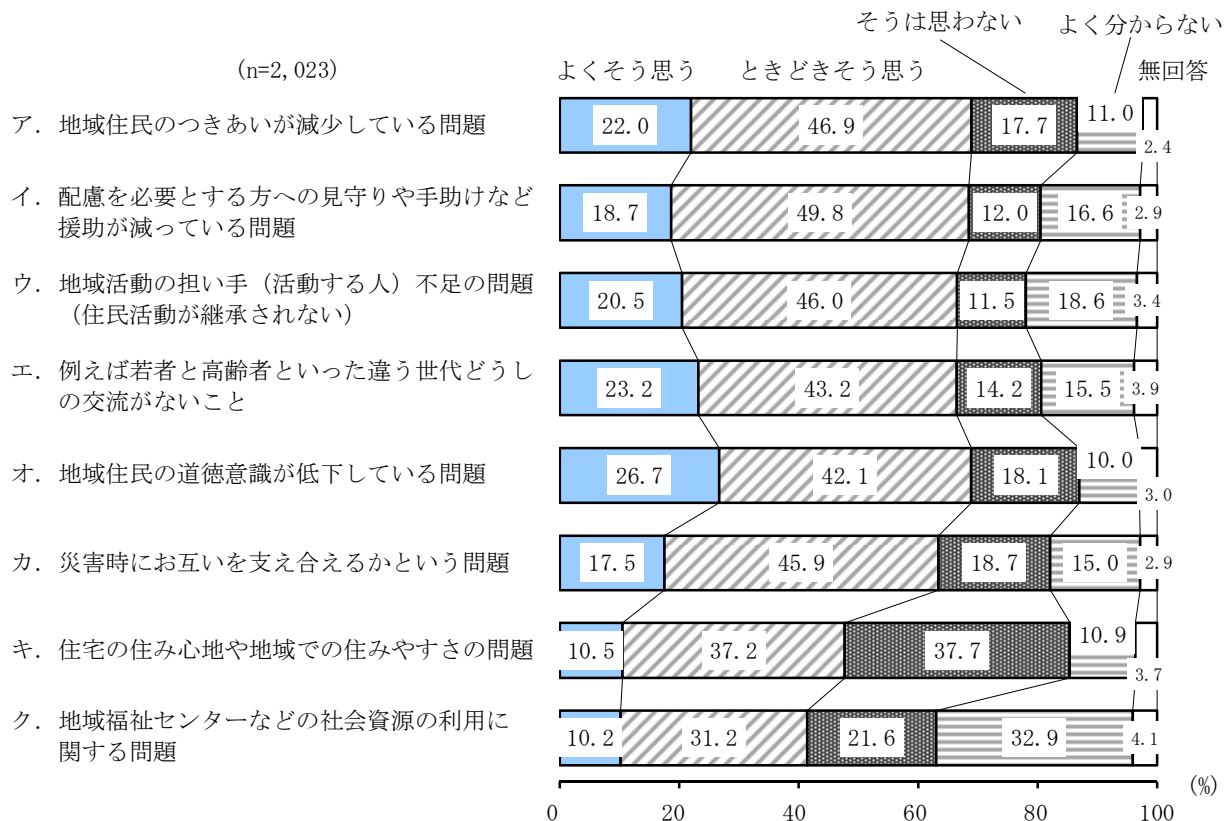


3. 地域とのかかわりや地域での活動について

(1) 地域における福祉の問題

問9 あなたは、地域における福祉の問題は何だと思えますか。ア～クのそれぞれの項目について、あてはまるもの1つずつ選んで番号に○をつけてください。

【図表3-1 地域における福祉の問題】

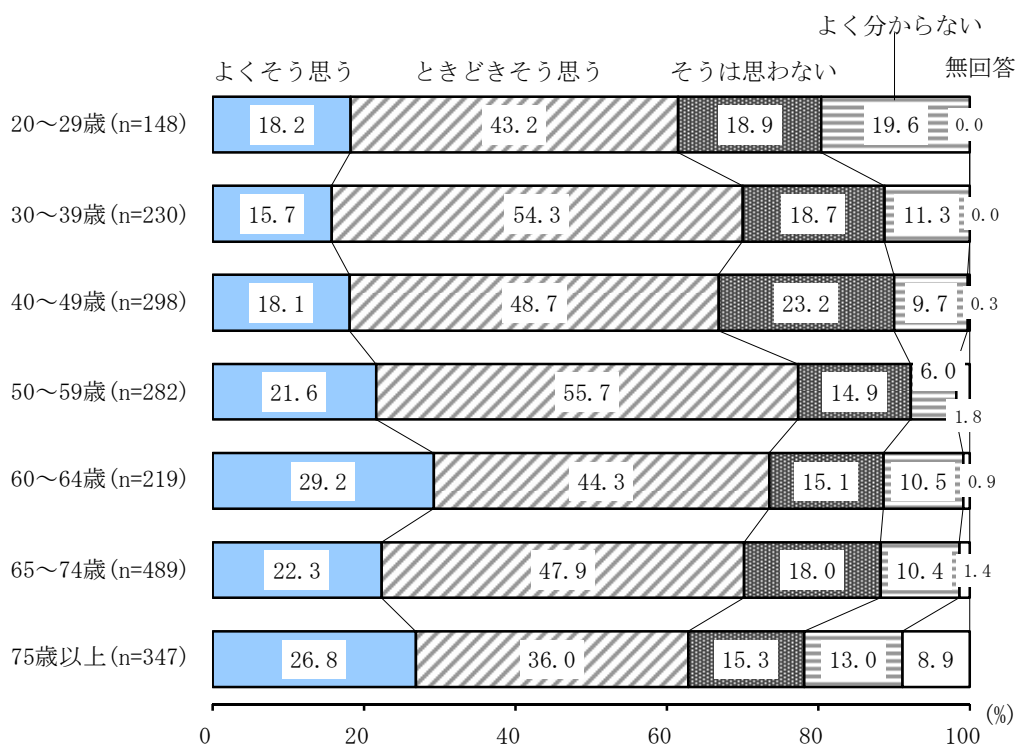


地域における福祉の問題について、「よくそう思う」と「ときどきそう思う」を合わせた『そう思う』割合では、“ア. 地域住民のつきあいが減少している問題”や“イ. 配慮を必要とする方への見守りや手助けなど援助が減っている問題”、“オ. 地域住民の道徳意識が低下している問題”がそれぞれ68%台、“ウ. 地域活動の担い手（活動する人）不足の問題（住民活動が継承されない）”と“エ. 例えば若者と高齢者といった違う世代どうしの交流がないこと”が66%台、“カ. 災害時にお互いを支え合えるかという問題”は63.4%となっており、それぞれ6割台を占めて高くなっている。また、「よくそう思う」では“オ. 地域住民の道徳意識が低下している問題”が26.7%で最も高くなっている。(図表3-1)

年齢別でみると、『そう思う』は、“ア. 地域住民のつきあいが減少している問題”や“イ. 配慮を必要とする方への見守りや手助けなど援助が減っている問題”、“ウ. 地域活動の担い手（活動する人）不足問題（住民活動が継承されない）”、“エ. 例えば若者と高齢者といった違う世代どうしの交流がないこと”、“ク. 地域福祉センターなどの社会資源の利用に関する問題”について、20歳代～50歳代の間で上昇傾向がみられるが、60歳以上になると低下傾向にある。“オ. 地域住民の道德意識が低下している問題”では、20歳代・30歳代が6割台に対し、40歳代～64歳の年代は7割台と高く、なかでも40歳代が75.9%で最も高くなっている。（図表3-1-1）

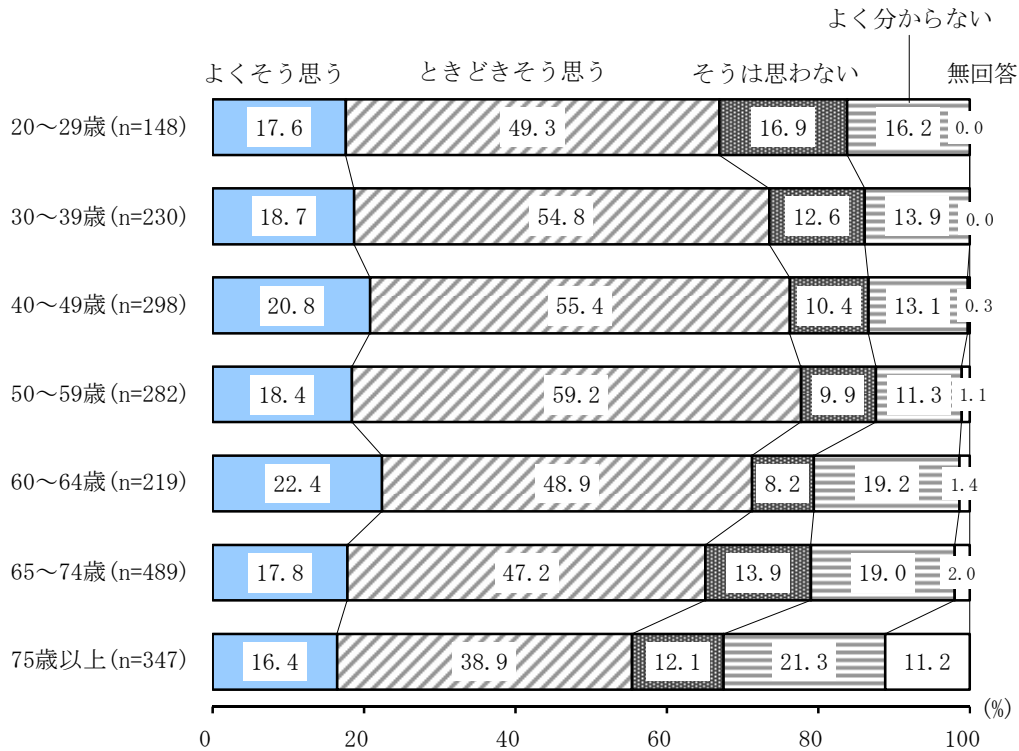
【図表3-1-1 年齢別 地域における福祉の問題①】

<ア. 地域住民のつきあいが減少している問題>

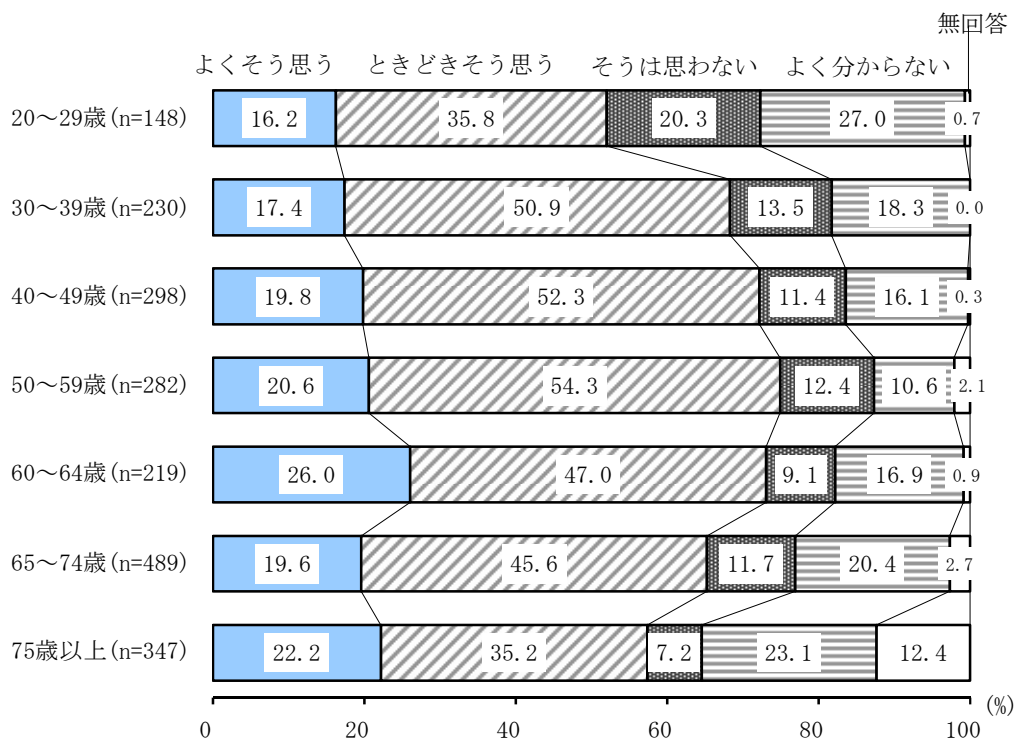


【図表3-1-1 年齢別 地域における福祉の問題②】

<イ. 配慮を必要とする方への見守りや手助けなど援助が減っている問題>

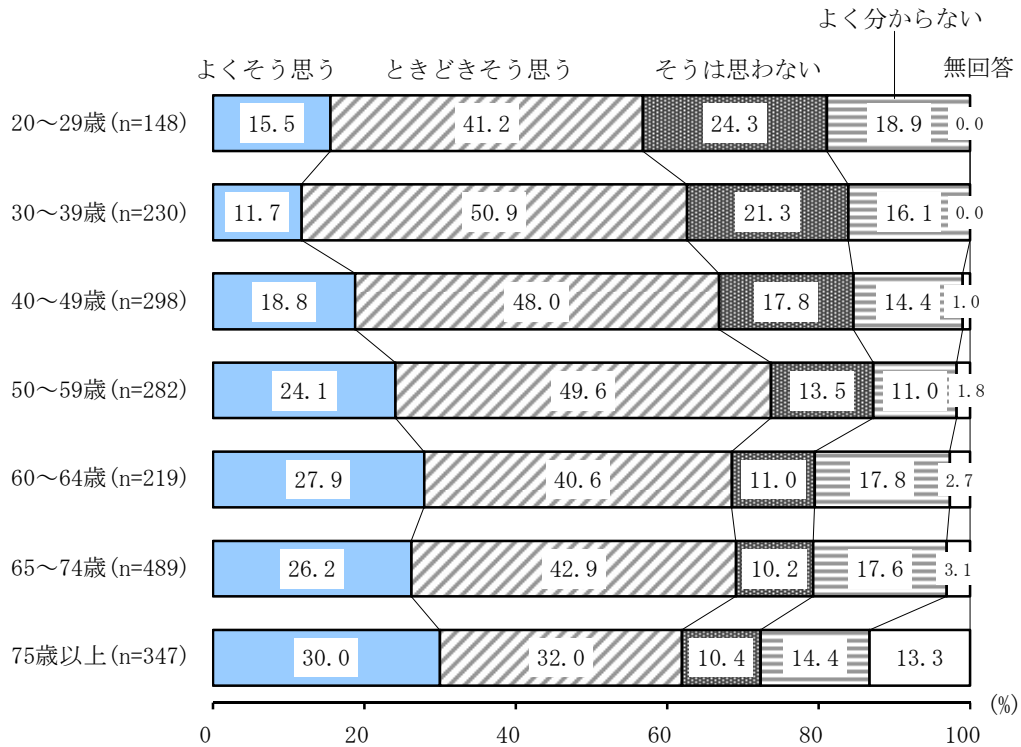


<ウ. 地域活動の担い手（活動する人）不足問題（住民活動が継承されない）>

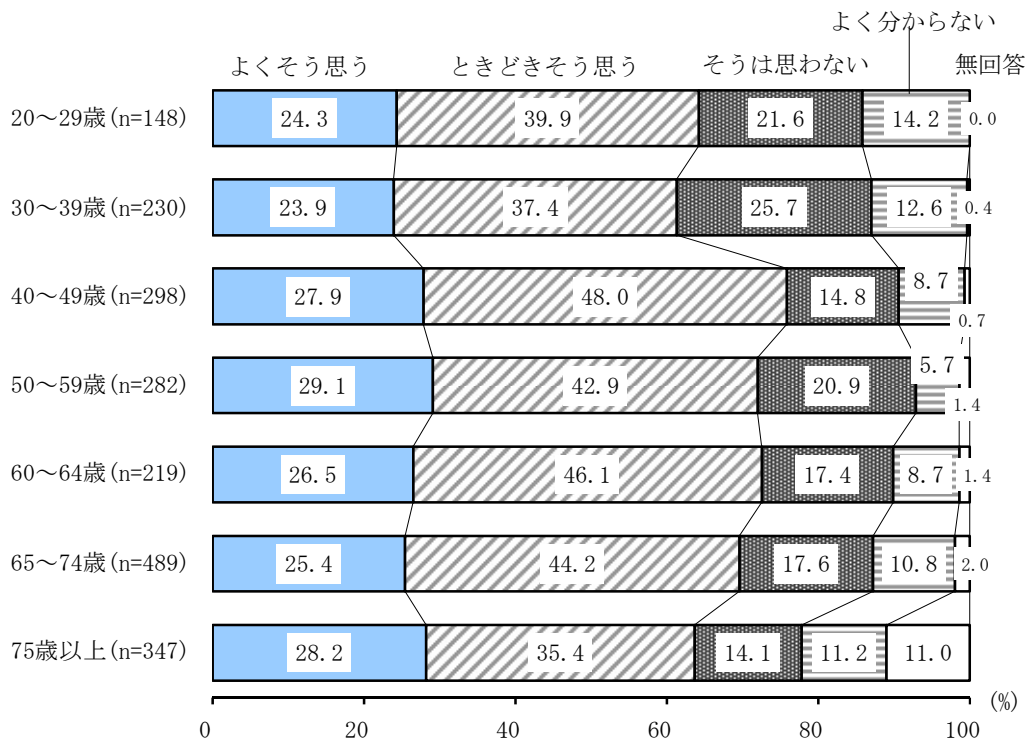


【図表3-1-1 年齢別 地域における福祉の問題③】

<エ. 例えば若者と高齢者といった違う世代どうしの交流がないこと>

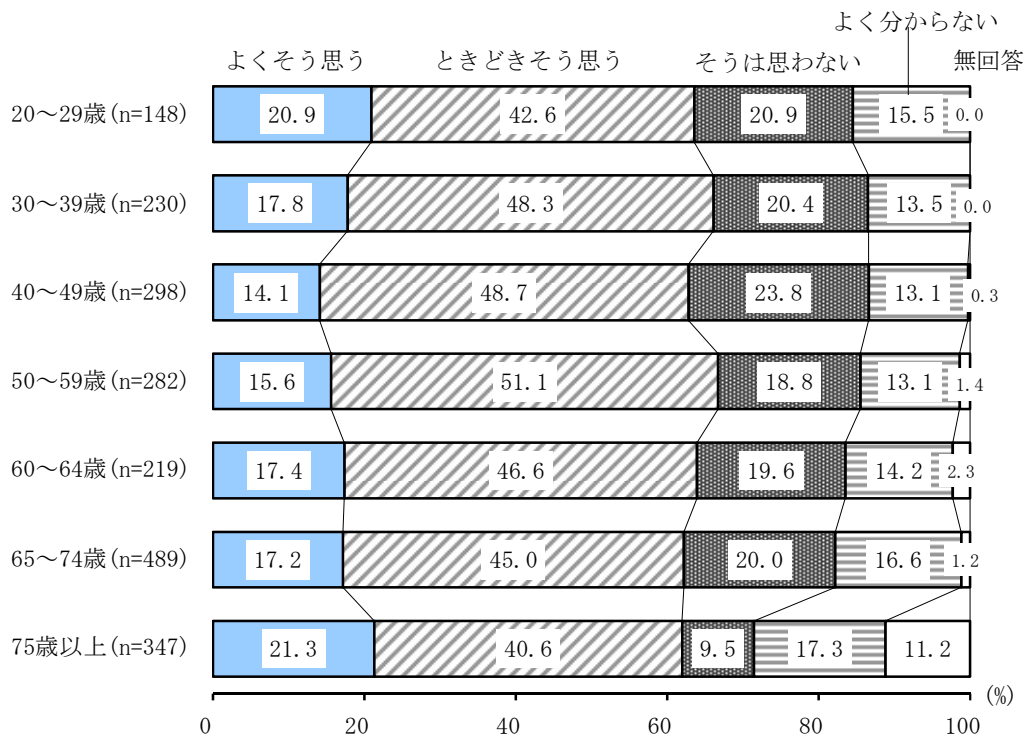


<オ. 地域住民の道徳意識が低下している問題>

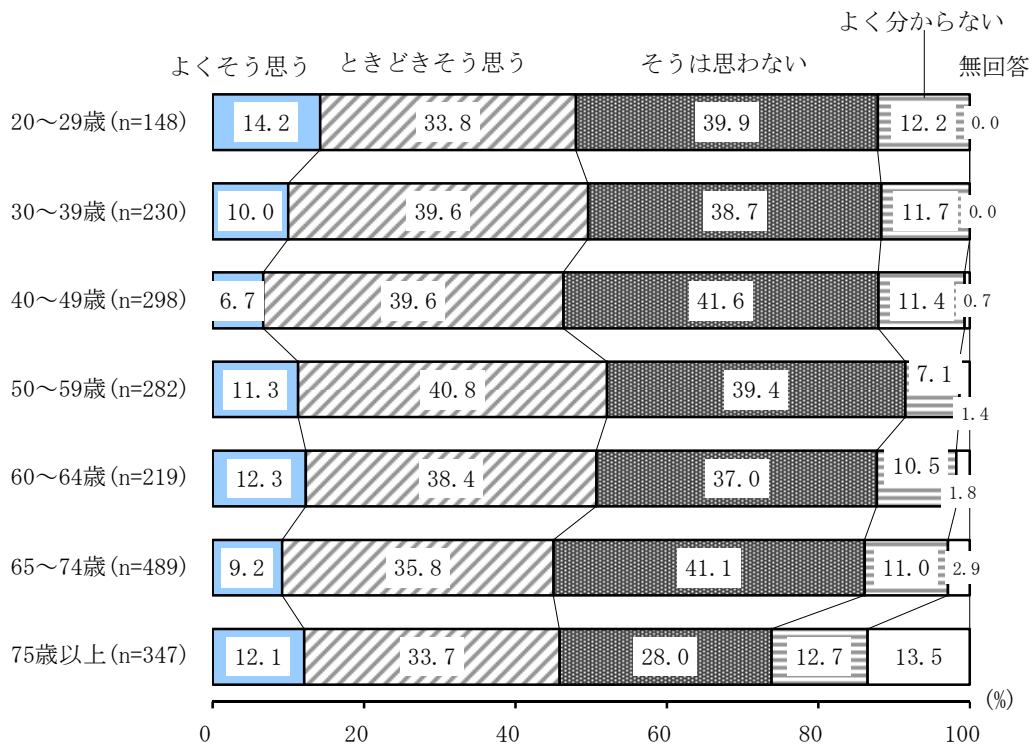


【図表3-1-1 年齢別 地域における福祉の問題④】

<カ. 災害時にお互いを支え合えるかという問題>

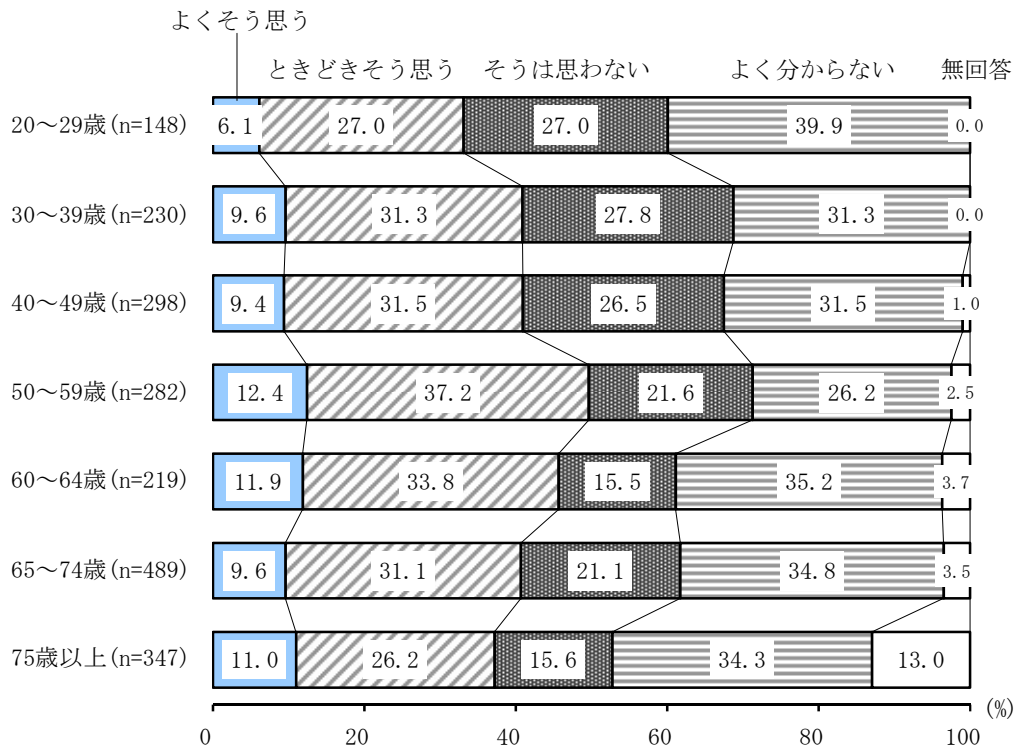


<キ. 住宅の住み心地や地域での住みやすさの問題>



【図表3-1-1 年齢別 地域における福祉の問題⑤】

<ク. 地域福祉センターなどの社会資源の利用に関する問題>

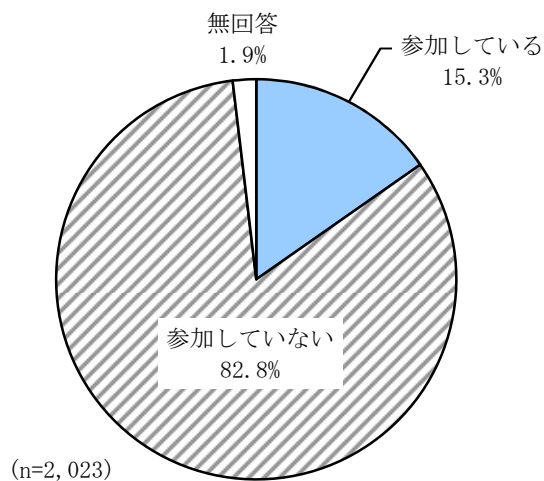


(2) 地域活動への参加状況

問10 あなたは、定期的に地域活動（ボランティア活動）に参加していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

※ 水害などの災害が起こった現場での復旧作業などのボランティアは除きます。

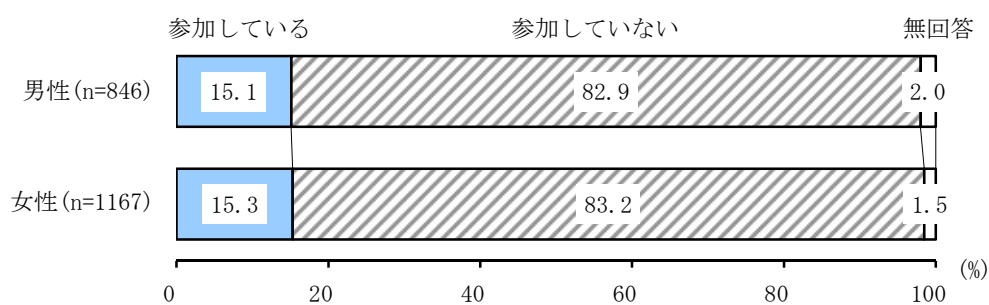
【図表3-2 地域活動への参加状況】



地域活動への参加状況では、「参加している」が15.3%となっており、「参加していない」は82.8%となっている。(図表3-2)

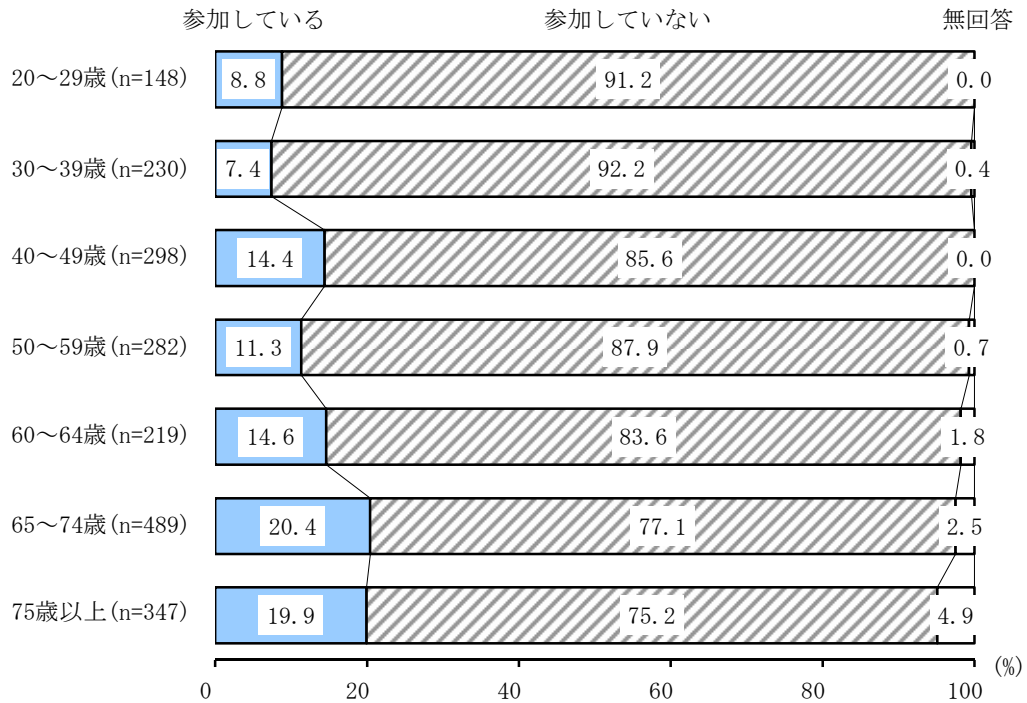
性別で見ると、男女とも「参加している」が15%台を占めている。(図表3-2-1)

【図表3-2-1 性別 地域活動への参加状況】



年齢別で見ると、「参加している」が、20歳代・30歳代で1割未満と低くなっているが、65～74歳は20.4%、75歳以上は19.9%と高くなっている。(図表3-2-2)

【図表3-2-2 年齢別 地域活動への参加状況】



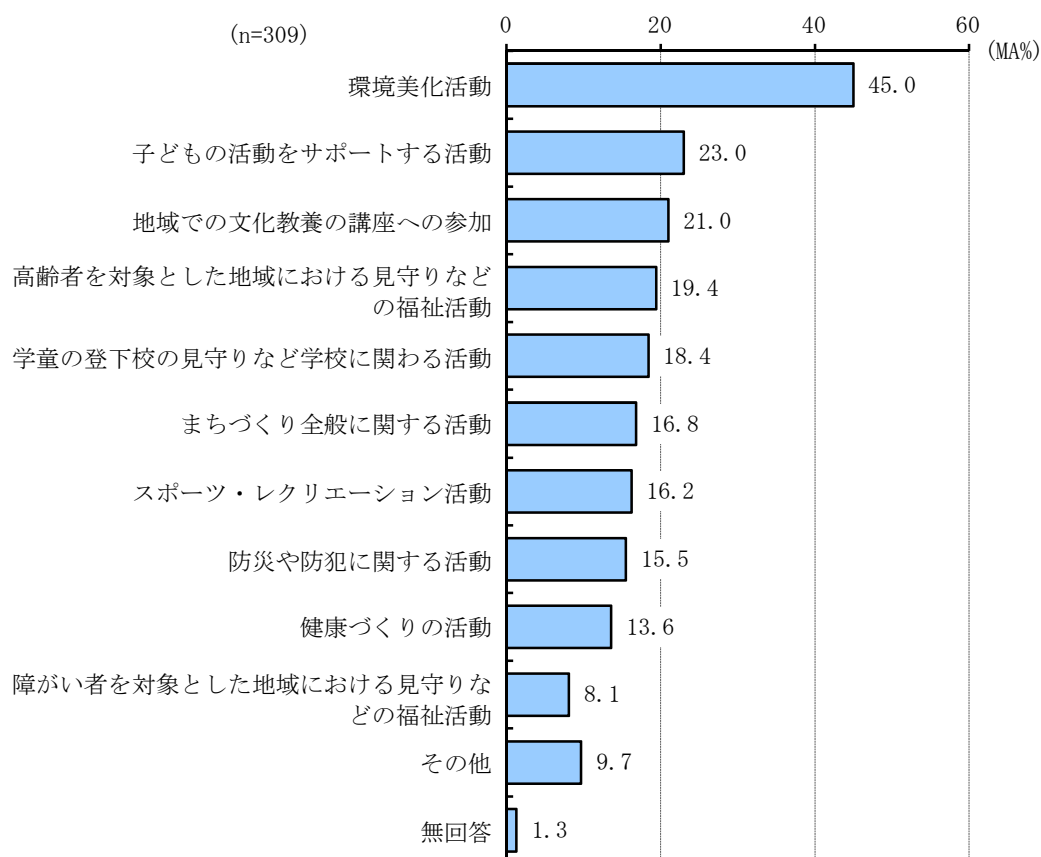
(3) 地域活動の参加状況

①地域活動の種類

問10-1① 【問10で「1. 参加している」とお答えした方におたずねします。】

神戸市の各地域では、さまざまな地域活動が行われています。あなたが参加しているものすべてに○をつけてください。

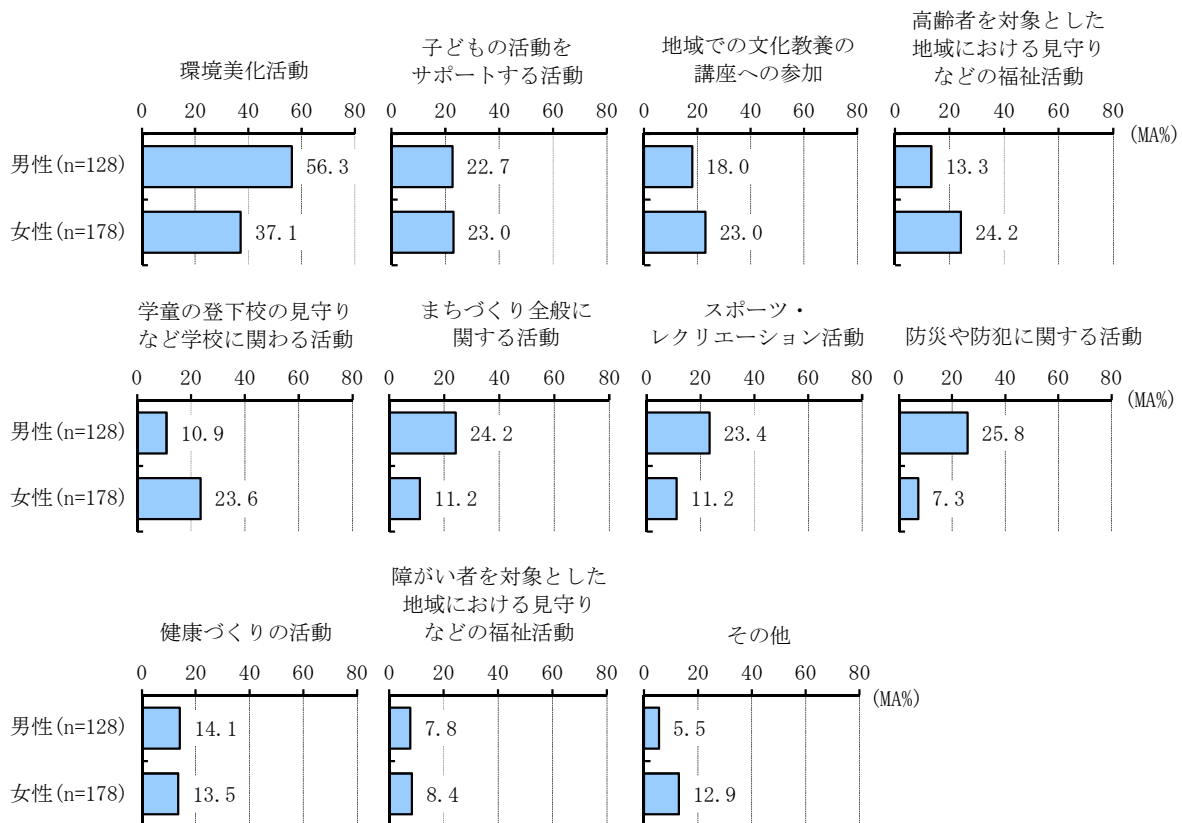
【図表3-3 地域活動の種類】



地域活動に参加していると回答した人に、その活動の種類をたずねると、「環境美化活動」が45.0%で最も多く、次いで「子どもの活動をサポートする活動」が23.0%、「地域での文化教養の講座への参加」が21.0%、「高齢者を対象とした地域における見守りなどの福祉活動」が19.4%、「学校の登下校の見守りなど学校に関わる活動」が18.4%と続いている。(図表3-3)

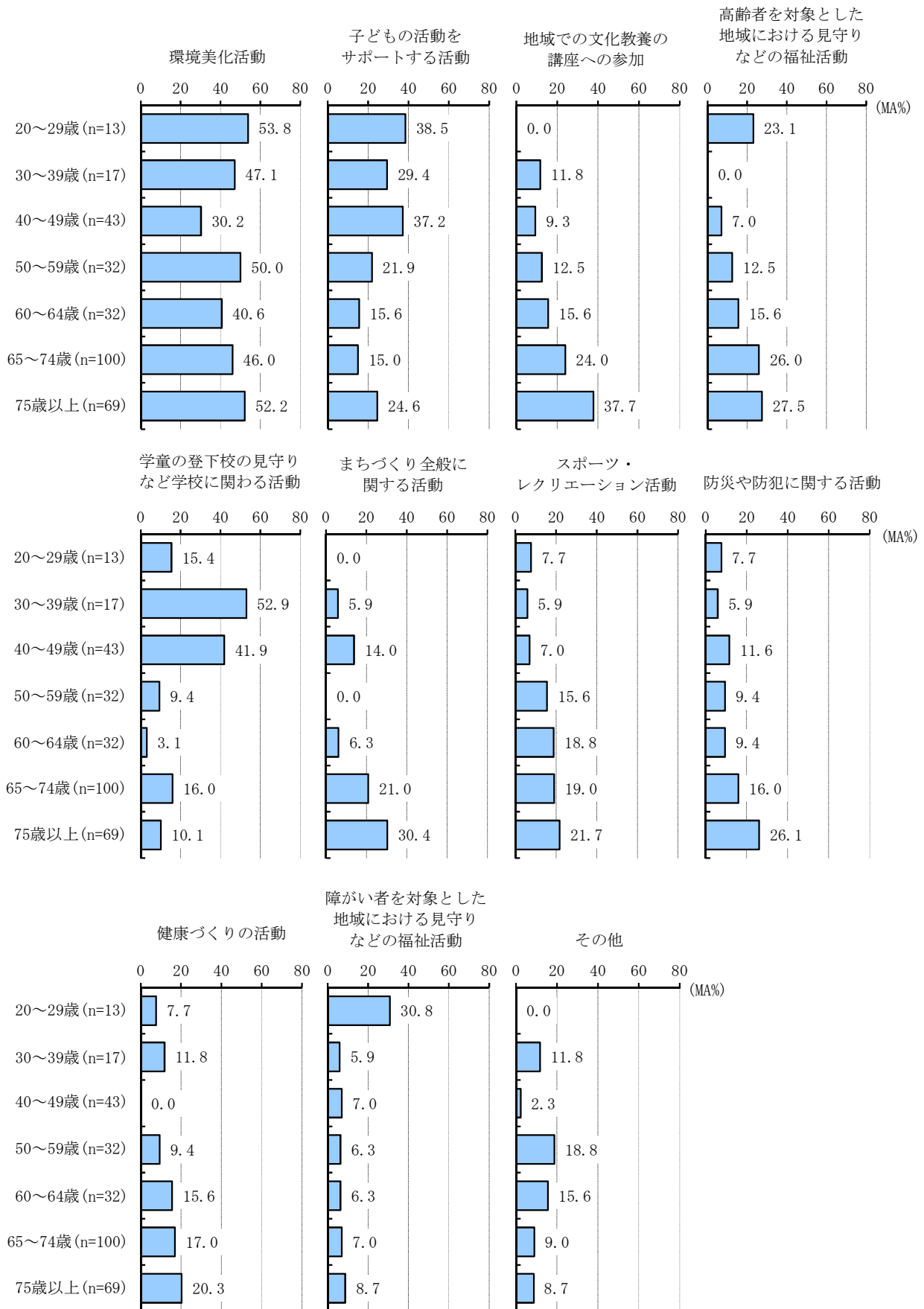
性別で見ると、「環境美化活動」が男性56.3%、女性37.1%で、男女とも最も多くなっているが、男性のほうが19.2ポイント高くなっている。これに次いで男性は「防災や防犯に関する活動」が25.8%、「まちづくり全般に関する活動」が24.2%、「スポーツ・レクリエーション活動」が23.4%となっており、いずれも女性に比べ割合が高くなっている。一方、女性では「高齢者を対象とした地域における見守りなどの福祉活動」が24.2%で続いて多く、「学校の登下校の見守りなど学校に関わる活動」が23.6%、「地域での文化教養の講座への参加」が23.0%となっており、いずれも男性に比べ割合が高くなっている。(図表3-3-1)

【図表3-3-1 性別 地域活動の種類】



年齢別で見ると、20歳代と30歳代は母数が少ないので一概には言えないが、30歳代と40歳代は「学童の登下校の見守りなど学校に関わる活動」が4～5割台で最も多く、20歳代と50歳以上の年代では「環境美化活動」が4～5割台で最も多くなっている。また、20歳代は「障がい者を対象とした地域における見守りなどの福祉活動」が30.8%（4人）で他の年代に比べ高く、20歳代～40歳代では「子どもの活動をサポートする活動」が高くなっており、50歳以上になると「地域での文化教養の講座への参加」や「高齢者を対象とした地域における見守りなどの福祉活動」、「スポーツ・レクリエーション活動」、「防災や防犯に関する活動」、「健康づくりの活動」が上昇傾向にある。(図表3-3-2)

【図表3-3-2 年齢別 地域活動の種類】

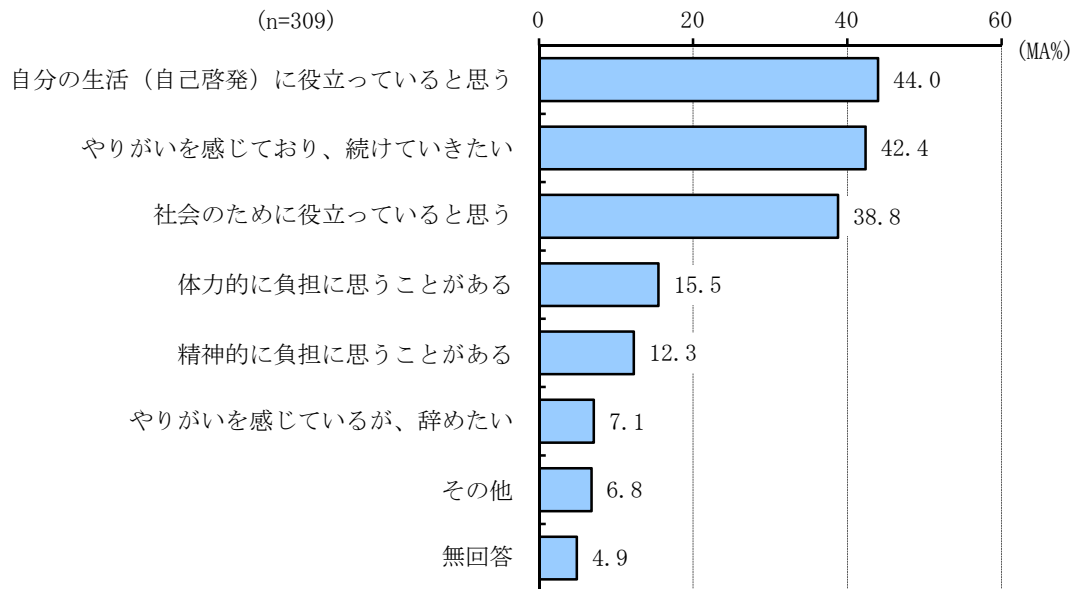


②地域活動の参加の感想

問10-1② 【問10で「1. 参加している」とお答えした方におたずねします。】

地域活動（ボランティア活動）の参加にあたり、お感じになっていることは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

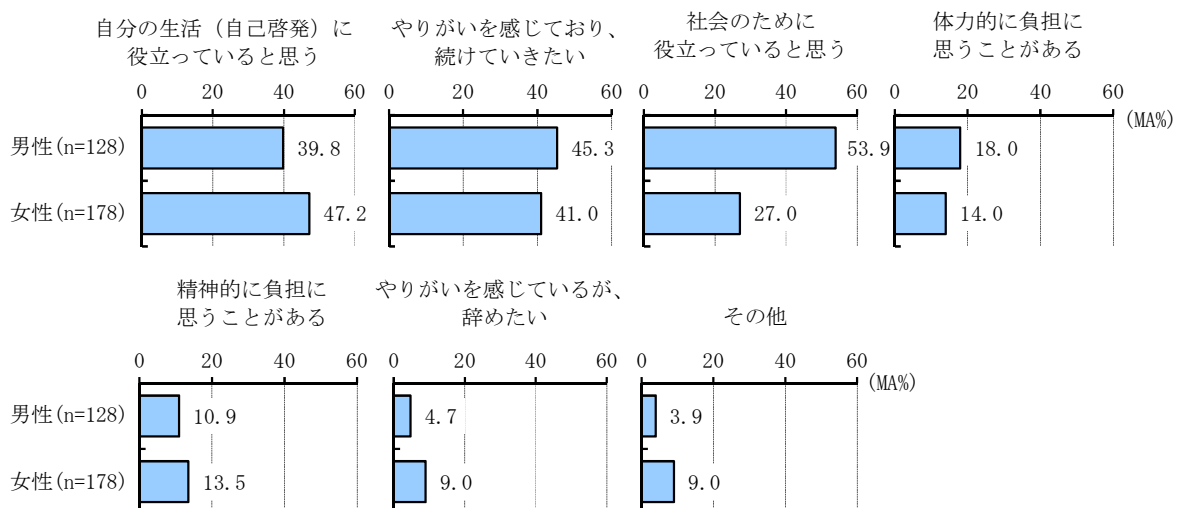
【図表3-4 地域活動の参加の感想】



地域活動に参加していると回答した人に、感想をたずねると、「自分の生活（自己啓発）に役立っていると思う」が44.0%で最も多く、次いで「やりがいを感じており、続けていきたい」が42.4%、「社会のために役立っていると思う」が38.8%と続いている。（図表3-4）

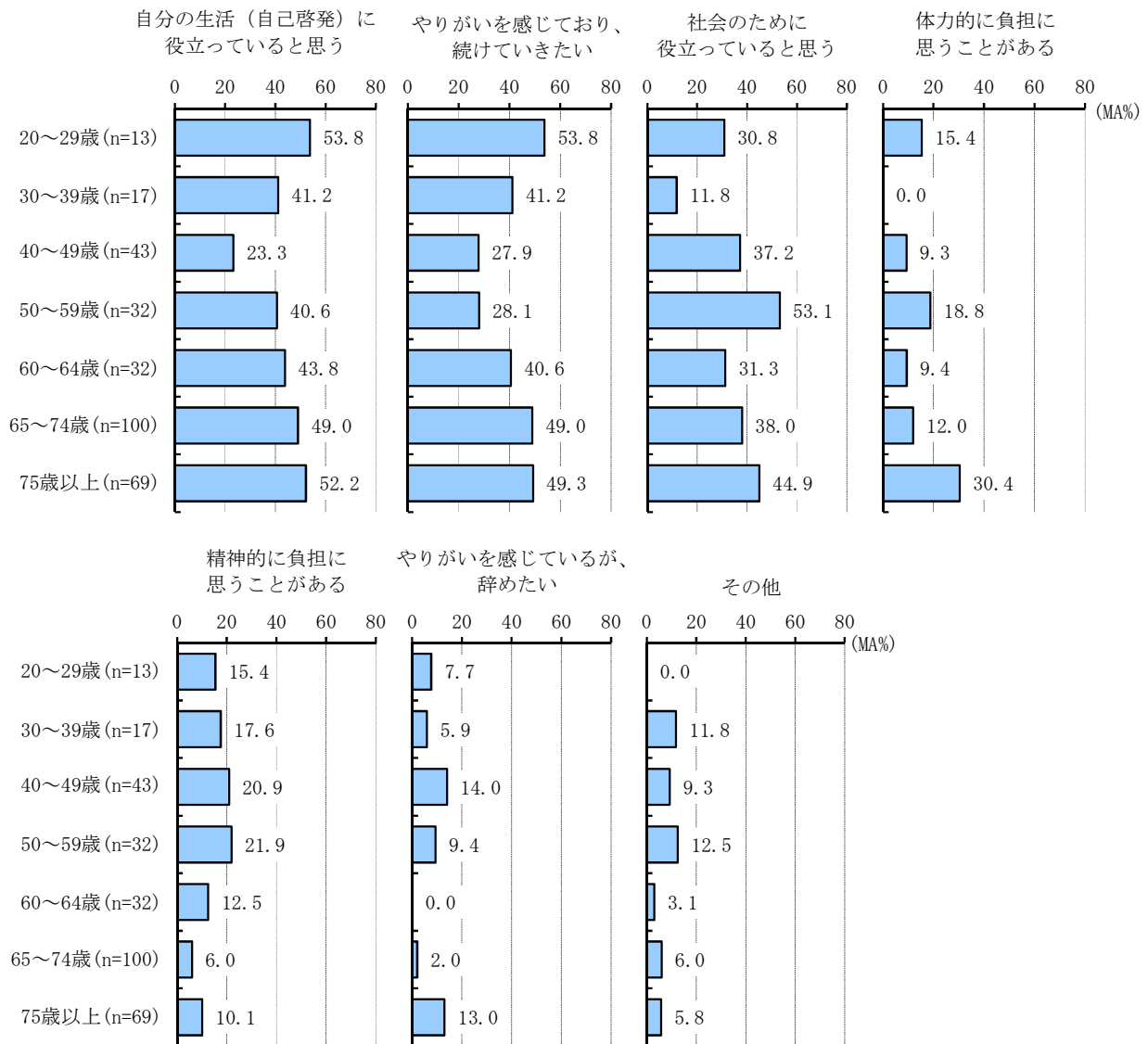
性別でみると、男性は「社会のために役立っていると思う」が53.9%で最も多く、女性（27.0%）に比べ26.9ポイント高くなっている。一方、女性は「自分の生活（自己啓発）に役立っている」が47.2%で最も多く、男性（39.8%）に比べ7.4ポイント高くなっている。（図表3-4-1）

【図表3-4-1 性別 地域活動の参加の感想】



年齢別でみると、20歳代と30歳代は母数が少ないので一概には言えないが、40歳代・50歳代は「社会のために役立っていると思う」が最も多く、特に50歳代は53.1%と高くなっている。20歳代や30歳代、60歳以上の年代では「自分の生活（自己啓発）に役立っていると思う」と「やりがいを感じており、続けていきたい」が高くなっている。一方、「体力的に負担に思うことがある」は75歳以上で30.4%、「精神的に負担に思うことがある」は40歳代・50歳代で2割台となっている。（図表3-4-2）

【図表3-4-2 年齢別 地域活動の参加の感想】

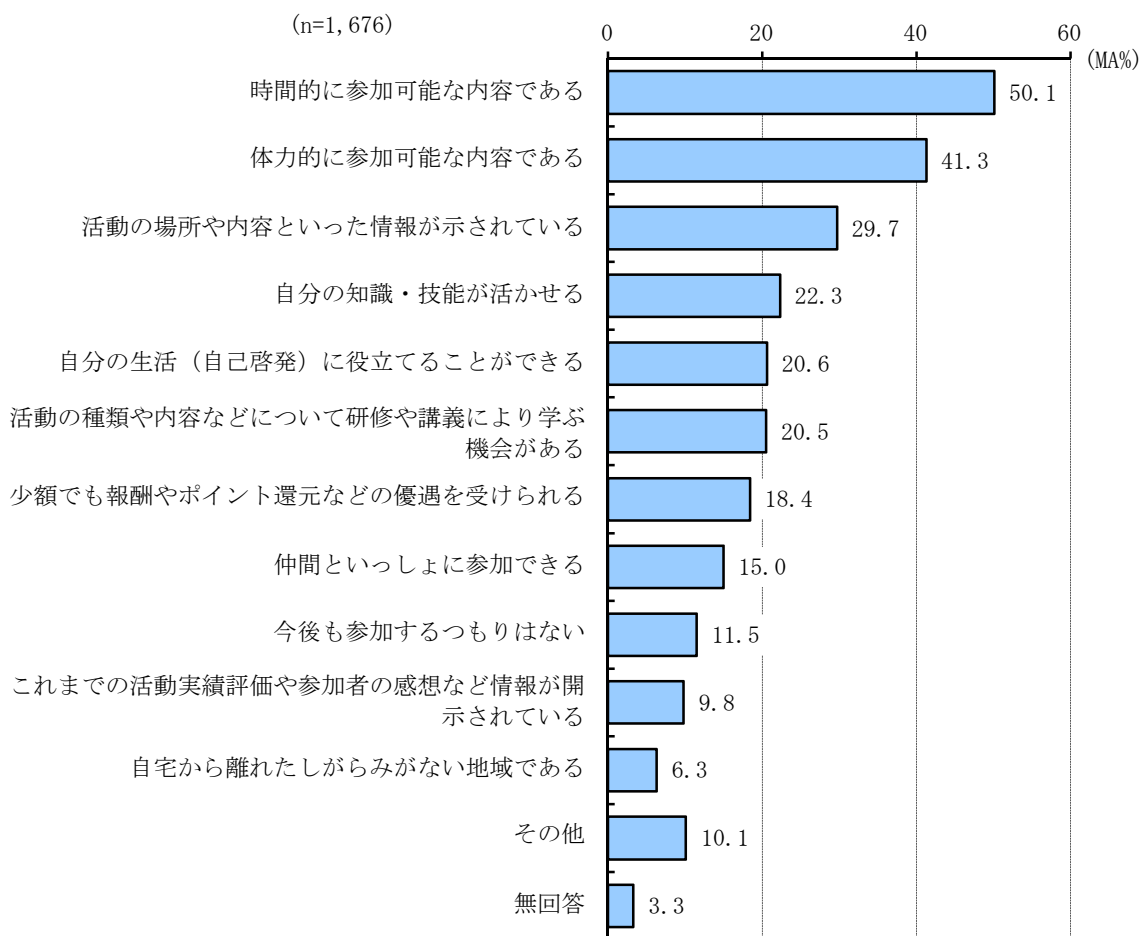


(4) 地域活動への参加条件

問10-2 【問10で「2. 参加していない」とお答えした方におたずねします。】

どういう条件が整えば地域活動（ボランティア活動）に参加されますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

【図表3-5 地域活動への参加条件】

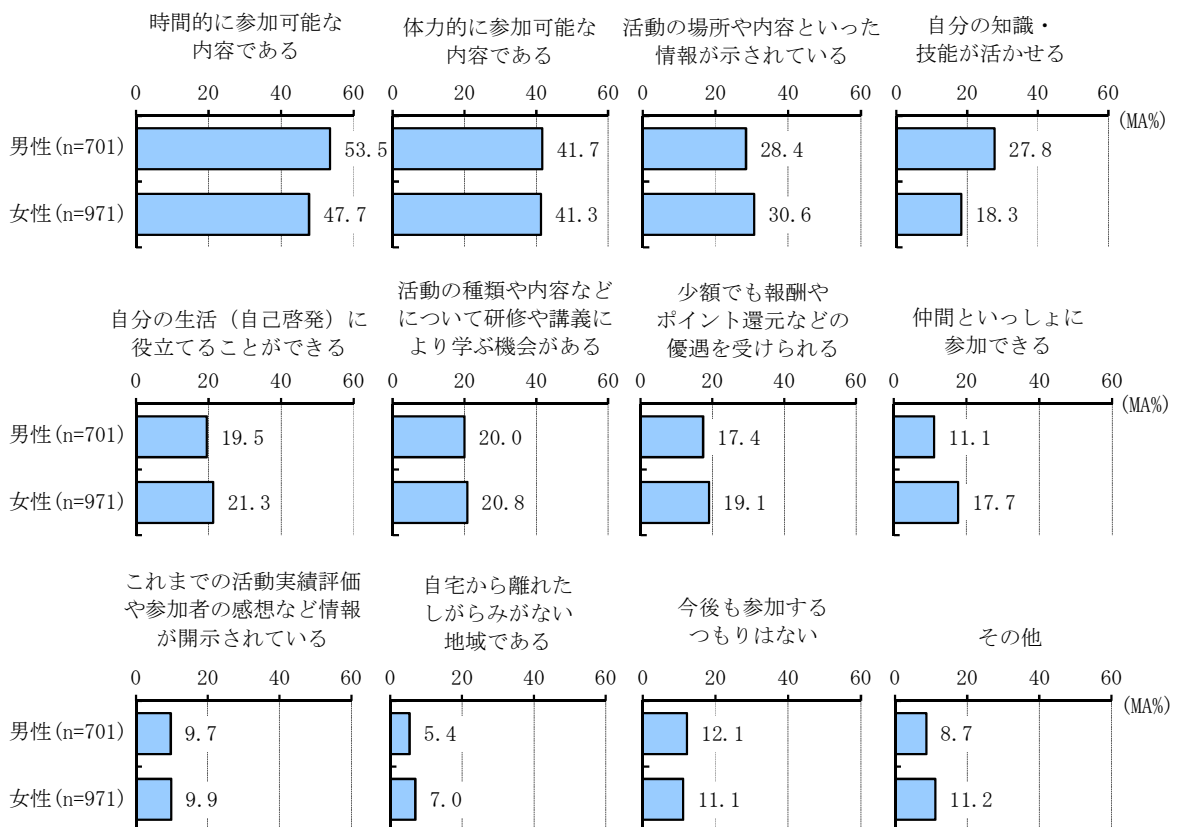


地域活動に参加していないと回答した人に、参加条件をたずねると、「時間的に参加可能な内容である」が50.1%で最も多く、次いで「体力的に参加可能な内容である」が41.3%、「活動の場所や内容といった情報が示されている」が29.7%と続いている。

(図表3-5)

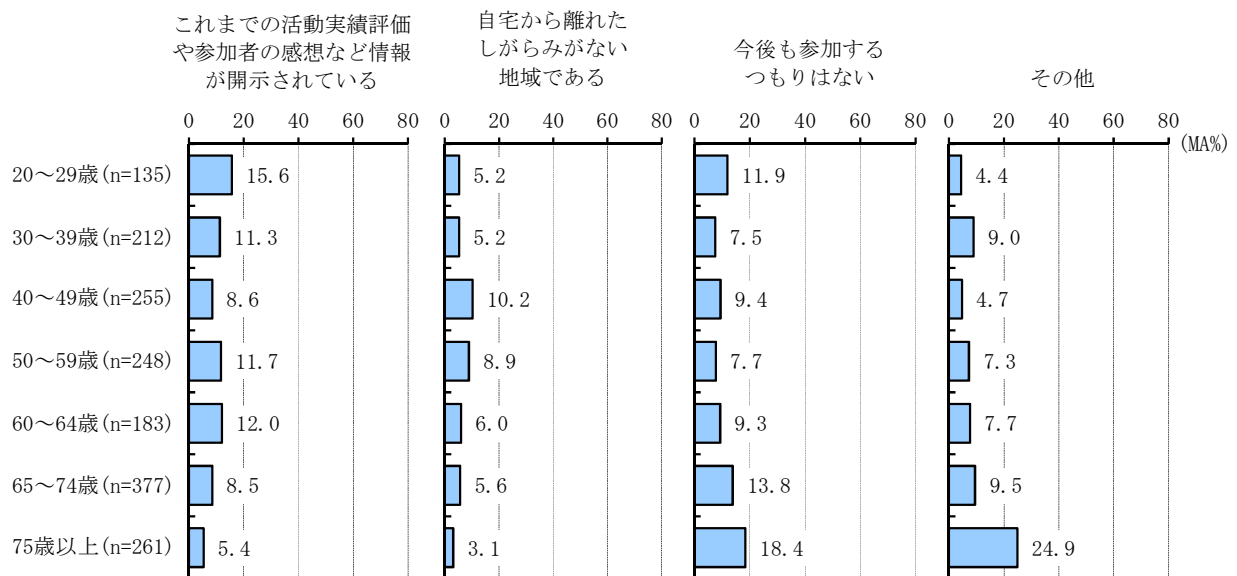
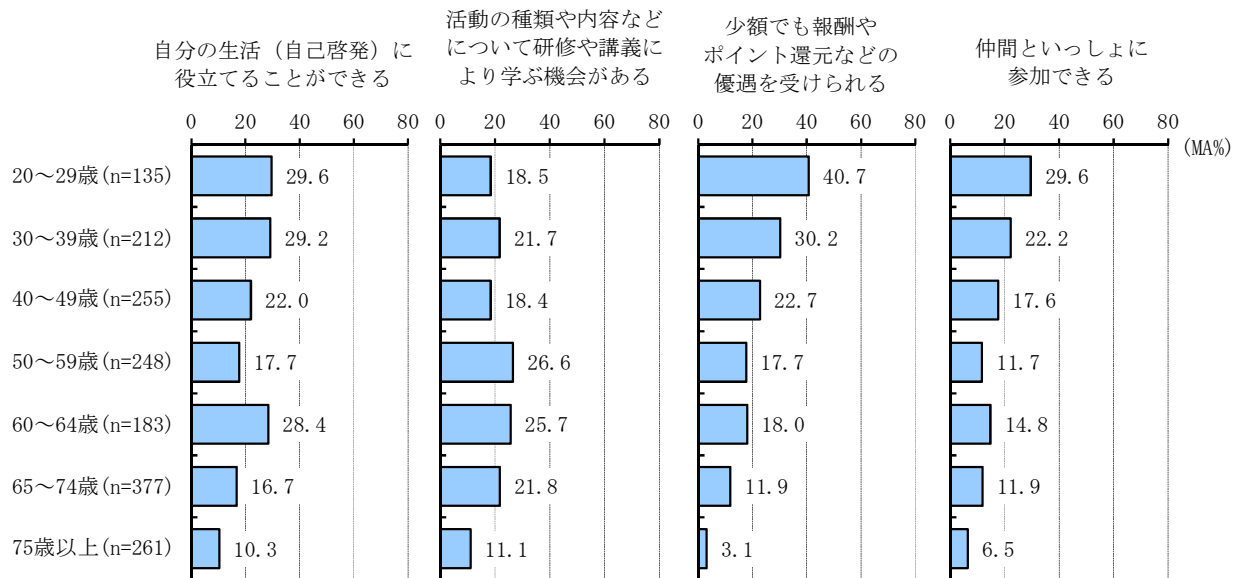
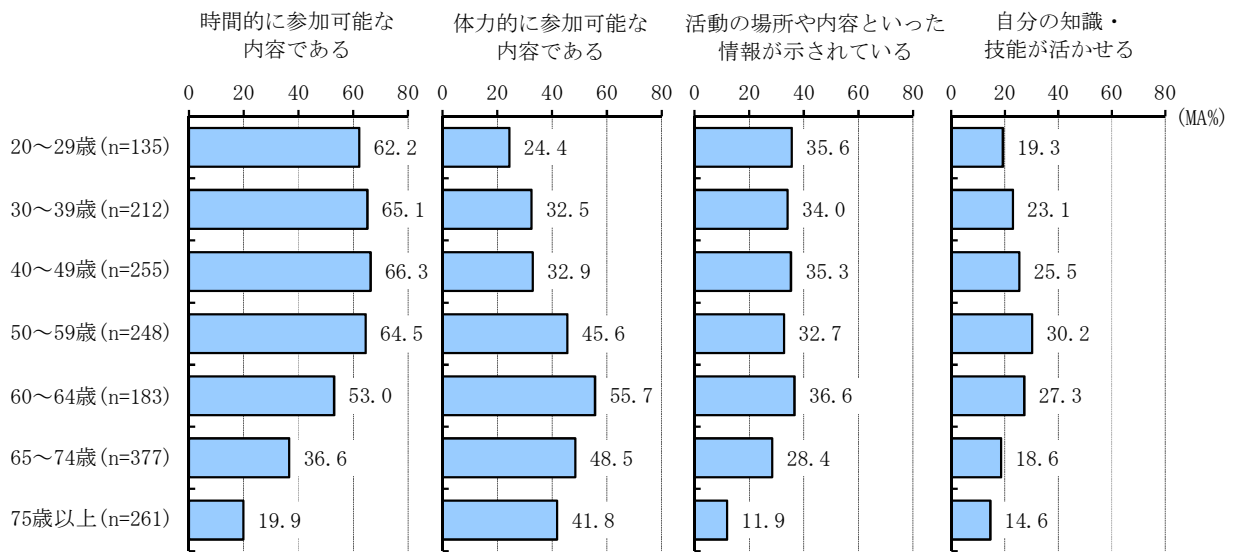
性別でみると、「時間的に参加可能な内容である」が男性53.5%、女性47.7%で、男女とも最も多く、男性のほうが5.8ポイント高くなっている。また、男性は「自分の知識・技能が活かせる」が27.8%で女性（18.3%）より9.5ポイント高く、一方、女性は「仲間といっしょに参加できる」が17.7%で男性（11.1%）より6.6ポイント高くなっている。（図表3-5-1）

【図表3-5-1 性別 地域活動への参加条件】



年齢別でみると、「時間的に参加可能な内容である」が20歳代～50歳代で6割台と高く、60歳以上になると低下傾向にある。また、若い年代ほど「少額でも報酬やポイント還元などの優遇を受けられる」と「仲間といっしょに参加できる」が高くなっている。一方、50歳以上になると「体力的に参加可能な内容である」が4割以上になっており、なかでも60～64歳は55.7%と最も高くなっている。（図表3-5-2）

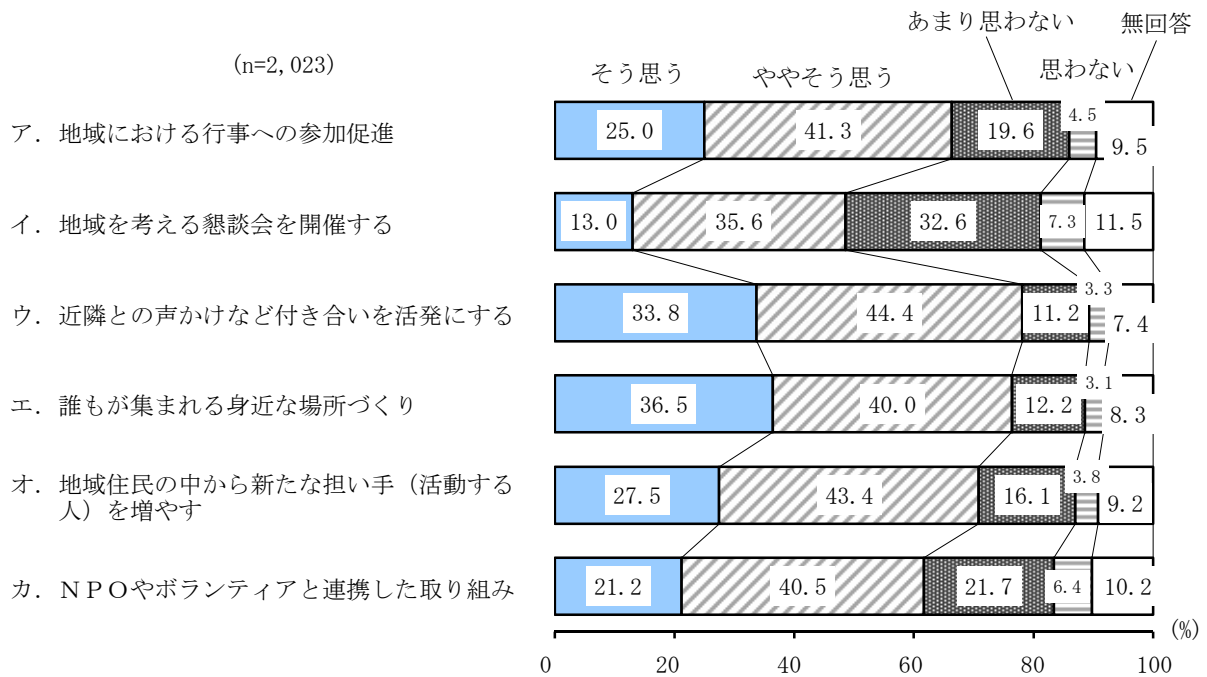
【図表3-5-2 年齢別 地域活動への参加条件】



(5) 地域活動を活発にするために必要なこと

問11 あなたは、今後、高齢化が進むなどの中で、地域の福祉活動を活発にするために、どのようなことが必要だと思われますか。ア～カのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

【図表3-6 地域活動を活発にするために必要なこと】

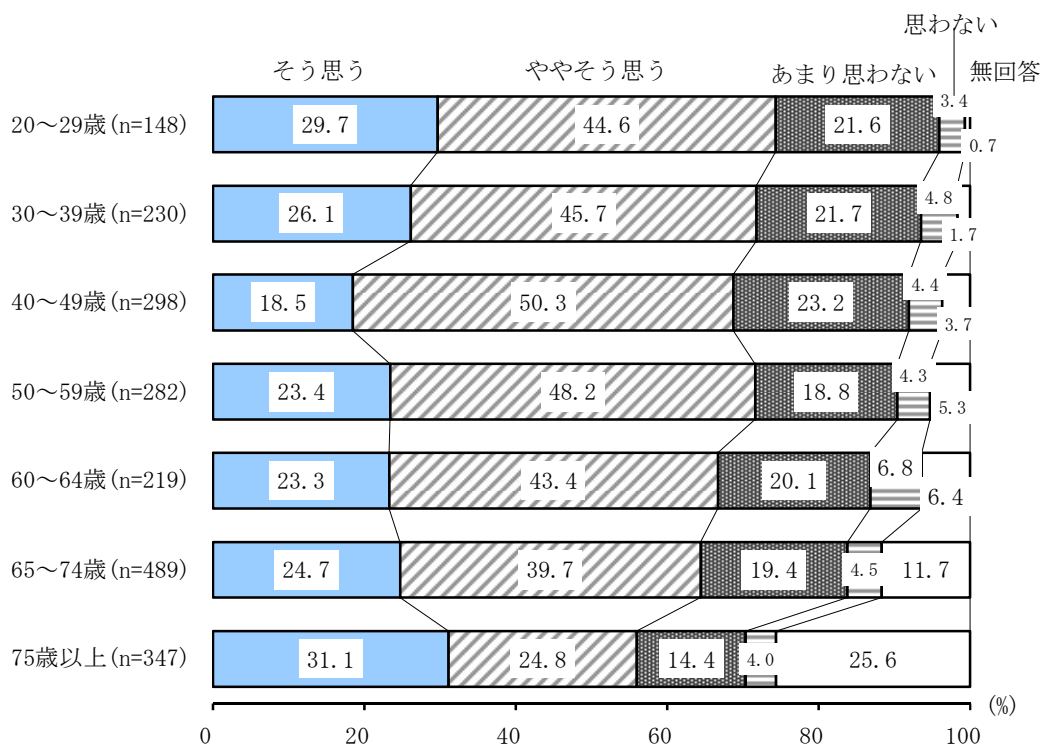


地域活動を活発にするために必要なことについて、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』割合では、“ウ. 近隣との声かけなど付き合いを活発にする”（78.2%）や“エ. 誰もが集まれる身近な場所づくり”（76.5%）、“オ. 地域住民の中から新たな担い手（活動する人）を増やす”（70.9%）が7割台、“ア. 地域における行事への参加促進”（66.3%）と“カ. NPOやボランティアと連携した取り組み”（61.7%）は6割台と、それぞれ過半数を占めているが、“イ. 地域を考える懇談会を開催する”は48.6%で他の項目に比べ低くなっている。（図表3-6）

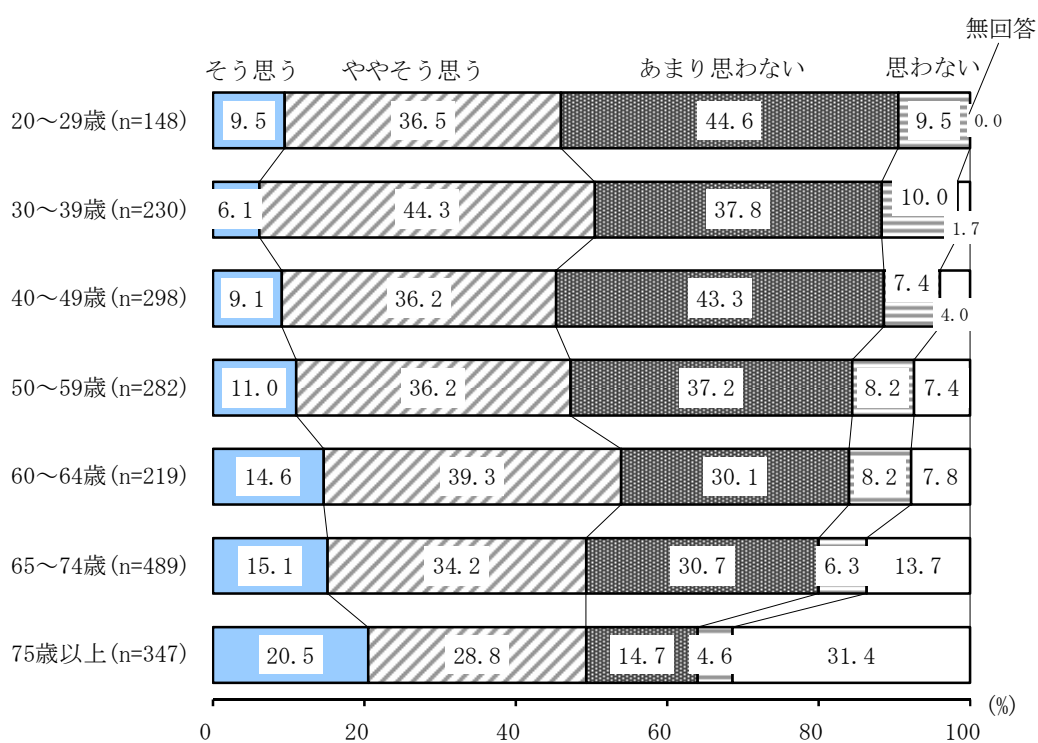
年齢別でみると、『そう思う』は、“ア. 地域における行事への参加促進”や“ウ. 近隣との声かけなど付き合いを活発にする”、“エ. 誰もが集まれる身近な場所づくり”、“カ. NPOやボランティアと連携した取り組み”について、若い年代で高くなっているが、年代が上がるほど低下傾向にある。また、“オ. 地域住民の中から新たな担い手（活動する人）を増やす”では、20歳代～74歳の年代で7割前後を占めているが、75歳以上は62.2%に低下している。（図表3-6-1）

【図表3-6-1 年齢別 地域活動を活発にするために必要なこと①】

<ア. 地域における行事への参加促進>

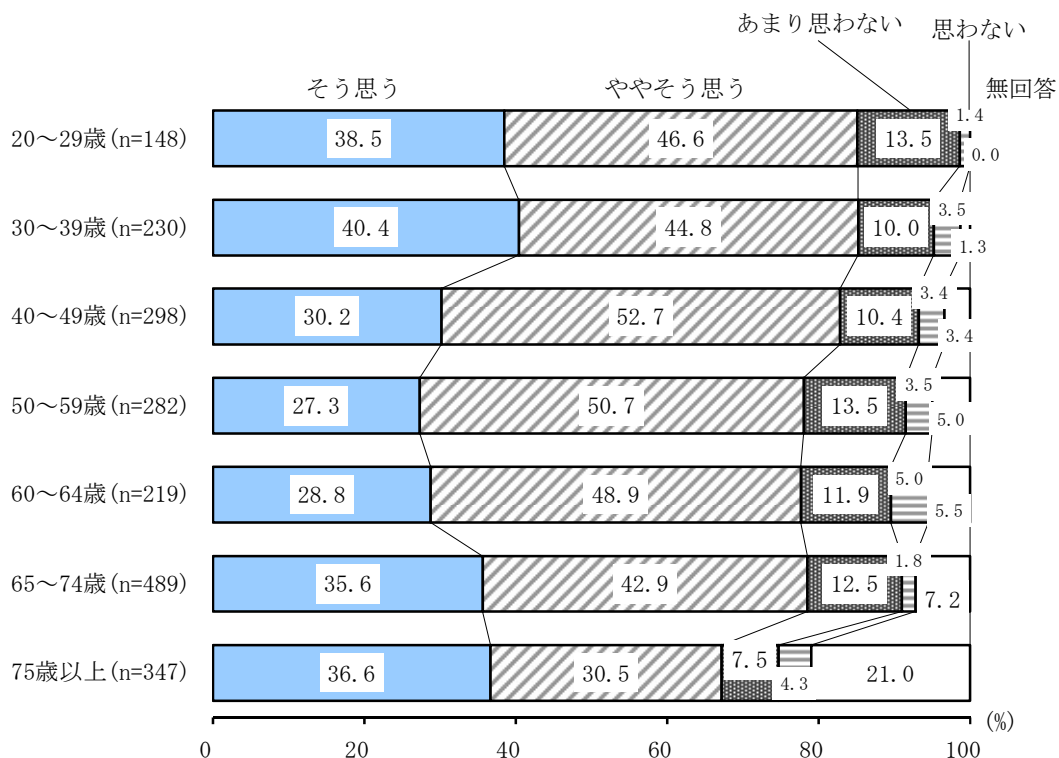


<イ. 地域を考える懇談会を開催する>

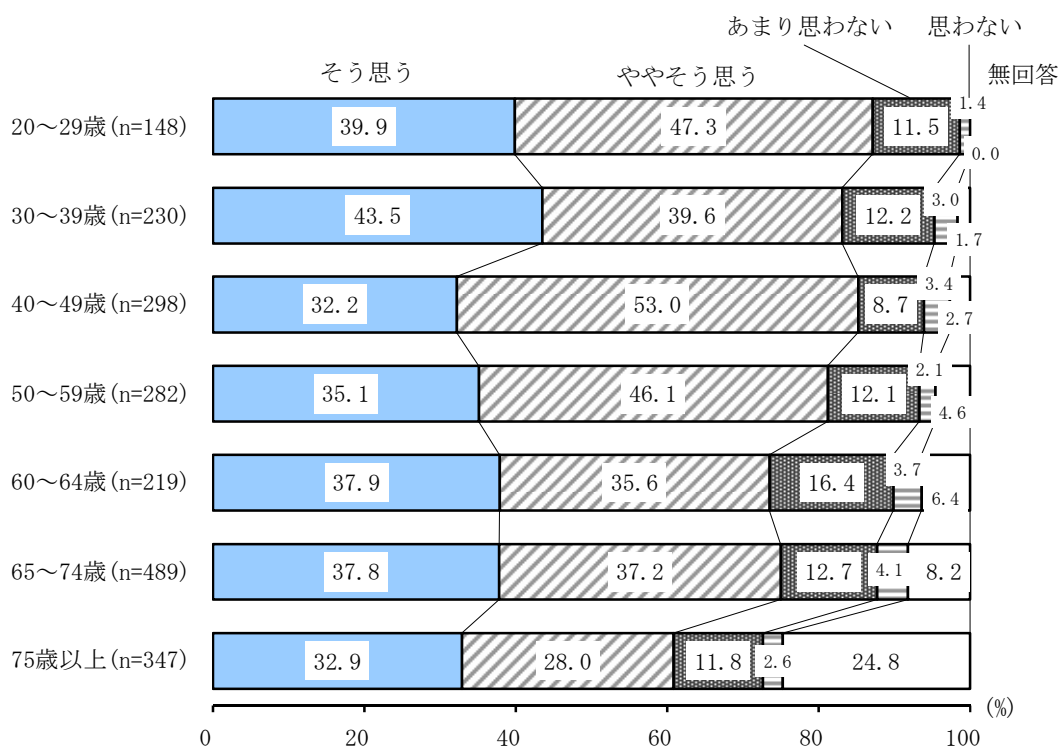


【図表3-6-1 年齢別 地域活動を活発にするために必要なこと②】

<ウ. 近隣との声かけなど付き合いを活発にする>

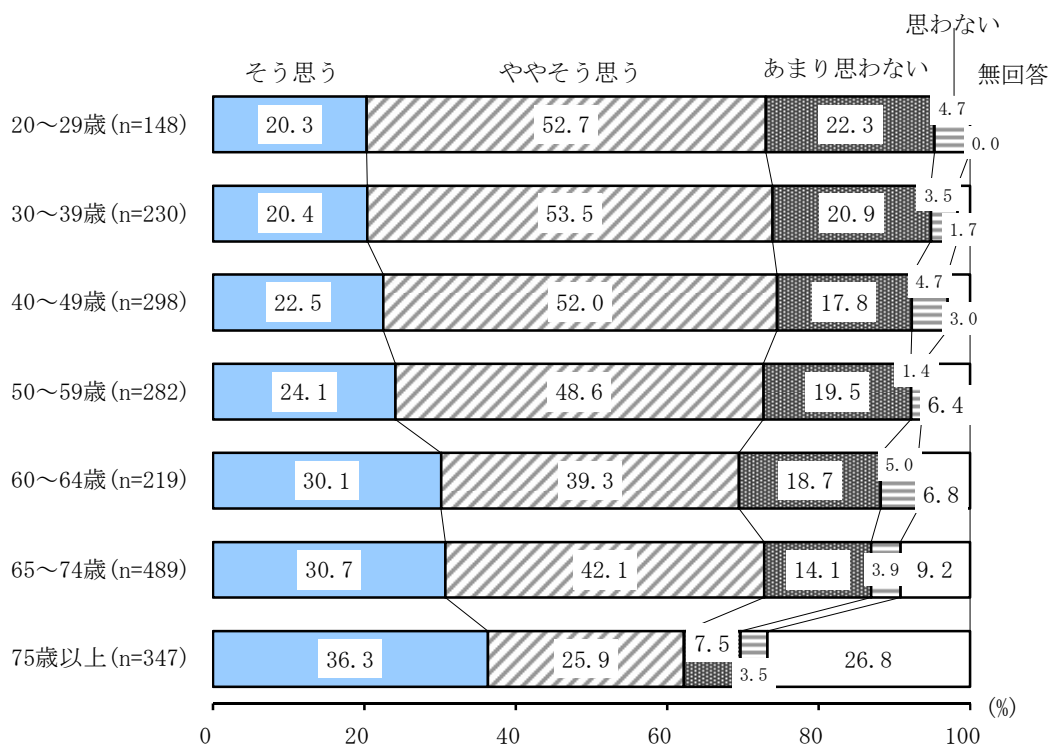


<エ. 誰もが集まれる身近な場所づくり>

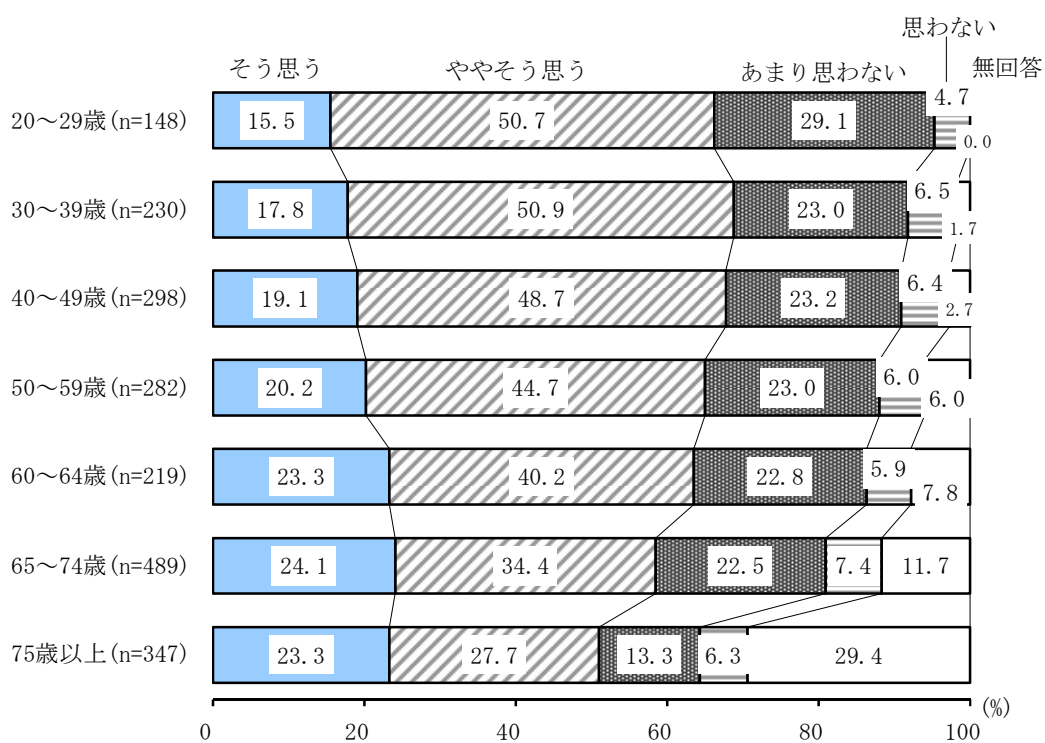


【図表3-6-1 年齢別 地域活動を活発にするために必要なこと③】

<オ. 地域住民の中から新たな担い手（活動する人）を増やす>



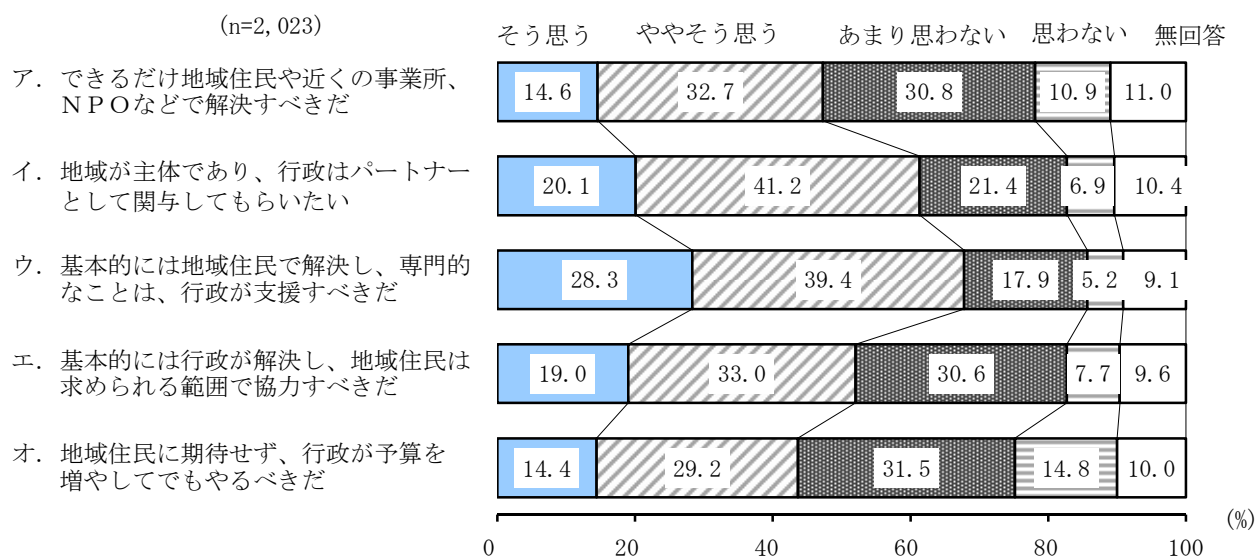
<カ. NPOやボランティアと連携した取り組み>



(6) 市民と行政との関係についての考え方

問12 地域の福祉を充実させていく上で、市民と行政（神戸市）との関係はどうあるべきだと思いますか。ア～オのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

【図表3-7 市民と行政との関係についての考え方】

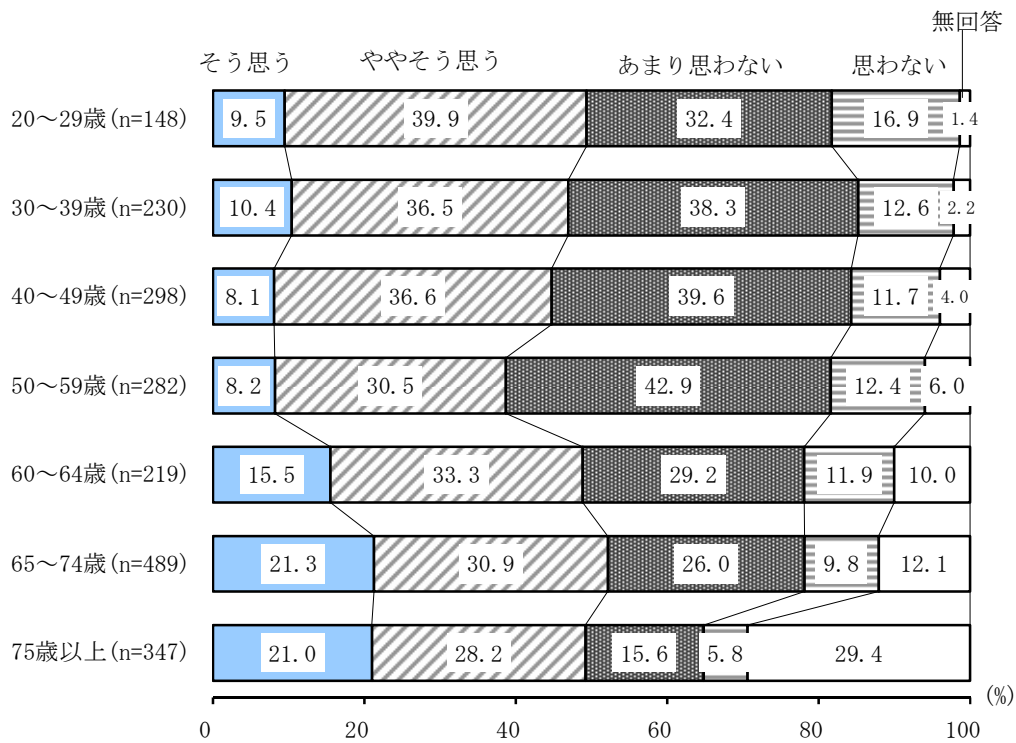


市民と行政との関係についての考え方で、『そう思う』割合では、“ウ. 基本的には地域住民で解決し、専門的なことは、行政が支援すべきだ”が67.7%で最も高く、次いで“イ. 地域が主体であり、行政はパートナーとして関与してもらいたい”が61.3%、“エ. 基本的には行政が解決し、地域住民は求められる範囲で協力すべきだ”が52.0%と、それぞれ過半数を占めており、“ア. できるだけ地域住民や近くの事業所、NPOなどで解決すべきだ”（47.3%）と“オ. 地域住民に期待せず、行政が予算を増やしてでもやるべきだ”（43.6%）は4割台となっている。（図表3-7）

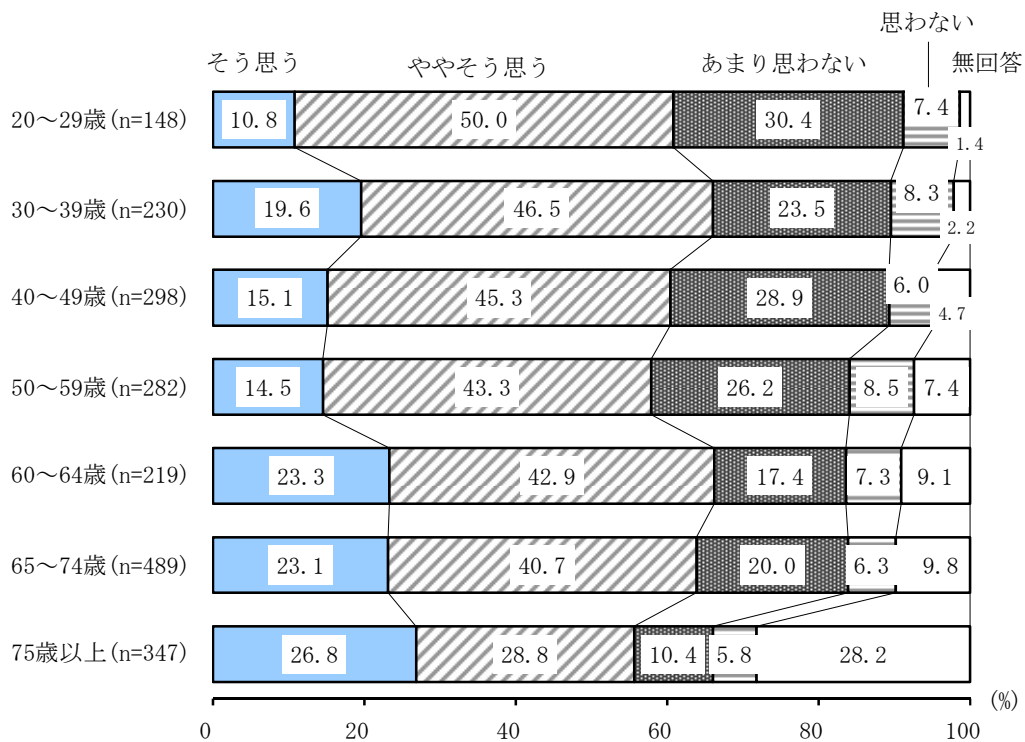
年齢別でみると、“ア. できるだけ地域住民や近くの事業所、NPOなどで解決すべきだ”は、20歳代で『そう思う』と『そう思わない（「あまり思わない」と「思わない」を合わせた割合）』がほぼ同率となっているが、30歳代～50歳代は『そう思わない』、60歳以上の年代は『そう思う』が高くなっている。“イ. 地域が主体であり、行政はパートナーとして関与してもらいたい”と“ウ. 基本的には地域住民で解決し、専門的なことは、行政が支援すべきだ”は各年代で『そう思う』割合が過半数を占めており、特に60～74歳の年代で高くなっている。また、“エ. 基本的には行政が解決し、地域住民は求められる範囲で協力すべきだ”では、年代が上がるほど『そう思う』割合が上昇傾向にあり、各年代で4～5割台を占めているが、“オ. 地域住民に期待せず、行政が予算を増やしてでもやるべきだ”は20歳代～74歳の年代で『そう思わない』が4～5割台と高くなっている。（図表3-7-1）

【図表3-7-1 年齢別 市民と行政との関係についての考え方①】

<ア. できるだけ地域住民や近くの事業所、NPOなどで解決すべきだ>

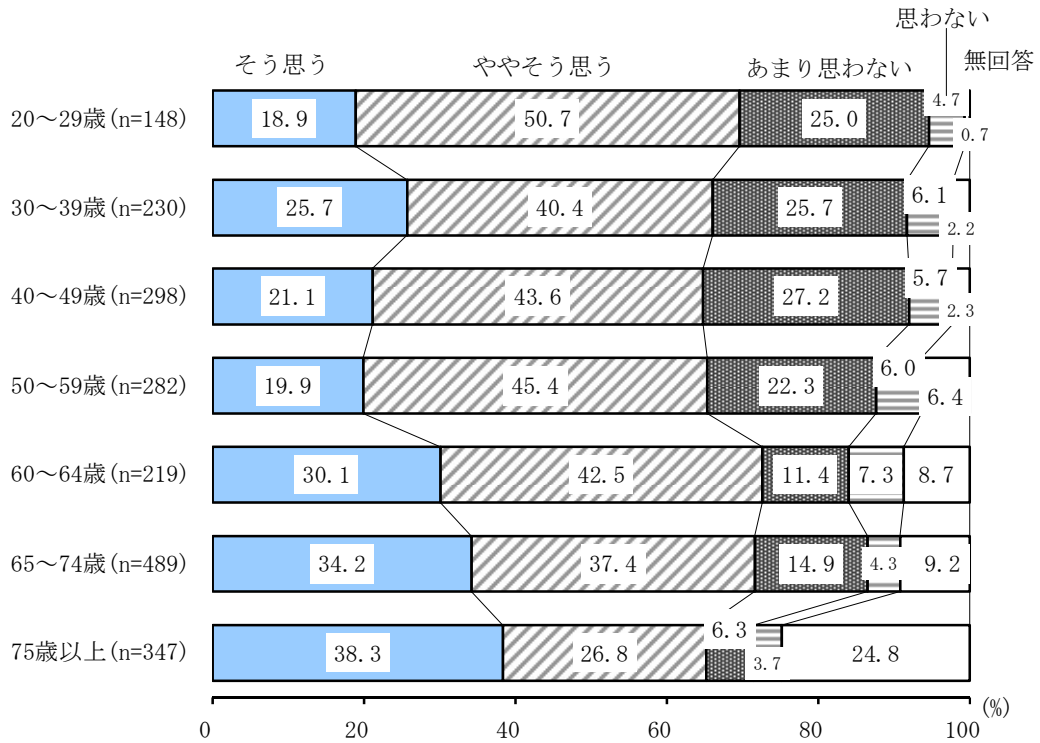


<イ. 地域が主体であり、行政はパートナーとして関与してもらいたい>

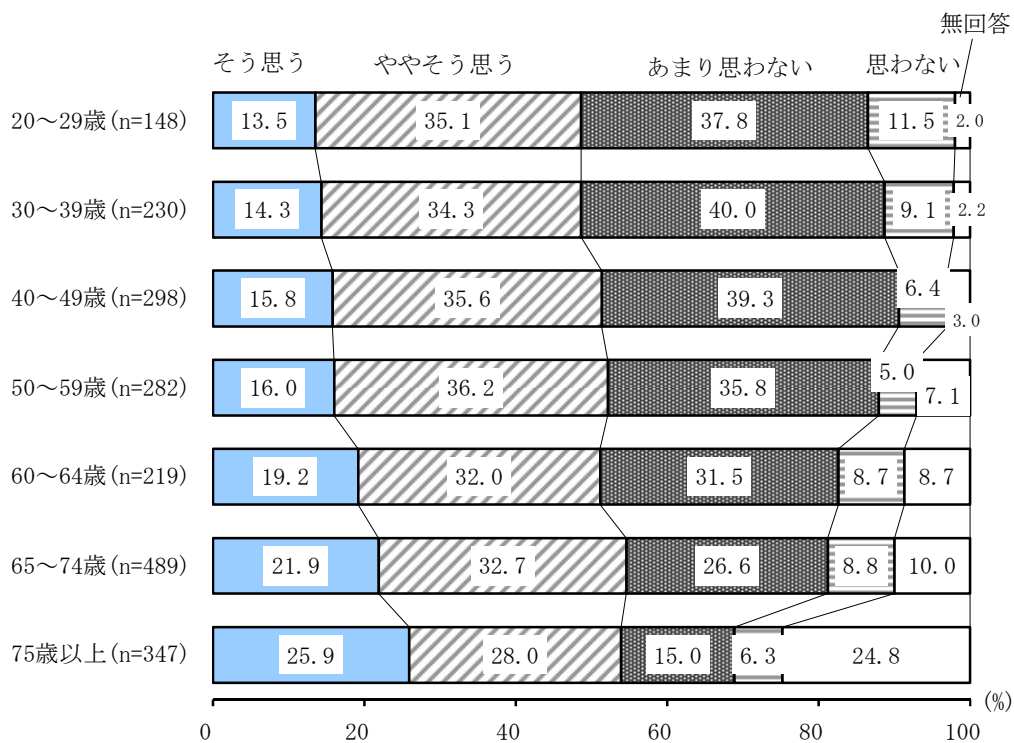


【図表3-7-1 年齢別 市民と行政との関係についての考え方②】

＜ウ. 基本的には地域住民で解決し、専門的なことは、行政が支援すべきだ＞

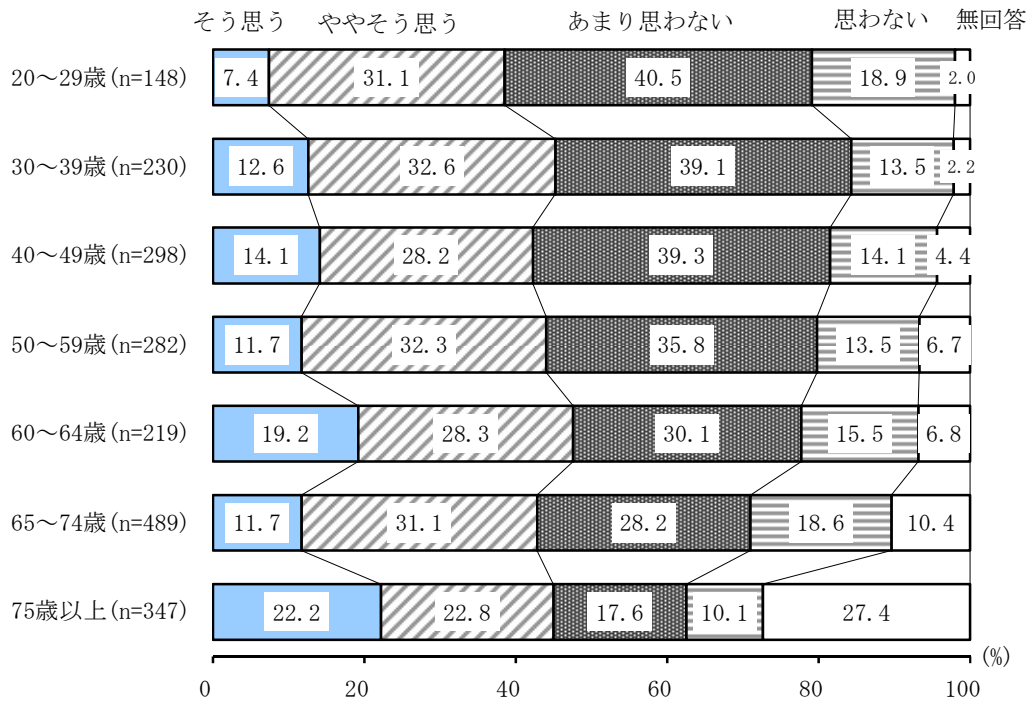


＜エ. 基本的には行政が解決し、地域住民は求められる範囲で協力すべきだ＞



【図表3-7-1 年齢別 市民と行政との関係についての考え方③】

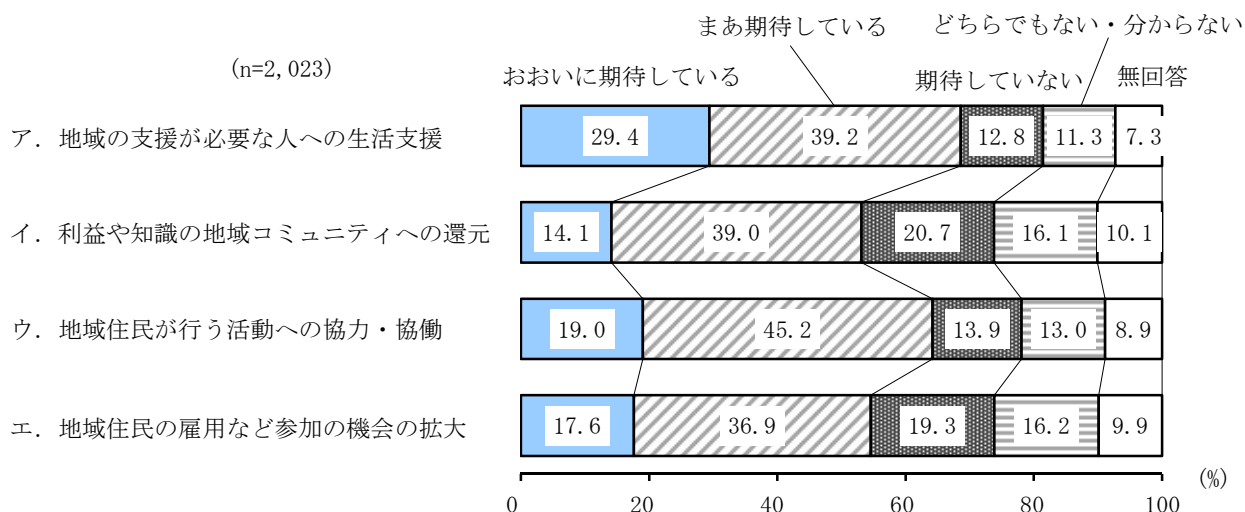
<オ. 地域住民に期待せず、行政が予算を増やしてでもやるべきだ>



(7) NPO法人に期待すること

問13 地域で福祉活動を行っているNPO法人に対して、期待することは何ですか。ア～エのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

【図表3-8 NPO法人に期待すること】

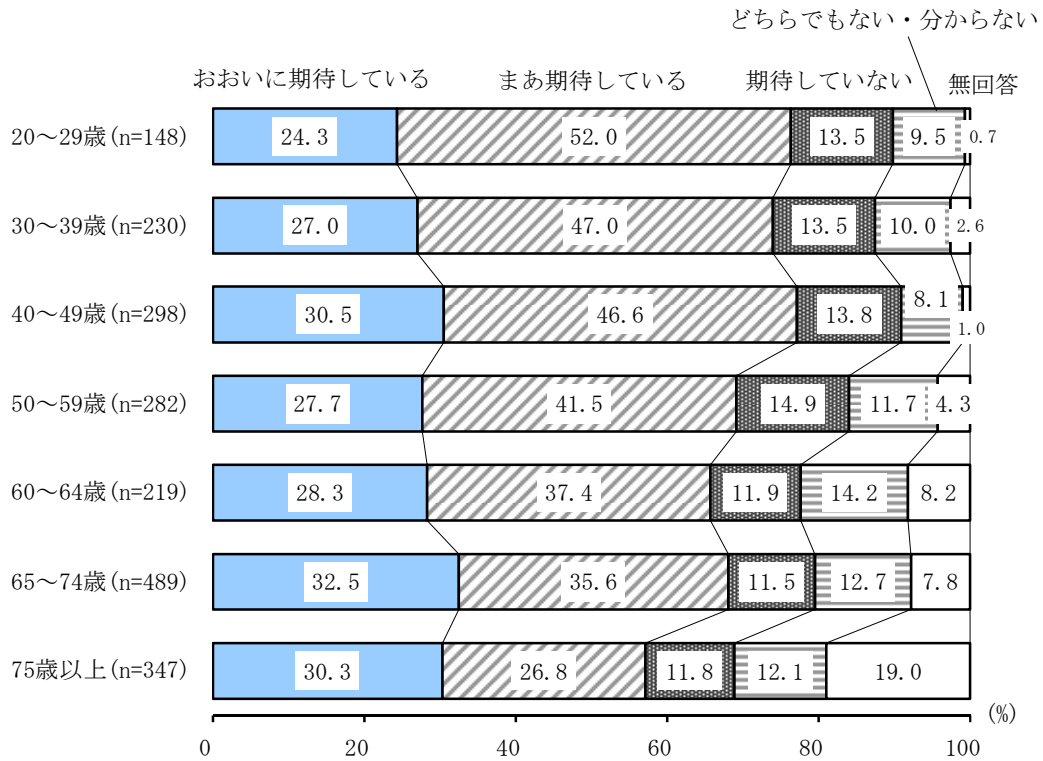


NPO法人に期待することについて、「おおいに期待している」と「まあ期待している」を合わせた『期待している』割合では、“ア. 地域の支援が必要な人への生活支援”が68.6%で最も高く、次いで“ウ. 地域住民が行う活動への協力・協働”が64.2%、“エ. 地域住民の雇用など参加の機会の拡大”が54.5%、“イ. 利益や知識の地域コミュニティへの還元”は53.1%と、それぞれ過半数を占めている。また、「おおいに期待している」では“ア. 地域の支援が必要な人への生活支援”が29.4%で他の項目に比べ10ポイント以上高くなっている。(図表3-8)

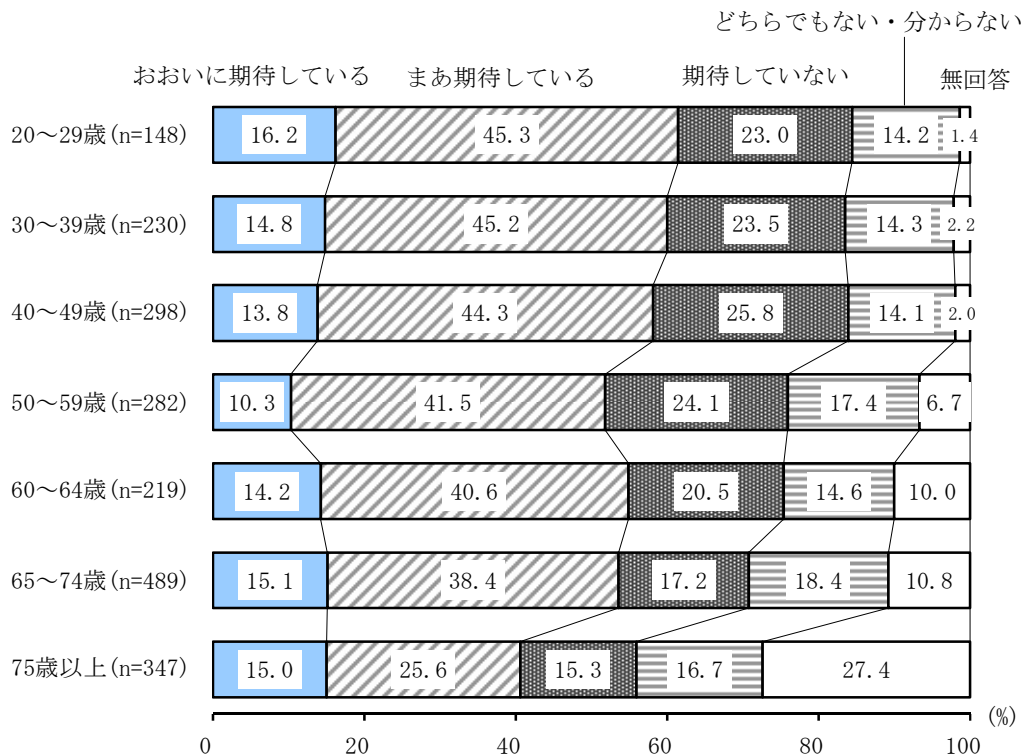
年齢別で見ると、『期待している』割合は、いずれの福祉活動も20歳代～40歳代で高くなっており、50歳以上になると低下傾向がみられ、75歳以上が最も低い割合になっている。(図表3-8-1)

【図表3-8-1 年齢別 NPO法人に期待すること①】

<ア. 地域の支援が必要な人への生活支援>

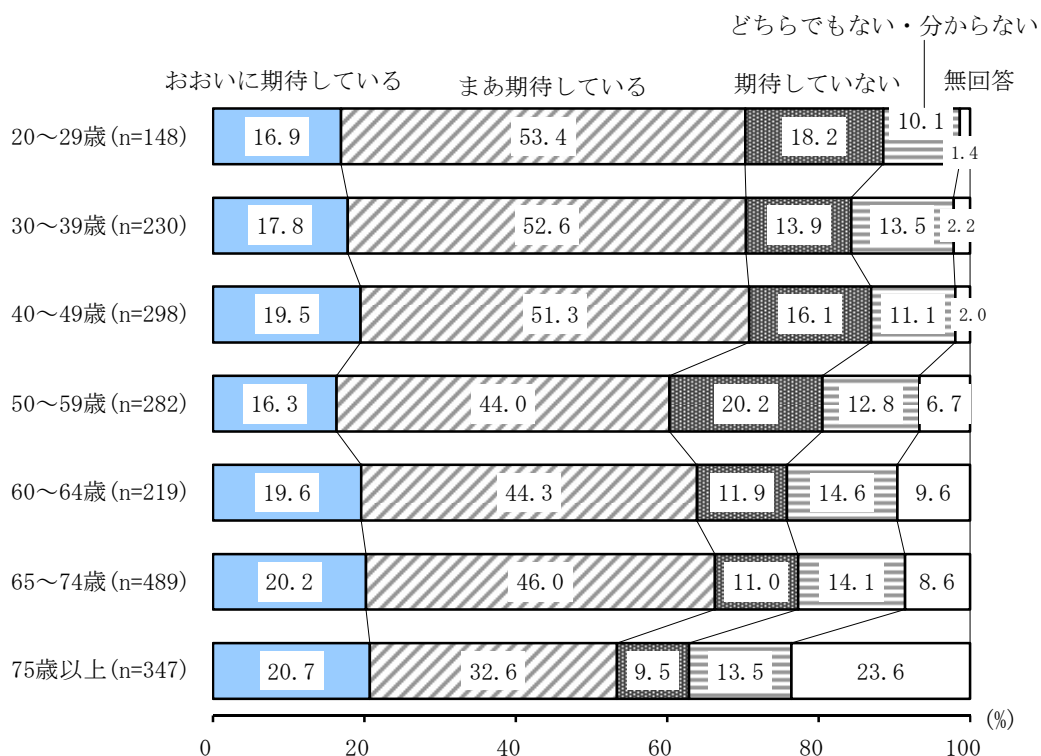


<イ. 利益や知識の地域コミュニティへの還元>

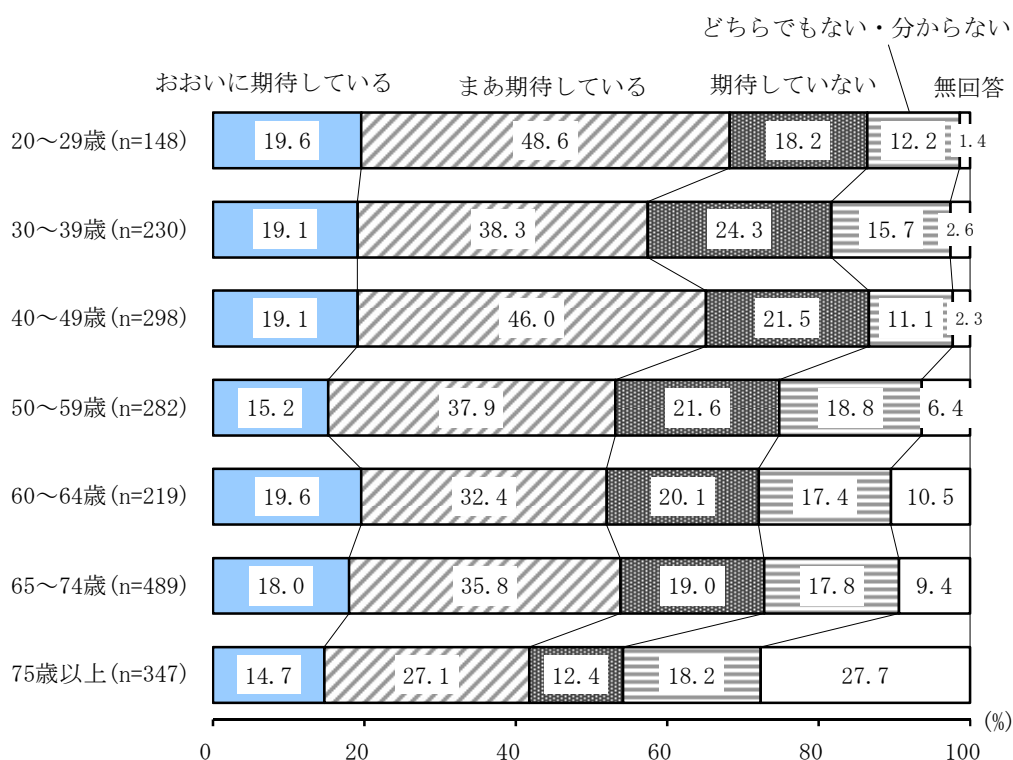


【図表3-8-1 年齢別 NPO法人に期待すること②】

<ウ. 地域住民が行う活動への協力・協働>



<エ. 地域住民の雇用など参加の機会を拡大>

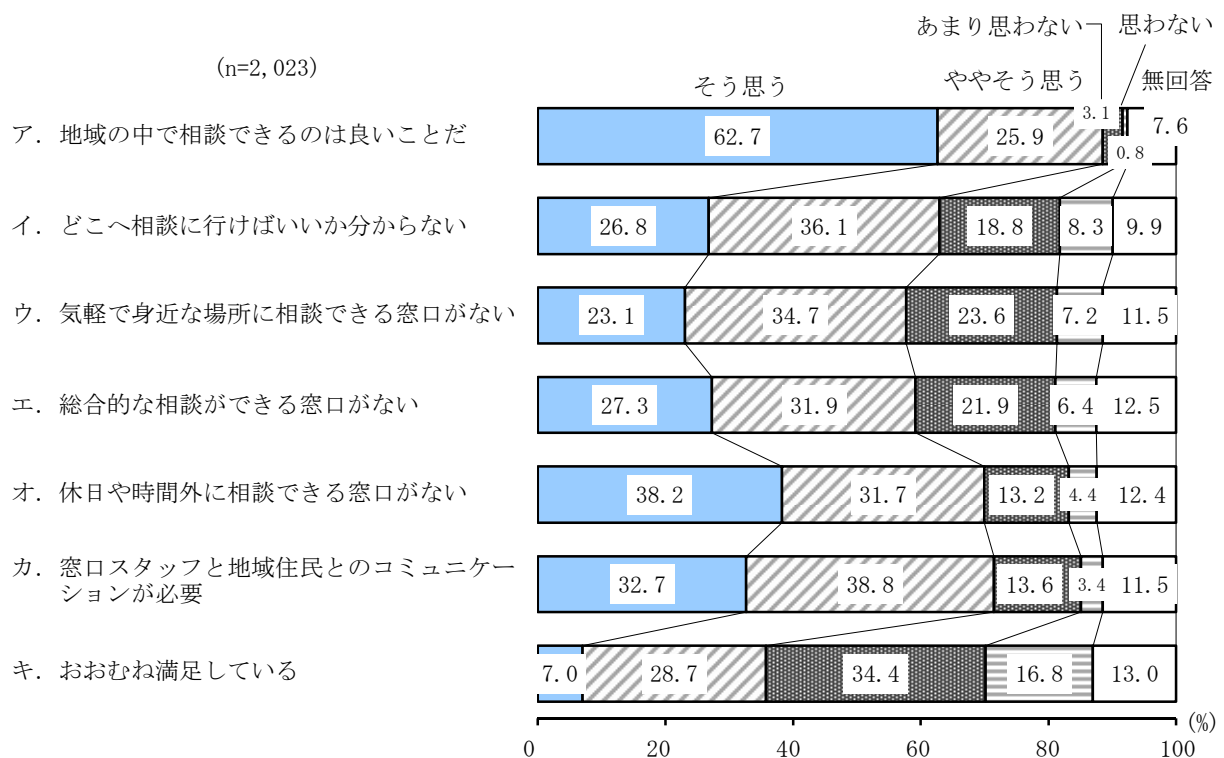


4. 福祉施策やサービスについて

(1) 市の相談窓口に対する考え方

問14 神戸市では、高齢者や障がい者、子育てなど各種の福祉に関する相談窓口を設置していますが、あなたは現在の相談窓口についてどう思いますか。ア～キのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

【図表4-1 市の相談窓口に対する考え方】

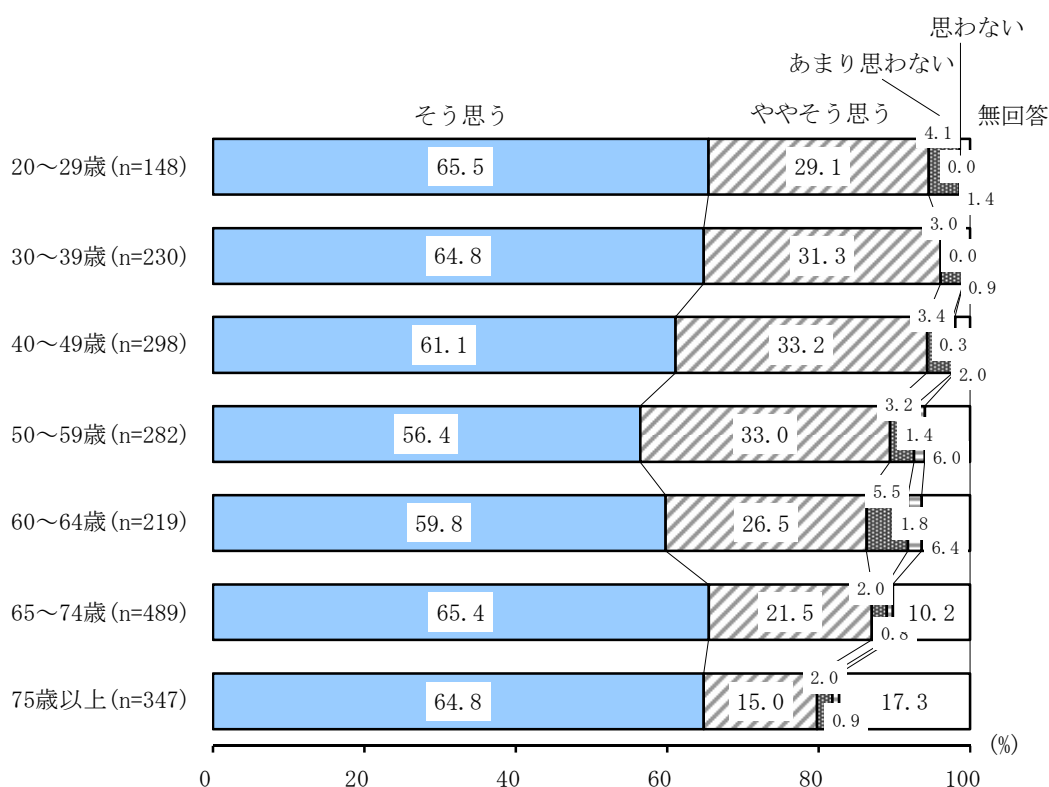


市の相談窓口に対する考え方について、『そう思う』割合では、“ア. 地域の中で相談できるのは良いことだ”が88.6%で最も高く、次いで“カ. 窓口スタッフと地域住民とのコミュニケーションが必要”が71.5%、“オ. 休日や時間外に相談できる窓口がない”が69.9%、“イ. どこへ相談に行けばいいか分からない”が62.9%、“エ. 総合的な相談ができる窓口がない”が59.2%、“ウ. 気軽に身近な場所に相談できる窓口がない”が57.8%と、それぞれ過半数を占めている。また、「そう思う」では“ア. 地域の中で相談できるのは良いことだ”が62.7%で他の項目に比べ高くなっている。一方、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『そう思わない』割合が“おおむね満足している”で51.2%を占めている。(図表4-1)

年齢別でみると、『そう思う』割合は、“ア. 地域の中で相談できるのは良いことだ”が若い年代で高くなっており、“キ. おおむね満足している”では65～74歳が44.2%で他の年代に比べ高くなっている。一方、“イ. どこへ相談に行けばいいかわからない”や“ウ. 気軽に身近な場所に相談できる窓口がない”、“エ. 総合的な相談ができる窓口がない”、“オ. 休日や時間外に相談できる窓口がない”、“カ. 窓口スタッフと地域住民とのコミュニケーションが必要”といった要望は、20歳代～64歳の年代で『そう思う』割合が高く、65歳以上になると低下傾向にある。(図表4-1-1)

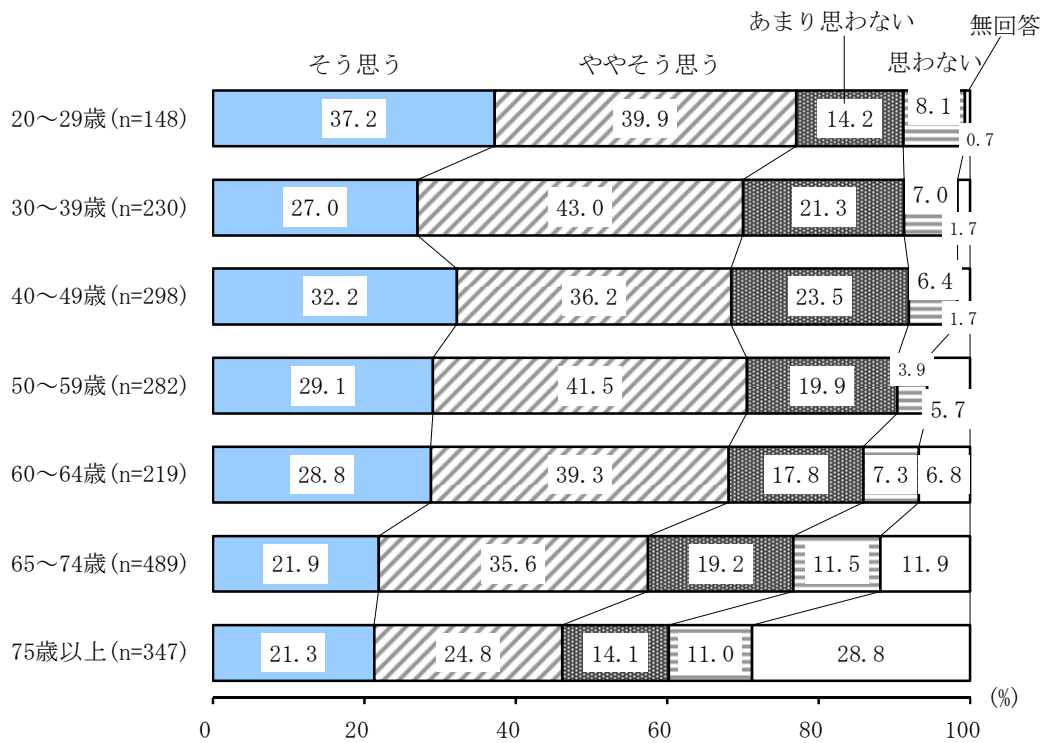
【図表4-1-1 年齢別 市の相談窓口に対する考え方①】

＜ア. 地域の中で相談できるのは良いことだ＞

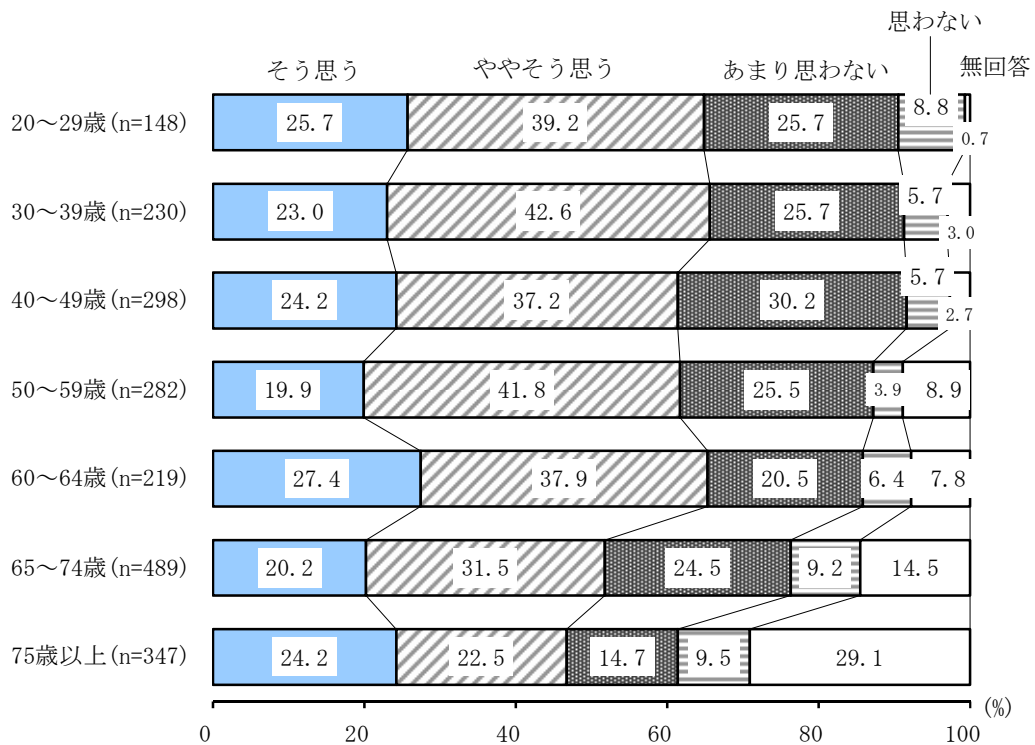


【図表4-1-1 年齢別 市の相談窓口に対する考え方②】

<イ. どこへ相談に行けばいいかわからない>

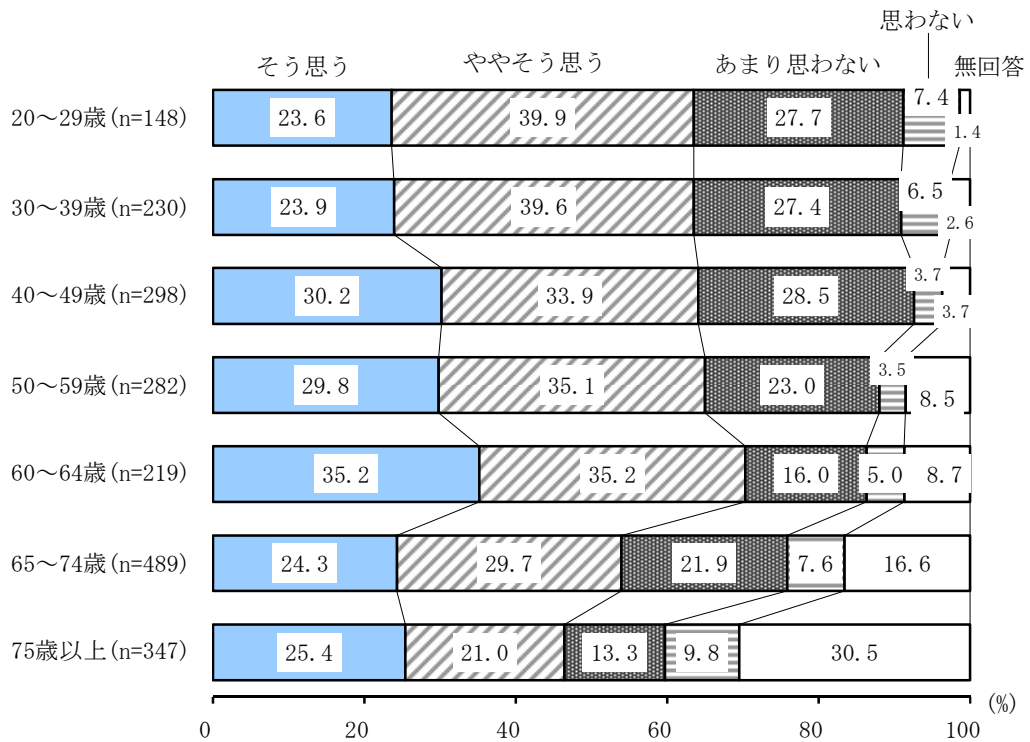


<ウ. 気軽に身近な場所に相談できる窓口がない>

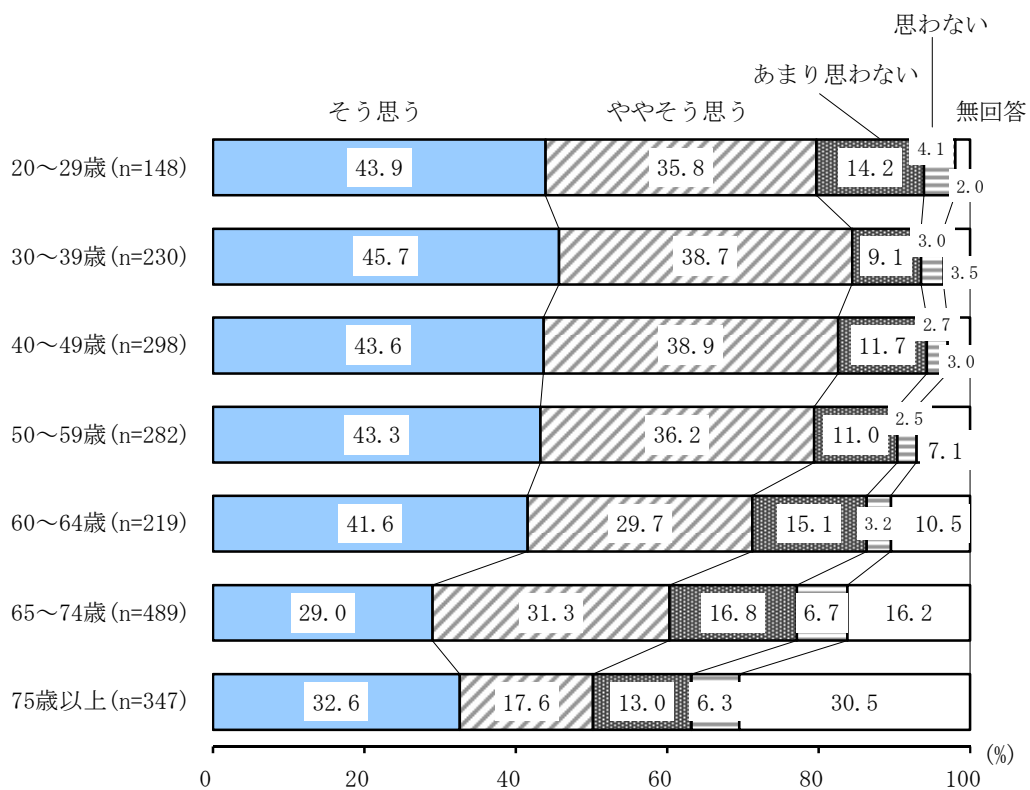


【図表4-1-1 年齢別 市の相談窓口に対する考え方③】

<エ. 総合的な相談ができる窓口がない>

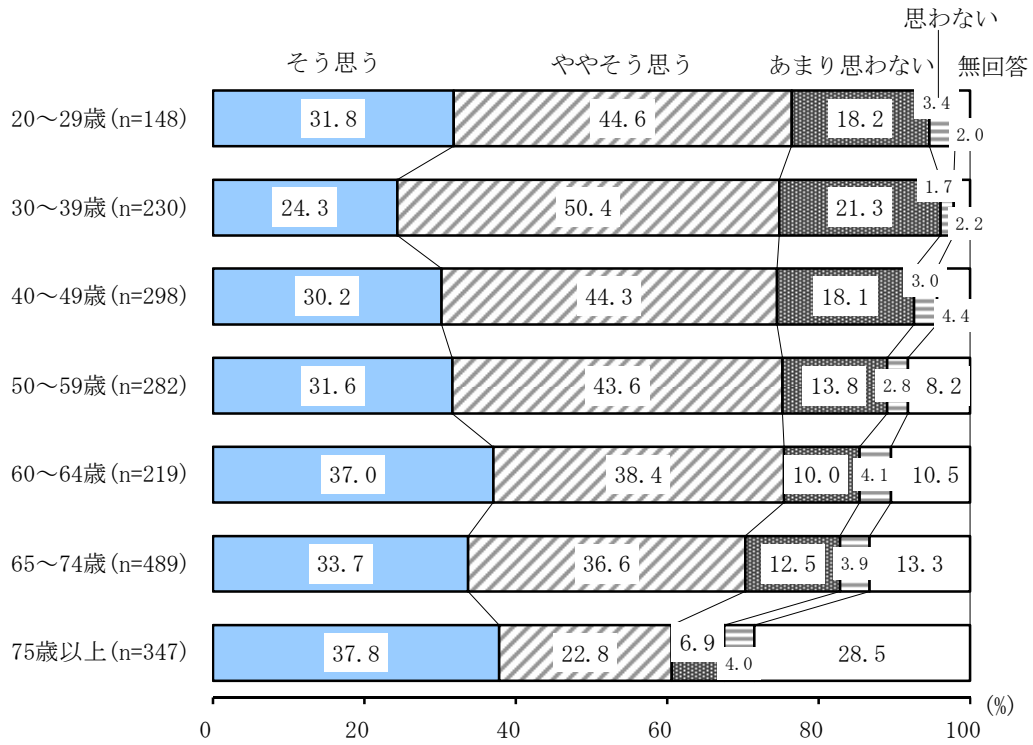


<オ. 休日や時間外に相談できる窓口がない>

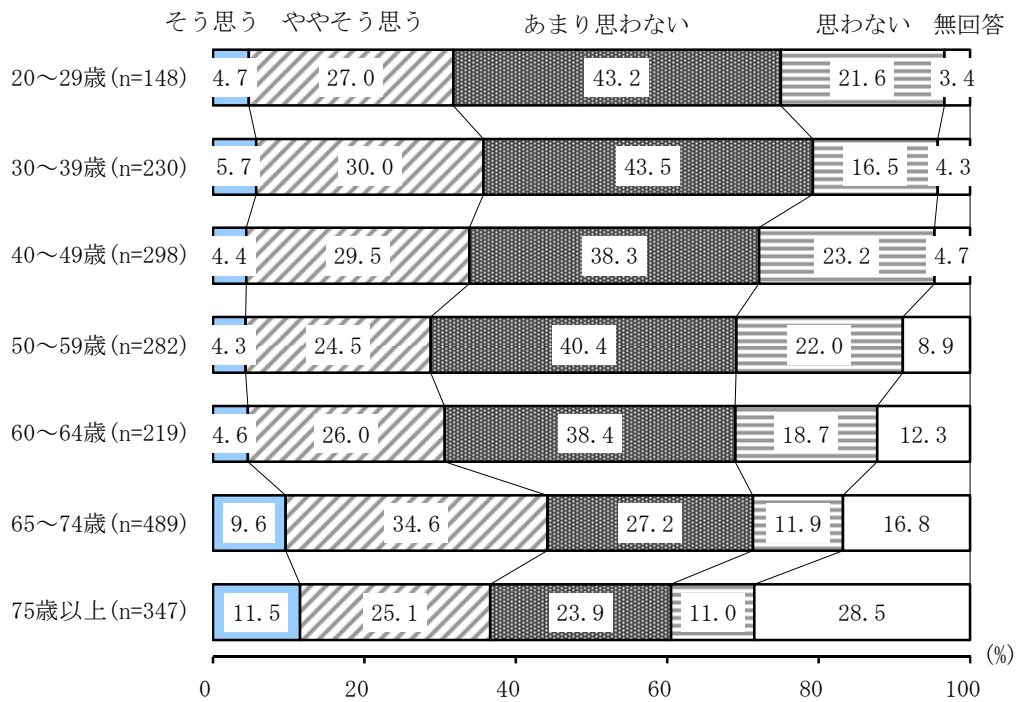


【図表4-1-1 年齢別 市の相談窓口に対する考え方④】

<カ. 窓口スタッフと地域住民とのコミュニケーションが必要>

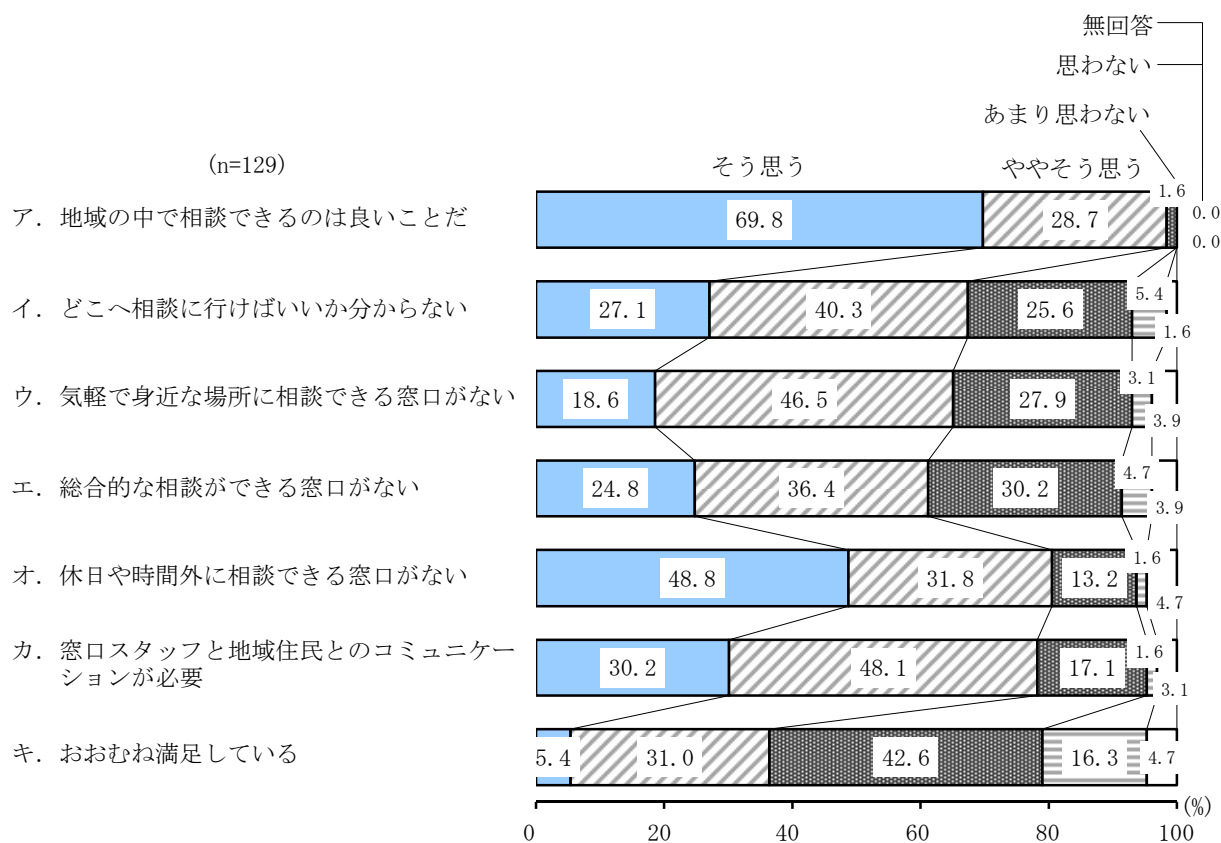


<キ. おおむね満足している>



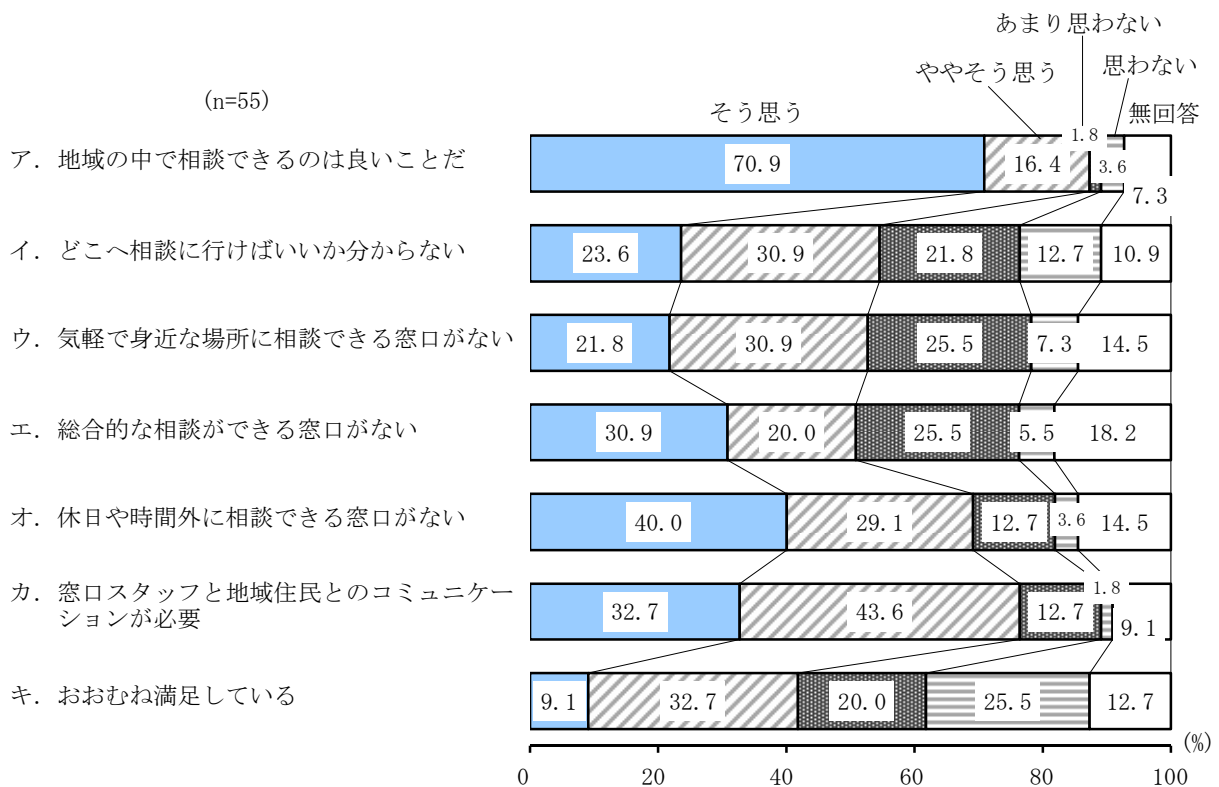
乳幼児の居る世帯のみでみると、“ア. 地域の中で相談できるのは良いことだ”は『そう思う』で98.5%を占めているが、“キ. おおむね満足している”は『そう思う』が36.4%に対し、『そう思わない』が58.9%を占めている。また、『そう思う』意見では、“オ. 休日や時間外に相談できる窓口がない”が80.6%で最も高く、次いで“カ. 窓口スタッフと地域住民とのコミュニケーションが必要”が78.3%となっており、“イ. どこへ相談に行けばいいかわからない”や“ウ. 気軽に身近な場所に相談できる窓口がない”、“エ. 総合的な相談ができる窓口がない”は6割台を占めている。(図表4-1-2)

【図表4-1-2 市の相談窓口に対する考え方（乳幼児の居る世帯のみ）】



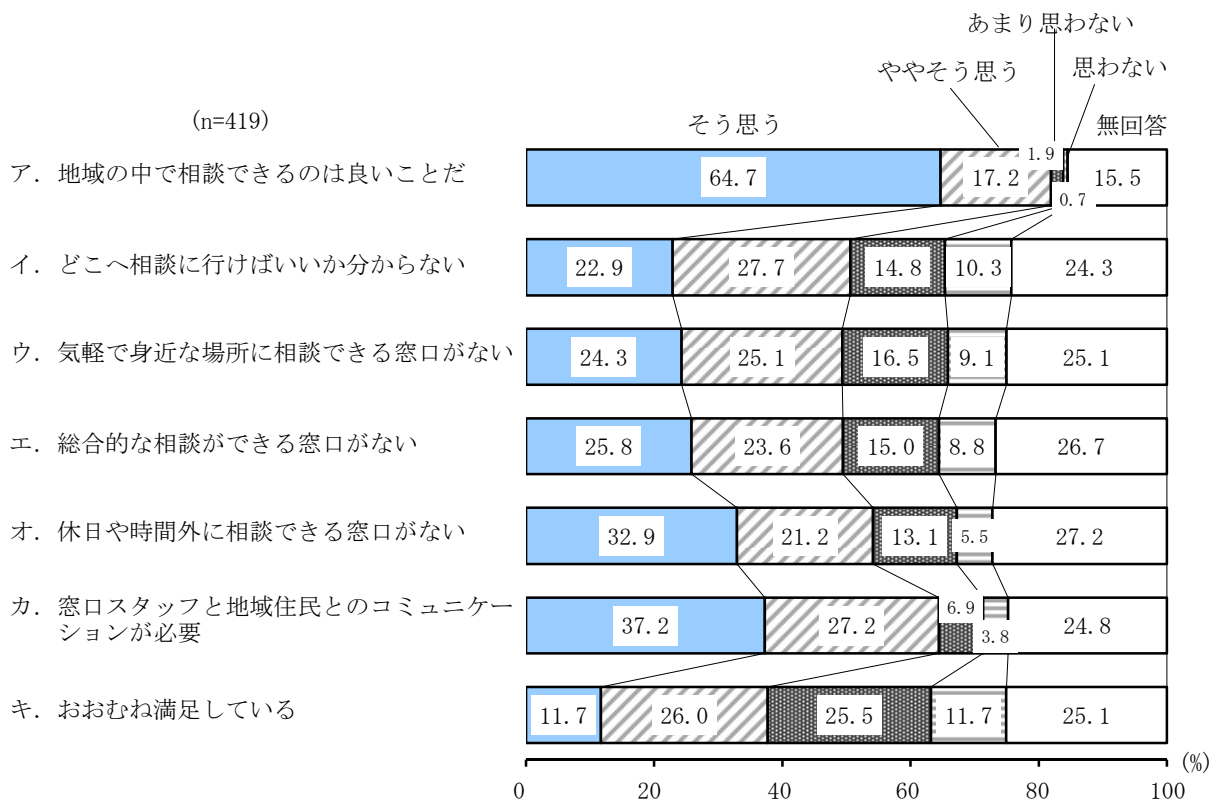
障がい者の居る世帯のみでみると、“ア. 地域の中で相談できるのは良いことだ”は『そう思う』で87.3%を占めているが、“キ. おおむね満足している”は『そう思う』が41.8%に対し、『そう思わない』が45.5%を占めている。また、『そう思う』要望では、“カ. 窓口スタッフと地域住民とのコミュニケーションが必要”が76.3%で最も高く、次いで“オ. 休日や時間外に相談できる窓口がない”が69.1%となっており、“イ. どこへ相談に行けばいいか分からない”や“ウ. 気軽に身近な場所に相談できる窓口がない”、“エ. 総合的な相談ができる窓口がない”は5割台を占めている。(図表4-1-3)

【図表4-1-3 市の相談窓口に対する考え方（障がい者の居る世帯のみ）】



75歳以上の高齢者の居る世帯のみで見ると、“ア. 地域の中で相談できるのは良いことだ”は『そう思う』で81.9%を占めていおり、“キ. おおむね満足している”では『そう思う』が37.7%、『そう思わない』が37.2%とほぼ同率となっている。また、『そう思う』要望では、“カ. 窓口スタッフと地域住民とのコミュニケーションが必要”が64.4%で最も高く、次いで“オ. 休日や時間外に相談できる窓口がない”が54.1%となっており、“イ. どこへ相談に行けばいいか分からない”や“ウ. 気軽に身近な場所に相談できる窓口がない”、“エ. 総合的な相談ができる窓口がない”は5割前後を占めている。(図表4-1-4)

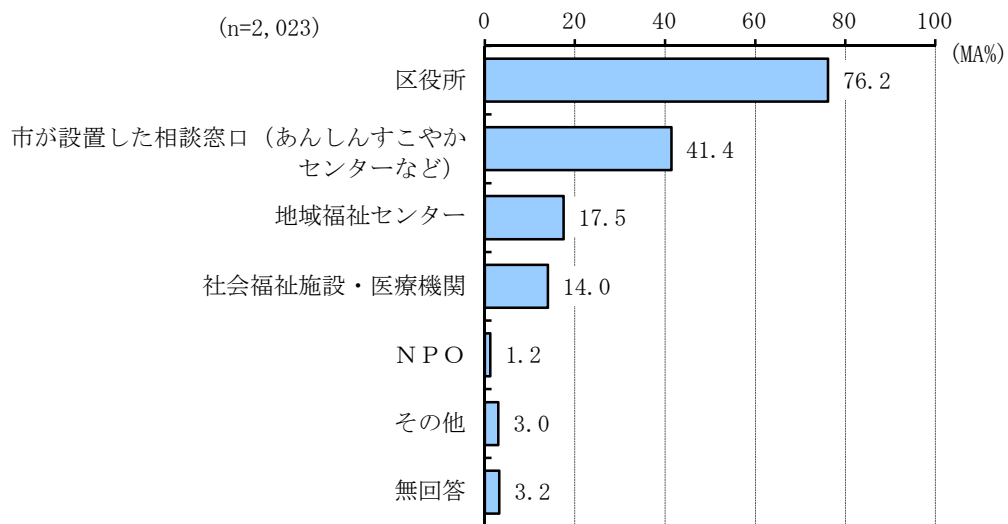
【図表4-1-4 市の相談窓口に対する考え方 (75歳以上の高齢者の居る世帯のみ)】



(2) 福祉に関する相談先

問15 福祉に関する相談はどこに行きますか。また、どこに行こうと思いますか。あてはまるものを全て選んで、○をつけてください。

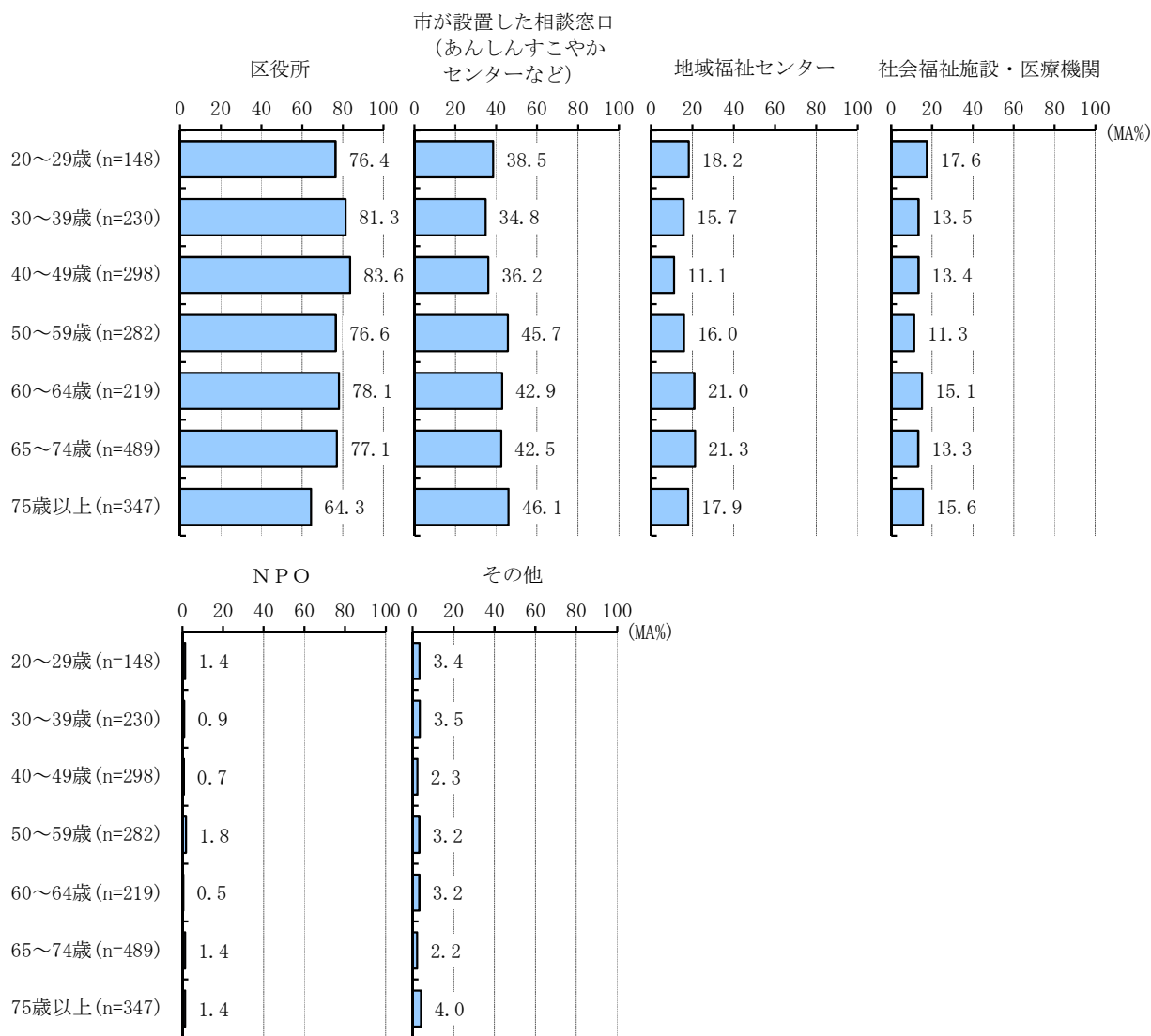
【図表4-2 福祉に関する相談先】



福祉に関する相談先では、「区役所」が76.2%で最も多く、次いで「市が設置した相談窓口 (あんしんすこやかセンターなど)」が41.4%、「地域福祉センター」が17.5%と続いている。(図表4-2)

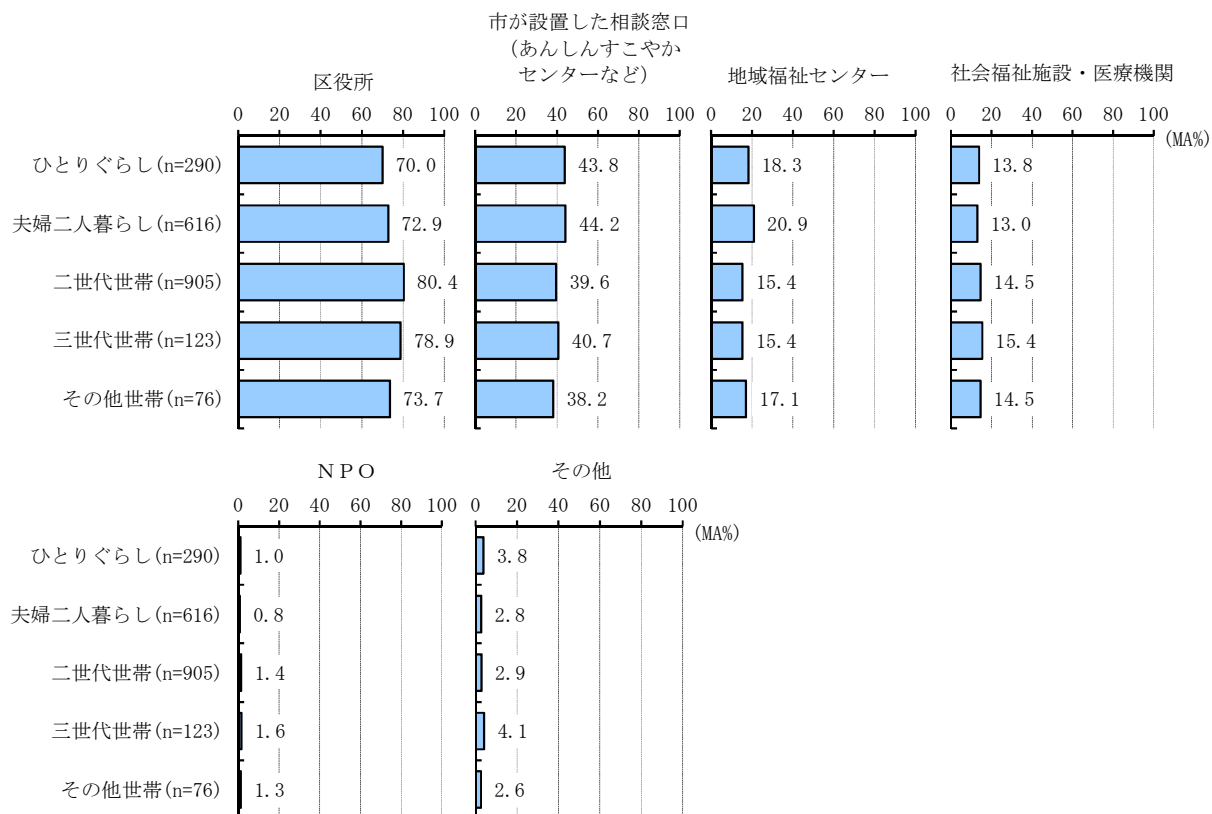
年齢別でみると、各年代で「区役所」が6割以上で最も多く、30歳代と40歳代は8割台と高くなっている。また、「市が設置した相談窓口（あんしんすこやかセンターなど）」は、20歳代～40歳代が3割台に対し、50歳以上になると4割台に上がっている。（図表4-2-1）

【図表4-2-1 年齢別 福祉に関する相談先】



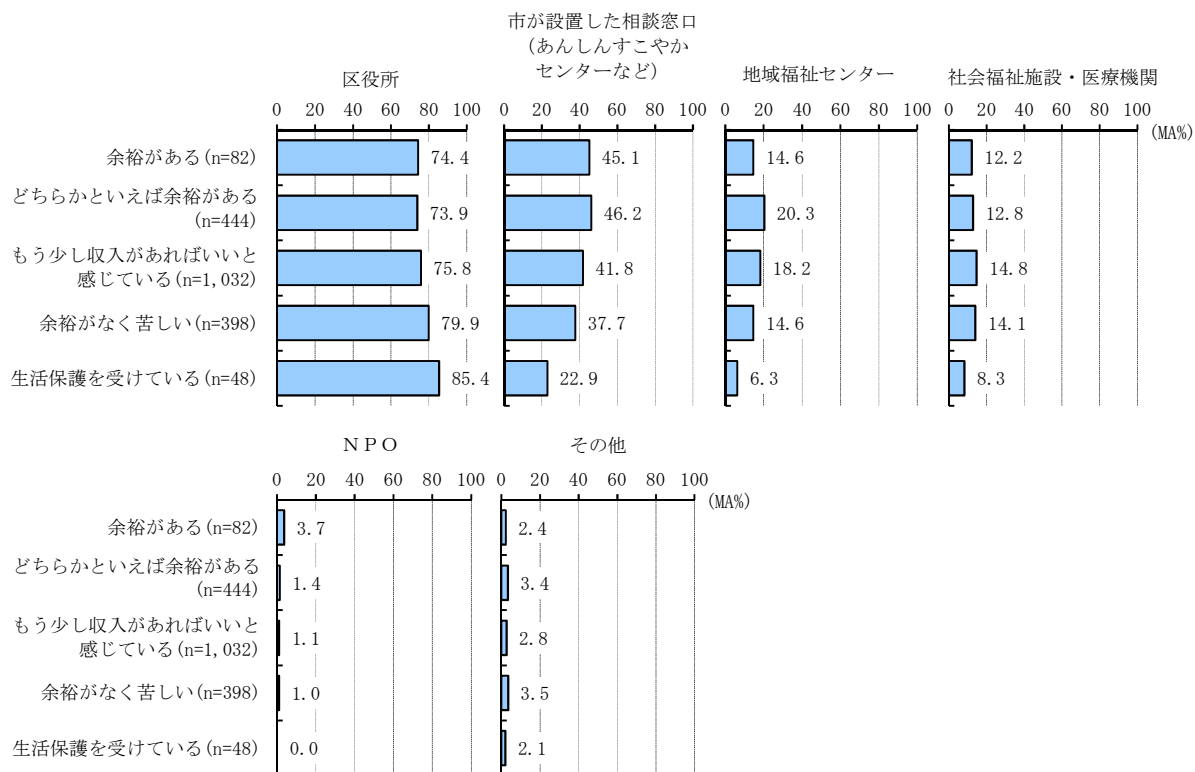
家族構成別でみると、いずれの世帯も「区役所」が7割以上で最も多くなっているが、一世代世帯に比べ二世帯・三世帯世帯は8割前後と高くなっている。一方、「市が設置した相談窓口（あんしんすこやかセンターなど）」と「地域福祉センター」では、二世帯・三世帯世帯に比べ一世代世帯のほうが高くなっている。（図表図表4-2-2）

【図表4-2-2 家族構成別 福祉に関する相談先】



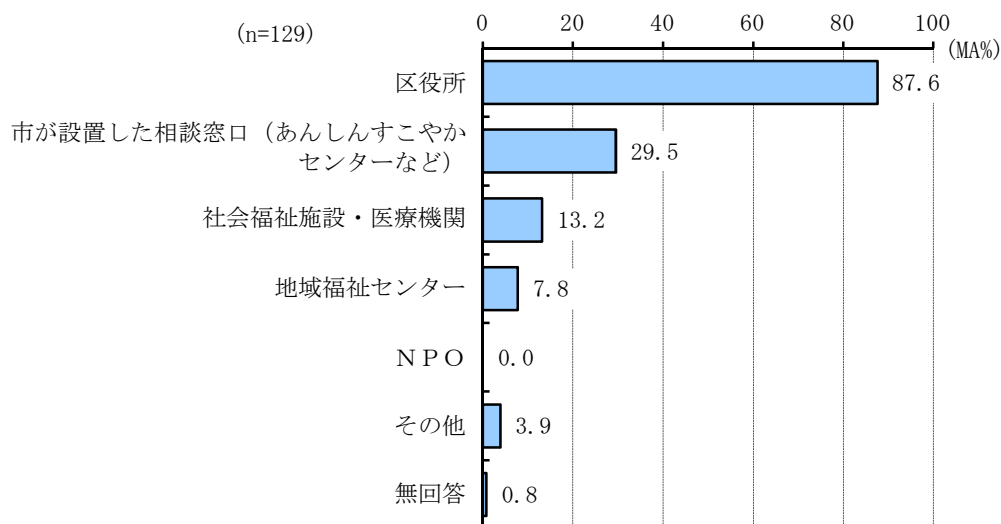
経済状況別でみると、経済状況にかかわらず「区役所」が7割以上で最も多く、経済的に余裕がない人ほど高い傾向がみられ、なかでも生活保護を受けている人は85.4%と最も高くなっている。一方で、「市が設置した相談窓口（あんしんすこやかセンターなど）」では、余裕がなく苦しい人や生活保護を受けている人ほど割合が低くなっている。（図表4-2-3）

【図表4-2-3 経済状況別 福祉に関する相談先】



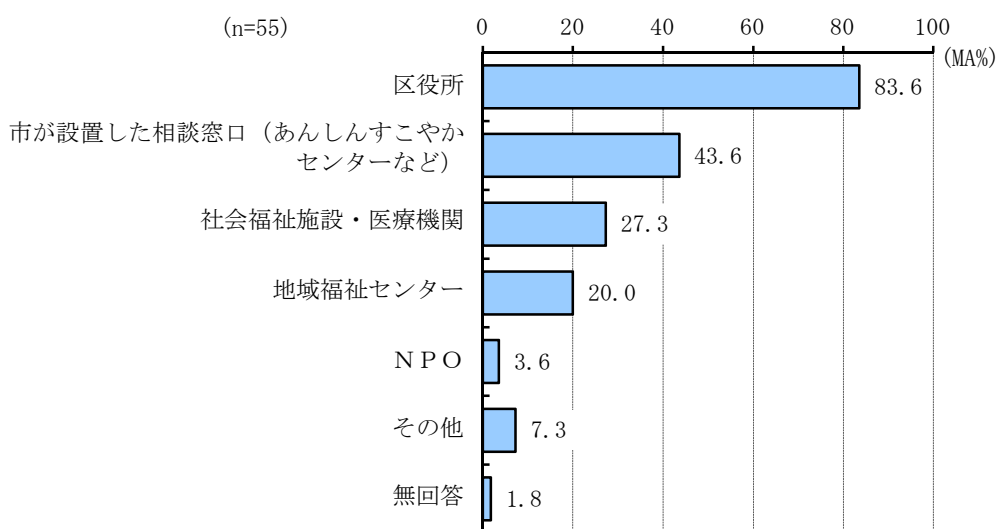
乳幼児の居る世帯のみでみると、「区役所」が87.6%で最も多く、次いで「市が設置した相談窓口（あんしんすこやかセンターなど）」が29.5%、「社会福祉施設・医療機関」が13.2%、「地域福祉センター」が7.8%となっている。（図表4-2-4）

【図表4-2-4 福祉に関する相談先（乳幼児の居る世帯のみ）】



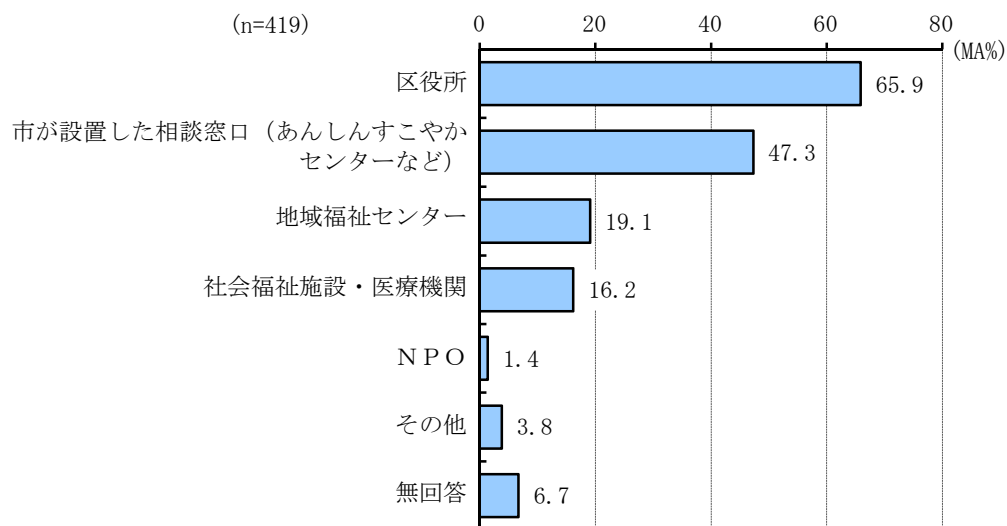
障がい者の居る世帯のみでみると、「区役所」が83.6%で最も多く、次いで「市が設置した相談窓口（あんしんすこやかセンターなど）」が43.6%、「社会福祉施設・医療機関」が27.3%、「地域福祉センター」が20.0%となっている。（図表4-2-5）

【図表4-2-5 福祉に関する相談先（障がい者の居る世帯のみ）】



75歳以上の高齢者の居る世帯のみで見ると、「区役所」が65.9%で最も多く、次いで「市が設置した相談窓口（あんしんすこやかセンターなど）」が47.3%、「地域福祉センター」が19.1%、「社会福祉施設・医療機関」が16.2%となっている。（図表4-2-6）

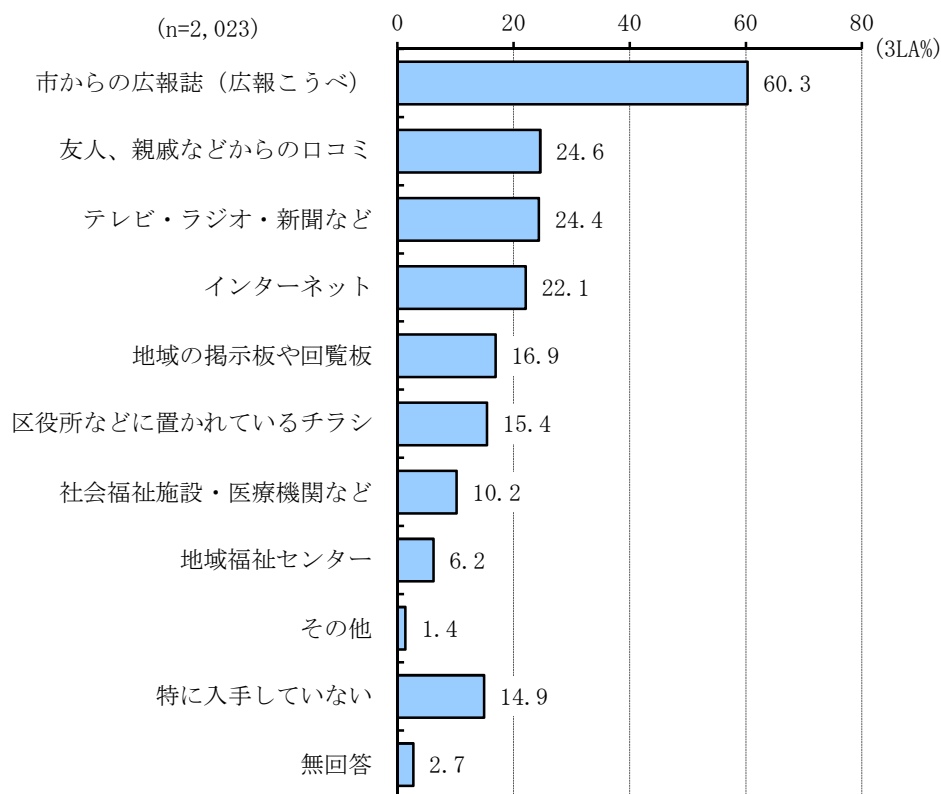
【図表4-2-6 福祉に関する相談先（75歳以上の高齢者の居る世帯のみ）】



(3) 福祉の情報の入手方法

問16 福祉に関する情報はどのように入手していますか。主なものに3つまで○をつけてください。

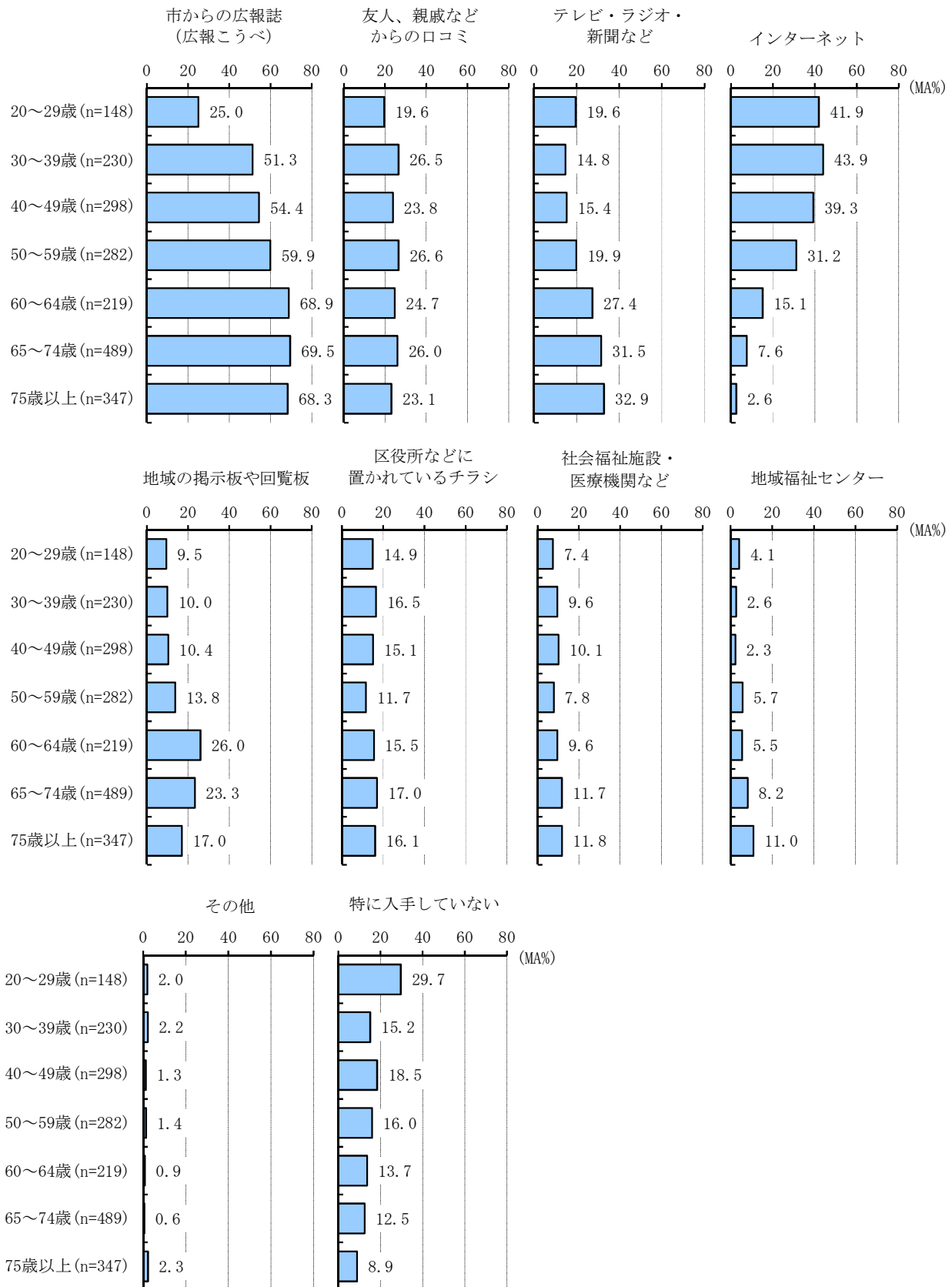
【図表4-3 福祉の情報の入手方法】



福祉の情報の入手方法では、「市からの広報誌 (広報こうべ)」が60.3%で最も多く、次いで「友人、親戚などからの口コミ」が24.6%、「テレビ・ラジオ・新聞など」が24.4%、「インターネット」が22.1%と続いている。(図表4-3)

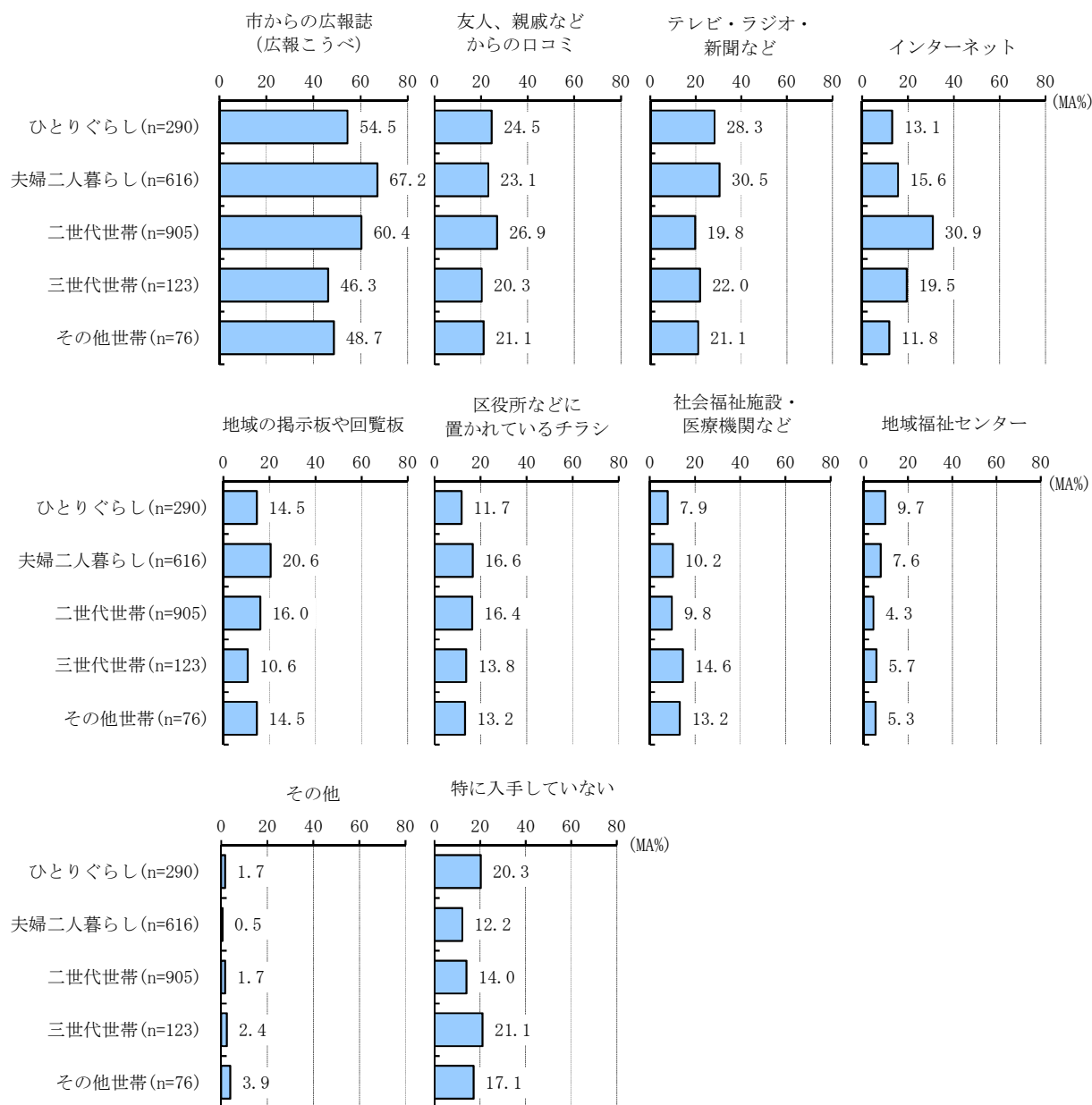
年齢別で見ると、30歳以上の年代は「市からの広報誌 (広報こうべ)」が5割以上で最も多く、60歳以上になると約7割と高くなっている。また、20歳代～50歳代では「インターネット」が3～4割台と高く、60歳以上になると「テレビ・ラジオ・新聞など」が3割前後に上昇しており、「地域の掲示板や回覧板」では60～74歳の年代が2割台で他の年代に比べ高くなっている。一方、「特に入手していない」は、20歳代が29.7%と高くなっている。(図表4-3-1)

【図表4-3-1 年齢別 福祉の情報の入手方法】



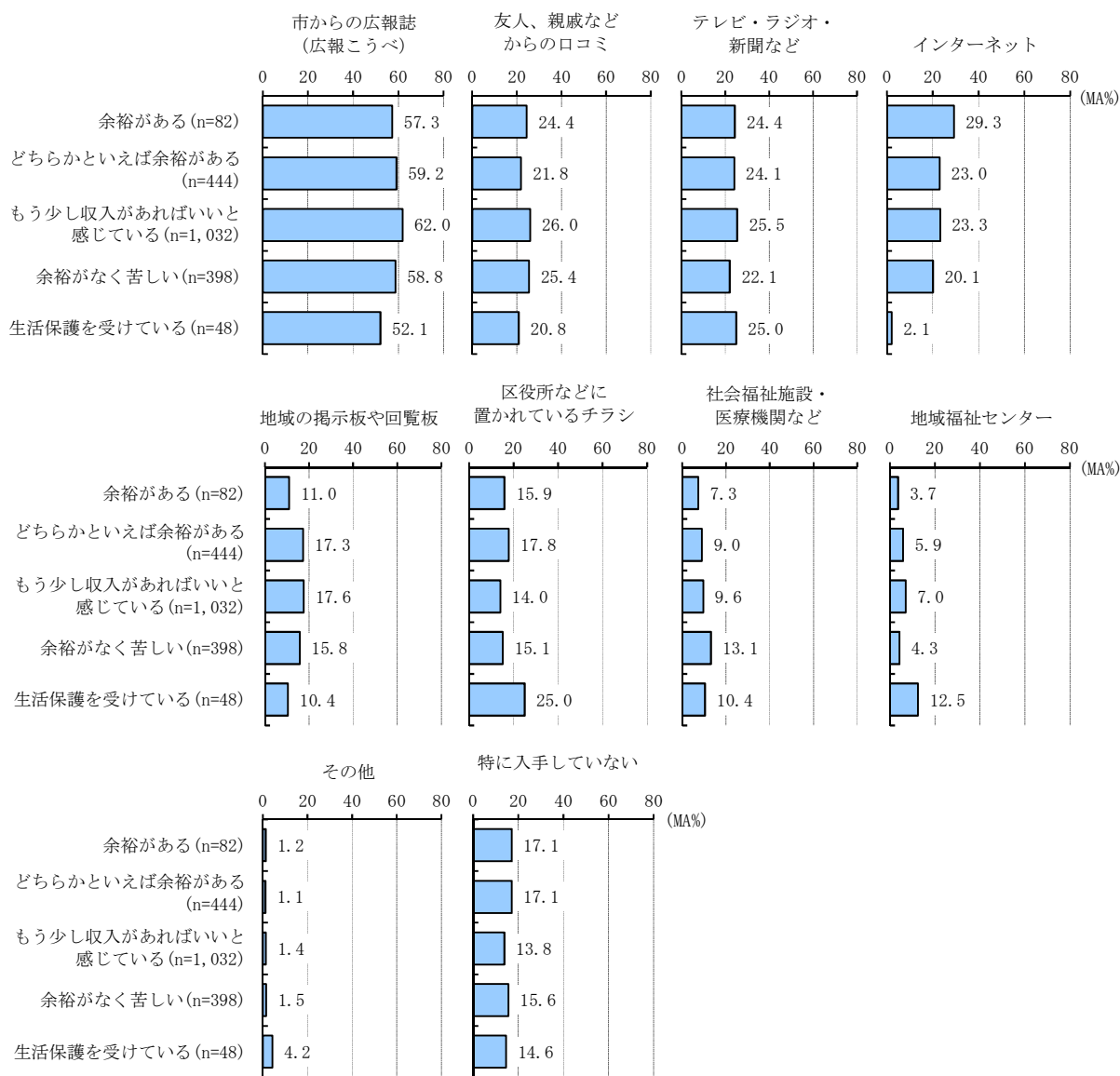
家族構成別でみると、「市からの広報誌（広報こうべ）」が夫婦二人暮らし世帯で67.2%と最も高く、次いで二世帯世帯で60.4%、ひとり暮らし世帯は54.5%となっており、三世帯世帯は46.3%と他の世帯に比べ低くなっている。また、一世代世帯は「テレビ・ラジオ・新聞など」が3割前後と高く、二世帯世帯では「インターネット」が30.9%で他の世帯に比べ10ポイント以上高くなっている。一方、「特に入手していない」は、ひとり暮らし世帯と三世帯世帯は2割台を占めている。（図表4-3-2）

【図表4-3-2 家族構成別 福祉の情報の入手方法】



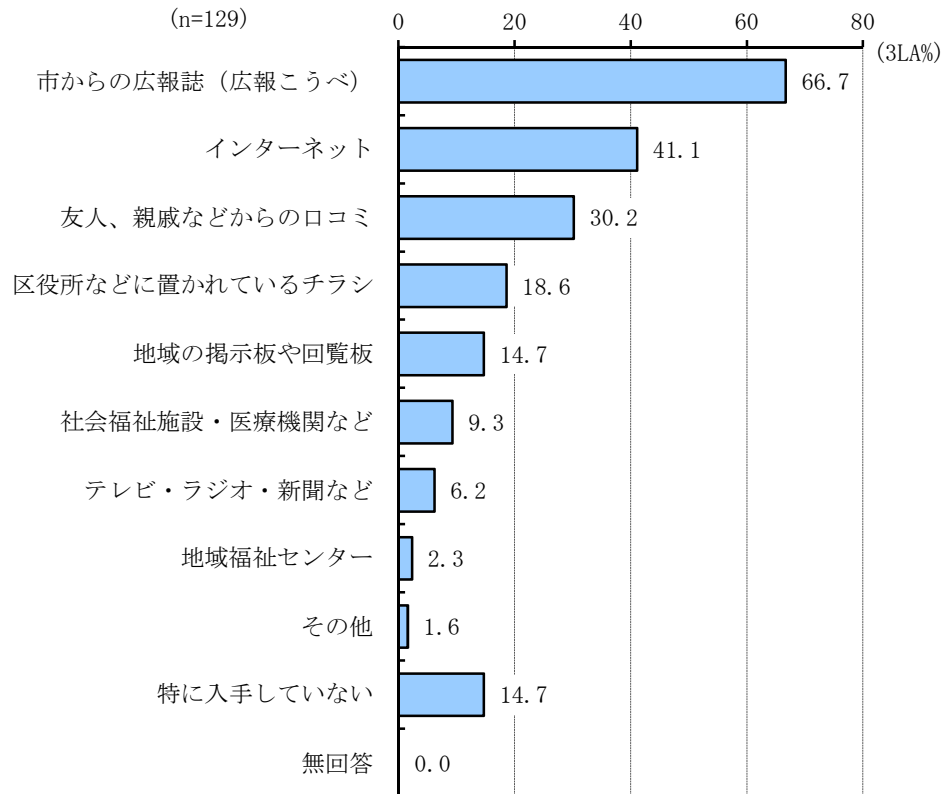
経済状況別でみると、経済状況にかかわらず「市からの広報誌（広報こうべ）」が5割以上で最も多くなっている。また、生活保護を受けている人は、「インターネット」（2.1%）が他に比べ低くなっているが、「区役所などに置かれているチラシ」（25.0%）と「地域福祉センター」（12.5%）は他に比べ高くなっている。（図表4-3-3）

【図表4-3-3 経済状況別 福祉の情報の入手方法】



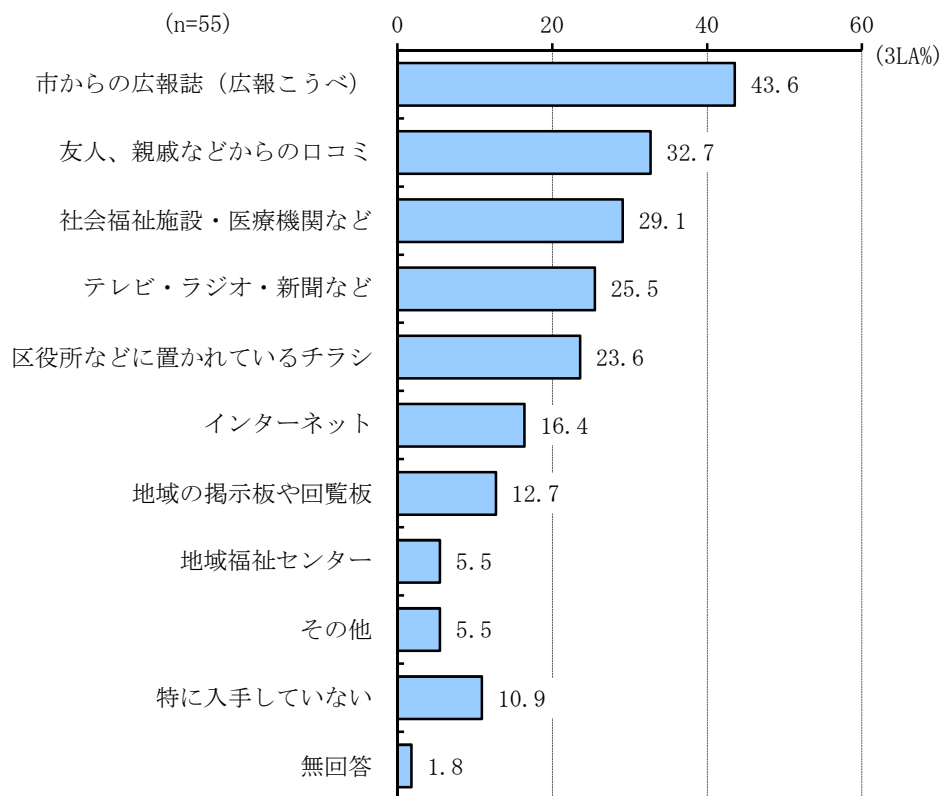
乳幼児の居る世帯のみでみると、「市からの広報誌（広報こうべ）」が66.7%で最も多く、次いで「インターネット」が41.1%、「友人、親戚などからの口コミ」が30.2%、「区役所などに置かれているチラシ」が18.6%、「地域の掲示板や回覧板」が14.7%となっている。（図表4-3-4）

【図表4-3-4 福祉の情報の入手方法（乳幼児の居る世帯のみ）】



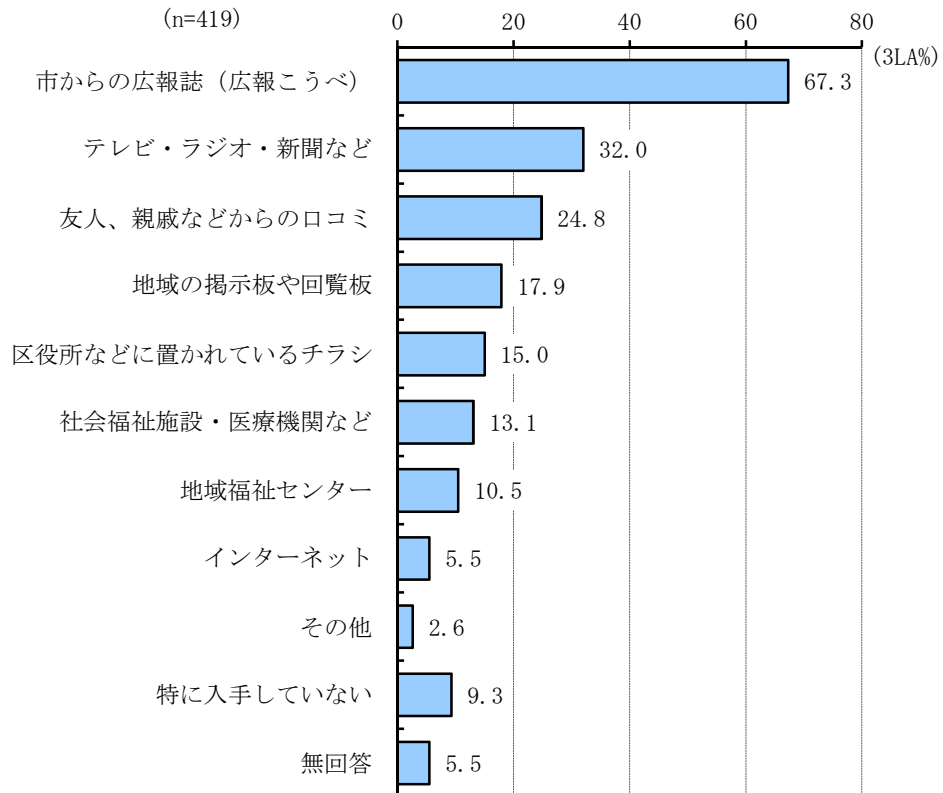
障がい者の居る世帯のみでみると、「市からの広報誌（広報こうべ）」が43.6%で最も多く、次いで「友人、親戚などからの口コミ」が32.7%、「社会福祉施設・医療機関など」が29.1%、「テレビ・ラジオ・新聞など」が25.5%、「区役所などに置かれているチラシ」が23.6%となっている。（図表4-3-5）

【図表4-3-5 福祉の情報の入手方法（障がい者の居る世帯のみ）】



75歳以上の高齢者の居る世帯のみでみると、「市からの広報誌（広報こうべ）」が67.3%で最も多く、次いで「テレビ・ラジオ・新聞など」が32.0%、「友人、親戚などからの口コミ」が24.8%、「地域の掲示板や回覧板」が17.9%、「区役所などに置かれているチラシ」が15.0%となっている。（図表4-3-6）

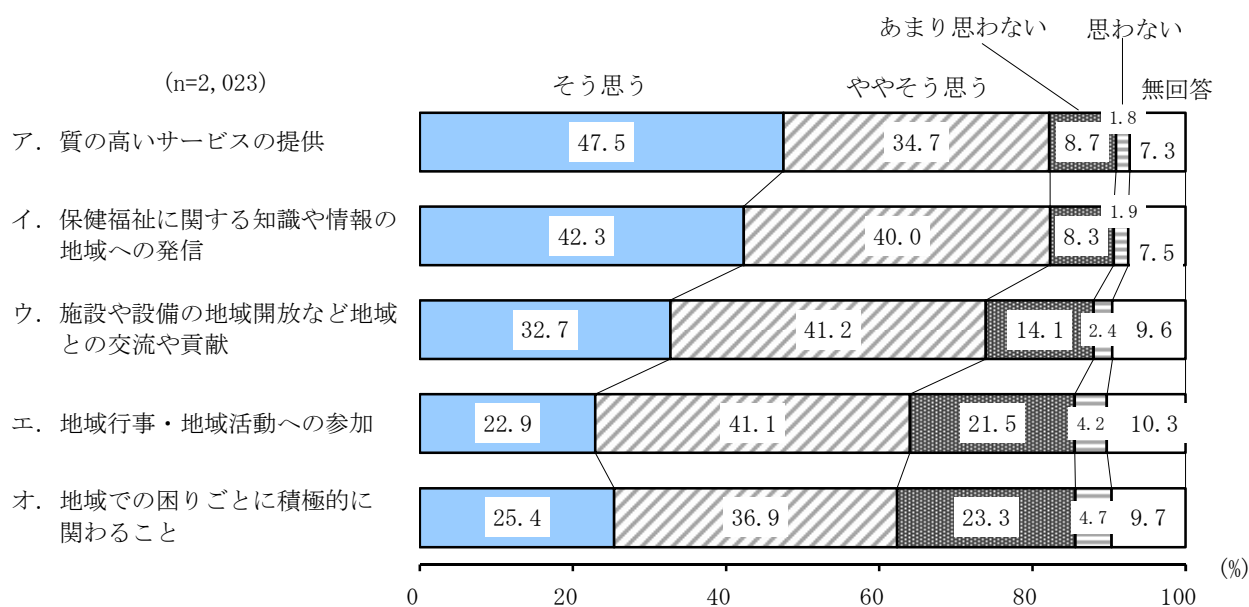
【図表4-3-6 福祉の情報の入手方法（75歳以上の高齢者の居る世帯のみ）】



(4) 事業者に期待すること

問17 保健福祉サービスを提供する事業者（老人ホーム、障がい者施設、保育所など）に、地域の福祉を充実するため、どのような役割を期待しますか。ア～オのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

【図表4-4 事業者に期待すること】

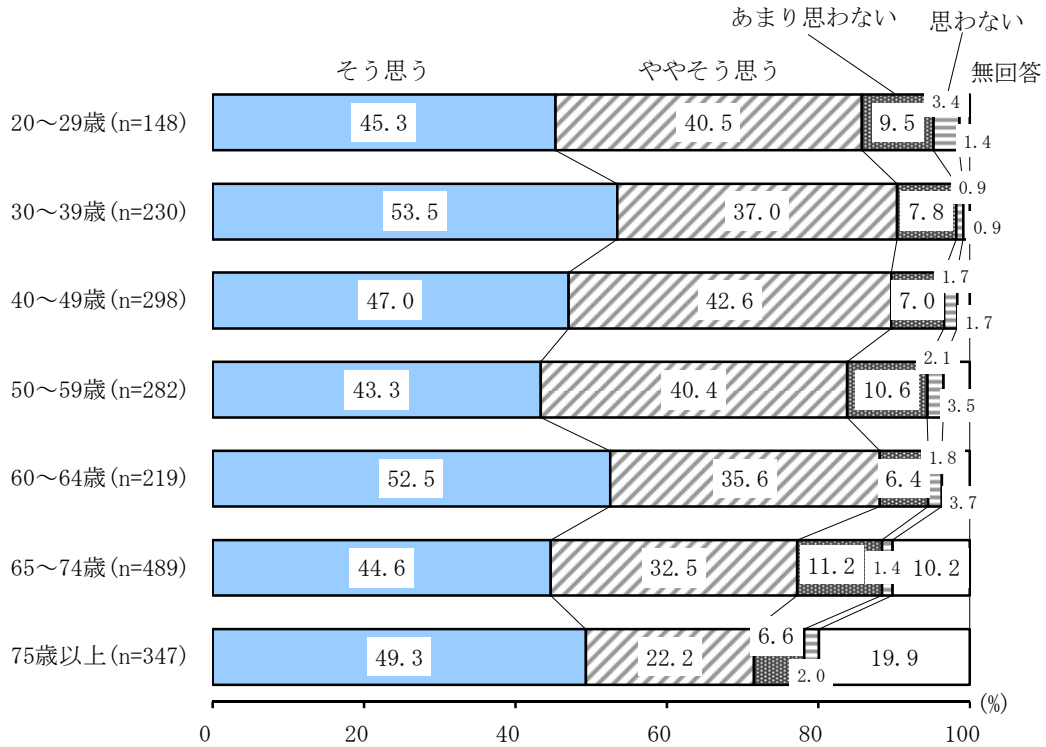


事業者に期待することについて、『そう思う』割合では、“ア. 質の高いサービスの提供”と“イ. 保健福祉に関する知識や情報の地域への発信”が82%台と高くなっており、続いて“ウ. 施設や設備の地域開放など地域との交流や貢献”が73.9%、“エ. 地域行事・地域活動への参加”（64.0%）と“オ. 地域での困りごとに積極的に関わること”（62.3%）は6割台で、それぞれ過半数を占めている。（図表4-4）

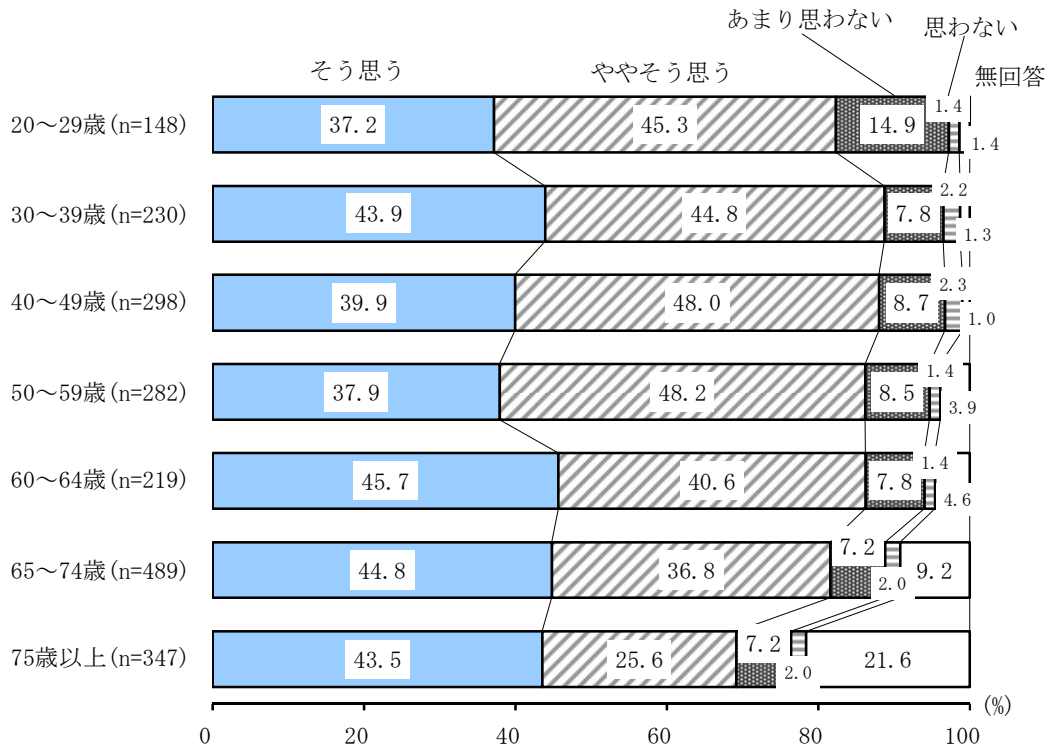
年齢別でみると、『そう思う』割合は、“ア. 質の高いサービスの提供”と“イ. 保健福祉に関する知識や情報の地域への発信”は30歳代～64歳の年代で高くなっているが、65歳以上になると低下傾向にある。“ウ. 施設や設備の地域開放など地域との交流や貢献”は30歳代・40歳代で高くなっているが、50歳以上になると低下傾向にある。“エ. 地域行事・地域活動への参加”と“オ. 地域での困りごとに積極的に関わること”では、30歳代が最も高くなっているが、40歳代以上になると低下傾向にある。（図表4-4-1）

【図表4-4-1 年齢別 事業者に期待すること①】

<ア. 質の高いサービスの提供>

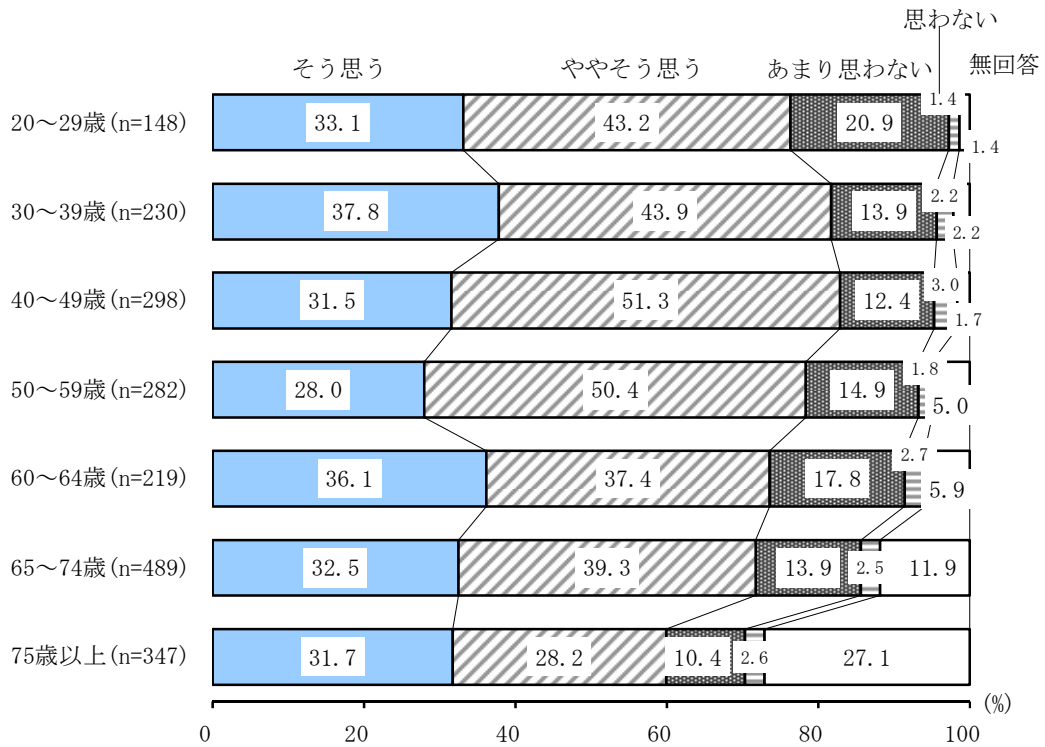


<イ. 保健福祉に関する知識や情報の地域への発信>

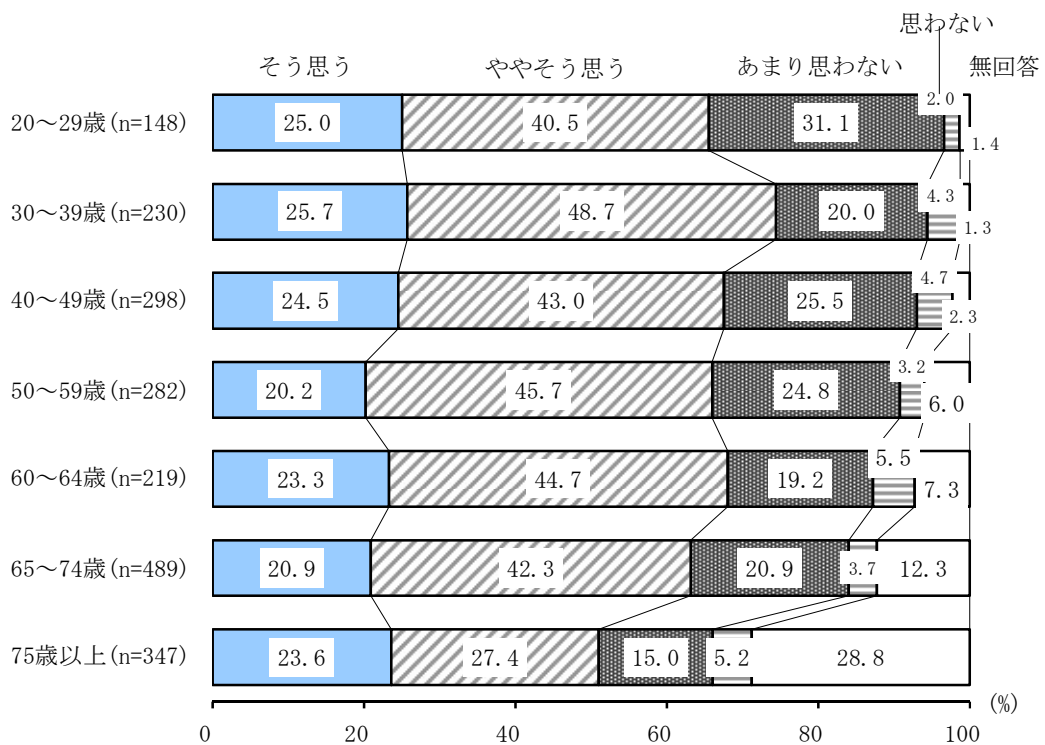


【図表4-4-1 年齢別 事業者に期待すること②】

<ウ. 施設や設備の地域開放など地域との交流や貢献>

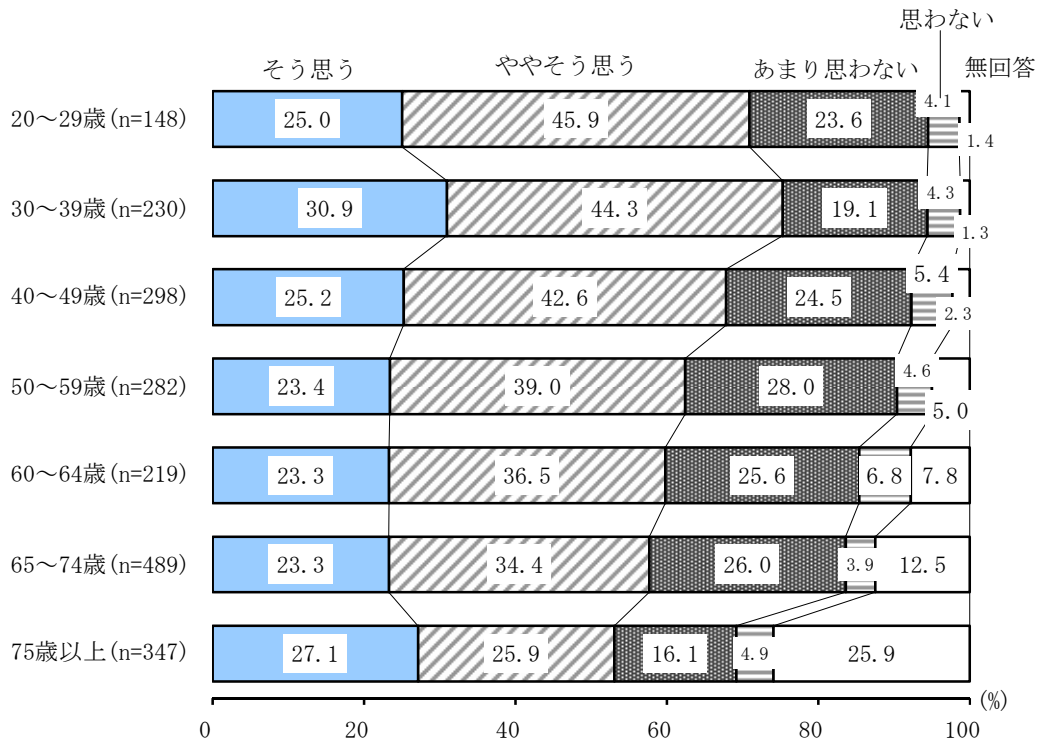


<エ. 地域行事・地域活動への参加>



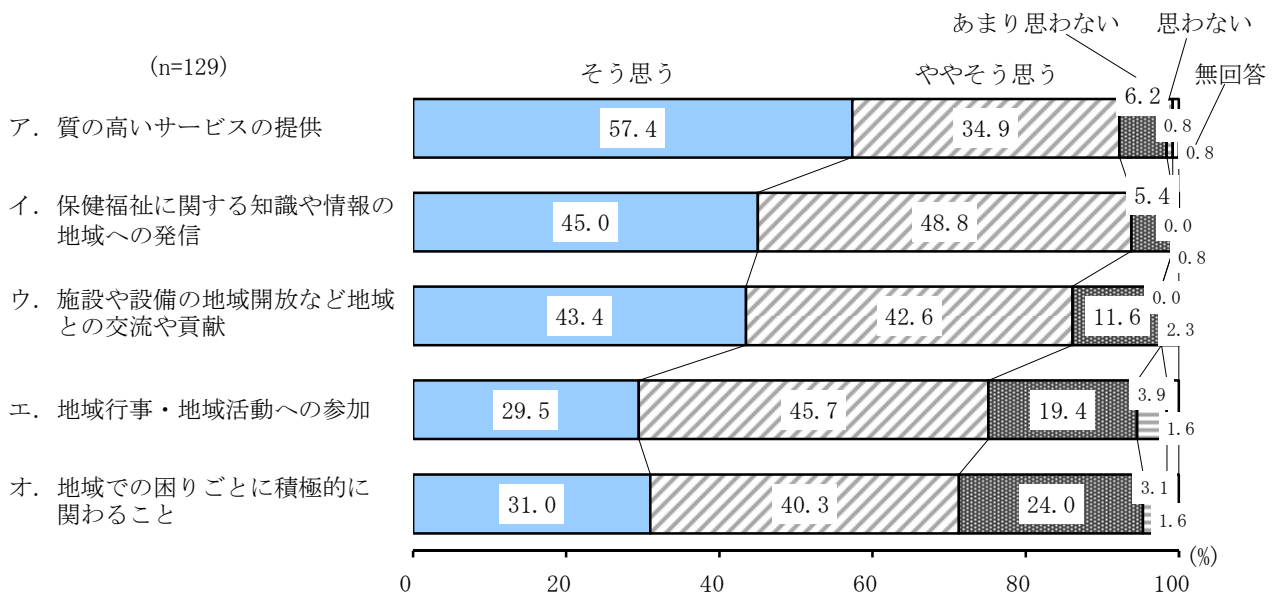
【図表4-4-1 年齢別 事業者に期待すること③】

<オ. 地域での困りごとに積極的に関わること>



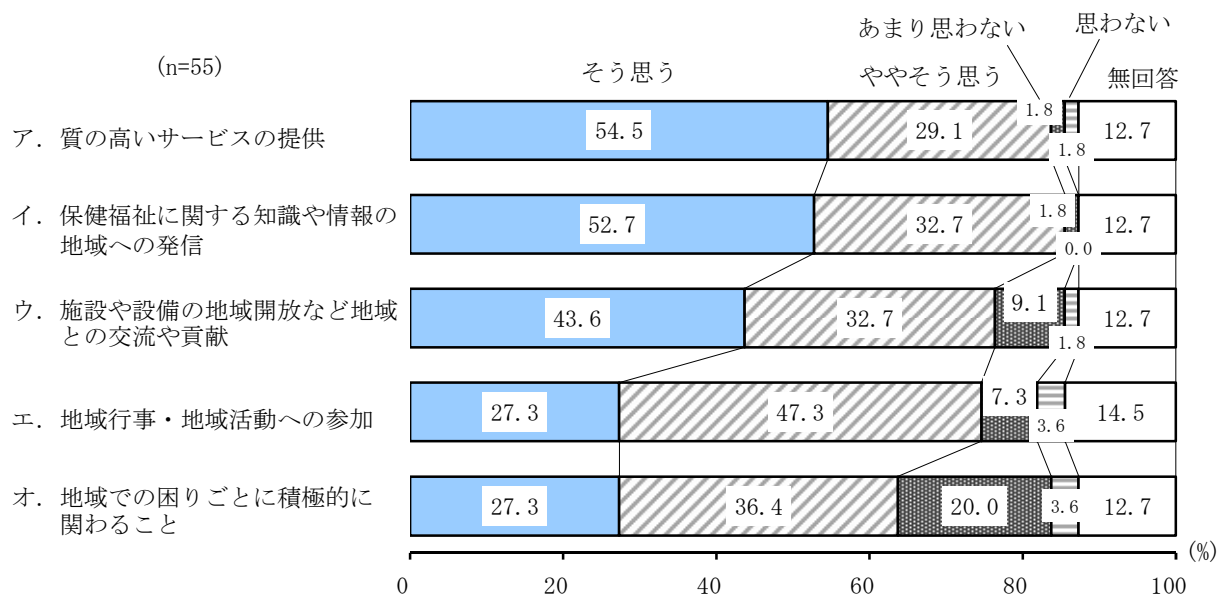
乳幼児の居る世帯のみで見ると、『そう思う』割合は、“ア. 質の高いサービスの提供”と“イ. 保健福祉に関する知識や情報の地域への発信”が9割台と高くなっており、続いて“ウ. 施設や設備の地域開放など地域との交流や貢献”が86.0%、“エ. 地域行事・地域活動への参加”が75.2%、“オ. 地域での困りごとに積極的に関わること”は71.3%となっている。(図表4-4-2)

【図表4-4-2 事業者に期待すること (乳幼児の居る世帯のみ)】



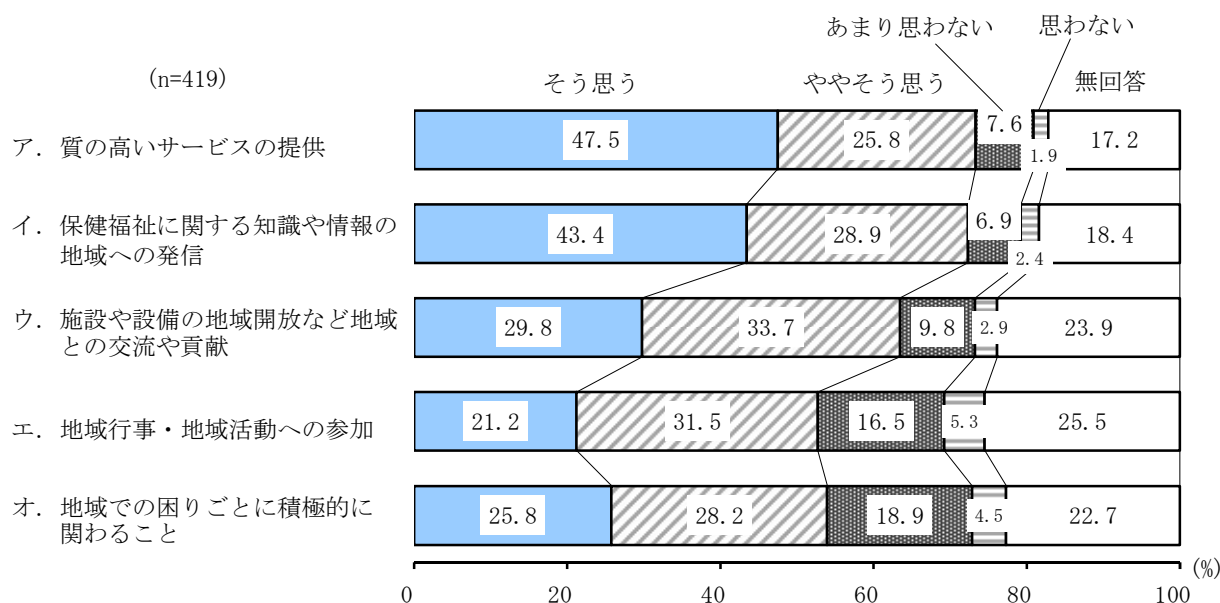
障がい者の居る世帯のみでみると、『そう思う』割合は、“イ. 保健福祉に関する知識や情報の地域への発信”が85.4%で最も高く、次いで“ア. 質の高いサービスの提供”が83.6%、“ウ. 施設や設備の地域開放など地域との交流や貢献”が76.3%、“エ. 地域行事・地域活動への参加”が74.6%となっており、“オ. 地域での困りごとに積極的に関わること”は63.7%と他の項目に比べ低くなっている。(図表4-4-3)

【図表4-4-3 事業者に期待すること（障がい者の居る世帯のみ）】



75歳以上の高齢者の居る世帯のみでみると、『そう思う』割合は、“ア. 質の高いサービスの提供”と“イ. 保健福祉に関する知識や情報の地域への発信”が7割強と高くなっており、続いて“ウ. 施設や設備の地域開放など地域との交流や貢献”が63.5%、“オ. 地域での困りごとに積極的に関わること”が54.0%、“エ. 地域行事・地域活動への参加”は52.7%となっている。(図表4-4-4)

【図表4-4-4 事業者に期待すること（75歳以上の高齢者の居る世帯のみ）】

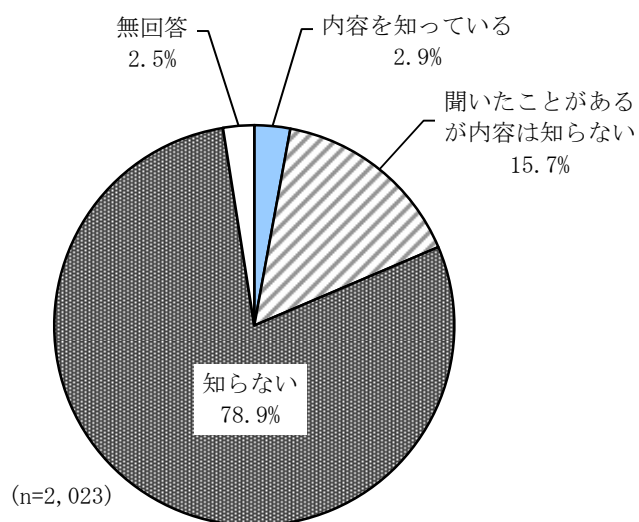


5. 災害時に備えた地域での助け合いについて

(1) 災害時の要援護者支援の手続きに関する周知度

問18 あなたは、平成25年4月に神戸市で制定された条例により、要援護者の支援に取り組む地域団体が、要援護者の個人情報を平常時から入手する際の手続きなどが定められたことをご存じですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

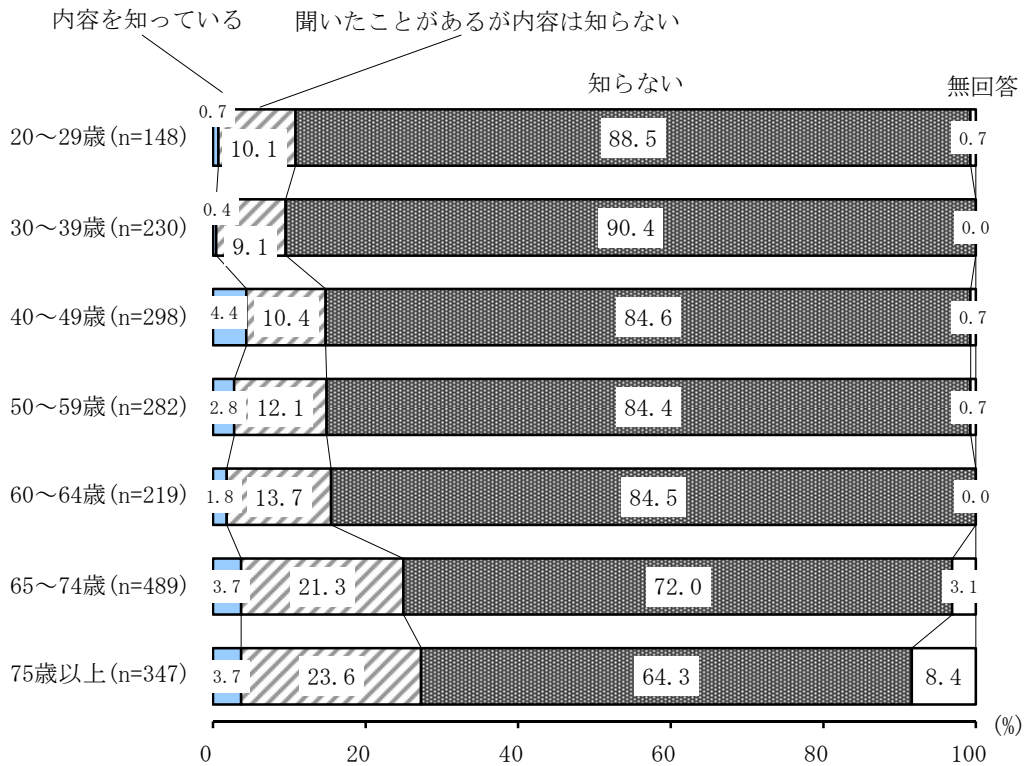
【図表5-1 災害時の要援護者支援の手続きに関する周知度】



災害時の要援護者支援の手続きに関する周知度では、「知らない」が78.9%で最も多く、次いで「聞いたことがあるが内容は知らない」が15.7%、「内容を知っている」は2.9%となっている。(図表5-1)

年齢別でみると、「内容を知っている」が、40歳代で4.4%と最も高く、次いで65～74歳と75歳以上がともに3.7%、50歳代が2.8%となっている。「聞いたことがあるが内容は知らない」では、年代が上がるほど上昇傾向にあり、65歳以上になると2割台を占めている。(図表5-1-1)

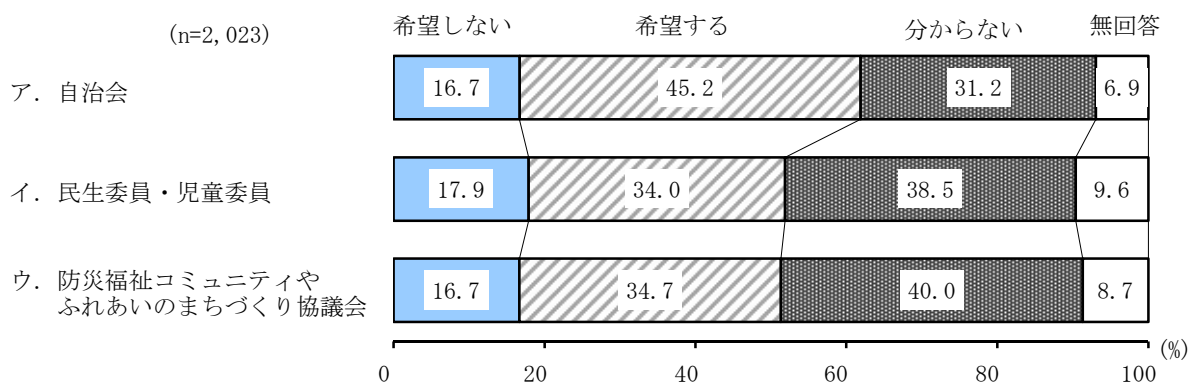
【図表5-1-1 年齢別 災害時の要援護者支援の手続きに関する周知度】



(2) 災害時の家族情報の提供先

問19 災害時に地域の方から避難などの支援を受けるため、あなたやあなたのご家族の情報を、以下の団体に提供することをどの程度希望しますか。ア～ウのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

【図表5-2 災害時の家族情報の提供先】

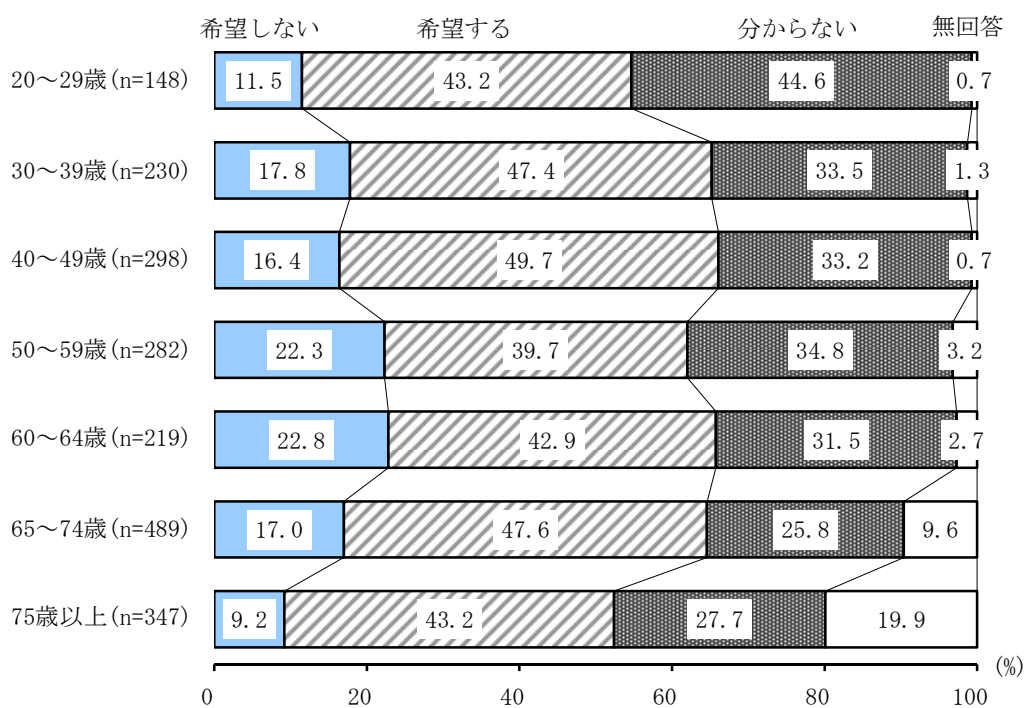


災害時の家族情報の提供先について、「希望する」は、「ア. 自治会」が45.2%で最も高く、「イ. 民生委員・児童委員」(34.0%)と「ウ. 防災福祉コミュニティやふれあいのまちづくり協議会」(34.7%)は34%台となっている。一方、「希望しない」は、各項目で16～17%台となっている。(図表5-2)

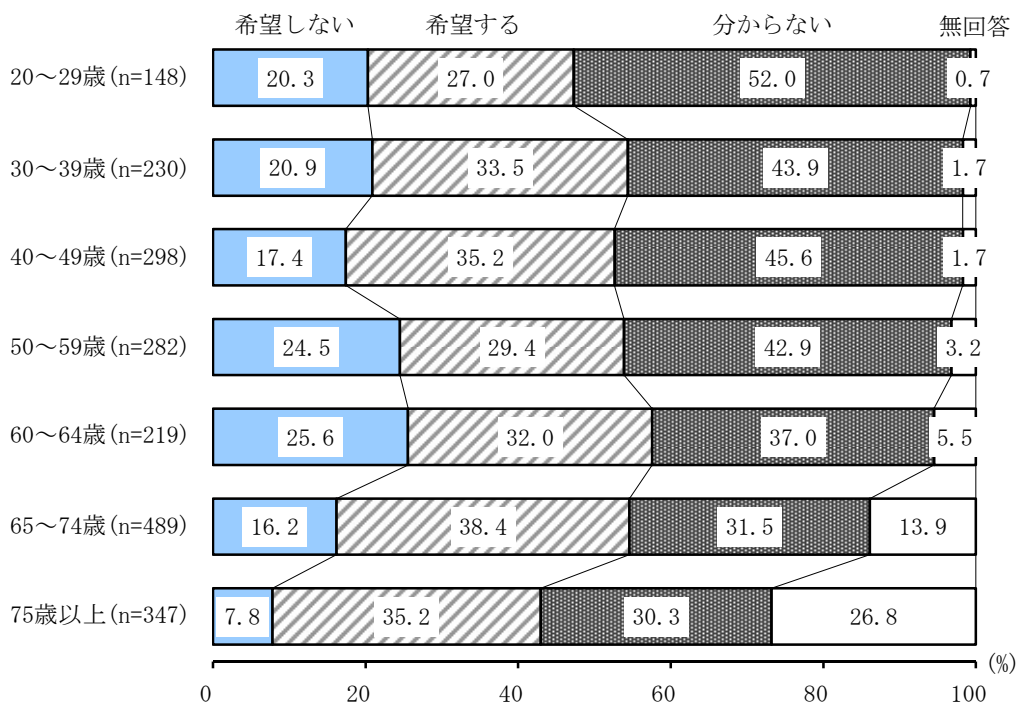
年齢別でみると、「ア. 自治会」に「希望する」は、30歳代・40歳代、65～75歳で5割弱を占めている。「イ. 民生委員・児童委員」に「希望する」は、65～74歳が38.4%で最も高く、次いで40歳代と75歳以上はともに35.2%となっている。「ウ. 防災福祉コミュニティやふれあいのまちづくり協議会」に「希望する」は、65～74歳が41.9%で最も高く、次いで75歳以上が36.0%、20歳代が35.8%となっている。一方、「希望しない」は、いずれの提供先も50歳代～64歳の年代で高くなっている。(図表5-2-1)

【図表5-2-1 年齢別 災害時の家族情報の提供先①】

<ア. 自治会>

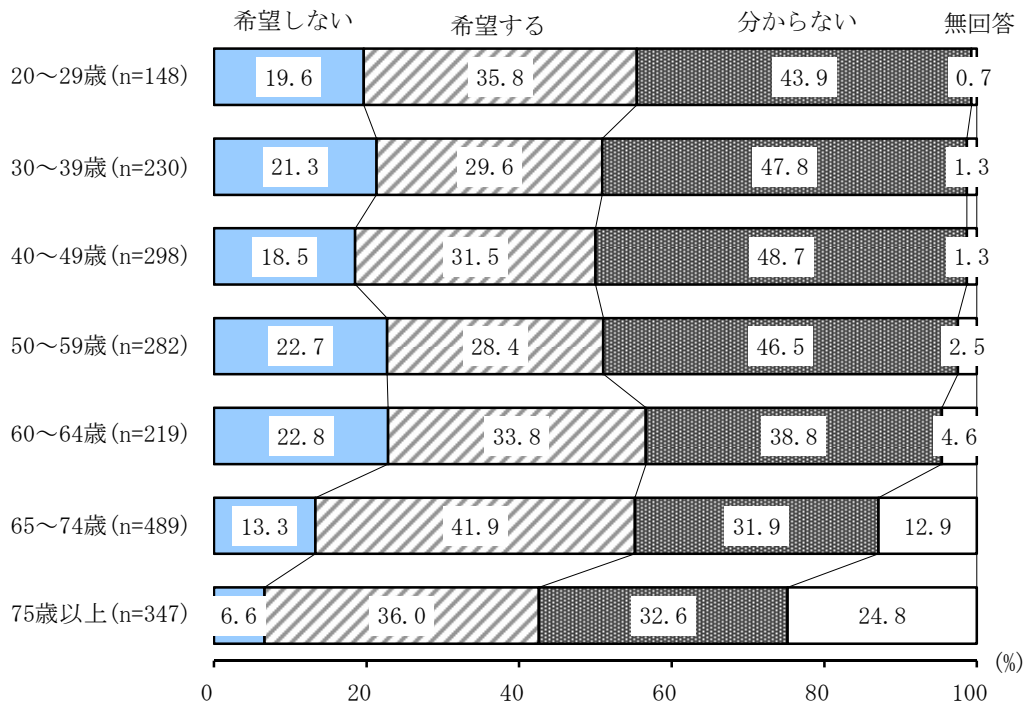


<イ. 民生委員・児童委員>



【図表5-2-1 年齢別 災害時の家族情報の提供先②】

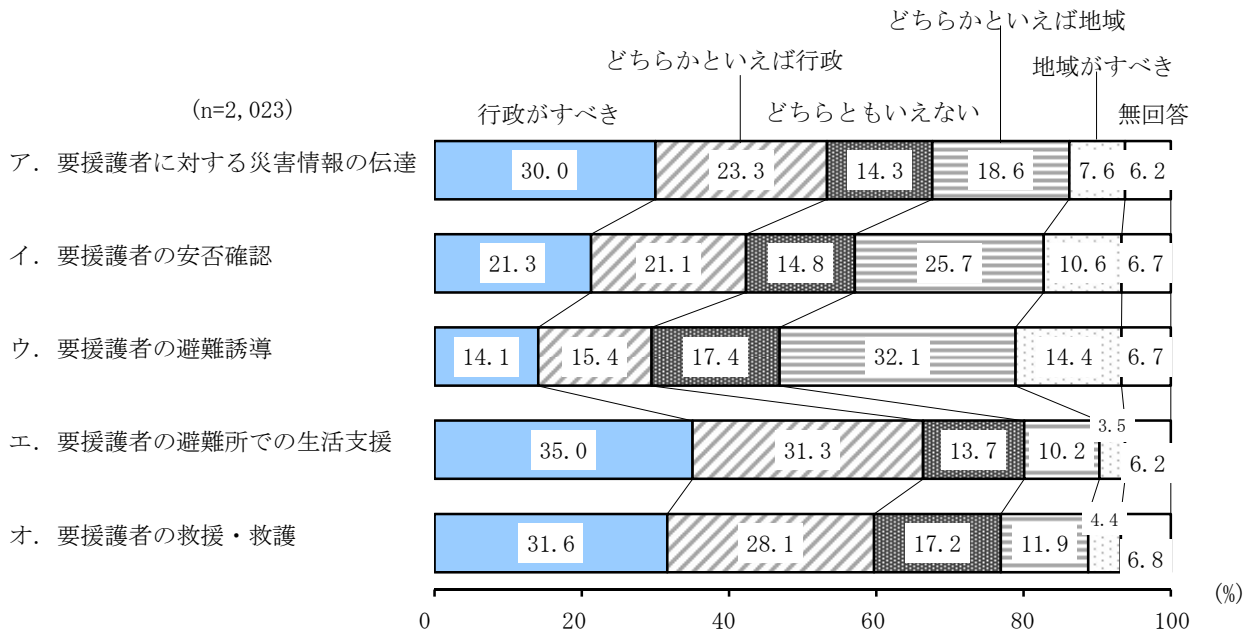
<ウ. 防災福祉コミュニティやふれあいのまちづくり協議会>



(3) 災害時の役割に対する考え方

問20 災害時に地域団体又は行政が主体的に担うべきことはどのような項目と考えますか。ア～オのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

【図表5-3 災害時の役割に対する考え方】

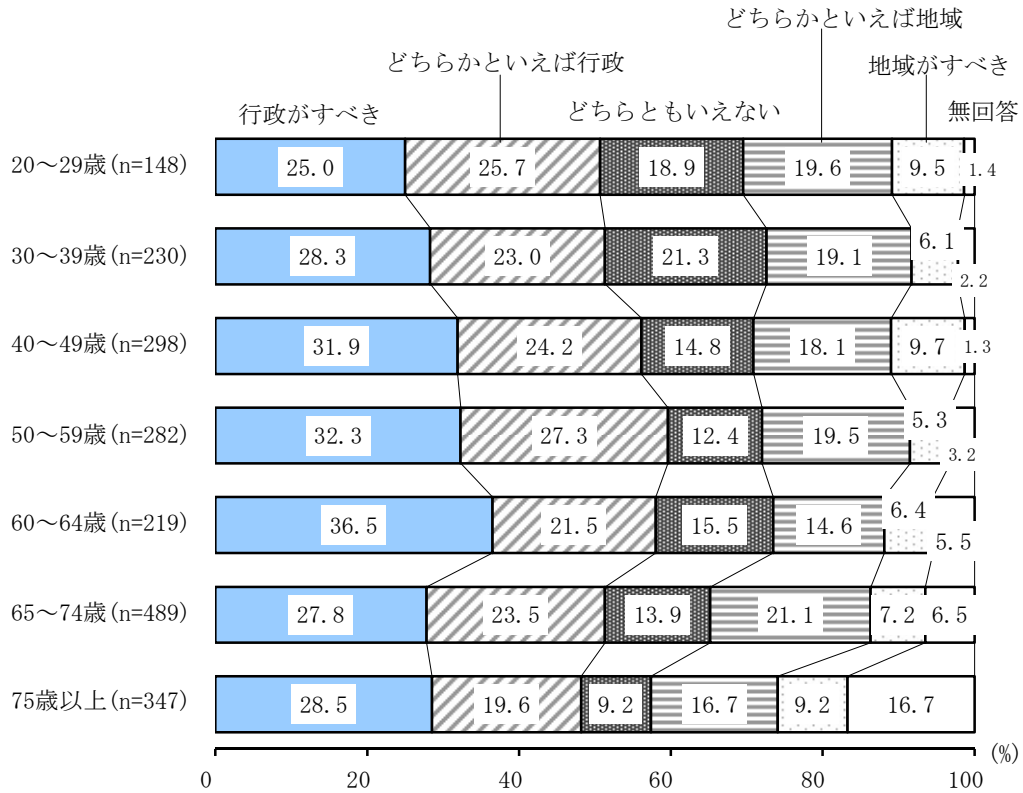


災害時の役割に対する考え方について、「行政がすべき」と「どちらかといえば行政」を合わせた『行政がすべき』割合と、「どちらかといえば地域」と「地域がすべき」を合わせた『地域がすべき』割合を比較すると、『行政がすべき』割合のほうが高い項目は“ア. 要援護者に対する災害情報の伝達”（53.3%），“イ. 要援護者の安否確認”（42.4%），“エ. 要援護者の避難所での生活支援”（66.3%），“オ. 要援護者の救援・救護”（59.7%）となっており、なかでも“エ. 要援護者の避難所での生活支援”が最も高くなっている。一方、『地域がすべき』割合のほうが高い項目は“ウ. 要援護者の避難誘導”（46.5%）となっている。（図表5-3）

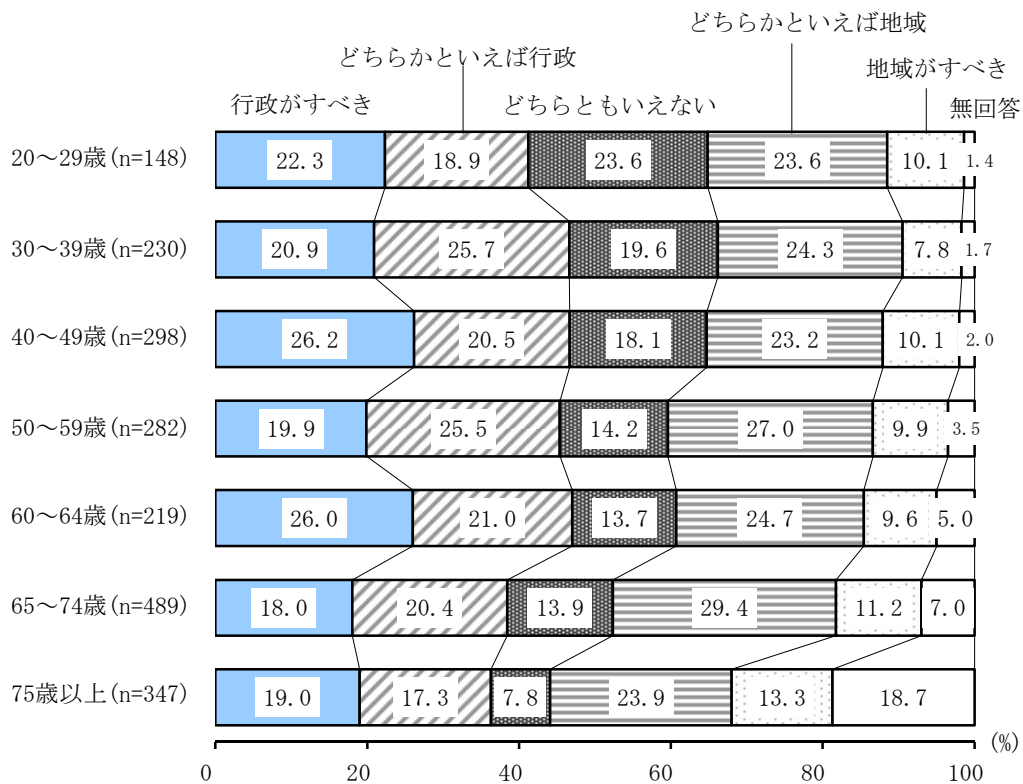
年齢別でみると、“ア. 要援護者に対する災害情報の伝達”は、『行政がすべき』割合で40歳代～64歳の年代が他の年代に比べ高くなっている。“イ. 要援護者の安否確認”は20歳代～64歳の年代で『行政がすべき』割合が高くなっているが、65歳以上になると『地域がすべき』割合のほうが高くなっている。“ウ. 要援護者の避難誘導”は、『地域がすべき』割合で20歳代が56.7%と最も高くなっているが、『行政がすべき』割合をみると50歳代と60～64歳がともに35%台で他の年代に比べ高くなっている。“エ. 要援護者の避難所での生活支援”は、『行政がすべき』割合で20歳代が75.0%と最も高くなっている。“オ. 要援護者の救援・救護”では『行政がすべき』割合が50歳代で65.9%と最も高く、次いで30歳代が64.4%となっている。（図表5-3-1）

【図表5-3-1 年齢別 災害時の役割に対する考え方①】

<ア. 要援護者に対する災害情報の伝達>

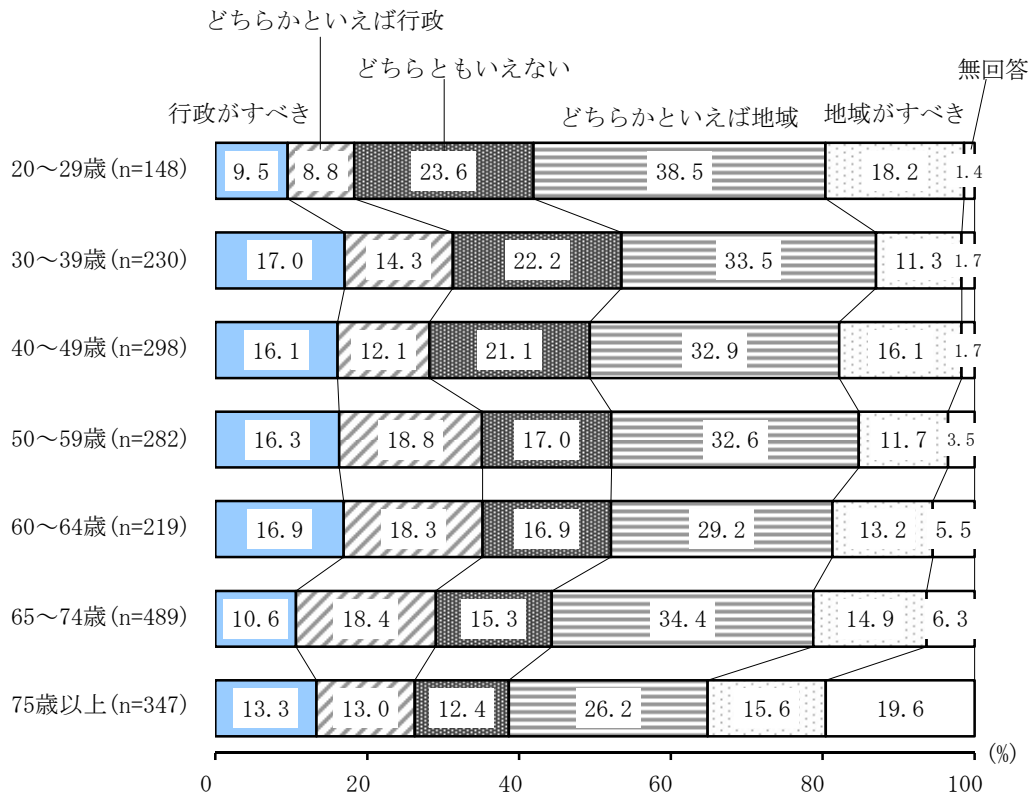


<イ. 要援護者の安否確認>

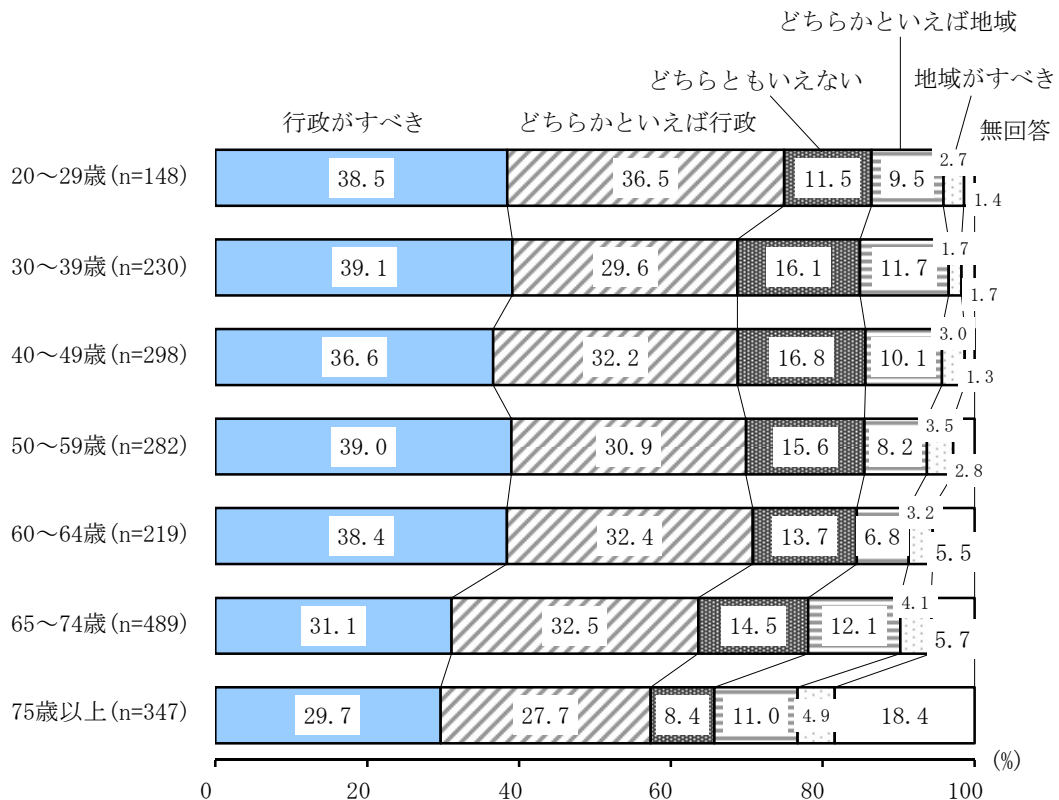


【図表5-3-1 年齢別 災害時の役割に対する考え方②】

<ウ. 要援護者の避難誘導>

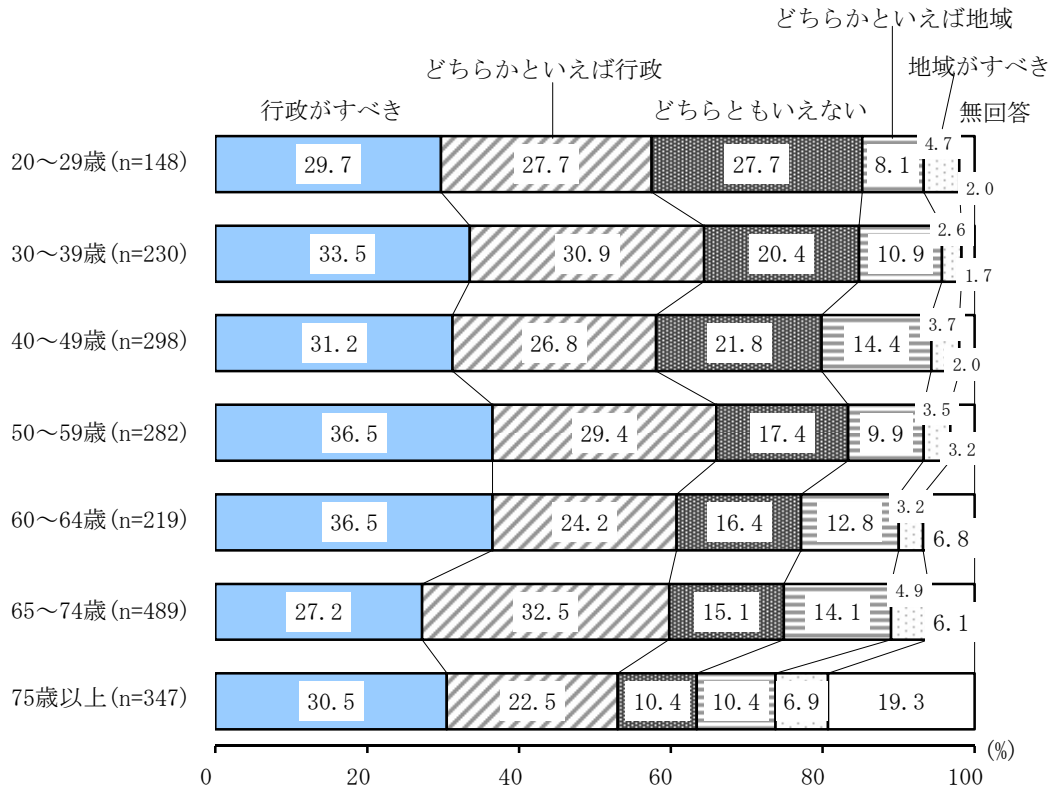


<エ. 要援護者の避難所での生活支援>



【図表5-3-1 年齢別 災害時の役割に対する考え方③】

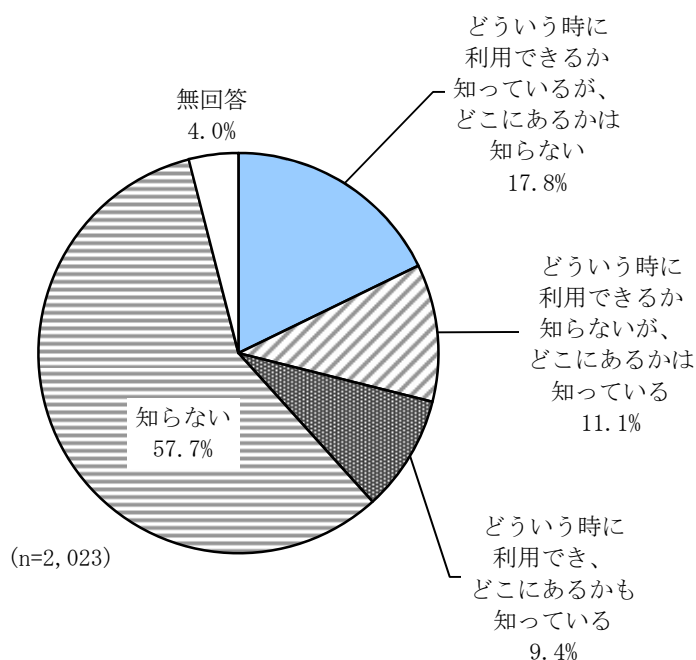
<オ. 要援護者の救援・救護>



(4) 福祉避難所の周知度

問21 福祉避難所についてご存知ですか。あてはまるもの1つ選んで、番号に○をつけてください。

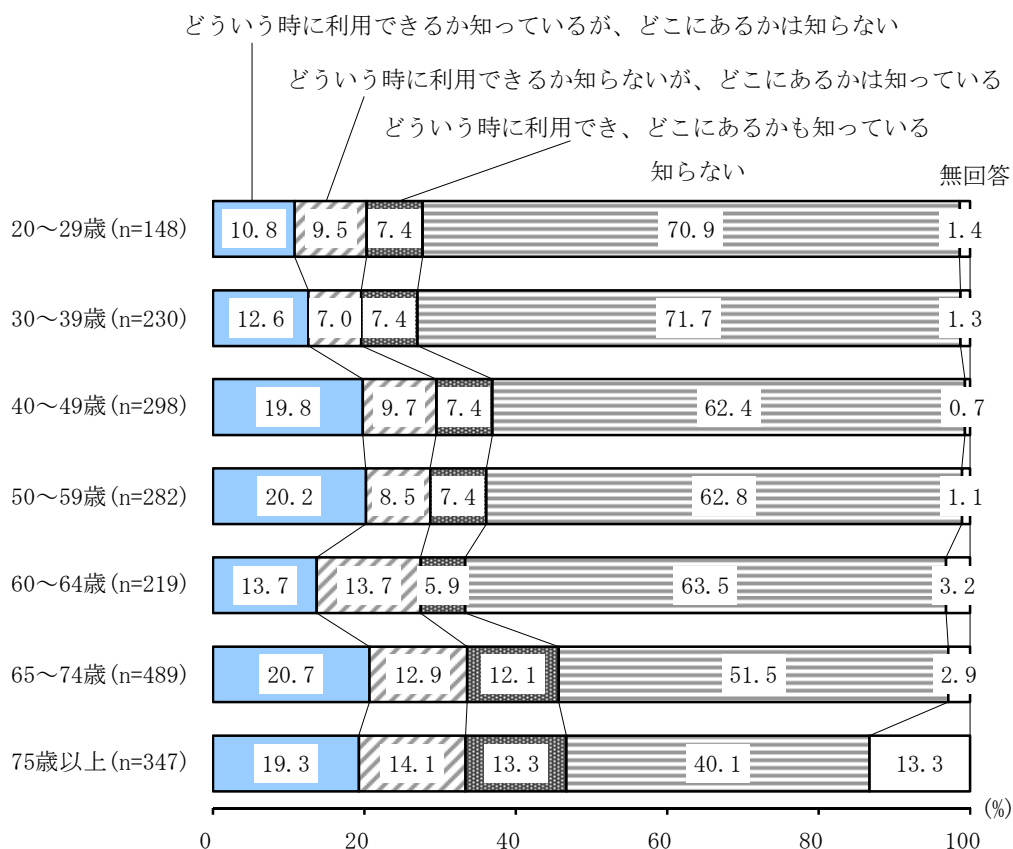
【図表5-4 福祉避難所の周知度】



福祉避難所の周知度では、「どういう時に利用でき、どこにあるかも知っている」は9.4%と1割にも満たない。また、「どういう時に利用できるか知っているが、どこにあるかは知らない」は17.8%、「どういう時に利用できるか知らないが、どこにあるかは知っている」は11.1%となっており、どういう時に利用できるか知っている割合は27.2%、どこにあるか知っている割合は20.5%となっている。一方、「知らない」は57.7%と高くなっている。(図表5-4)

年齢別でみると、「どういう時に利用できるか知っている、どこにあるかも知っている」は20歳代～64歳の年代で1割未満となっているが、65歳以上になると1割台に上昇している。また、「どういう時に利用できるか知っているが、どこにあるかは知らない」は40歳代や50歳代、65歳以上の年代で2割前後となっており、「どういう時に利用できるか知らないが、どこにあるかは知っている」では60歳以上になると1割台に上昇している。(図表5-4-1)

【図表5-4-1 年齢別 福祉避難所の周知度】

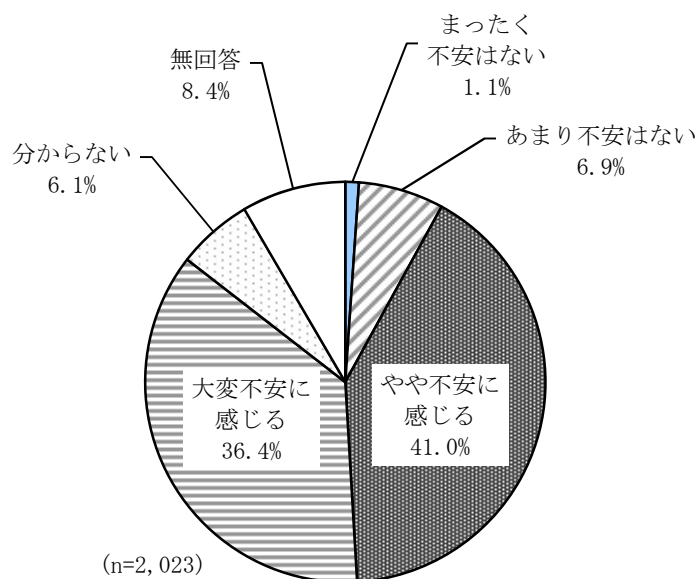


6. 医療について

(1) 在宅療養への不安の程度

問22 あなたが医療と介護が必要な状態となった場合、在宅療養に不安を感じると思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

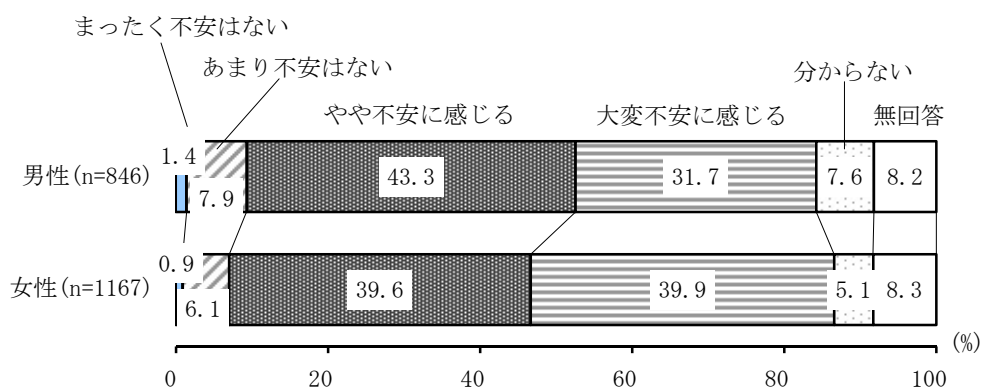
【図表6-1 在宅療養への不安の程度】



在宅療養への不安の程度では、「やや不安を感じる」が41.0%で最も多く、次いで「大変不安を感じる」が36.4%となっており、両者を合わせた『不安を感じる』割合は77.4%を占めている。一方、「まったく不安はない」(1.1%)と「あまり不安はない」(6.9%)を合わせた『不安はない』割合は8.0%と1割にも満たない。(図表6-1)

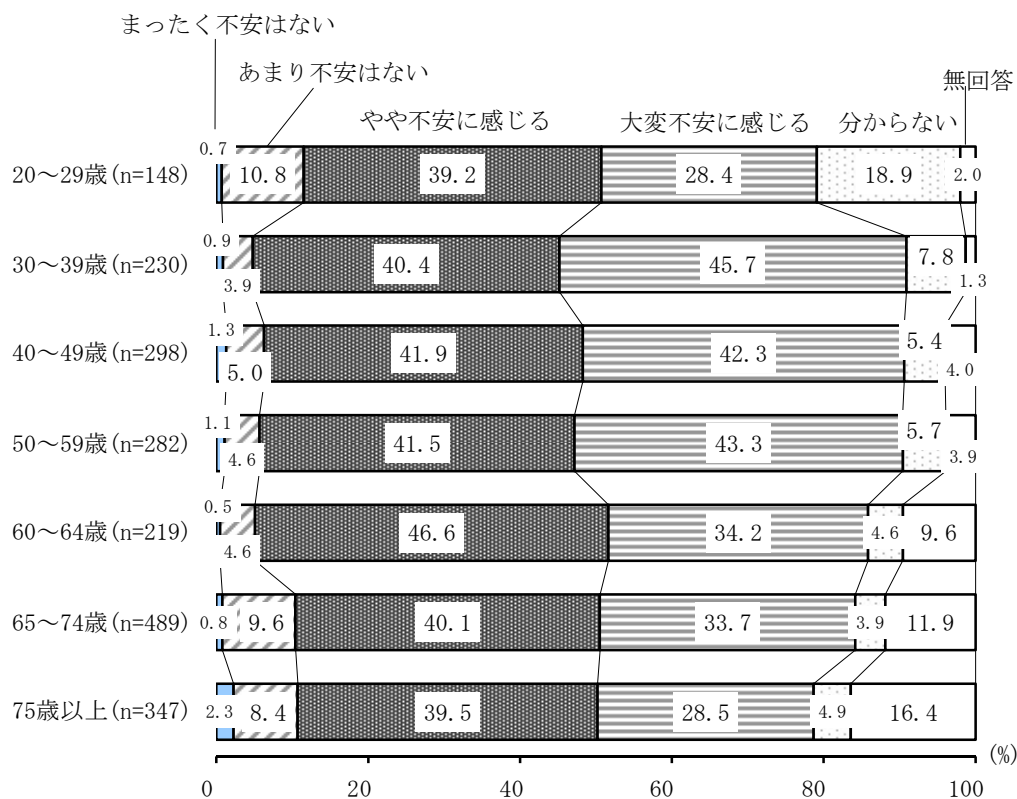
性別でみると、『不安はない』割合が男性9.3%、女性7.0%で、男性のほうが2.3ポイント高くなっている。一方、『不安を感じる』割合は男女とも7割台を占めており、女性のほうが4.5ポイント高くなっている。(図表6-1-1)

【図表6-1-1 性別 在宅療養への不安の程度】



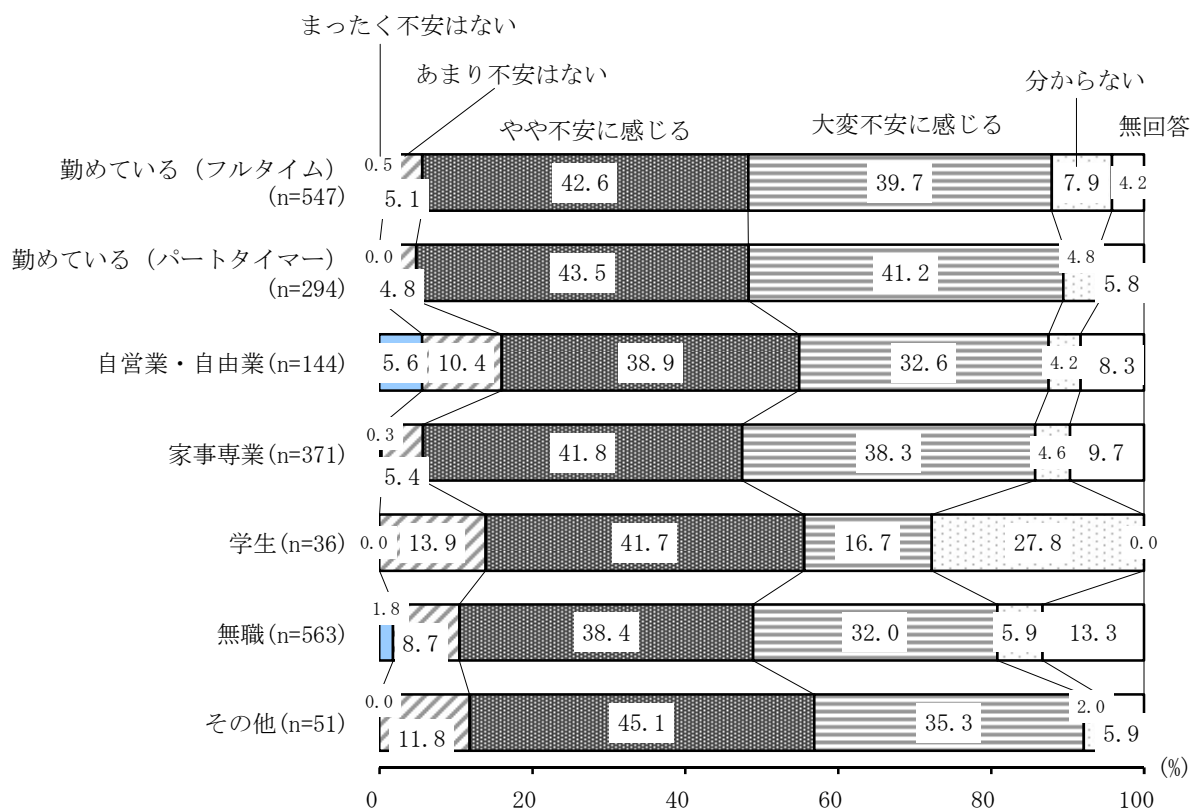
年齢別でみると、『不安はない』割合は、20歳代が11.5%で最も高く、次いで75歳以上が10.7%、65～74歳が10.4%となっている。一方、『不安を感じる』割合では、30歳代が86.1%で最も高く、40歳代・50歳代はともに84%台と高くなっている。(図表6-1-2)

【図表6-1-2 年齢別 在宅療養への不安の程度】



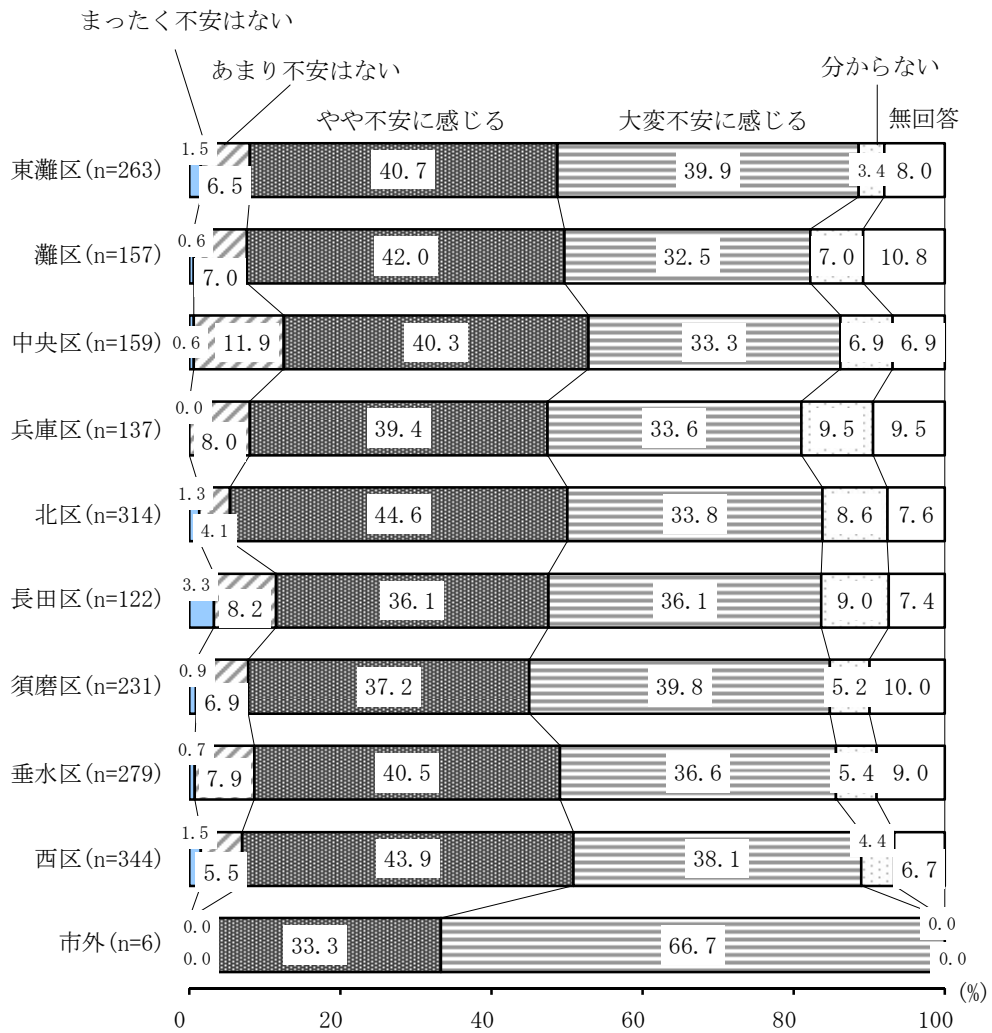
職業別でみると、『不安はない』割合は、自営業・自由業が16.0%で最も高く、次いで学生で13.9%、無職で10.5%となっている。一方、『不安を感じる』割合では、パートタイマーが84.7%で最も高く、次いでフルタイム就労者が82.3%、家事専業が80.1%となっている。(図表6-1-3)

【図表6-1-3 職業別 在宅療養への不安の程度】



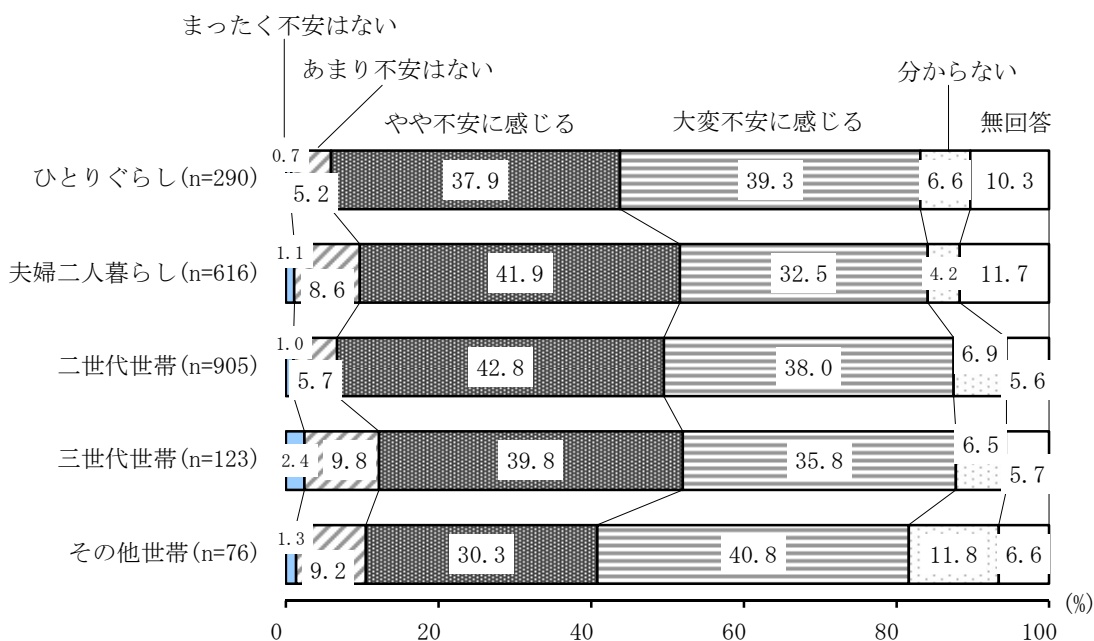
居住区別でみると、『不安はない』割合は、中央区が12.5%で最も高く、次いで長田区が11.5%となっている。一方、『不安を感じる』割合では、西区が82.0%で最も高く、次いで東灘区が80.6%、北区が78.4%となっている。(図表6-1-4)

【図表6-1-4 居住区別 在宅療養への不安の程度】



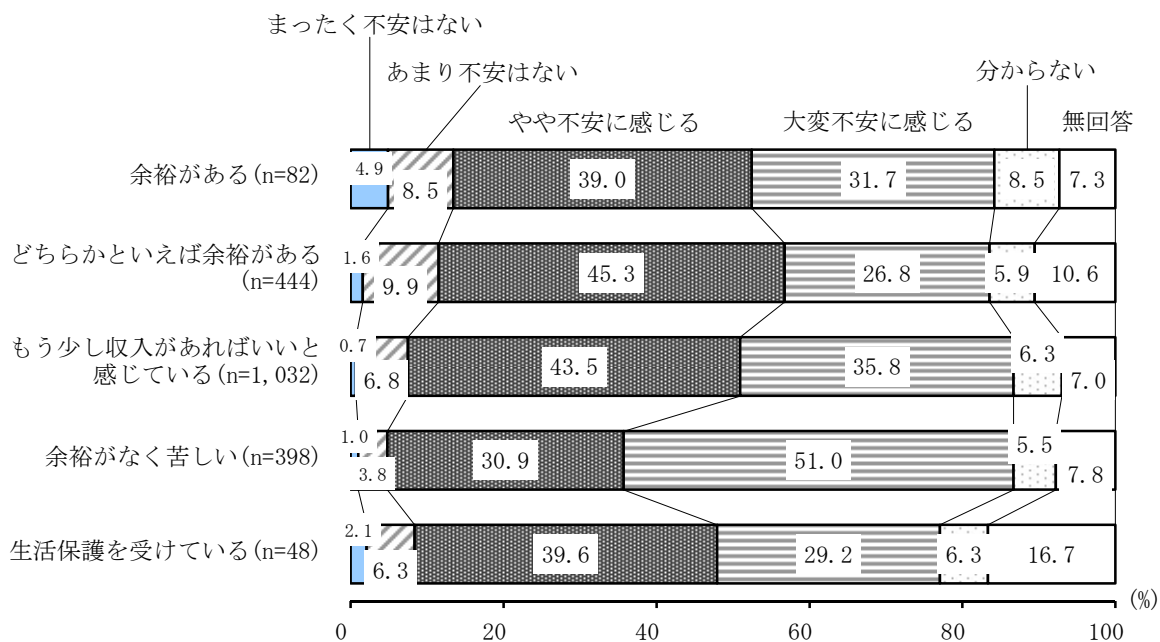
家族構成別でみると、『不安はない』割合は、三世帯世帯が12.2%で最も高く、次いで夫婦二人暮らし世帯が9.7%、二世帯世帯が6.7%、ひとりぐらし世帯は5.9%となっている。一方、『不安を感じる』割合では、二世帯世帯が80.8%で最も高く、他の世帯は7割台となっている。(図表6-1-5)

【図表6-1-5 家族構成別 在宅療養への不安の程度】



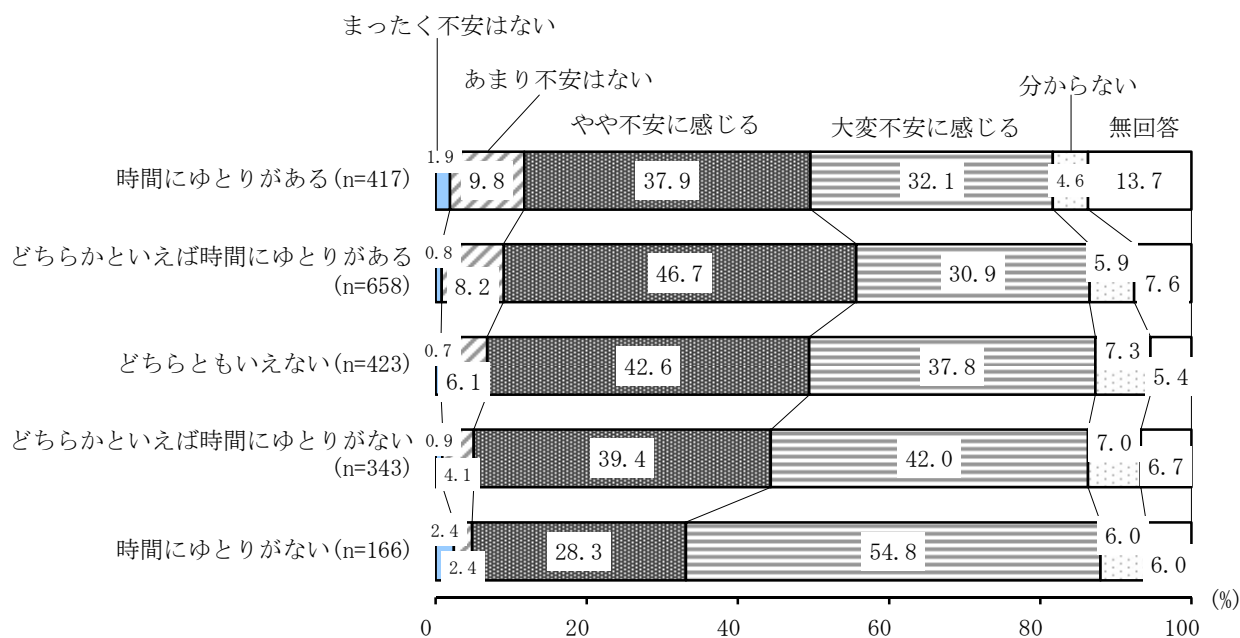
経済状況別でみると、『不安はない』割合は、経済的に余裕がある人ほど高くなっており、余裕がある人は13.4%となっている。一方、『不安を感じる』割合では、経済的に苦しい人ほど高くなっており、余裕がなく苦しい人は81.9%を占めている。(図表6-1-6)

【図表6-1-6 経済状況別 在宅療養への不安の程度】



時間的なゆとり状況別でみると、『不安はない』割合は、時間的なゆとりがある人ほど高くなっており、時間にゆとりがある人は11.7%となっている。一方、『不安を感じる』割合では、時間的なゆとりがない人ほど高くなっており、時間にゆとりがない人は83.1%を占めている。(図表6-1-7)

【図表6-1-7 時間的なゆとり状況別 在宅療養への不安の程度】

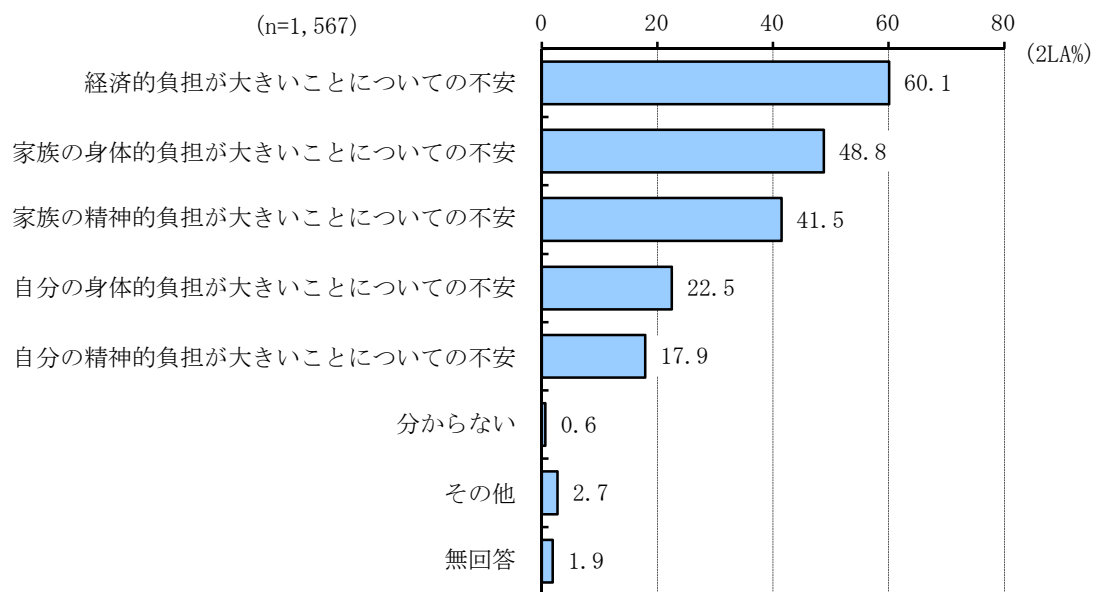


(2) 不安の内容

問22-1 【問22で「3. やや不安を感じる」または「4. 大変不安を感じる」とお答えした方におたずねします。】

具体的にどのような不安を感じておられますか。主なものを2つまで○をつけてください。

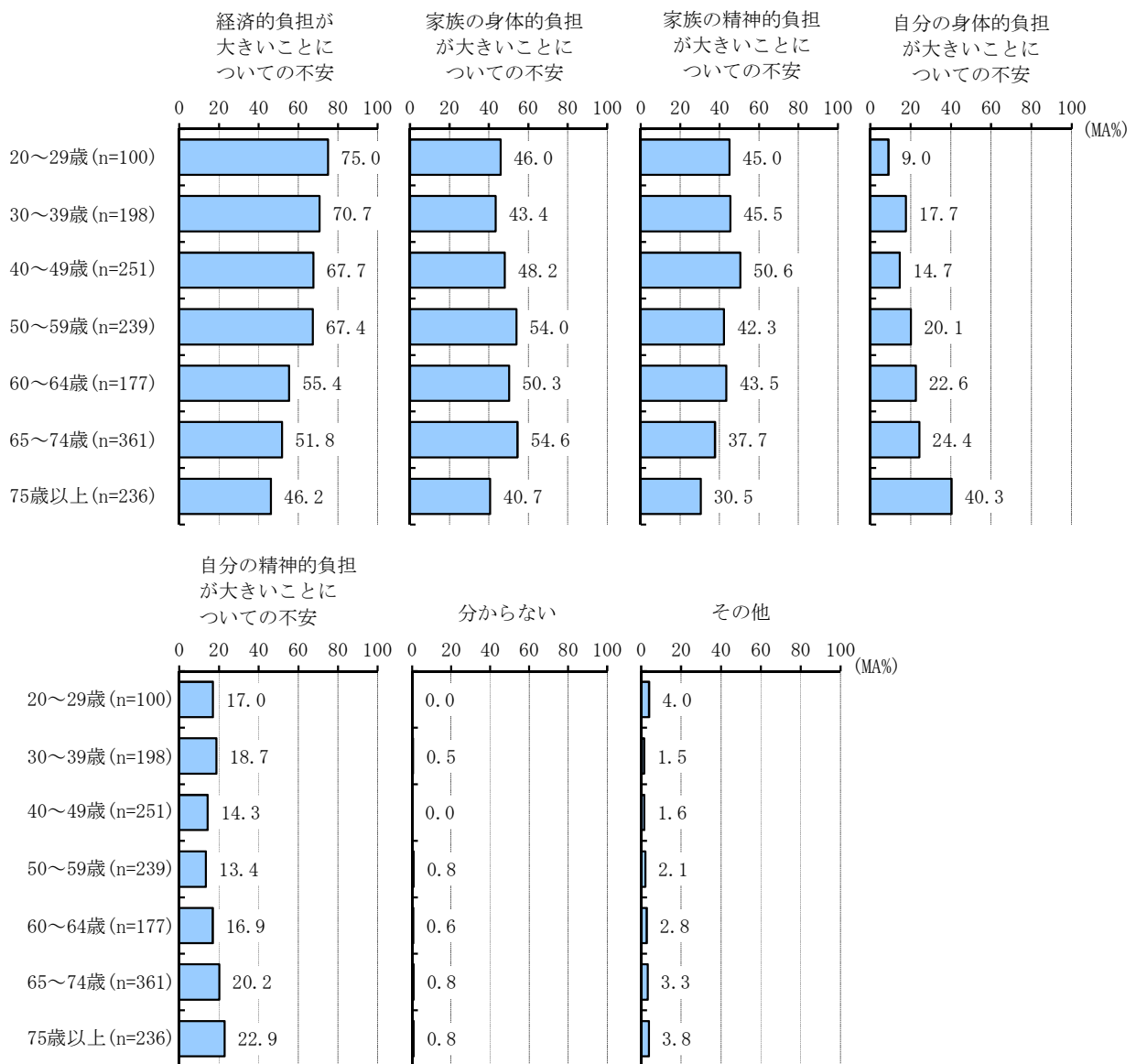
【図表6-2 不安の内容】



在宅療養に対して不安を感じるに回答した人に、その内容をたずねると、「経済的負担が大きいことについての不安」が60.1%で最も多くなっている。これに次いで「家族の身体的負担が大きいことについての不安」が48.8%、「家族に精神的負担が大きいことについての不安」が41.5%と続いており、自分より家族のほうを心配する傾向が高くなっている。(図表6-2)

年齢別でみると、20歳代～64歳の年代と75歳以上は「経済的負担が大きいことについての不安」が最も多く、年代が上がるほど低下傾向にある。65～74歳では「家族の身体的負担が大きいことについての不安」が54.6%で最も多くなっている。また、「自分の身体的負担が大きいことについての不安」と「自分の精神的負担が大きいことについての不安」は年代が上がるほど上昇傾向にあり、なかでも75歳以上の「自分の身体的負担が大きいことについての不安」は40.3%と高くなっている。(図表6-2-1)

【図表6-2-1 年齢別 不安の内容】

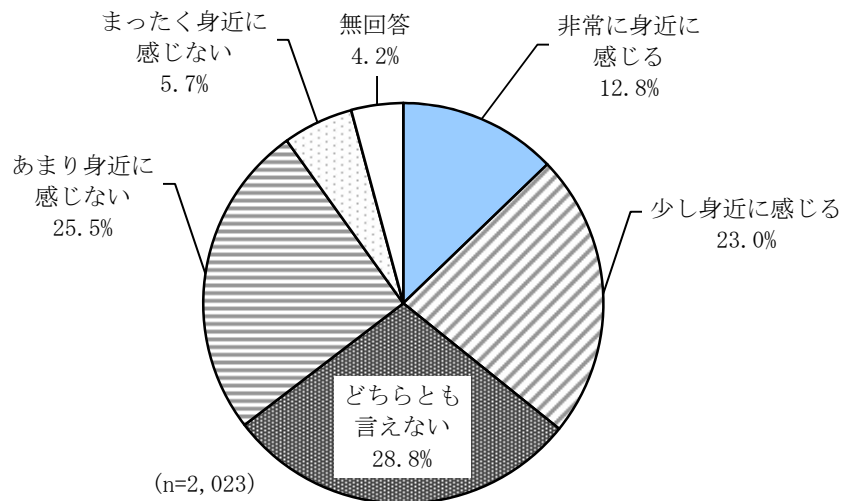


7. 人権問題について

(1) 人権を身近な問題として感じる程度

問23 あなたは「人権」をどの程度身近に感じていますか。あなたのお考えに一番近いもの1つに○をつけてください。

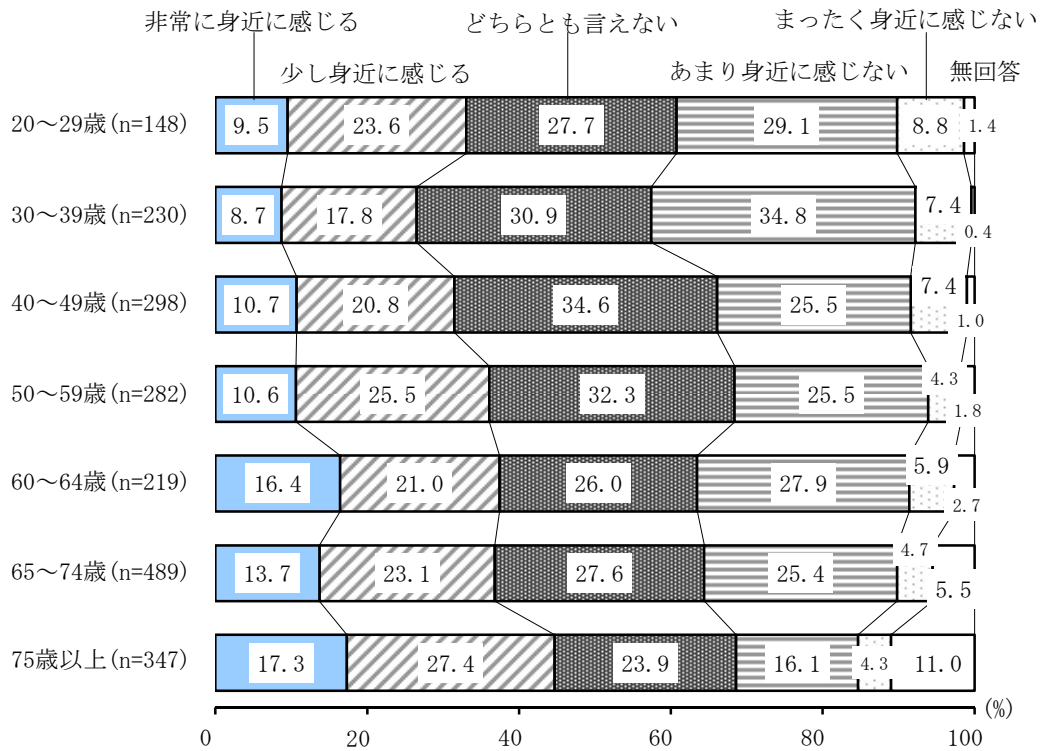
【図表7-1 人権を身近な問題として感じる程度】



人権を身近な問題として感じる程度では、「どちらとも言えない」が28.8%で最も多くなっている。これに次いで「あまり身近に感じない」が25.5%となっており、「まったく身近に感じない」(5.7%)を合わせた『身近に感じない』割合では31.2%となっている。一方、「非常に身近に感じる」(12.8%)と「少し身近に感じる」(23.0%)を合わせた『身近に感じる』割合は35.8%を占めており、『身近に感じない』割合に比べ4.6ポイント高くなっている。(図表7-1)

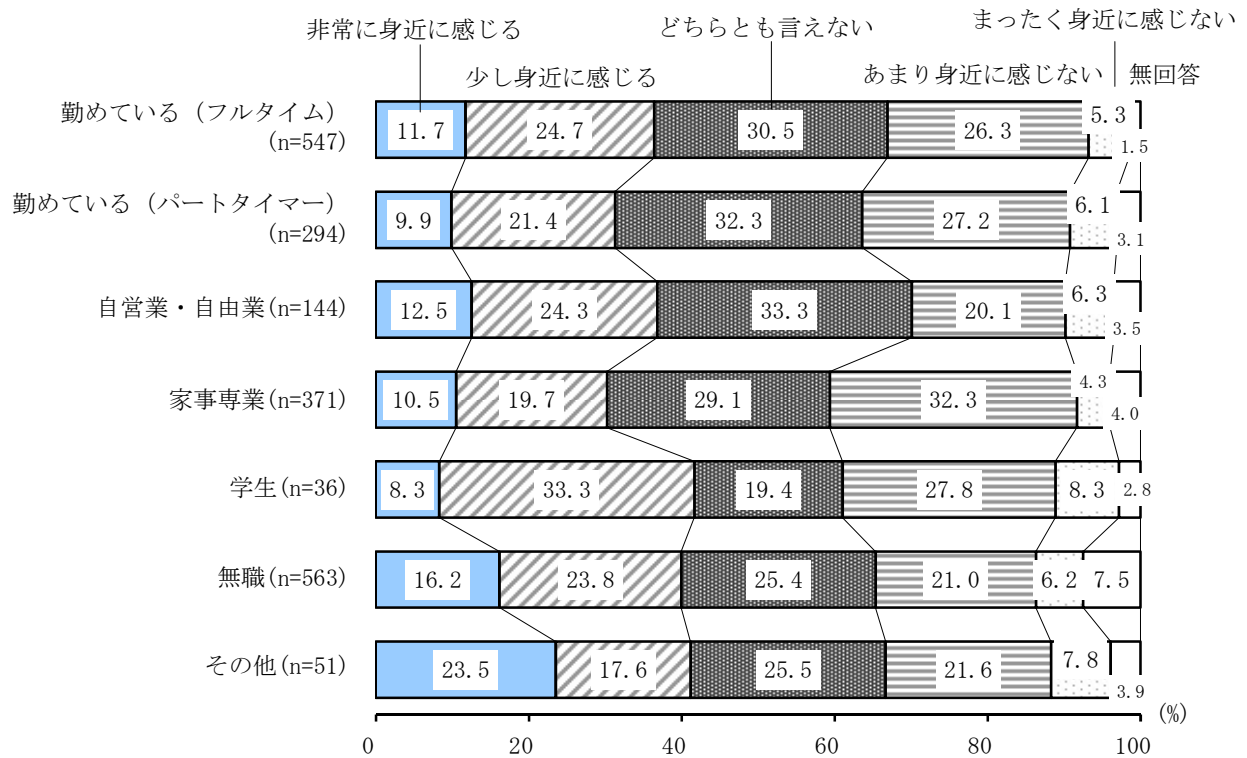
年齢別でみると、20歳代～40歳代は『身近に感じる』より『身近に感じない』割合のほうが高く、なかでも30歳代は42.2%と高くなっている。一方、50歳以上の年代では『身近に感じる』割合のほうが高くなっており、75歳以上では44.7%と高くなっている。(図表7-1-1)

【図表7-1-1 年齢別 人権を身近な問題として感じる程度】



職業別でみると、『身近に感じる』割合は、学生が41.6%で最も高く、次いで無職が40.0%、フルタイム就労者と自営業・自由業は36%台となっている。また、パートタイマーと家事専業は『身近に感じる』より『身近に感じない』割合のほうが高くなっている。(図表7-1-2)

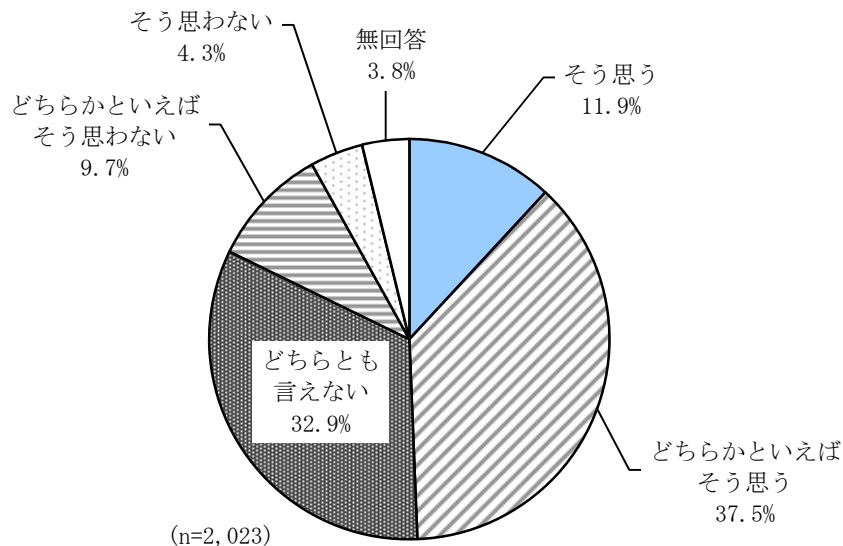
【図表7-1-2 職業別 人権を身近な問題として感じる程度】



(2) 人権尊重の状況

問24 基本的人権は侵すことのできない永久の権利として、憲法で保障されています。あなたは、日常生活の中で自分や周囲の人の「人権」が尊重されていると思いますか。あなたのお考えに一番近いもの1つに○をつけてください。

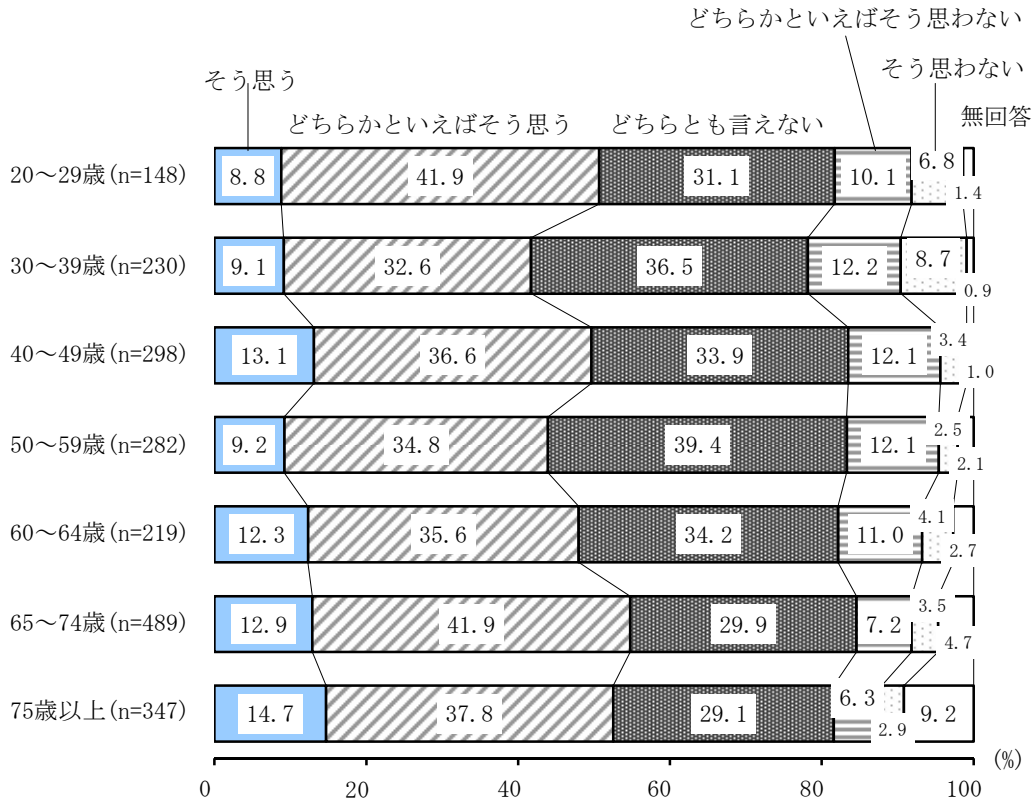
【図表7-2 人権尊重の状況】



人権が尊重されているかについては、「どちらかといえばそう思う」が37.5%で最も多くなっており、「そう思う」(11.9%)を合わせた『そう思う』割合は49.4%を占めている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.7%)と「そう思わない」(4.3%)を合わせた『そう思わない』割合は14.0%となっている。(図表7-2)

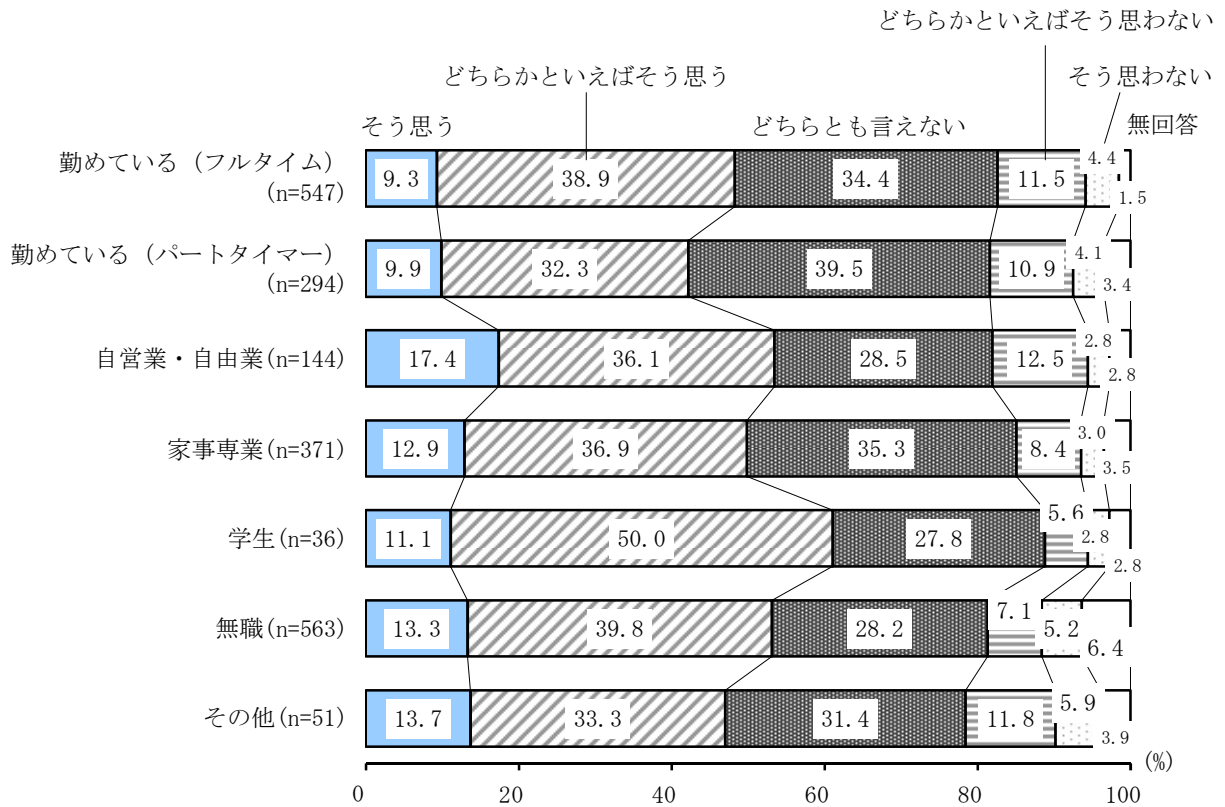
年齢別でみると、『そう思う』割合は、65～74歳が54.8%で最も高く、次いで75歳以上が52.5%、20歳代が50.7%となっており、30歳代は41.7%と他の年代に比べ低くなっている。一方、『そう思わない』割合では、年代が上がるほど低下傾向にあるが、30歳代は20.9%と5人に1人の割合となっている。(図表7-2-1)

【図表7-2-1 年齢別 人権尊重の状況】



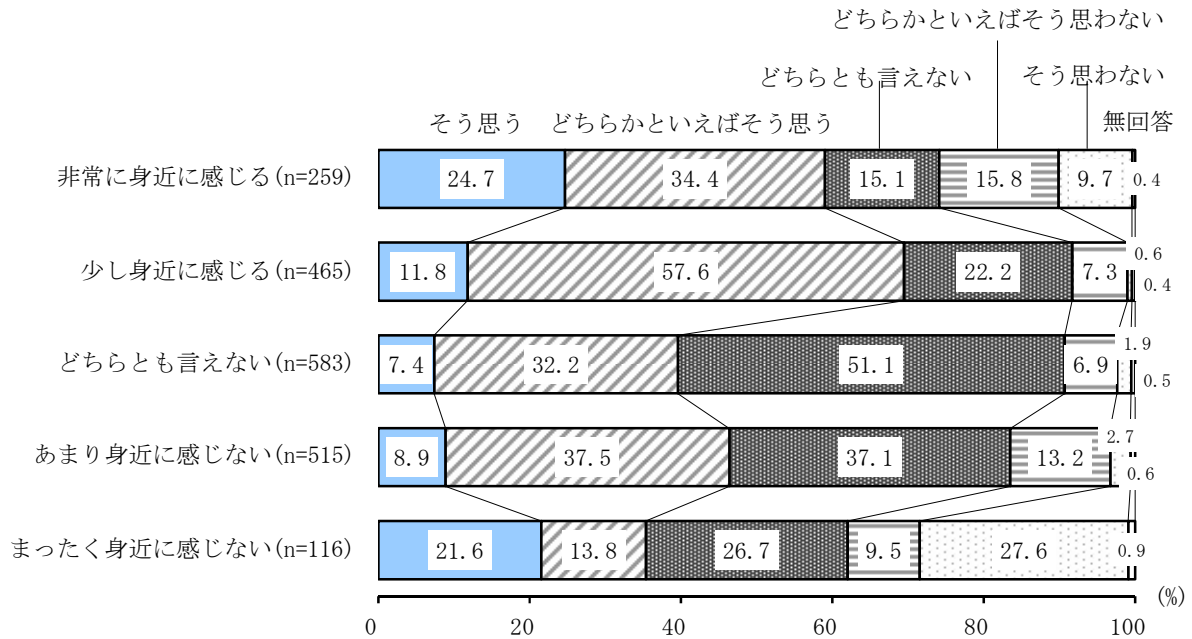
職業別でみると、『そう思う』割合は、学生が61.1%で最も高く、次いで自営業・自由業が53.5%、無職が53.1%となっており、パートタイマーは42.2%と他の職業に比べ低くなっている。一方、『そう思わない』割合では、就労している人が15%台を占めており、就労していない人に比べ高くなっている。(図表7-2-2)

【図表7-2-2 職業別 人権尊重の状況】



人権を身近な問題として感じる程度別でみると、『そう思う』割合は、少し身近に感じる人が69.4%で最も高く、次いで非常に身近に感じる人が59.1%となっており、どちらとも言えない人や身近に感じない人は3～4割台となっている。一方、『そう思わない』割合では、まったく身近に感じない人が37.1%で最も高く、次いで非常に身近に感じる人が25.5%となっている。(図表7-2-3)

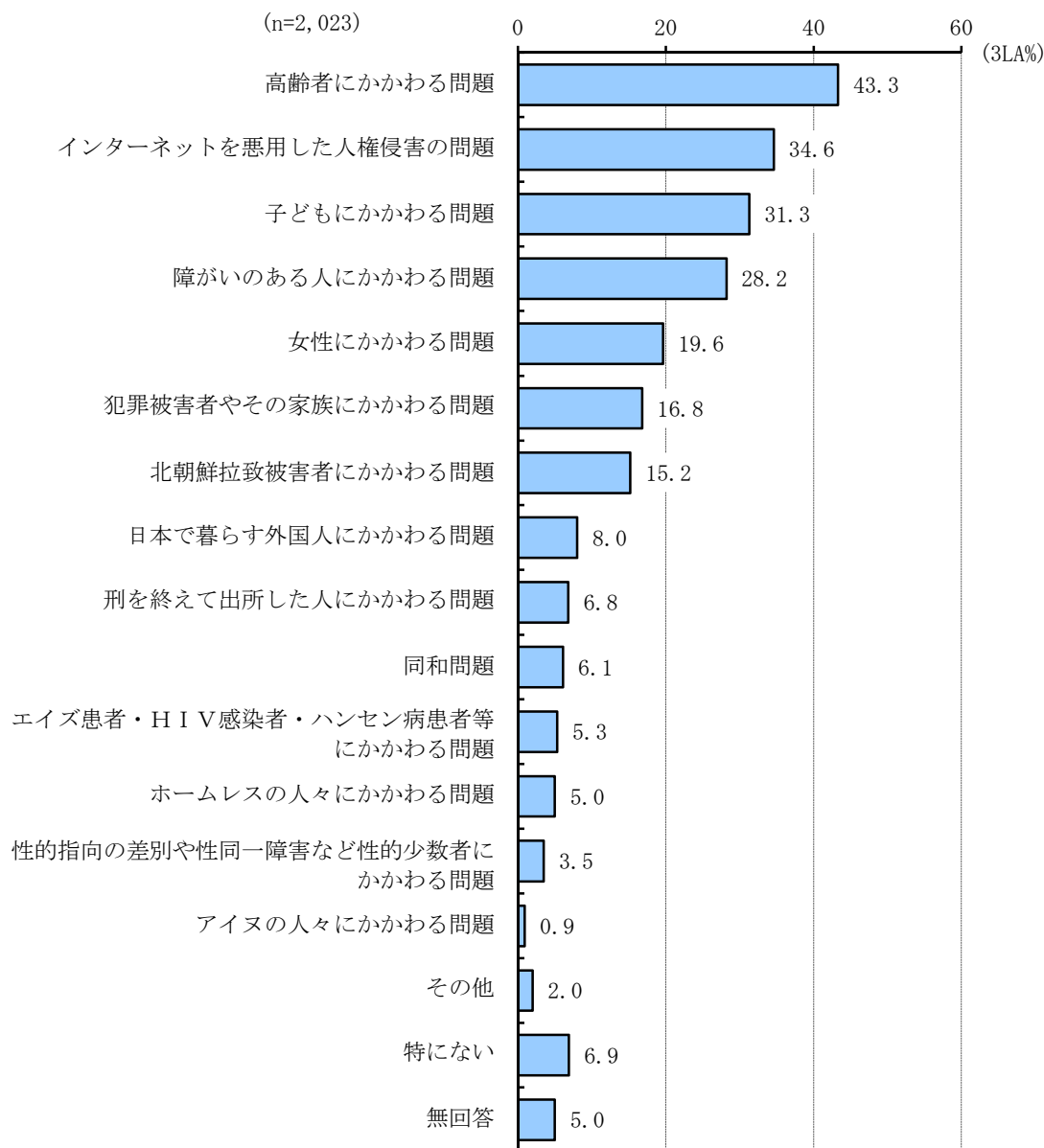
【図表7-2-3 人権を身近な問題として感じる程度別 人権尊重の状況】



(3) 関心のある人権問題

問25 人権にかかわる様々な問題のうちで、あなたが特に関心をお持ちのものは何ですか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

【図表7-3 関心のある人権問題】



関心のある人権問題では、「高齢者にかかわる問題」が43.3%で最も多く、次いで「インターネットを悪用した人権侵害の問題」が34.6%、「子どもにかかわる問題」が31.3%、「障がいのある人にかかわる問題」が28.2%と続いている。(図表7-3)

年齢別でみると、20歳代は「女性にかかわる問題」が38.5%で最も多く、30歳代は34.8%で第3位となっており、若い年代で高くなっている。30歳代は「子どもにかかわる問題」が46.5%で最も多く、40歳代は40.6%で第2位となっている。40歳代と50歳代は「インターネットを悪用した人権侵害の問題」が4割前後で最も多く、他の年代も上位に挙がっている。60歳以上になると「高齢者にかかわる問題」が最も多く、年代が上がるほど高くなっている。(図表7-3-1)

【図表7-3-1 年齢別 関心のある人権問題（上位5項目）】

	(3LA%)				
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20～29歳 (n=148)	女性にかかわる問題 38.5	子どもにかかわる問題 32.4	インターネットを悪用した人権侵害の問題 30.4	高齢者にかかわる問題 27.0	障がいのある人にかかわる問題 24.3
30～39歳 (n=230)	子どもにかかわる問題 46.5	インターネットを悪用した人権侵害の問題 37.4	女性にかかわる問題 34.8	高齢者にかかわる問題 25.2	障がいのある人にかかわる問題 22.6
40～49歳 (n=298)	インターネットを悪用した人権侵害の問題 42.6	子どもにかかわる問題 40.6	高齢者にかかわる問題 33.2	障がいのある人にかかわる問題 30.5	犯罪被害者やその家族にかかわる問題 24.2
50～59歳 (n=282)	インターネットを悪用した人権侵害の問題 39.7	高齢者にかかわる問題 37.9	子どもにかかわる問題 29.4	障がいのある人にかかわる問題 26.2	女性にかかわる問題 21.6
60～64歳 (n=219)	高齢者にかかわる問題 44.3	インターネットを悪用した人権侵害の問題 36.1	障がいのある人にかかわる問題 32.4	子どもにかかわる問題／北朝鮮拉致被害者にかかわる問題	24.2
65～74歳 (n=489)	高齢者にかかわる問題 55.0	インターネットを悪用した人権侵害の問題 35.6	障がいのある人にかかわる問題 32.9	子どもにかかわる問題 28.0	北朝鮮拉致被害者にかかわる問題 22.3
75歳以上 (n=347)	高齢者にかかわる問題 58.2	障がいのある人にかかわる問題 24.5	子どもにかかわる問題 23.3	インターネットを悪用した人権侵害の問題 21.6	北朝鮮拉致被害者にかかわる問題 15.3

職業別でみると、「高齢者にかかわる問題」が、パートタイマーや自営業・自由業、家事専業、無職で最も多くなっており、なかでも無職は53.6%と高くなっている。また、フルタイム・パートタイマーで勤めている人は「インターネットを悪用した人権侵害の問題」が最も多くなっている。学生は「子どもにかかわる問題」(41.7%)と「女性にかかわる問題」(33.3%)が他の職業に比べ高くなっている。(図表7-3-2)

【図表7-3-2 職業別 関心のある人権問題（上位5項目）】

	(3LA%)				
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
勤めている (フルタイム) (n=547)	インターネットを悪用した人権侵害の問題 36.7	子どもにかかわる問題 36.6	高齢者にかかわる問題 32.0	障がいのある人にかかわる問題 28.5	女性にかかわる問題 23.4
勤めている (パートタイマー) (n=294)	高齢者にかかわる問題／インターネットを悪用した人権侵害の問題 41.2	子どもにかかわる問題 32.7	障がいのある人にかかわる問題 30.3	女性にかかわる問題 19.7	
自営業・自由業 (n=144)	高齢者にかかわる問題 41.0	インターネットを悪用した人権侵害の問題 38.9	子どもにかかわる問題 28.5	障がいのある人にかかわる問題 25.7	北朝鮮拉致被害者にかかわる問題 18.8
家事専業 (n=371)	高齢者にかかわる問題 47.4	インターネットを悪用した人権侵害の問題 34.8	子どもにかかわる問題 33.4	女性にかかわる問題 25.6	障がいのある人にかかわる問題 25.1
学生 (n=36)	子どもにかかわる問題 41.7	女性にかかわる問題／高齢者にかかわる問題 33.3	インターネットを悪用した人権侵害の問題 27.8	障がいのある人にかかわる問題 25.0	
無職 (n=563)	高齢者にかかわる問題 53.6	障がいのある人にかかわる問題 29.5	インターネットを悪用した人権侵害の問題 28.2	子どもにかかわる問題 25.0	北朝鮮拉致被害者にかかわる問題 19.9
その他(n=51)	高齢者にかかわる問題 49.0	障がいのある人にかかわる問題 35.3	インターネットを悪用した人権侵害の問題 31.4	子どもにかかわる問題 21.6	犯罪被害者やその家族にかかわる問題 15.7

人権を身近な問題として感じる程度別でみると、まったく身近に感じない人以外は「高齢者にかかわる問題」が最も多く、次いで「インターネットを悪用した人権侵害の問題」となっており、人権を身近に感じている人ほど割合が高い傾向にある。一方、まったく身近に感じない人は「障がいのある人にかかわる問題」(29.3%)が最も多く、「犯罪被害者やその家族にかかわる問題」(19.8%)が上位に挙げられている。(図表7-3-3)

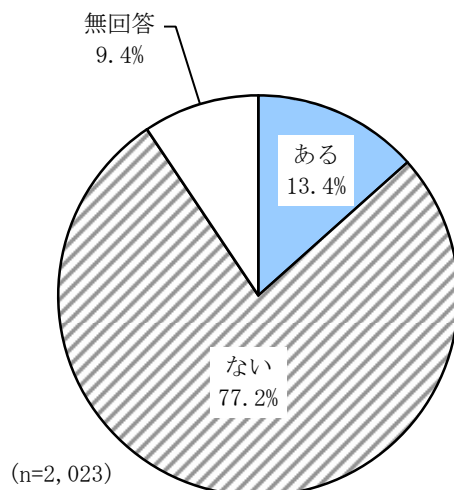
【図表7-3-3 人権を身近な問題として感じる程度別 関心のある人権問題（上位5項目）】

	(3LA%)				
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
非常に身近に感じる (n=259)	高齢者にかかわる問題 49.0	インターネットを悪用した人権侵害の問題 37.5	障がいのある人にかかわる問題 36.3	子どもにかかわる問題 33.6	女性にかかわる問題 22.4
少し身近に感じる (n=465)	高齢者にかかわる問題 48.0	インターネットを悪用した人権侵害の問題 39.1	子どもにかかわる問題 32.5	障がいのある人にかかわる問題 31.0	女性にかかわる問題 20.2
どちらとも言えない (n=583)	高齢者にかかわる問題 47.0	インターネットを悪用した人権侵害の問題 36.9	子どもにかかわる問題 33.6	障がいのある人にかかわる問題 26.6	女性にかかわる問題 19.9
あまり身近に感じない (n=515)	高齢者にかかわる問題 39.4	インターネットを悪用した人権侵害の問題 34.2	子どもにかかわる問題 32.8	障がいのある人にかかわる問題 26.2	女性にかかわる問題 20.4
まったく身近に感じない (n=116)	障がいのある人にかかわる問題 29.3	高齢者にかかわる問題 27.6	子どもにかかわる問題 20.7	女性にかかわる問題／犯罪被害者やその家族にかかわる問題 19.8	

(4) 人権侵害の有無

問26 あなたは、今までに自分の人権が侵害されたと思われたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

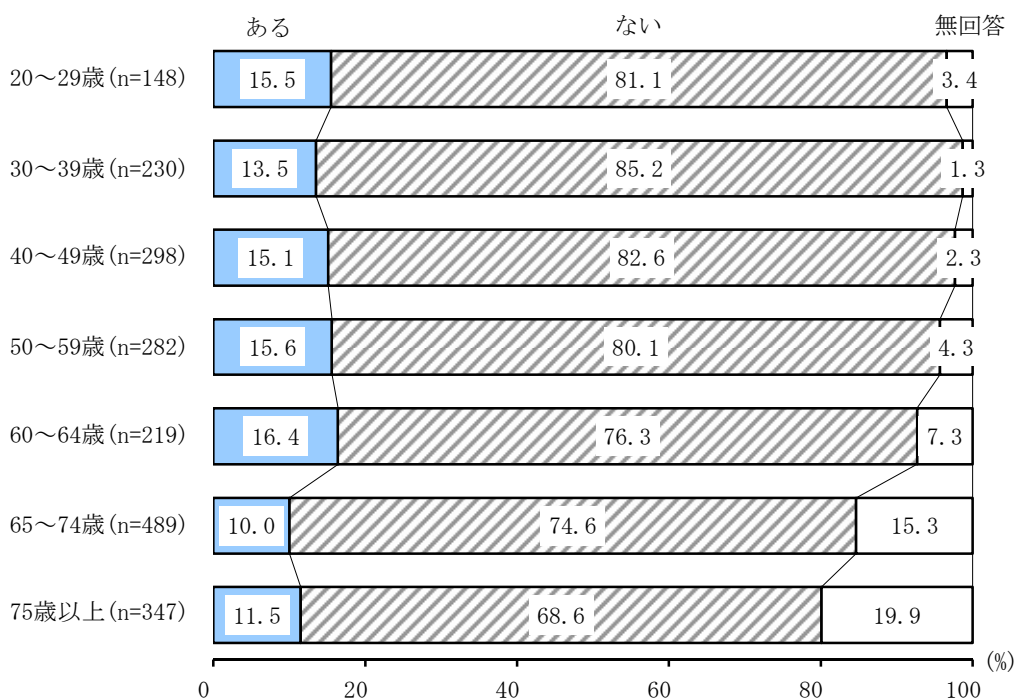
【図表7-4 人権侵害の有無】



人権を侵害されたことについて、「ある」が13.4%となっており、「ない」は77.2%となっている。(図表7-4)

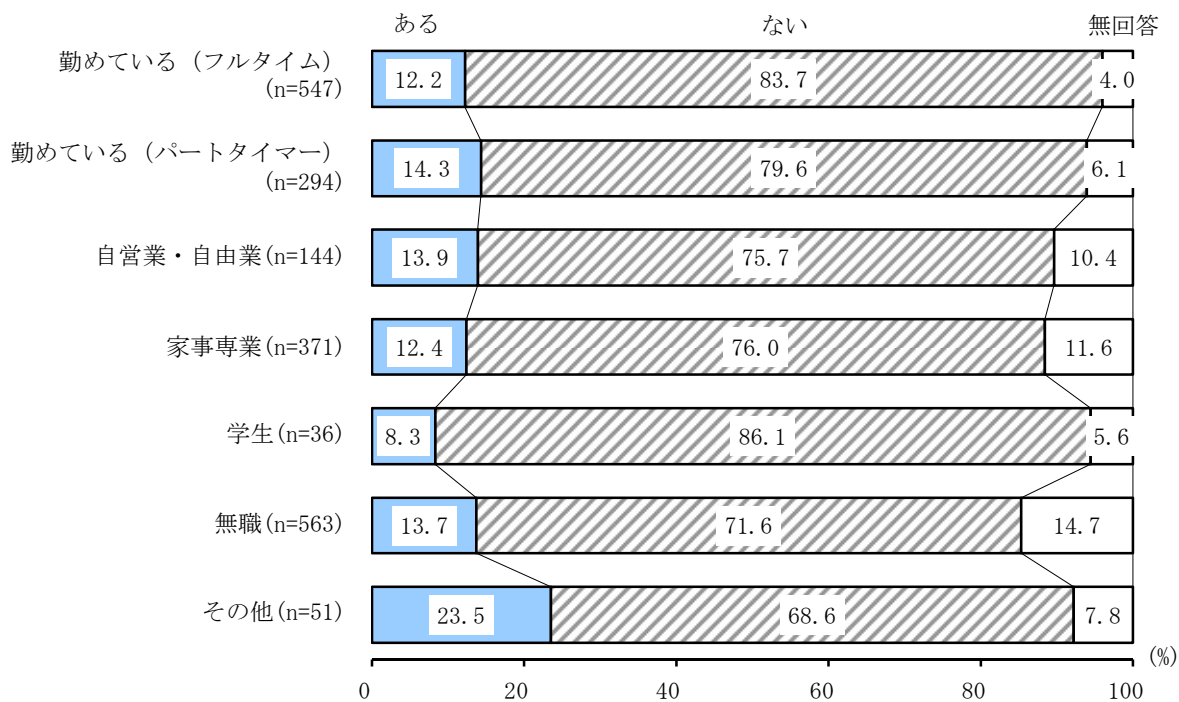
年齢別でみると、「ある」は、60～64歳が16.4%で最も高く、20歳代や40歳代、50歳代は15%台、30歳代は13.5%となっており、65歳以上になると1割強に低下している。(図表7-4-1)

【図表7-4-1 年齢別 人権侵害の有無】



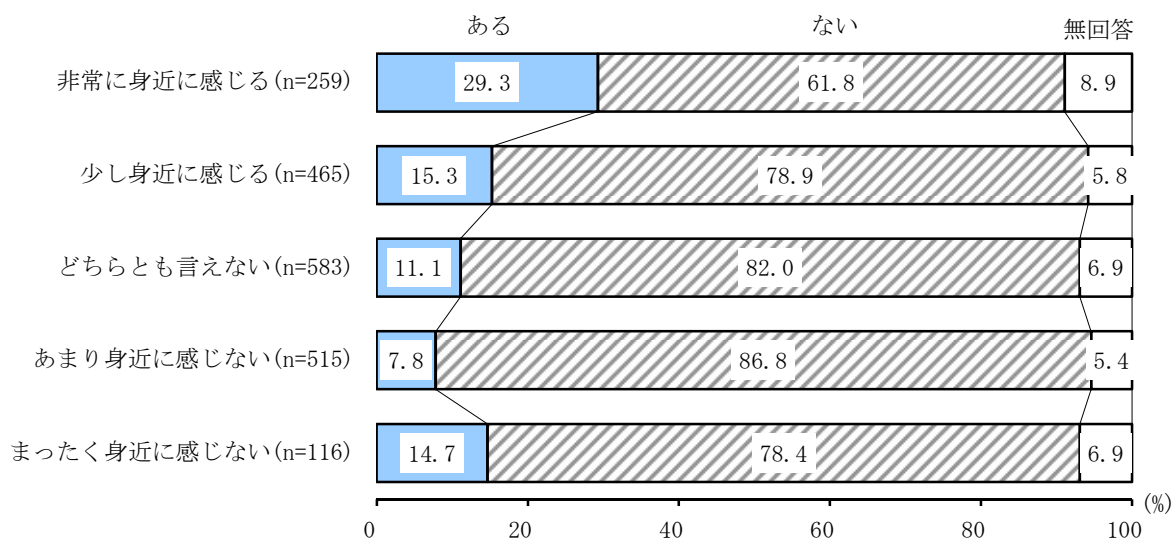
職業別でみると、「ある」は、パートタイマーが14.3%で最も高く、自営業・自由業と無職が13%台、フルタイム就労者と家事専業が12%台、学生は8.3%となっている。
 (図表7-4-2)

【図表7-4-2 職業別 人権侵害の有無】



人権を身近な問題として感じる程度別でみると、「ある」は、非常に身近に感じる人が29.3%で最も高く、次いで少し身近に感じる人が15.3%となっているが、まったく身近に感じない人も14.7%と高くなっており、あまり身近に感じない人は7.8%で最も低くなっている。(図表7-4-3)

【図表7-4-3 人権を身近な問題として感じる程度別 人権侵害の有無】

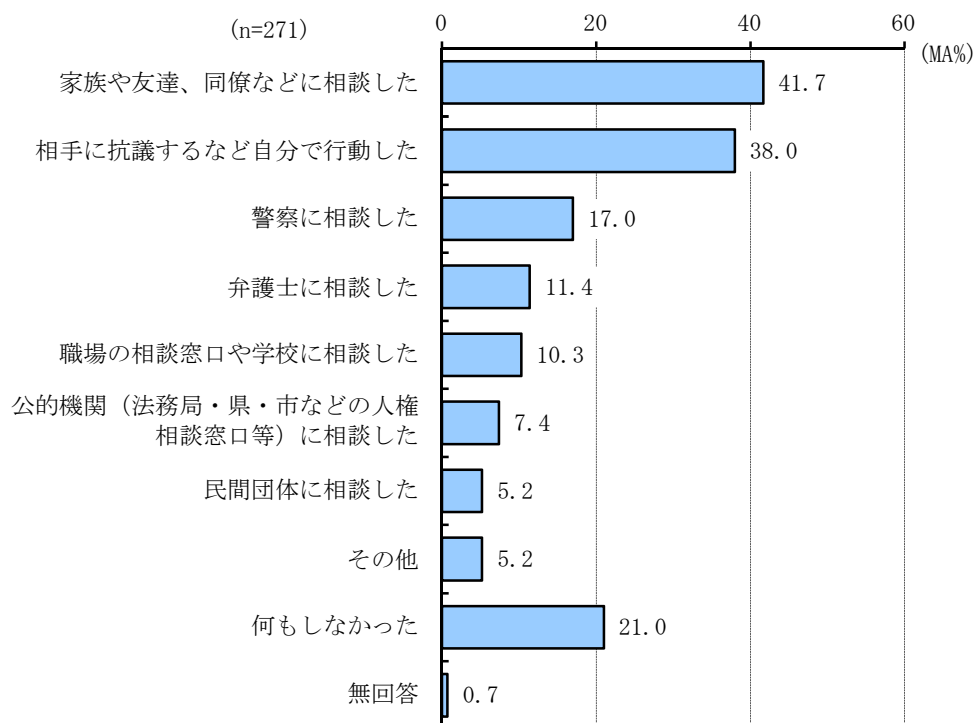


(5) 人権侵害されたときの対応

問26-1 【問26で「1. ある」とお答えした方におたずねします。】

人権を侵害された時、どうされましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

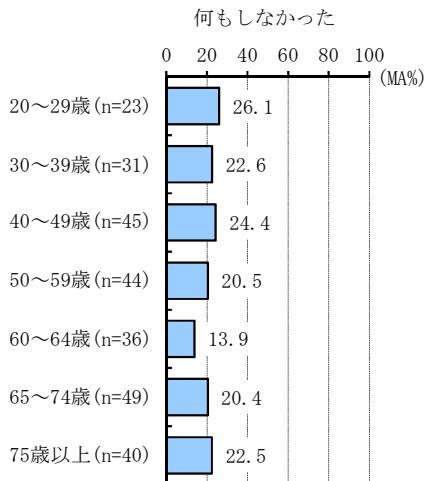
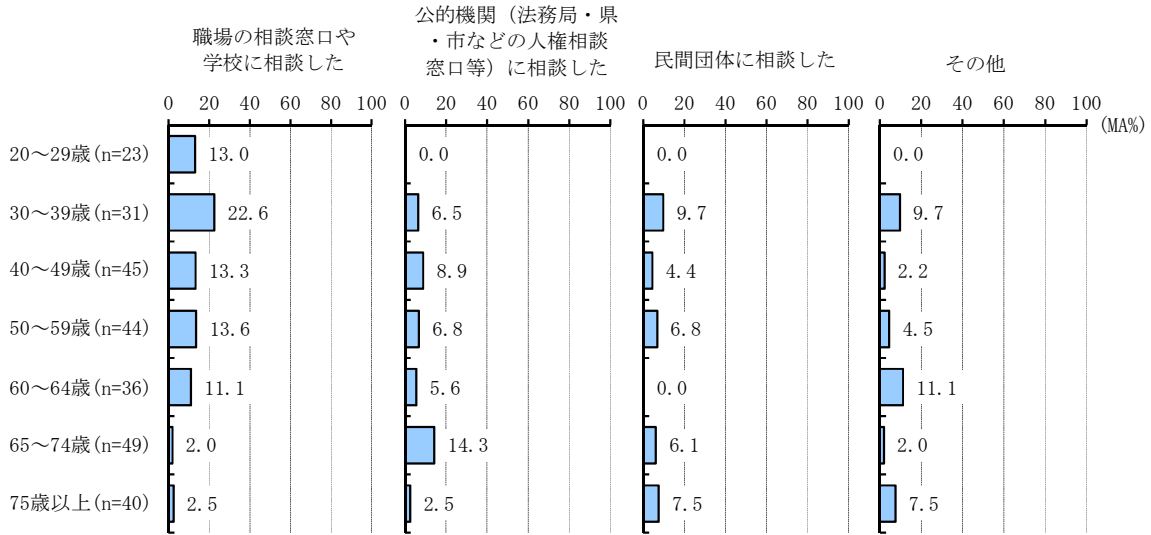
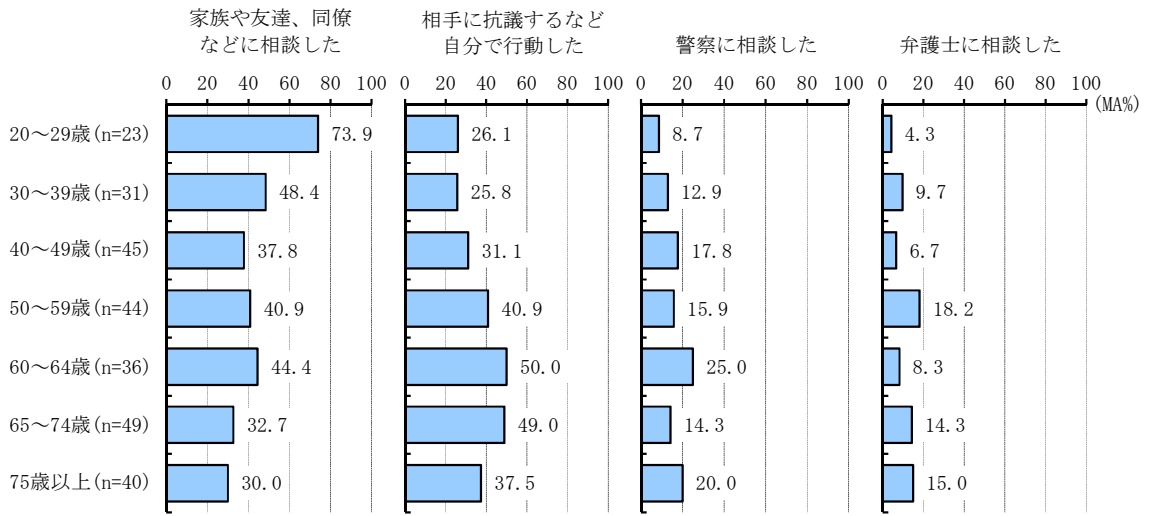
【図表7-5 人権侵害されたときの対応】



人権侵害されたことがあると回答した人に、その時の対応をたずねると、「家族や友達、同僚などに相談した」が41.7%で最も多く、次いで「相手に抗議するなど自分で行動した」が38.0%、「警察に相談した」が17.0%と続いている。一方、「何もしなかった」は21.0%となっている。（図表7-5）

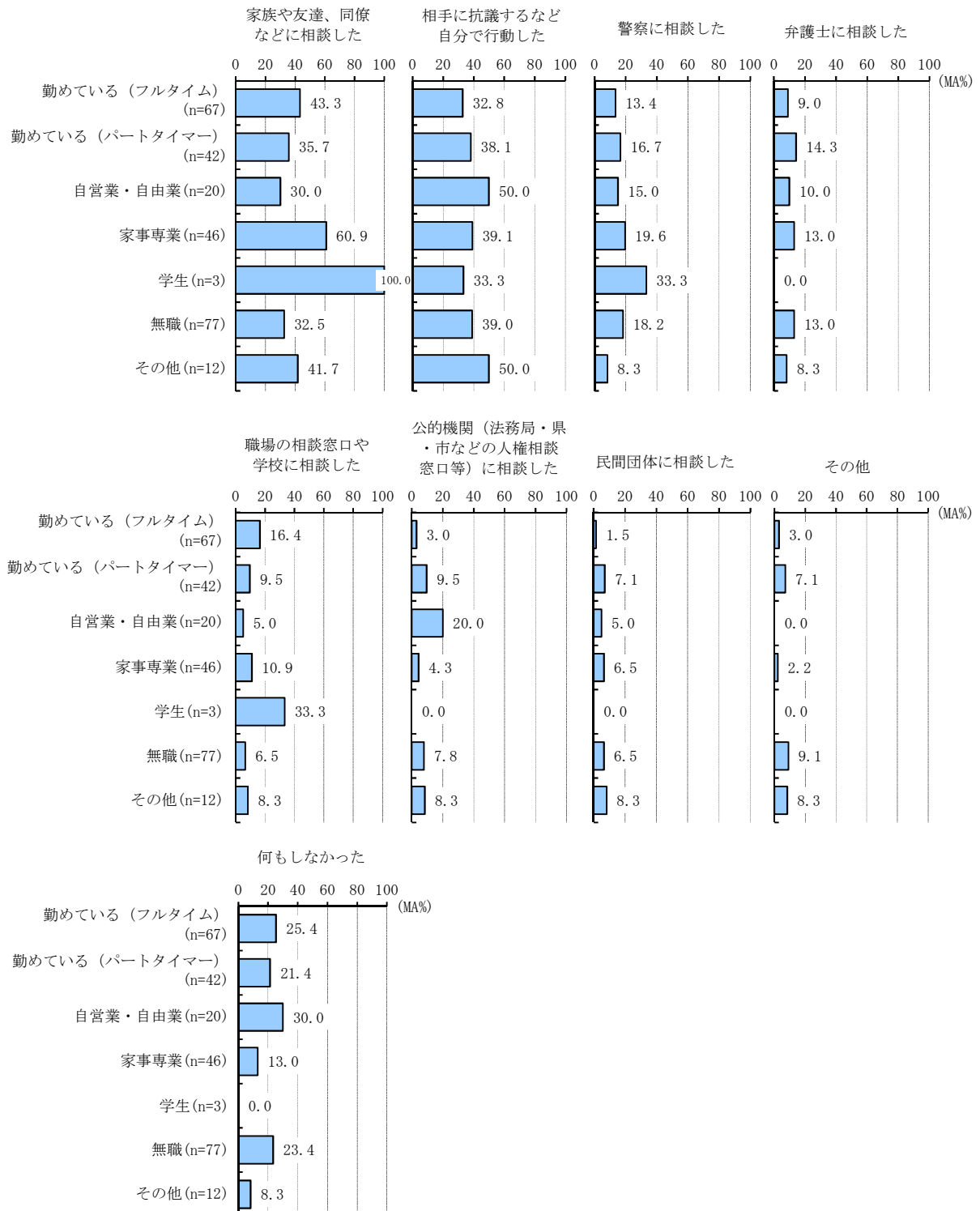
年齢別でみると、各年齢の母数が少ないので一概には言えないが、20歳代～50歳代は「家族や友達、同僚などに相談した」が最も多く、なかでも20歳代は73.9%と高くなっている。「相手に抗議するなど自分で行動した」では、50歳以上の年代で最も多くなっており、60～74歳の年代で5割前後と高くなっている。また、30歳代は「職場の相談窓口や学校に相談した」（22.6%）、65～74歳は「公的機関（法務局・県・市などの人権相談窓口等）に相談した」（14.3%）が、それぞれ他の年代に比べ高くなっている。（図表7-5-1）

【図表7-5-1 年齢別 人権侵害されたときの対応】



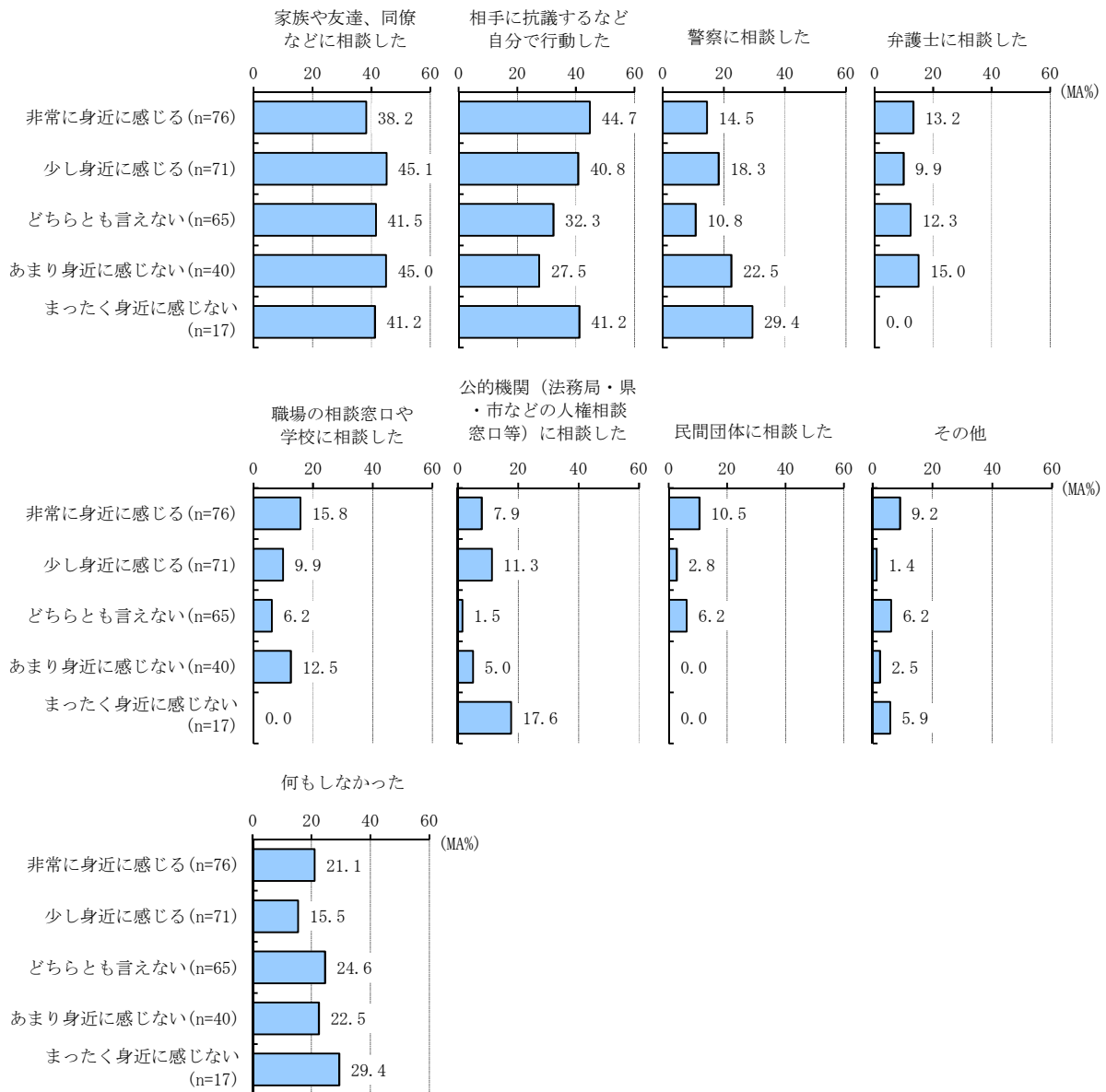
職業別でみると、各職業の母数が少ないので一概には言えないが、フルタイム就労者と家事専業は「家族や友達、同僚などに相談した」が最も多く、パートタイマーや自営業・自由業、無職は「相手に抗議するなど自分で行動した」が最も多くなっている。また、フルタイム就労者は「職場の相談窓口や学校に相談した」(16.4%)、自営業・自由業は「公的機関(法務局・県・市などの人権相談窓口等)に相談した」(20.0%)が、それぞれ他の職業に比べ高くなっている。(図表7-5-2)

【図表7-5-2 職業別 人権侵害されたときの対応】



人権を身近な問題と感じる程度別でみると、まったく身近に感じない人の母数が少ないので一概には言えないが、人権を身近に感じている人ほど「相手に抗議するなど自分で行動した」が高くなっており、非常に身近に感じる人は44.7%となっている。一方、まったく身近に感じない人は、弁護士や職場・学校、民間団体には相談せず、警察や公的機関に相談した割合が高くなっており、「何もしなかった」(29.4%・5人)も高くなっており。(図表7-5-3)

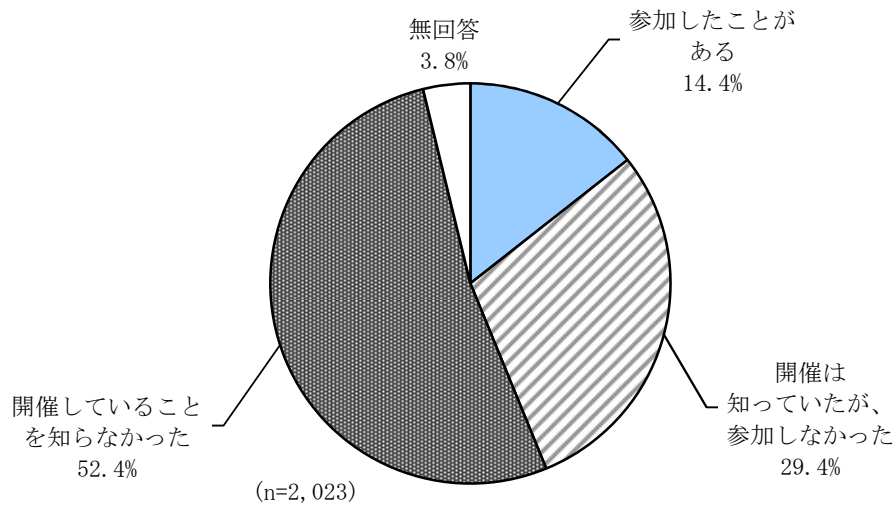
【図表7-5-3 人権を身近な問題と感じる程度別 人権侵害されたときの対応】



(6) 人権問題を学ぶ場への参加状況

問27 人権問題についての理解を深めるために、講演会・研修会・学習会・映画会などが様々な形で開催されていますが、あなたは参加したことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

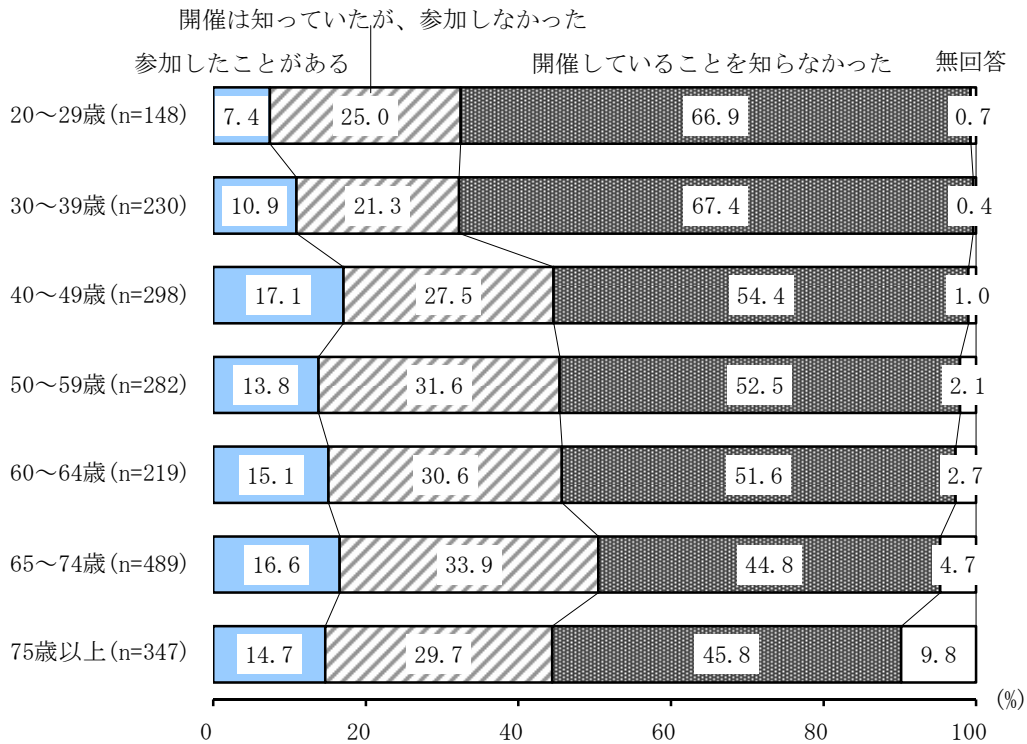
【図表7-6 人権問題を学ぶ場への参加状況】



人権問題を学ぶ場への参加状況では、「開催していることを知らなかった」が52.4%で最も多く、次いで「開催は知っていたが、参加しなかった」が29.4%、「参加したことがある」は14.4%となっている。(図表7-6)

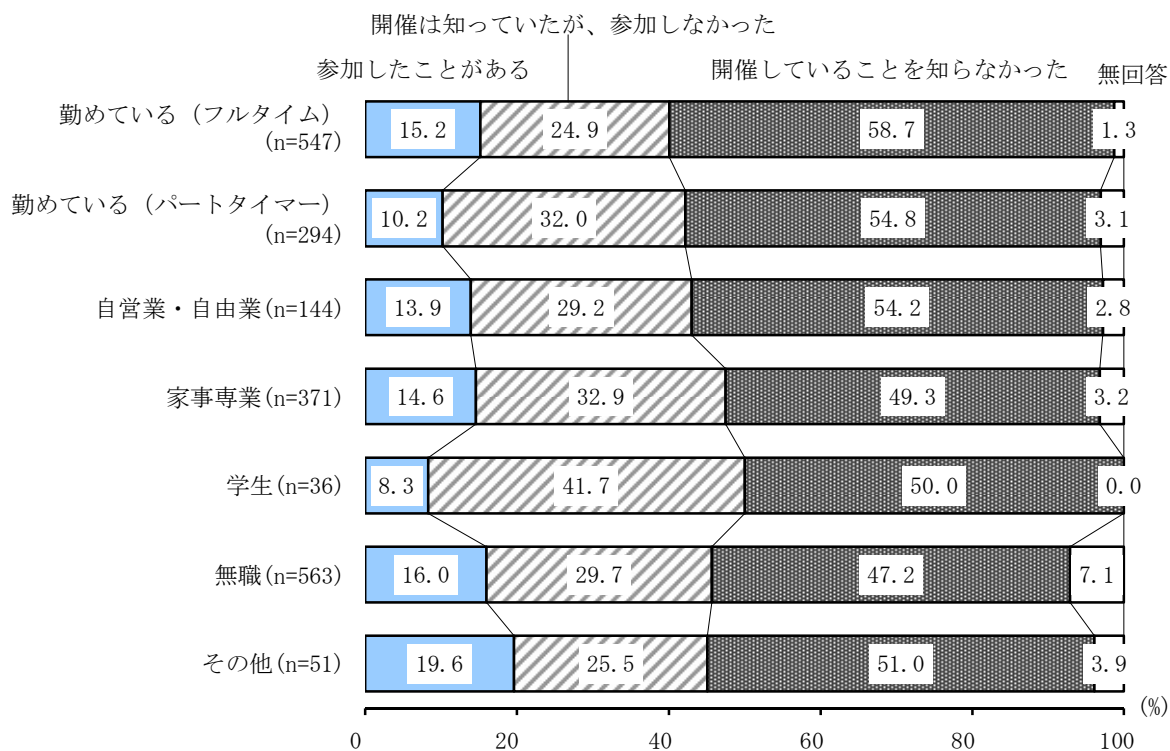
年齢別でみると、「参加したことがある」は、40歳代が17.1%で最も高く、60歳以上になると15%前後の割合となっている。「開催は知っていたが、参加しなかった」は40歳以上の年代で3割前後を占めており、開催の認知度としては20歳代・30歳代で3割台、40歳以上の年代で4割台となっている。(図表7-6-1)

【図表7-6-1 年齢別 人権問題を学ぶ場への参加状況】



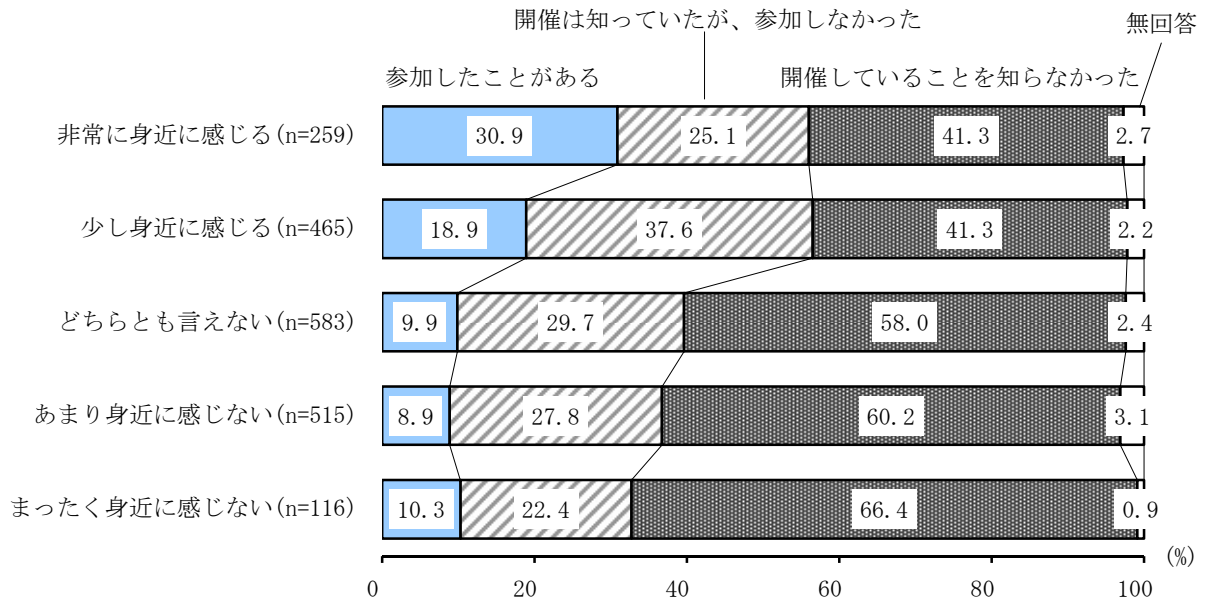
職業別でみると、「参加したことがある」は、無職が16.0%で最も高く、次いでフルタイム就労者が15.2%となっており、パートタイマー（10.2%）と学生（8.3%）は他の職業に比べ低くなっている。また、学生は「開催は知っていたが、参加しなかった」が41.7%と高く、開催の認知度としては半数を占めており、就労している人のほうが認知度は低くなっている。（図表7-6-2）

【図表7-6-2 職業別 人権問題を学ぶ場への参加状況】



人権を身近な問題に感じる程度別でみると、「参加したことがある」は、人権を身近に感じている人ほど高くなっており、非常に身近に感じる人は30.9%を占めている。「開催は知っていたが、参加しなかった」では、少し身近に感じる人が37.6%で最も高くなっており、開催の認知度として、人権を身近に感じる人は半数以上を占めるのに対し、身近に感じない人は3割台と低くなっている。(図表7-6-3)

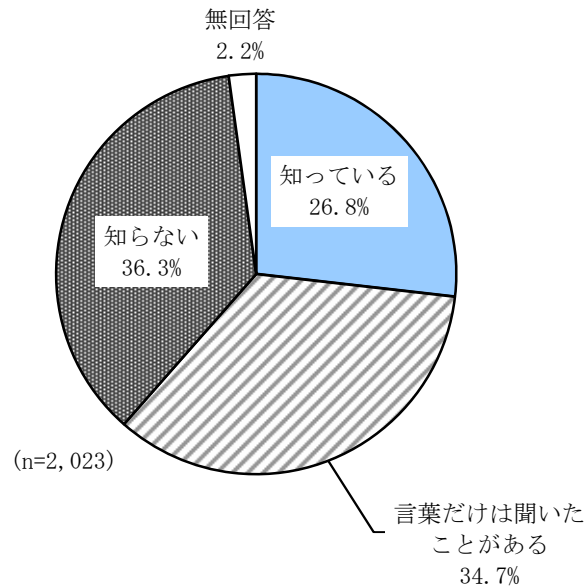
【図表7-6-3 人権を身近な問題に感じる程度別 人権問題を学ぶ場への参加状況】



(7) 共生社会に対する認識の程度

問28 あなたは、年齢や障がいの有無等にかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

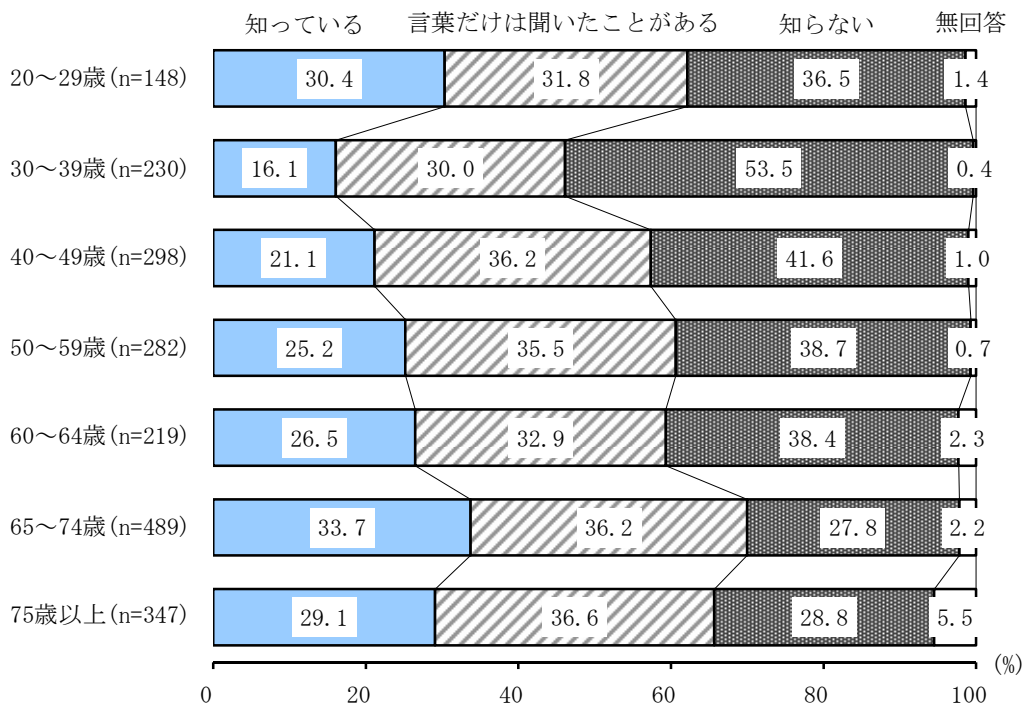
【図表7-7 共生社会に対する認識の程度】



共生社会に対する認識の程度では、「知らない」が36.3%で最も多く、次いで「言葉だけは聞いたことがある」が34.7%、「知っている」は26.8%となっている。(図表7-7)

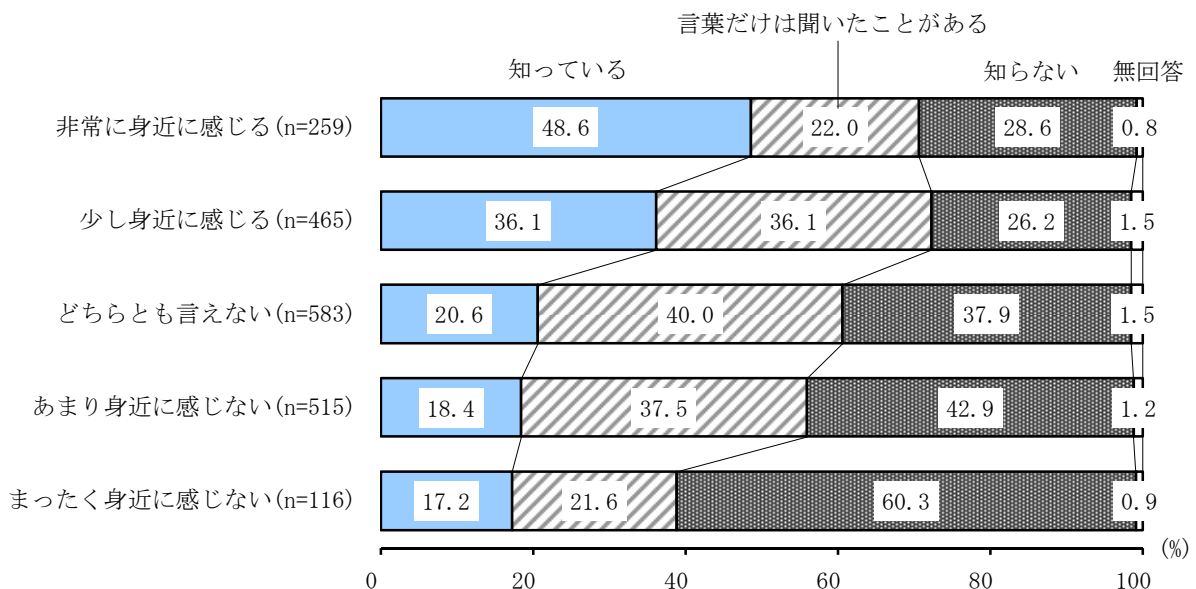
年齢別でみると、「知っている」は、20歳代が30.4%に対し、30歳代は16.1%で最も低くなっている。40歳以上になると年代が上がるほど「知っている」が上昇傾向にあり、65～74歳は33.7%で最も高くなっている。(図表7-7-1)

【図表7-7-1 年齢別 共生社会に対する認識の程度】



人権を身近な問題として感じる程度別でみると、「知っている」は、人権を身近に感じている人ほど高くなっており、非常に身近に感じる人は48.6%となっている。一方、「知らない」では、まったく身近に感じない人が60.3%を占めている。(図表7-7-2)

【図表7-7-2 人権を身近な問題として感じる程度別 共生社会に対する認識の程度】



8. 自由意見

最後に、神戸市に対して、保健福祉に関するご意見やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

【図表8-1 日常生活の不安について（上位10項目）】

(n=107)		件数
1	子育て支援対策の重視（子どもを生み育てたいまちづくり）	17
2	子育てにかかる経済的負担の軽減（保育料、育児手当、医療費無料化など）	15
3	年金生活の困窮、年金に対する将来の不安	14
4	保育サービスの充実（乳幼児も預けれる施設の増設、保育利用時間の延長、入所基準の緩和など）	12
5	医療費の負担軽減	11
6	交通の便などに対する改善や地域格差の解消	7
7	保険料等の負担軽減（ローンを引いた金額で計算してほしい）	5
	低所得者の生活困窮の改善	5
	子育て中の母親に対する支援や教育	5
10	ひとり親家庭でも子どもが進学・生活に不安を感じない体制づくり	3
	収入額に関わらず医療費の控除を一律にしてほしい	3

【図表8-2 地域とのかかわりや地域での活動について（上位10項目）】

(n=103)		件数
1	高齢者のひとりぐらし等に対してコミュニケーションが取りやすい環境づくり（見守り活動の充実など）	14
2	ボランティアやNPOなどの活動場所や具体的内容の周知	8
3	リタイアした人や高齢者に対する自己啓発の場の提供や体制づくり	7
4	行政と地域に境界を引かず、協力することで福祉向上につながる	6
5	地域住民のマナーや道徳意識が低下している	5
	地域住民間のつながりが希薄である（転勤や引越など出入りが多い地区など）	5
	民生委員の対応が悪い、実態が不透明	5
8	機会があれば地域活動等に参加する、地域交流を始める	4
	個人情報保護の関係で地域コミュニケーションに支障をきたしている	4
	地域活動やNPO法人の設立支援や共助による推進	4
	高齢者の外出を促進するために公共交通機関を無料化する（敬老優待乗車制度の継続など）	4
		4

【図表8-3 福祉施策やサービスについて（上位10項目）】

(n=178)		件数
1	福祉施設やサービス、相談窓口の場所や具体的内容の周知	35
2	安価で入居できる施設・安心して老後を過ごせる施設の増設（団塊世代の高齢化対策）	30
3	福祉の施設・サービス等の維持管理や体制等の充実	17
4	保健福祉について神戸市は昔に比べ良くなっている、よく頑張っている	10
5	相談窓口の有能な職員の養成（気軽に利用できる窓口）	8
	税金の無駄遣いを止め、保健福祉に関する予算を増やすべき	8
7	弱者やその家族に対して行政側から働きかけをしてほしい	6
8	親を亡くしても障がい者が生活できる施設や体制の推進	5
	子どもや若年者への保健福祉についての周知	5
10	福祉サービスが本当に必要な人に行きわたるような管理体制	4
	福祉施設職員への待遇改善、女性登用の推進	4

【図表8-4 災害時に備えた地域での助け合いについて（上位2項目）】

(n=7)		件数
1	神戸市としての災害時の対策の周知	2
2	福祉避難所の広報対策の充実	1
	南海トラフ大震災を想定した防災の充実	1
	非常時になると自然と人々のつながりが強くなると思う	1
	20年前のように近所の人達で団結して助け合えたように、地域住民とのコミュニケーションが必要	1
	地域を主体とし、行政はサポートとしての連携が重要	1

【図表8-5 医療について（上位3項目）】

(n=9)		件数
1	在宅医療の周知・推進	2
	障がい者や高齢者の通院援助の充実（送迎バスの充実、交通費援助等）	2
3	紹介状がなくても総合病院で診療してもらえるようにしてほしい	1
	皮膚科や歯科等の医師の往診	1
	急病人以外の救急車利用を止めてほしい	1
	地域医院の活用促進と周知	1
	各地区の公平な病院の配置	1

【図表8-6 人権問題について（上位3項目）】

(n=21)		件数
1	在日外国人の問題（生活保護の在り方に疑問、マナーを教える対策など）	7
2	障がい者の問題（公共交通機関の改善、理解されず孤独を感じる、就業機会の差別など）	6
3	共生社会の実現のために大多数の住民が参加し、モデル都市を目指す	3
	人権を守ることの意識向上の推進	1
	講演会や説明会の参加し、他の人と話すことで理解を深め合いたい	1
	ホームレスの保護	1
	子育て中の母親の人権を尊重してほしい、男女不平等を感じる	1
	北朝鮮拉致被害者の積極的な活動	1

【図表8-7 その他（上位10項目）】

(n=183)		件数
1	役所職員の態度が横柄、不適切な対応（公務員としての責任・使命を忘れないでほしい）	20
2	生活保護受給の査定の見直し（不適格な受給者の横行）	19
3	将来について考えていかなければならない（老後の不安など）	15
4	職員や市政への感謝・応援・激励	14
5	心身ともに健やかに生涯を過ごせる市政を期待する	11
6	自身で出来ることは自身すべき、行政に頼るのは最低限でよい	7
7	いろいろと勉強したいと思う	6
8	行政手続きなどの簡易化、休日対応、窓口の一体化など	6
	生活保護を平等に受けれるようにしてほしい、支援の方法をもっと考えてほしい	5
10	高齢者にやさしくしてほしい（もっと優遇してほしい）	4
	もっと勉強すべきである	4

しみんふくし かん こうどう いしき ちようさ
市民福祉に関する行動・意識調査
ちようさひひよう
(調査票)

秘

平成27年2月
神戸市保健福祉局

この調査は、神戸市の今後の福祉施策に活かしていくため、市民福祉についての皆様のお考えなどをお聞きするものです。お答えいただいた内容については、調査結果をまとめ、施策に活用させていただく以外には、使用いたしません。みなさまにご迷惑をおかけすることは決してございませんので、ありのままのお気持ちをお答えください。

【調査票の記入について】

- この調査は、神戸市内にお住まいの20歳以上の方から無作為で約5千人の方を選ばせていただいて実施するものです。
- この調査の答えは、原則として、封筒のあて名の方がご記入ください。封筒のあて名の方の事情により、代理の方がご記入いただく場合についても、回答を考慮していただくのは封筒のあて名の方にお願いたします。
- 回答にあたっては、あてはまる番号に○をつけてください。また、回答で「その他」を選ばれた場合は、その内容をカッコ内にできるだけ具体的に書いてください。(この調査票に直接ご記入ください)
- 問の中で、回答しにくかったり、回答したくないと思われるものは、ご記入いただく必要はありません。
- 調査票や返信用封筒にお名前やご住所をご記入いただく必要はありません。回答された内容によって、個人が特定されることはありません。
- 記入が終わりまりました調査票は、同封の返信用封筒に入れて、3月○日(○)までに、郵便ポストにご投函ください。切手は不要です。
- ご記入にあたって、分からないことがありましたら下記へお問合せください。

神戸市 保健福祉局 総務部 計画調整課 調整係

電話番号：(078) 322-5198、ファックス：(078) 322-6039

あなたご自身のことについておたずねします。

問1 あなたの性別について、あてはまるものに○をつけてください。

- | | | | |
|---|----|---|----|
| 1 | 男性 | 2 | 女性 |
|---|----|---|----|

問2 あなたの年齢は、次のうちどれにあてはまりますか(平成27年2月1日現在)。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | | | | |
|---|--------|---|--------|---|-------|
| 1 | 20～29歳 | 4 | 50～59歳 | 7 | 75歳以上 |
| 2 | 30～39歳 | 5 | 60～64歳 | | |
| 3 | 40～49歳 | 6 | 65～74歳 | | |

問3 あなたの職業は、次のうちどれにあてはまりますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | | | | |
|---|----------------|---|------|---|-----|
| 1 | 勤めている(フルタイム) | 4 | 家事専業 | 7 | その他 |
| 2 | 勤めている(パートタイマー) | 5 | 学生 | | |
| 3 | 自営業・自由業 | 6 | 無職 | | |

問4 あなたが現在お住まいの場所はどこですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | | | | |
|---|-----|---|-----|----|----|
| 1 | 東灘区 | 5 | 北区 | 9 | 西区 |
| 2 | 灘区 | 6 | 長田区 | 10 | 市外 |
| 3 | 中央区 | 7 | 須磨区 | | |
| 4 | 兵庫区 | 8 | 垂水区 | | |

問5 あなたは、どなたと一緒ににお住まいですか。あてはまるものを全て選んで、○をつけてください。

- 1 配偶者
- 2 親
- 3 息子・娘
- 4 孫
- 5 祖父・祖母
- 6 兄弟・姉妹
- 7 乳幼児 (0歳から小学校就学まで)
- 8 陣がいのある方
- 9 75歳以上の方
- 10 その他
- 11 同居者はいない (ひとりぐらし)

問6 あなたの現在の経済状況は次のうちいずれですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 余裕がある
- 2 どちらかといえば余裕がある
- 3 もう少し収入があればいいと感じている
- 4 余裕がなく苦しい
- 5 生活保護を受けている

問7 あなたの現在の生活において、時間的なゆとりは次のうちいずれですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 時間にゆとりがある
- 2 どちらかといえば時間にゆとりがある
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば時間にゆとりがない
- 5 時間にゆとりがない

日常生活上の不安についておたずねします。

問8 あなたは、現在困っていることがありますか。ア～スのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項目	不安あり	どちらか と言えば 不安あり	どちらか と言えば 不安なし	不安なし	分からない
収入や生活費のこと	1	2	3	4	5
借金のこと	1	2	3	4	5
自分の身体や健康のこと	1	2	3	4	5
家族の身体や健康のこと	1	2	3	4	5
家族や周囲の人との人間関係のこと	1	2	3	4	5
気怪に相談できる知人がいないこと	1	2	3	4	5
孤独であると感じること	1	2	3	4	5
仕事のこと	1	2	3	4	5
住まいのこと	1	2	3	4	5
年金や健康保険のこと	1	2	3	4	5
子育てや教育のこと	1	2	3	4	5
事故や災害にあうこと	1	2	3	4	5
買い物やゴミ出し、電車の交換など、普段の生活におけるちよとした用事や困り事	1	2	3	4	5

地域とのかかわりや地域での活動についておたずねします。

問9 あなたは、地域における福祉の問題は何だと思いますか。ア～クのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項目	よく そう思う	ときどき そう思う	そうは 思わない	よく分か らない
ア 地域住民のつきあいが減少している問題	1	2	3	4
イ 配慮を必要とする方への見守りや手助けなど援助が減っている問題	1	2	3	4
ウ 地域活動の担い手（活動する人）不足の問題（住民活動が継承されない）	1	2	3	4
エ 例えば若者と高齢者といった違う世代どうしの交流がないこと	1	2	3	4
オ 地域住民の道徳意識が低下している問題	1	2	3	4
カ 災害時にお互いを支え合えるかという問題	1	2	3	4
キ 住宅の住み心地や地域での住みやすさの問題	1	2	3	4
ク 地域福祉センターなどの社会資源の利用に関する問題	1	2	3	4

※地域福祉センターとは…おおむねわねわ小学校校区ごとに整備され、地域住民の自主組織であるふれあいのまちづくり協議会が運営する、地域福祉活動の拠点となる施設

問10 あなたは、定期的に地域活動（ボランティア活動）に参加していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
※ 水害などの災害が起きた現場での復旧作業などのボランティアは除きます。

- 1 参加している
- 2 参加していない → 問10-2（次のページ）へ

問10-1① 【問10で「1.参加している」とお答えした方におたずねします。】神戸市の各地域では、さまざまな地域活動が行われています。あなたが参加しているものすべてに○をつけてください。

- 1 高齢者を対象とした地域における見守りなどの福祉活動
- 2 障がい者を対象とした地域における見守りなどの福祉活動
- 3 子どもの活動をサポートする活動
- 4 まちづくり全般に関する活動
- 5 学童の登下校の見守りなど学校に関わる活動
- 6 防災や防犯に関する活動
- 7 地域での文化・教養の講座への参加
- 8 健康づくりの活動
- 9 スポーツ・レクリエーション活動
- 10 環境美化活動
- 11 その他（ ）

問10-1② 【問10で「1.参加している」とお答えした方におたずねします。】地域活動（ボランティア活動）の参加にあたり、お感じになっていることは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 やりがいを感じており、続けていきたい
- 2 やりがいを感じているが、辞めたい
- 3 社会のために役立っていると思う
- 4 自分の生活（自己啓発）に役立っていると思う
- 5 体力的に負担に思うことがある
- 6 精神的に負担に思うことがある
- 7 その他（ ）

問10-2 【問10で「2.参加していない」とお答えした方におたずねします。】
 どういう条件が整えば地域活動（ボランティア活動）に参加されますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 時間的に参加可能な内容である
- 2 体力的に参加可能な内容である
- 3 自分の知識・技能が活かせる
- 4 仲間といっしょに参加できる
- 5 自宅から離れたしが見がない地域である
- 6 活動の場所や内容といった情報が示されている
- 7 これまでの活動実績の評価や参加者からの感想といった情報が開示されている
- 8 自分の生活（自己啓発）に役立てることができると
- 9 少額でも報酬やポイント還元などの優遇を受けられる
- 10 活動の種類や内容などについて研修や講義により学ぶ機会がある
- 11 今後も参加するつもりはない
- 12 その他（ ）

問11 あなたは、今後、高齢化が進むなどの中で、地域の福祉活動を活発にするために、どのようなことが必要だと思われるか。ア～カのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項目	そう思う	ややそう思う	あまり思わない
地域における行事への参加促進	1	2	3
地域を考える懇談会を開催する	1	2	3
近隣との声かけなど付き合いを活発にする	1	2	3
誰もが集まれる身近な場所づくり	1	2	3
地域住民の中から新たな担い手（活動する人）を増やす	1	2	3
カ NPOやボランティアと連携した取り組み	1	2	3

※NPOとは…営利を目的とせず、自主的、継続的に社会的活動や障がい者への自立支援などを行う民間の組織（団体）

問12 地域の福祉を充実させていく上で、市民と行政（神戸市）との関係はどうあるべきだと思いますか。ア～オのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項目	そう思う	ややそう思う	あまり思わない
ア できるだけ地域住民や近くの事業所、NPOなどで解決すべきだ	1	2	3
イ 地域が主体であり、行政はパートナーとして関与してもらいたい	1	2	3
ウ 基本的には地域住民で解決し、専門的なことは、行政が支援すべきだ	1	2	3
エ 基本的には行政が解決し、地域住民は求められる範囲で協力すべきだ	1	2	3
オ 地域住民に期待せず、行政が予算を増やしてでもやるべきだ	1	2	3

問13 地域で福祉活動を行っているNPO法人に対して、期待することは何ですか。ア～エのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項目	おおいに期待している	まあ期待している	期待していない	どちらでもない・分からない
地域の支援が必要な人への生活支援	1	2	3	4
利益や知識の地域コミュニティへの還元	1	2	3	4
地域住民が行う活動への協力・協働	1	2	3	4
地域住民の雇用など参加の機会の拡大	1	2	3	4

福祉施策やサービスについておたずねします。

問14 神戸市では、高齢者や障がい者、子育てなど各種の福祉に関する相談窓口を設置していますが、あなたは現在の相談窓口についてどう思いますか。ア～キのそれぞれの項目について、**あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。**

- (参考) 福祉に関する相談窓口 (一例)
- ・高齢者に関する相談
 - 各区役所保健福祉部 健康福祉課
 - 各市区保健福祉部 健康福祉課
 - あんしんすこやかセンター (市内75ヶ所、在宅介護の相談や保健福祉サービスの手続きができる総合窓口) 等
 - ・障がい者に関する相談
 - 各市区保健福祉部 健康福祉課
 - 障害者地域生活支援センター (市内14ヶ所、地域で生活するための相談窓口) 等
 - ・子育てに関する相談
 - 各市区保健福祉部 子育て支援課
 - 各家庭センター (市内1ヶ所、子どもの問題に関する相談窓口) 等
 - ・地域における身近な相談
 - 地域福祉センター (概ね小学校区に1ヶ所)

項目	そう思う	ややそう思う	あまり思わない
ア 地域の中で相談できるのは良いことだ	1	2	3
イ どこへ相談に行けばいいかわからない	1	2	3
ウ 気晴らしや身近な場所に相談できる窓口がない	1	2	3
エ 総合的な相談ができる窓口がない	1	2	3
オ 休日や時間外に相談できる窓口がない	1	2	3
カ 窓口スタッフと地域住民とのコミュニケーションが必要	1	2	3
キ おおむね満足している	1	2	3

問15 福祉に関する相談はどこに行きますか。また、どこに行こうと思えますか。あてはまるものを全て選んで、○をつけてください。

- 1 区役所
- 2 市が設置した相談窓口 (あんしんすこやかセンターなど)
- 3 地域福祉センター
- 4 社会福祉施設・医療機関
- 5 NPO
- 6 その他 ()

問16 福祉に関する情報はどのように入手していますか。主なものに3つまで○をつけてください。

- 1 市からの広報紙 (「広報こうべ」)
- 2 地域の掲示板や回覧板
- 3 区役所などに置かれているチラシ
- 4 地域福祉センター
- 5 テレビ・ラジオ・新聞など
- 6 社会福祉施設・医療機関など
- 7 インターネット
- 8 その他 ()
- 9 友人、親戚などからの口コミ
- 10 特に入手していない

問17 保健福祉サービスを提供する事業者 (老人ホーム、障がい者施設、保育所など) に、地域の福祉を充実するため、どのような役割を期待しますか。ア～オのそれぞれの項目について、**あてはまるものを1つずつ選んで、番号に○をつけてください。**

項目	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない
ア 質の高いサービスの提供	1	2	3	4
イ 保健福祉に関する知識や情報の地域への発信	1	2	3	4
ウ 施設や設備の地域開放など地域との交流や貢献	1	2	3	4
エ 地域行事・地域活動への参加	1	2	3	4
オ 地域での困りごとに積極的に関わること	1	2	3	4

災害時に備えた地域での助け合いについておたずねします。

私たちのまわりには、災害が発生した場合に、安全な場所に避難したり、避難場所での生活において困難が生じて、まわりの人の助けを必要とする方（以下「要援護者」といいます。）がおられます。

問18 あなたは、平成25年4月に神戸市で制定された条例により、要援護者の支援に
取り組む地域団体が、要援護者の個人情報や平常時から人手する際の手続きな
どが定められたことをご存知ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 内容を知っている
- 2 聞いたことがあるが内容は知らない
- 3 知らない

問19 災害時に地域の方から避難などの支援を受けるため、あなたやあなたのご家族の
情報を、以下の団体に提供することをどの程度希望しますか。ア～ウのそれぞれ
の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

	希望しない	希望する	わからない
ア 自治会	1	2	3
イ 民生委員・児童委員	1	2	3
ウ 防災福祉コミュニティやふれあいのまちづくり協議会	1	2	3

※ 防災福祉コミュニティ、ふれあいのまちづくり協議会とは…
地域の自治会や婦人会、老人クラブ、民生委員・児童委員、消防団などにより、概ね小
校区単位で組織され、地域の防災活動や福祉活動の連携を通じて、日頃から助け合いの
精神や顔の見える関係づくりにより、いざという時に支援活動を行う組織。

問20 災害時に地域団体又は行政が主体的に担うべきことはどのような項目と考
えま
すか。ア～オのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで、番号に
○をつけてください。

項目	行政が担うべき	どちらか とえば 行政	どちらか とえば 民間 地域	地域が 担うべき
ア 要援護者に対する災害情報の伝達	1	2	3	4
イ 要援護者の安否確認	1	2	3	4
ウ 要援護者の避難誘導	1	2	3	4
エ 要援護者の避難所での生活支援	1	2	3	4
オ 要援護者の救護・救護	1	2	3	4

問21 福祉避難所についてご存知ですか。あてはまるもの1つ選んで、番号に○をつけて
ください。

- 1 どのような時に利用できるものか知っているが、自分の住んでいる地域のどこにあ
るかは知らない
- 2 どのような時に利用できるものか知らないが、自分の住んでいる地域のどこにある
のかは知っている
- 3 どのような時に利用できる、自分の住んでいる地域のどこにあるかも知っている
- 4 知らない

※福祉避難所とは…高齢者や障がい者など、小・中学校などの指定避難所では生活に支障が
あり、特別な配慮を必要とする人に対して、2次的に開設する施設として、
市が指定した施設。

医療についておたずねします。

問22 あなたが医療と介護が必要な状態となった場合、在宅療養に不安を感じると思っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 まったく不安はない
- 2 あまり不安はない
- 3 やや不安を感じる
- 4 大変不安を感じる
- 5 分からない

問23 (次のページ)へ

※ 在宅療養とは、医療が必要ない状態であるが、通院が困難な場合で、自宅で医師の診療や看護、介護などを受けること。

問22-1 【問22で「3. やや不安を感じる」または「4. 大変不安を感じる」とお答えした方におたずねします。】
 真体的にどのような不安を感じると思いますか。主なもの2つまで○をつけてください。

- 1 経済的負担が大きいことについての不安
- 2 自分の身体的負担が大きいことについての不安
- 3 自分の精神的負担が大きいことについての不安
- 4 家族の身体的負担が大きいことについての不安
- 5 家族の精神的負担が大きいことについての不安
- 6 分からない
- 7 その他 ()

人権問題についておたずねします。

日本国憲法は、個人の尊重、生命・幸福追求の権利、法の下の平等などを保障しています。以下でおたずねする「人権」はこれらをさしています。

問23 あなたは「人権」をどの程度身近に感じていますか。あなたのお考えに一番近いものを1つに○をつけてください。

- 1 非常に身近に感じる
- 2 少し身近に感じる
- 3 どちらとも言えない
- 4 あまり身近に感じない
- 5 まったく身近に感じない

問24 基本的人権は憲法で保障された権利として、憲法で保障されていると思います。あなたは、日常生活の中で自分や周囲の人の「人権」が尊重されていると思いますか。あなたのお考えに一番近いものを1つに○をつけてください。

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらとも言えない
- 4 どちらかといえばそう思わない
- 5 そう思わない

問25 人権にかかわる様々な問題のうちで、あなたが特に関心をお持ちのものは何ですか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

- 1 女性にかかわる問題
- 2 子どもにかかわる問題
- 3 高齢者にかかわる問題
- 4 障がいのある人にかかわる問題
- 5 同和問題
- 6 日本で暮らす外国人にかかわる問題
- 7 エイズ患者・HIV（エイズ・ウイルス）感染者・ハンセン病患者・難病患者等にかかわる問題
- 8 インターネットを悪用した人権侵害の問題
- 9 犯罪被害者やその家族にかかわる問題
- 10 性的指向を理由とする差別や性同一障害などの性的少数者にかかわる問題
- 11 刑を終えて出所した人にかかわる問題
- 12 アイヌの人々にかかわる問題
- 13 ホームレスの人々にかかわる問題
- 14 北朝鮮拉致被害者にかかわる問題
- 15 その他（ ）
- 16 特になし

問26 あなたは、今までに自分の人権が侵害されたと恐われたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 ある
- 2 ない

問26-1 【問26で「1. ある」とお答えした方におたずねします。】人権を侵害された時、どうされましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 相手に抗議するなど自分で行動した
- 2 家族や友達、同僚などに相談した
- 3 職場の相談窓口や学校に相談した
- 4 警察に相談した
- 5 弁護士に相談した
- 6 公的機関（法務局・県・市などの人権相談窓口、人権擁護委員等）に相談した
- 7 民間団体に相談した
- 8 その他（ ）
- 9 何もなかった（理由： ）

問27 人権問題についての理解を深めるために、講演会・研修会・学習会・映画会などが様々な形で開催されていますが、あなたは参加したことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 参加したことがある
- 2 開催は知っていたが、参加しなかった
- 3 開催していることを知らなかった

問28 あなたは、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 知っている
- 2 言葉だけは聞いたことがある
- 3 知らない

最後に、神戸市に対して、保健福祉に関するご意見やご要望がありましたらご自由にお書きください。

.....

.....

.....

.....

調査にご協力いただき、ありがとうございます。調査票は同封の封筒に入れて、切手を貼らずに返送してください。

神戸市 市民福祉に関する行動・意識調査報告書

平成27年3月

発行 神戸市 保健福祉局 総務部 計画調整課 調整係

〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1

電話番号 : (078) 322-5198

ファックス : (078) 322-6039